

第IV章 調査の結果

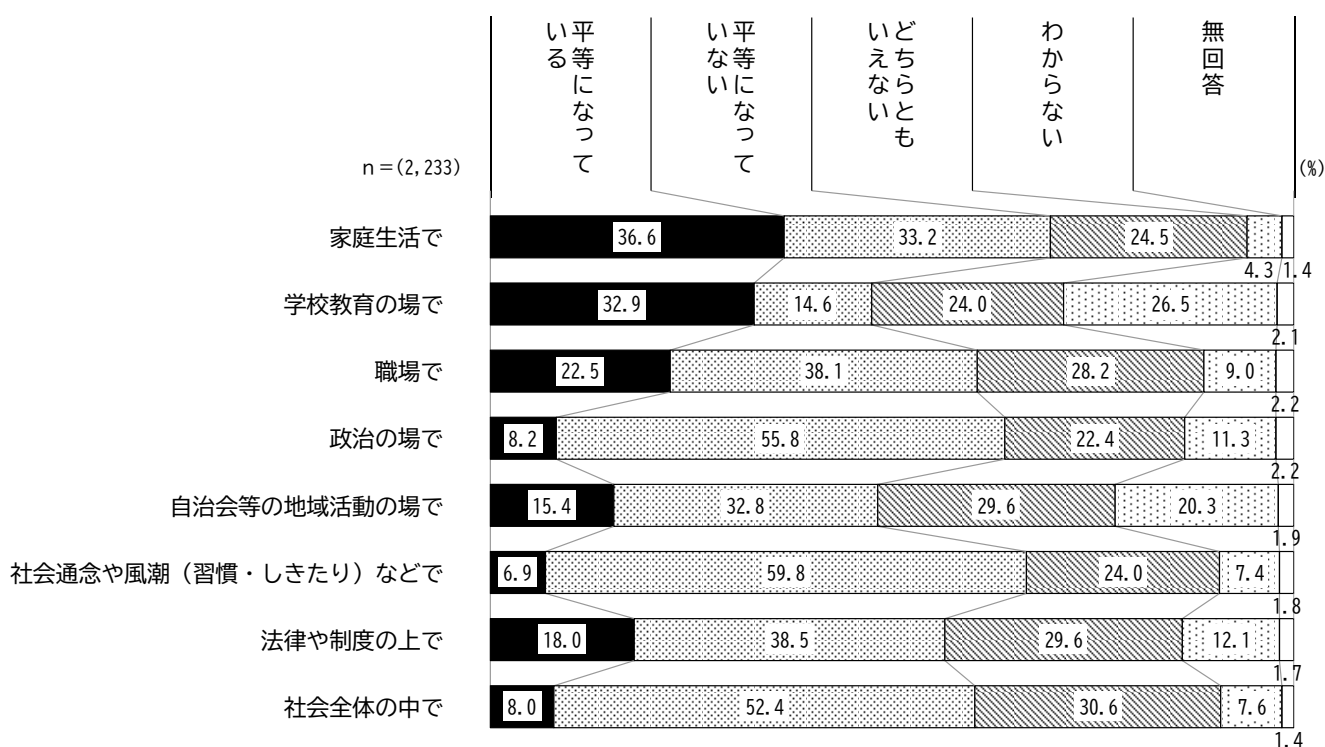
1. 男女平等に関する意識について

(1) 男女の地位の平等感

◎【家庭生活上で】【学校教育の場で】では3割台が「平等」と感じているものの、【政治の場で】【社会通念や風潮（習慣・しきたり）などで】【社会全体の中で】では過半数が「不平等」と感じている

問1 あなたは、現在、男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(1)～(8)のそれぞれについてあなたの考えに近いものを選んでください。
(それぞれ1つずつに○)

図表1-1 男女の地位の平等感

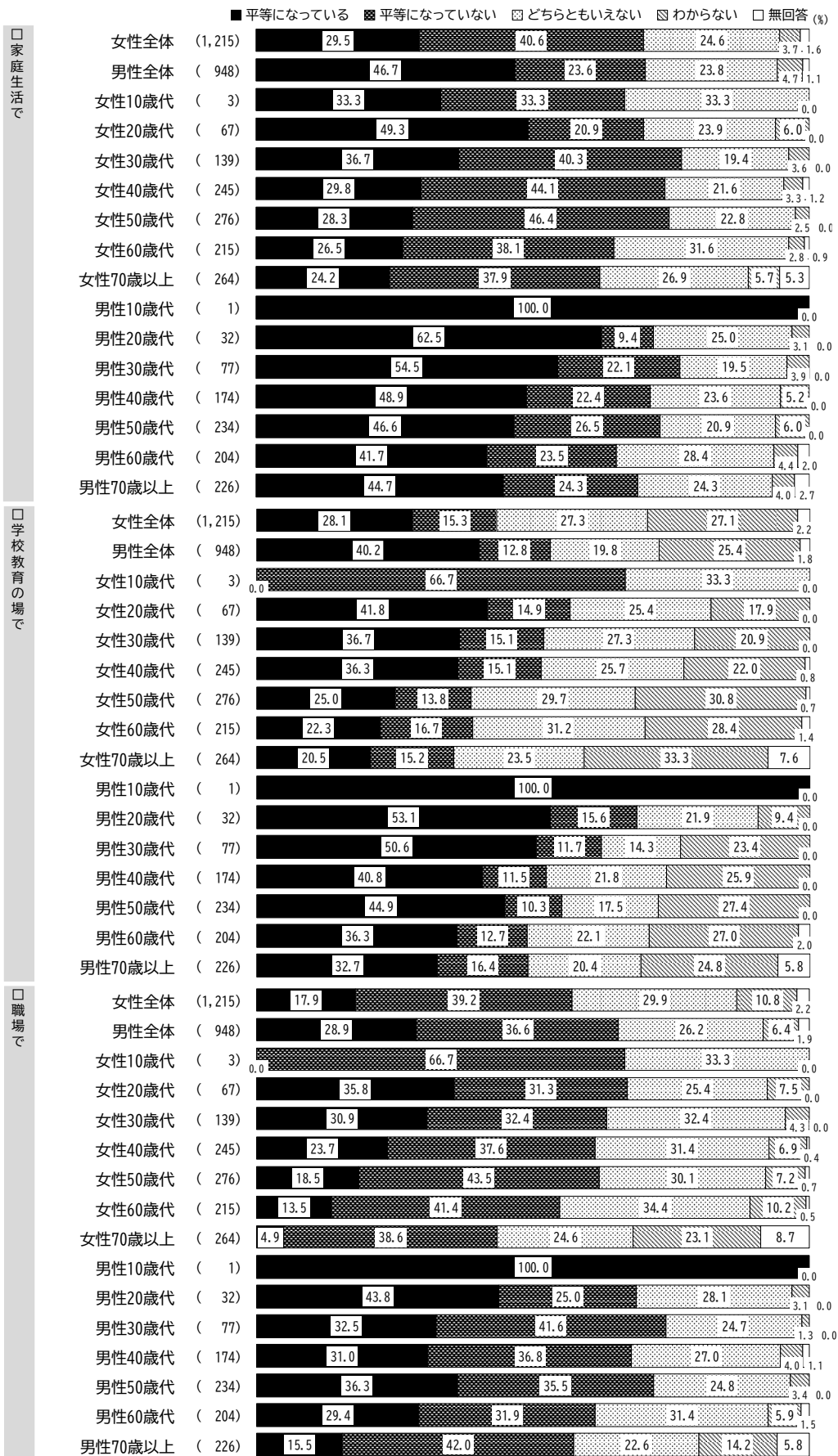


8つの分野について男女の地位の平等感を聞いたところ、【家庭生活上で】【学校教育の場で】以外の6分野について、「平等になっていない」が「平等になっている」を上回っている。

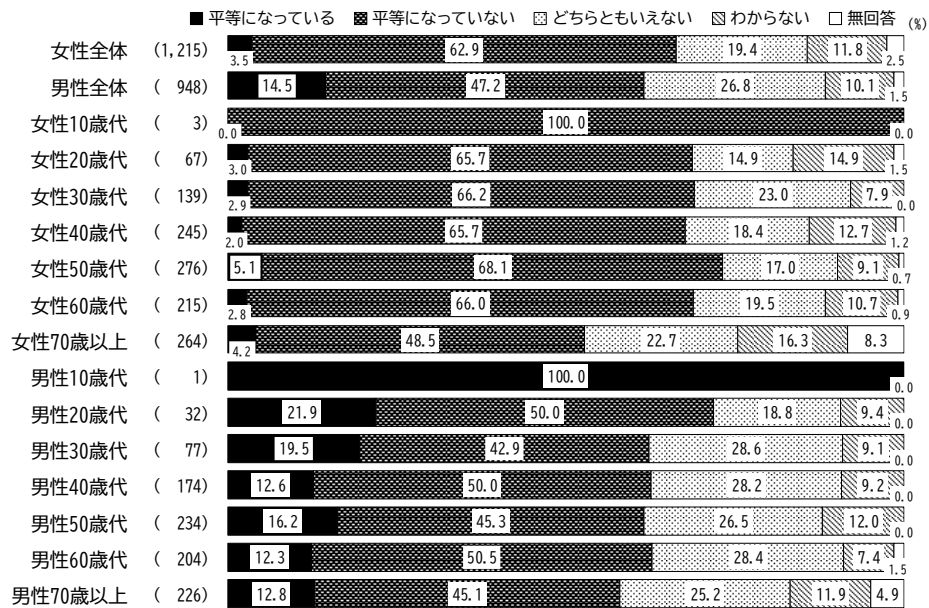
それぞれ回答割合が高い順に見ると、「平等になっている」では【家庭生活上で】(36.6%)、【学校教育の場で】(32.9%)、【職場で】(22.5%)となっている。一方、「平等になっていない」は回答割合が高い順に【社会通念や風潮（習慣・しきたり）などで】(59.8%)、【政治の場で】(55.8%)、【社会全体の中で】(52.4%)となっており、いずれも「平等になっていない」が過半数を占めている。

(図表1-1)

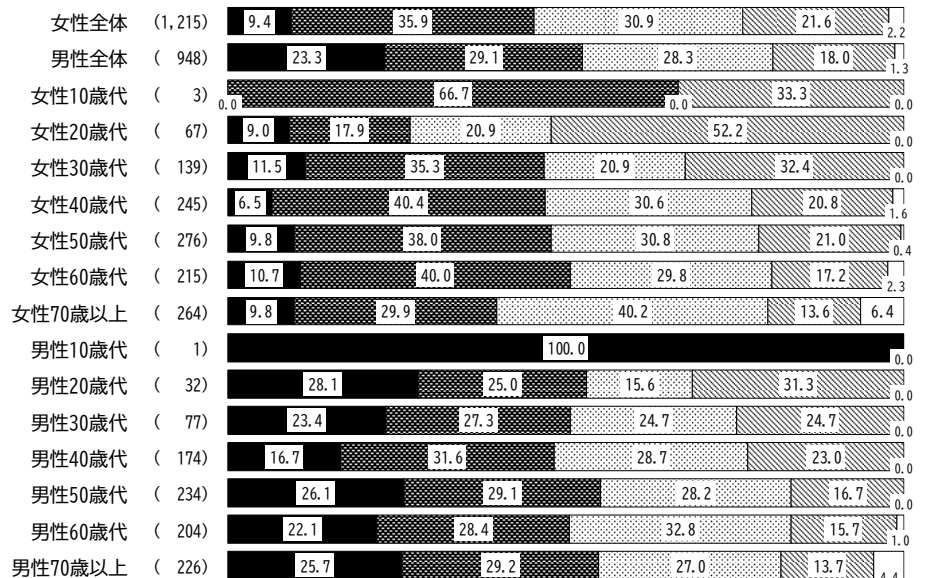
図表 1-2 男女の地位の平等感（性別・性／年齢別）



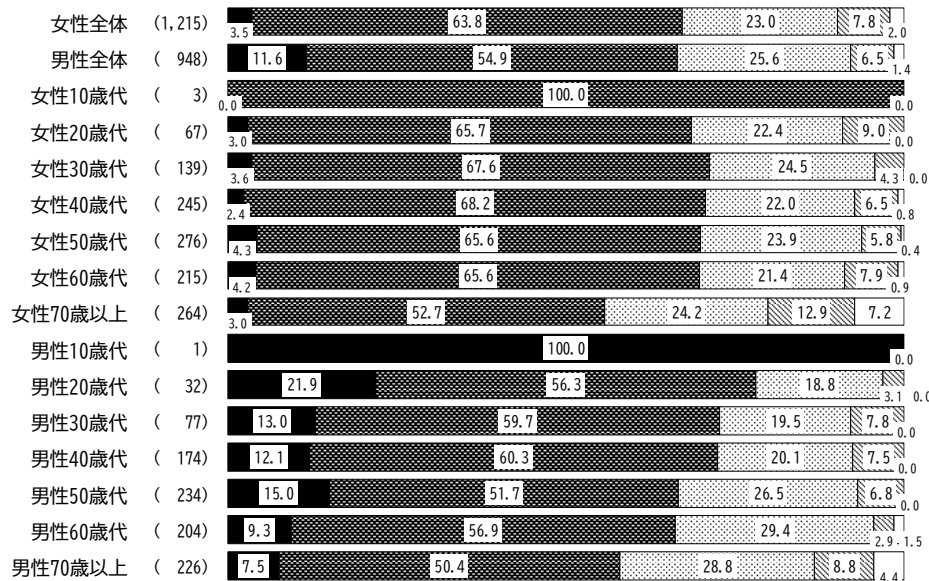
□政治の場で



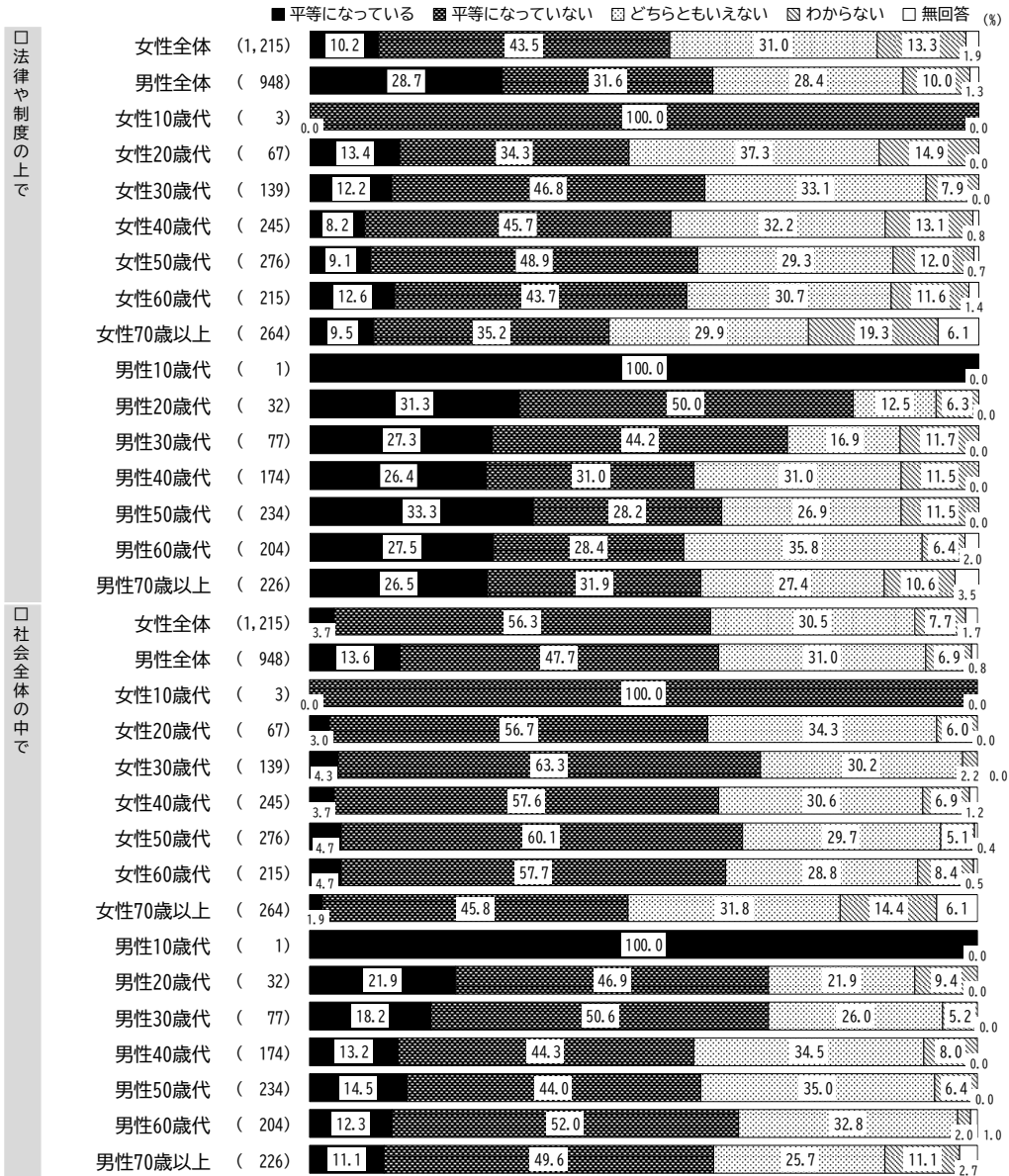
□自治会等の地域活動の場で



□社会通念や風潮(習慣・しきたり)などで



第IV章 調査の結果



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性別で見ると、「平等になっている」は、すべての分野において男性が女性を上回っている。「平等になっていない」は、すべての分野において女性が男性を上回っている。

男女の意識の差が大きいものを分野別にみると、「平等になっている」では【法律や制度の上で】で18.5ポイント（女性10.2%、男性28.7%）、【家庭生活で】で17.2ポイント（女性29.5%、男性46.7%）、【自治会等の地域活動の場で】で13.9ポイント（女性9.4%、男性23.3%）、それぞれ男性が女性を上回っている。一方、「平等になっていない」では【家庭生活で】で17.0ポイント（女性40.6%、男性23.6%）女性が男性を上回っている。

性／年齢別で見ると、【家庭生活で】では「平等になっている」は女性では20歳代（49.3%）で約5割、30歳代（36.7%）で3割台半ばを超えているが、40歳以上ではいずれも2割台にとどまっている。男性では20歳代（62.5%）が6割強と最も高くなっており、最も低い60歳代（41.7%）でも4割強と比較的高くなっている。「平等になっていない」は女性では50歳代で4割台半ばを超え、他の年代に比べて高くなっている。男性では50歳代で2割台半ばを超えている。

【学校教育の場で】では「平等になっている」は女性では20歳代（41.8%）が4割強となっているが、30～40歳代では3割台となり、50歳代以上では2割台となっている。男性では20歳代（53.1%）が5割強と最も高く、次いで30歳代（50.6%）が5割前半となっている。「平等になっていない」は女性では60歳代で最も高く16.7%、男性では70歳以上で最も高く16.4%となっている。

【職場で】では「平等になっている」は女性では20歳代（35.8%）で3割台半ばと最も高く、年齢が高くなるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。男性では20歳代（43.8%）で4割強と最も高く、次いで50歳代（36.3%）が3割台半ばを超えている。一方、「平等になっていない」は女性では50歳代（43.5%）、男性では70歳以上（42.0%）が4割強でそれぞれ最も高くなっている。

【政治の場で】では「平等になっている」は女性ではすべての年代で1割未満となっており、男性では20歳代（21.9%）で2割強、その他の年代で1割台となっている。「平等になっていない」は女性では70歳代（48.5%）を除くすべての年代で過半数を占めており、50歳代（68.1%）では7割弱と高くなっている。男性は20歳代、40歳代（ともに50.0%）、60歳代（50.5%）で過半数を占めている。

【自治会等の地域活動の場で】では「平等になっている」は女性では30歳代、60歳代で1割台、その他の年代で1割未満となっている。男性では40歳代で1割台半ばを超え、その他の年代で2割台となっている。「平等になっていない」は男女ともに40歳代（女性40.4%、男性31.6%）で最も高くなっている。

【社会通念や風潮（習慣・しきたり）などで】では「平等になっている」は女性ではすべての年代で1割未満となっている。男性は20歳代（21.9%）で2割強、30～50歳代で1割強～1割台半ば、60歳以上で1割未満となっている。「平等になっていない」は男女ともにすべての年代で過半数を占めており、女性の20～60歳代と男性の40歳代では6割台と他の年代に比べ高くなっている。

【法律や制度の上で】では「平等になっている」は女性では最も高い割合が20歳代で13.4%であるのに対し、男性では全体で28.7%、最も低い40歳代で26.4%となっている。「平等になっていない」は女性では50歳代で48.9%と最も高く、次いで30歳代（46.8%）が4割台後半となっている。男性では20歳代で50.0%と最も高く、50歳代までは年代が上がるにつれて減少しており、60歳代から再び増加傾向がみられる。

【社会全体の中で】では「平等になっている」は女性のすべての年代で1割未満、男性は20歳代のみ2割台でその他の年代は1割台となっている。「平等になっていない」は女性では70歳代（45.8%）を除いたすべての年代で過半数を占めている。男性では30歳代、60歳代で過半数を占めている。

（図表1－2）

図表 1-3 男女の地位の平等感（居住地域別） (%)

		n	平等 になっている	平等 になっていない	どちら ともい えない	わか らない	無 回答
□家庭 生活で	全 体	2,233	36.6	33.2	24.5	4.3	1.4
	南部地域	221	39.4	26.2	29.4	2.7	2.3
	南西部地域	221	40.3	30.8	23.5	4.5	0.9
	東部地域	320	30.6	38.1	26.3	3.4	1.6
	さいたま地域	398	36.4	34.7	23.4	4.8	0.8
	県央地域	173	39.3	32.4	24.9	3.5	-
	川越比企地域	216	44.9	26.9	21.3	6.5	0.5
	西部地域	266	31.2	36.5	24.4	4.5	3.4
	利根地域	206	36.9	37.4	22.3	2.9	0.5
	北部地域	177	35.0	32.8	24.3	6.2	1.7
秩父地域	26	38.5	30.8	26.9	-	3.8	
□学校 教育の 場で	全 体	2,233	32.9	14.6	24.0	26.5	2.1
	南部地域	221	32.6	13.6	25.8	25.3	2.7
	南西部地域	221	39.8	14.9	19.5	24.4	1.4
	東部地域	320	29.1	19.1	23.4	26.6	1.9
	さいたま地域	398	36.4	15.6	21.9	25.1	1.0
	県央地域	173	32.4	15.0	25.4	24.9	2.3
	川越比企地域	216	26.4	9.3	25.5	38.0	0.9
	西部地域	266	31.2	14.3	23.7	27.1	3.8
	利根地域	206	35.0	13.1	25.7	24.3	1.9
	北部地域	177	33.3	13.0	27.1	22.6	4.0
秩父地域	26	26.9	15.4	26.9	30.8	-	
□自治 会等の 地域活 動の場 で	全 体	2,233	15.4	32.8	29.6	20.3	1.9
	南部地域	221	15.8	30.8	27.6	22.2	3.6
	南西部地域	221	18.6	28.5	29.0	23.1	0.9
	東部地域	320	12.2	34.4	27.5	24.4	1.6
	さいたま地域	398	14.1	33.2	26.1	25.6	1.0
	県央地域	173	13.9	29.5	32.9	21.4	2.3
	川越比企地域	216	17.1	31.5	32.9	17.1	1.4
	西部地域	266	17.3	32.7	29.7	16.9	3.4
	利根地域	206	14.6	33.0	36.4	15.0	1.0
	北部地域	177	18.6	43.5	29.9	6.8	1.1
秩父地域	26	11.5	26.9	26.9	26.9	7.7	
□法律 や制度 の上で	全 体	2,233	18.0	38.5	29.6	12.1	1.7
	南部地域	221	16.7	42.1	31.7	5.9	3.6
	南西部地域	221	19.5	45.7	24.0	9.5	1.4
	東部地域	320	16.3	38.4	30.0	13.8	1.6
	さいたま地域	398	16.8	39.2	28.9	13.8	1.3
	県央地域	173	21.4	31.8	33.5	11.0	2.3
	川越比企地域	216	16.2	31.5	34.3	17.1	0.9
	西部地域	266	16.5	45.1	25.2	10.9	2.3
	利根地域	206	23.3	35.0	32.5	8.7	0.5
	北部地域	177	22.0	32.8	29.9	14.1	1.1
秩父地域	26	3.8	42.3	23.1	26.9	3.8	

※基数が不足しているため、居住地域別の秩父地域は参考扱いとする。

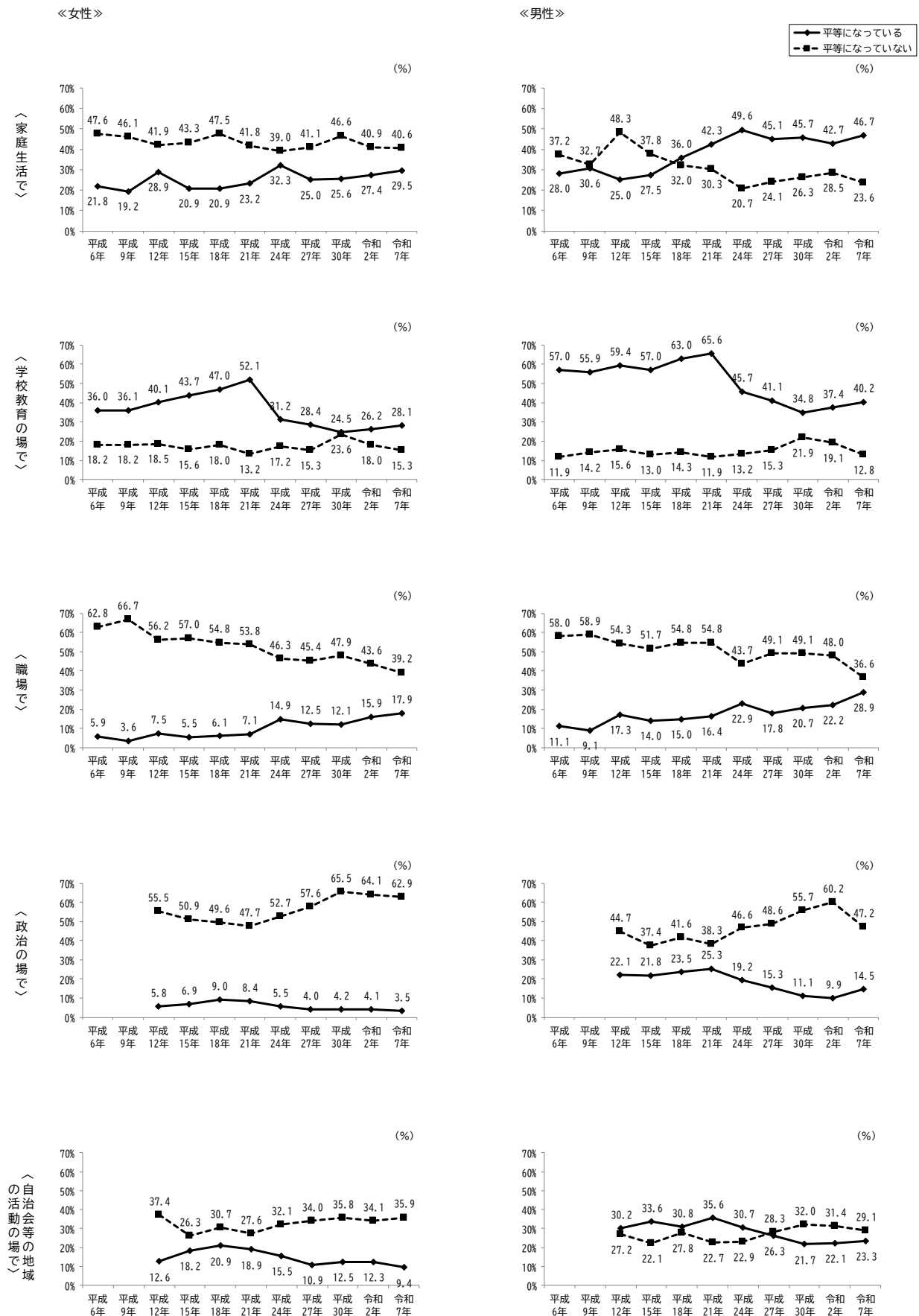
居住地域別でみると、【家庭生活で】では「平等になっている」は川越比企地域（44.9%）が4割台半ばと他の地域と比べて高くなっている。

【学校教育の場で】では「平等になっている」は川越比企地域（26.4%）が2割台後半と他の地域と比べて低くなっている。

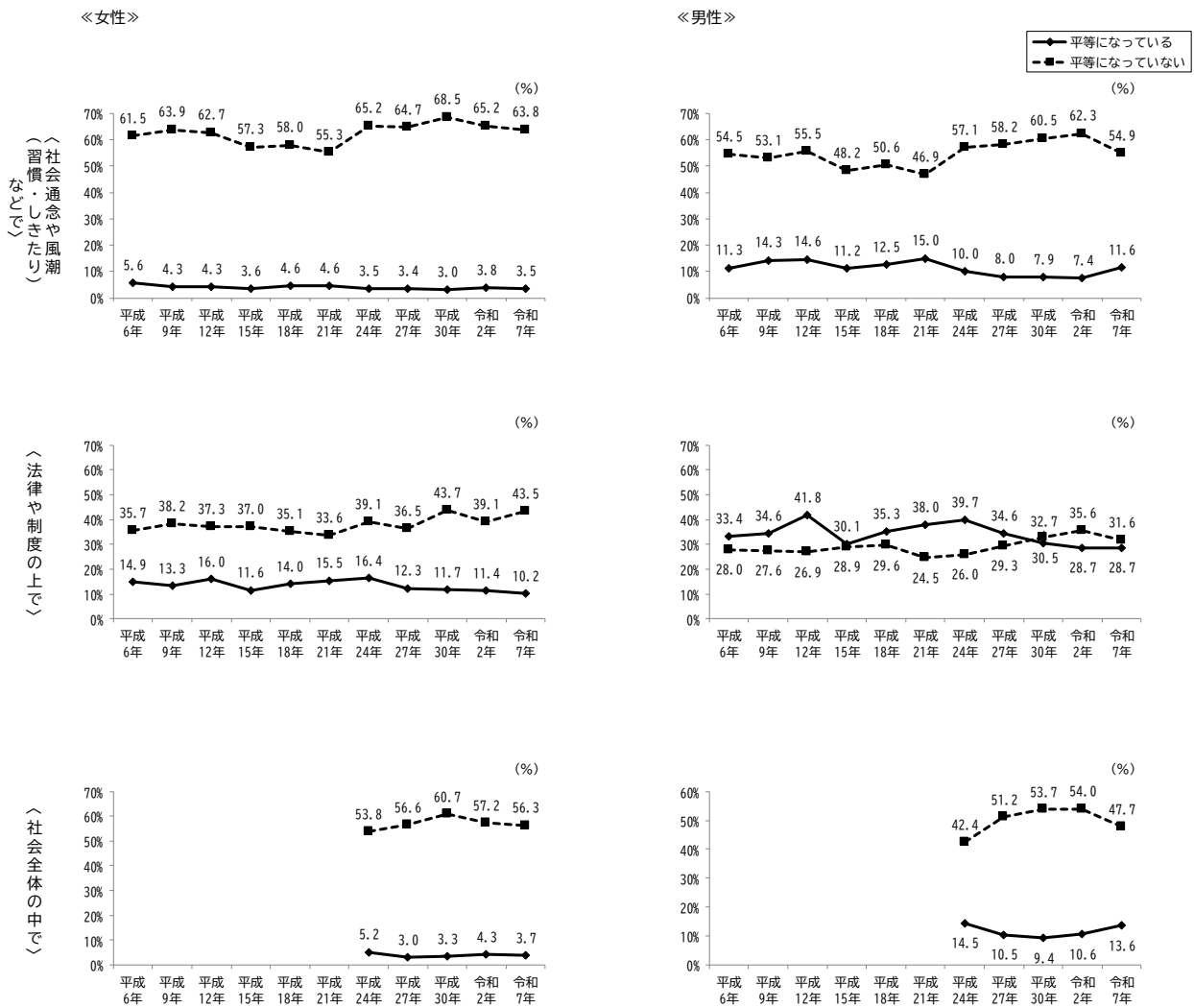
【自治会等の地域活動の場で】では「平等になっていない」は北部地域（43.5%）が4割強と他の地域と比べて高くなっている。

【法律や制度の上で】では「平等になっていない」は川越比企地域（31.5%）、県央地域（31.8%）が3割台前半と他の地域と比べて低くなっている。（図表1-3）

図表1-4 男女の地位の平等感（時系列比較）



第IV章 調査の結果



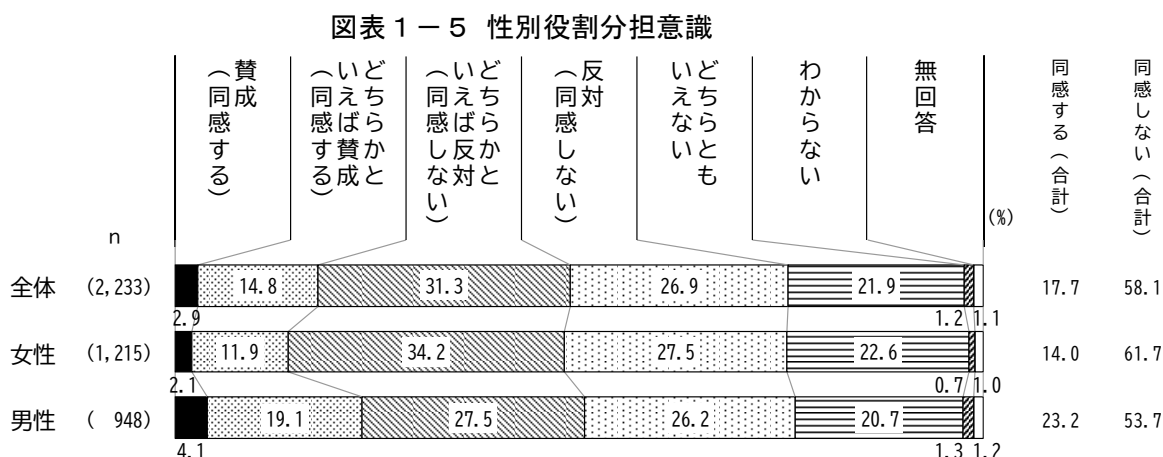
時系列でみると、「平等になっている」は女性では半数以上の項目で前回は下回っており、【自治会等の地域活動の場で】で前回より2.9ポイント減少している。男性では【法律や制度の上で】を除くすべての項目で前回は上回っており、【職場で】で前回より6.7ポイント増加している。

一方、「平等になっていない」は女性では【法律や制度の上で】が前回より4.4ポイント増加、【職場で】で前回より4.4ポイント減少している。男性ではすべての項目で前回は下回っており、【政治の場で】が13.0ポイント減少している。(図表1-4)

(2) 性別役割分担意識

◎性別役割分担に《同感しない（合計）》が6割弱、《同感する（合計）》は1割台半ばを超えている

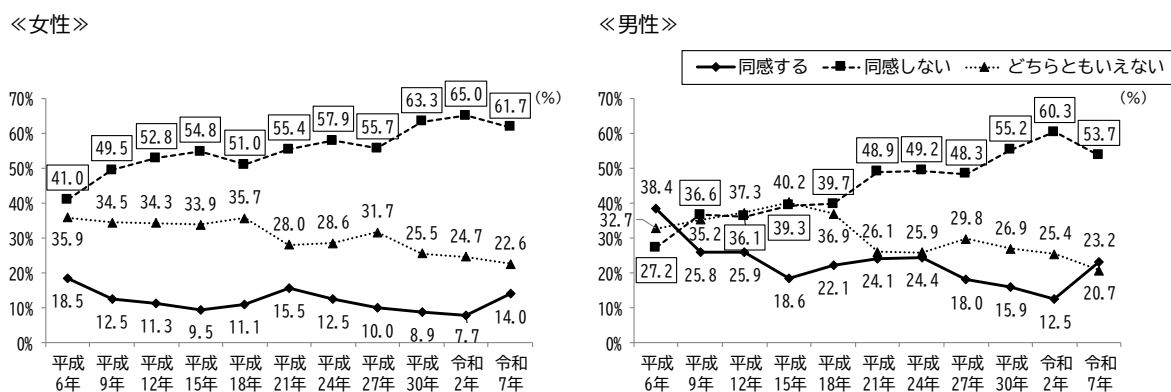
問2 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考えについてどのように思いますか。(1つだけに○)



性別役割分担については、全体でみると「賛成（同感する）」（2.9％）と「どちらかといえば賛成（同感する）」（14.8％）を合わせた《同感する（合計）》は17.7％、「反対（同感しない）」（26.9％）と「どちらかといえば反対（同感しない）」（31.3％）を合わせた《同感しない（合計）》は58.1％、「どちらともいえない」は21.9％となっている。

性別でみると、《同感する（合計）》は女性（14.0％）、男性（23.2％）と、男性が女性を9.2ポイント上回っている。《同感しない（合計）》は女性（61.7％）、男性（53.7％）と、女性が男性を8.0ポイント上回っている。（図表1-5）

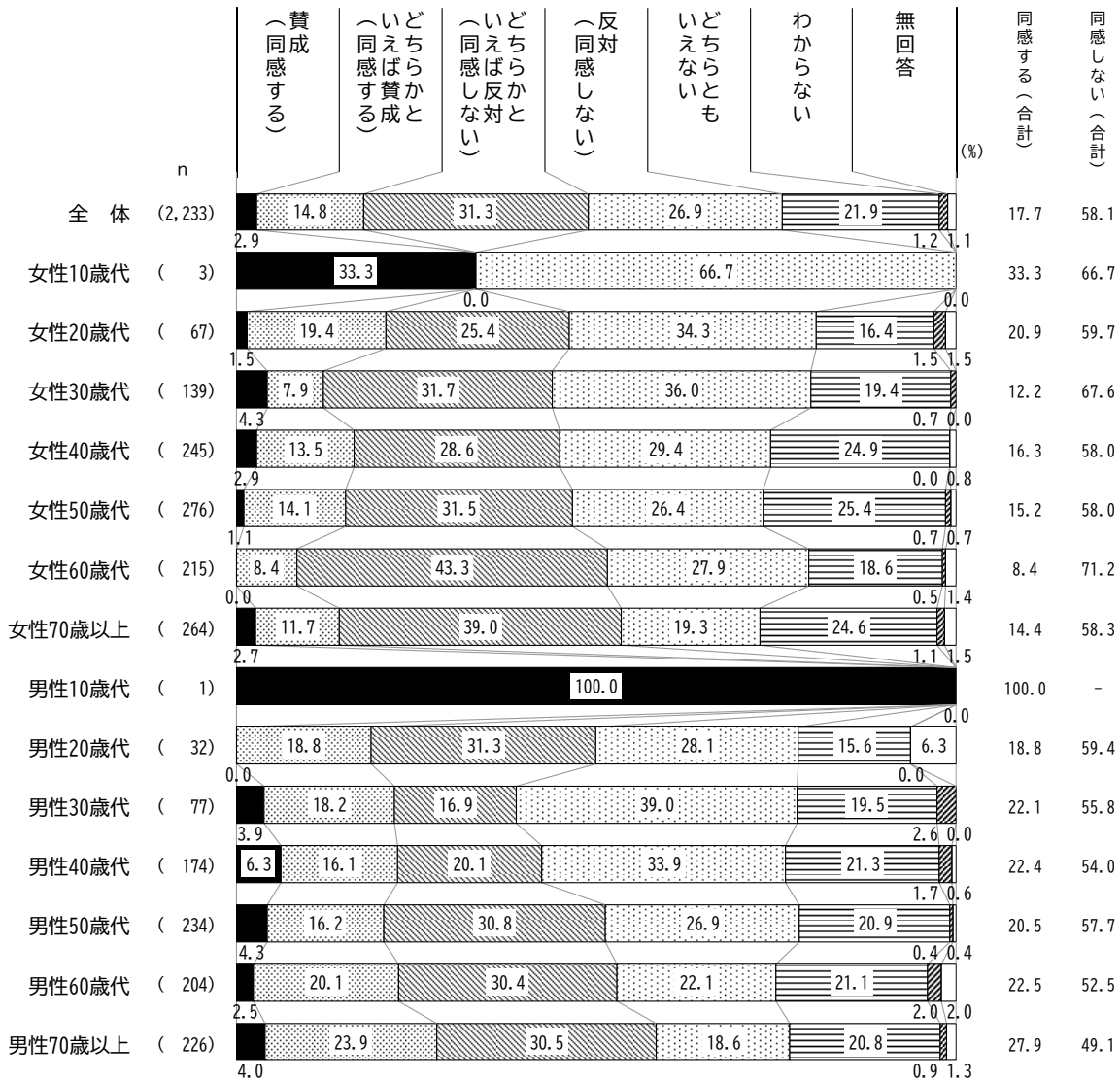
図表1-6 性別役割分担意識（時系列比較 性別）



※令和7年度は従来の「同感する」を「賛成（同感する）」と「どちらかといえば賛成（同感する）」に、「同感しない」を「どちらかといえば反対（同感しない）」と「反対（同感しない）」に細分化している。

令和2年度調査と比較すると、男女ともに《同感する（合計）》が増加し、「どちらともいえない」、《同感しない（合計）》が減少している。（図表1-6）

図表 1-7 性別役割分担意識（性／年齢別）

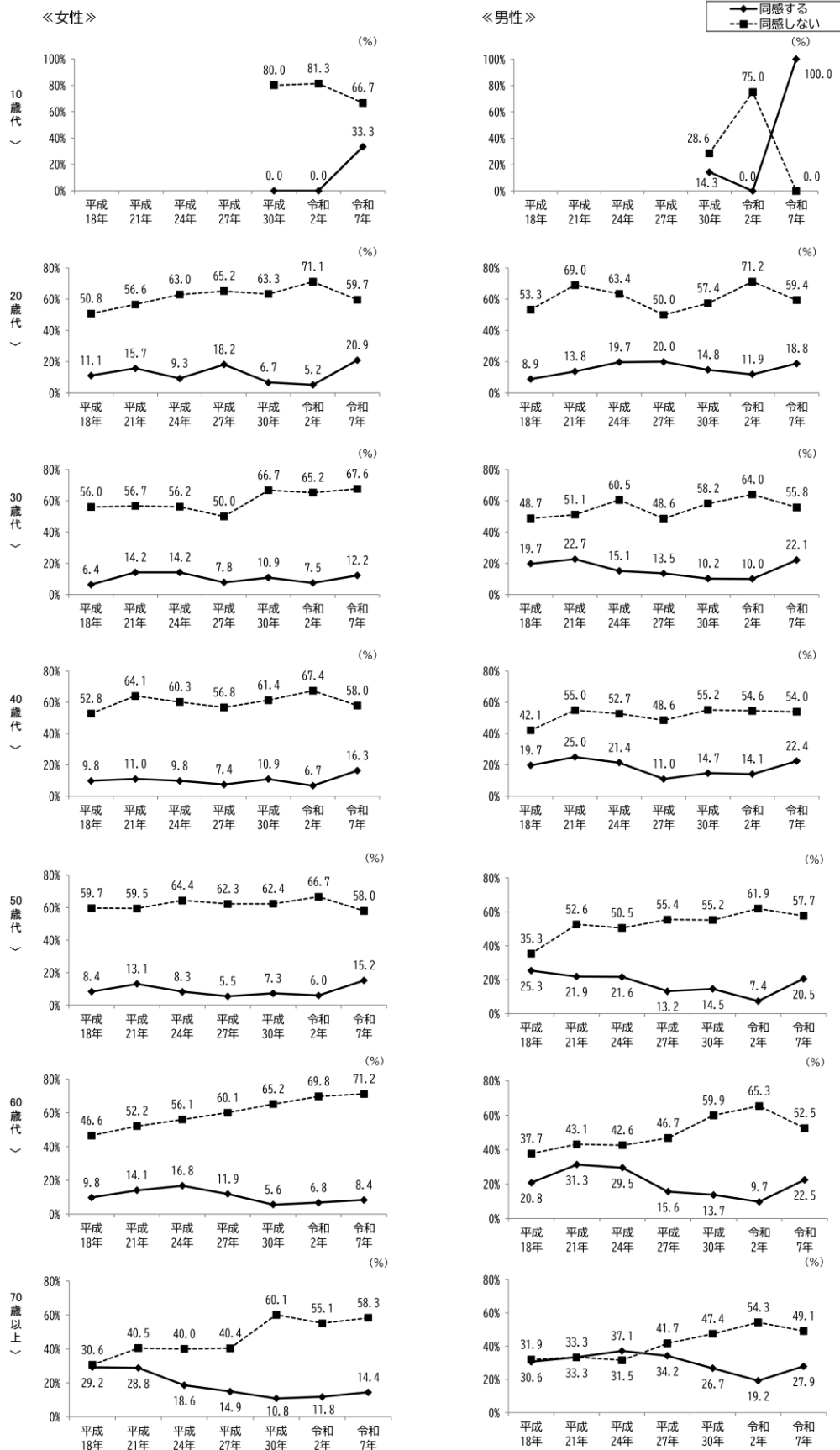


※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、《同感する（合計）》は女性では20歳代で2割を超え、60歳代で1割未満、他の年代では1割台となっている。男性では20歳代で2割弱となっているが、他の年代では2割台となっている。

《同感しない（合計）》は女性ではすべての年代で過半数を超えており、60歳代で7割強、30歳代で6割台半ばを超え比較的高い割合となっている。男性では70歳以上が約5割と最も低くなっているが、他の年代では過半数を超えている。（図表 1-7）

図表1-8 性別役割分担意識（時系列比較 性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

第IV章 調査の結果

令和2年度調査と比較すると、女性ではすべての年代で《同感する（合計）》が増加しており、30歳代と60歳代と70歳以上で《同感しない（合計）》が増加している。男性ではすべての年代で《同感する（合計）》が増加しており、すべての年代で《同感しない（合計）》が減少している。

《同感する（合計）》、《同感しない（合計）》の差をみると、女性70歳以上を除くすべての年代で令和2年度調査に比べて差が縮まっている。（図表1－8）

図表1-9 性別役割分担意識（居住地域別・性／居住地域別）

	n	同感する (合計)		同感しない (合計)			わからない	無回答		同感する (合計)	同感しない (合計)
		賛成 (同感する)	どちらかといえば賛成 (同感する)	どちらかといえば反対 (同感しない)	反対 (同感しない)	どちらともいえない					
全体	2,233	2.9	14.8	31.3	26.9	21.9	1.2	1.1	17.7	58.1	
居住地域別	南部地域	221	2.7	15.4	29.0	26.2	24.0	0.9	1.8	18.1	55.2
	南西部地域	221	1.8	15.4	29.0	27.1	24.9	0.9	0.9	17.2	56.1
	東部地域	320	3.1	14.7	30.6	30.3	20.0	0.3	0.9	17.8	60.9
	さいたま地域	398	2.5	13.1	31.9	27.6	22.9	0.8	1.3	15.6	59.5
	県央地域	173	4.0	14.5	37.0	22.0	20.2	2.3	-	18.5	59.0
	川越比企地域	216	1.4	17.1	28.2	26.4	22.7	2.8	1.4	18.5	54.6
	西部地域	266	2.3	16.9	29.7	29.3	20.7	0.4	0.8	19.2	59.0
	利根地域	206	5.3	15.0	34.0	23.8	18.9	1.5	1.5	20.4	57.8
	北部地域	177	3.4	11.9	31.6	27.7	23.2	1.1	1.1	15.3	59.3
	秩父地域	26	7.7	15.4	46.2	11.5	19.2	-	-	23.1	57.7
女性／居住地域別	南部地域	116	1.7	15.5	25.9	29.3	25.9	-	1.7	17.2	55.2
	南西部地域	119	0.8	12.6	35.3	22.7	26.9	-	1.7	13.4	58.0
	東部地域	173	2.9	11.6	33.5	33.5	17.3	0.6	0.6	14.5	67.1
	さいたま地域	226	1.3	11.1	37.6	25.2	22.6	0.9	1.3	12.4	62.8
	県央地域	92	3.3	10.9	41.3	23.9	18.5	2.2	-	14.1	65.2
	川越比企地域	123	0.8	11.4	30.9	29.3	25.2	0.8	1.6	12.2	60.2
	西部地域	142	2.8	12.0	31.0	32.4	21.1	0.7	-	14.8	63.4
	利根地域	113	1.8	10.6	38.1	25.7	23.0	-	0.9	12.4	63.7
	北部地域	95	2.1	12.6	34.7	24.2	25.3	-	1.1	14.7	58.9
	秩父地域	14	14.3	7.1	35.7	14.3	28.6	-	-	21.4	50.0
男性／居住地域別	南部地域	96	4.2	15.6	32.3	21.9	21.9	2.1	2.1	19.8	54.2
	南西部地域	96	3.1	19.8	20.8	33.3	22.9	-	-	22.9	54.2
	東部地域	132	3.8	19.7	26.5	26.5	22.7	-	0.8	23.5	53.0
	さいたま地域	165	3.6	15.8	24.8	30.3	23.6	0.6	1.2	19.4	55.2
	県央地域	76	5.3	18.4	32.9	19.7	22.4	1.3	-	23.7	52.6
	川越比企地域	88	2.3	26.1	25.0	23.9	17.0	4.5	1.1	28.4	48.9
	西部地域	117	1.7	23.1	26.5	26.5	20.5	-	1.7	24.8	53.0
	利根地域	86	10.5	22.1	31.4	20.9	11.6	1.2	2.3	32.6	52.3
	北部地域	79	5.1	11.4	27.8	30.4	21.5	2.5	1.3	16.5	58.2
	秩父地域	12	-	25.0	58.3	8.3	8.3	-	-	25.0	66.7

※基数が不足しているため、性／居住地域別での秩父地域は参考扱いとする。

居住地域別でみると、《同感する（合計）》は利根地域が20.4%と最も高く、次いで西部地域（19.2%）となっている。《同感しない（合計）》は東部地域で60.9%と最も高くなっている。

性／居住地域別でみると、《同感する（合計）》は女性では南部地域、男性では利根地域がそれぞれ最も高くなっている。

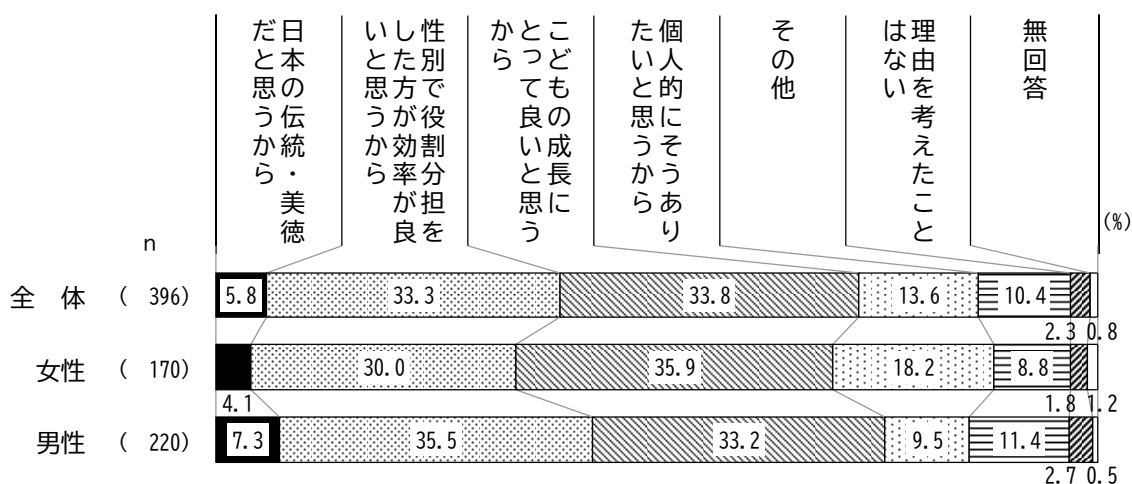
一方で《同感しない（合計）》は女性では東部地域、男性では北部地域がそれぞれ最も高くなっている。（図表1-9）

(3) 性別役割分担に同感する理由

◎「こどもの成長にとって良いと思う」が3割強で最も高くなっている

【問2で「1」「2」と回答した方に】
 問2-1 そう思う理由を教えてください。 (1つだけに○)

図表1-10 性別役割分担に同感する理由

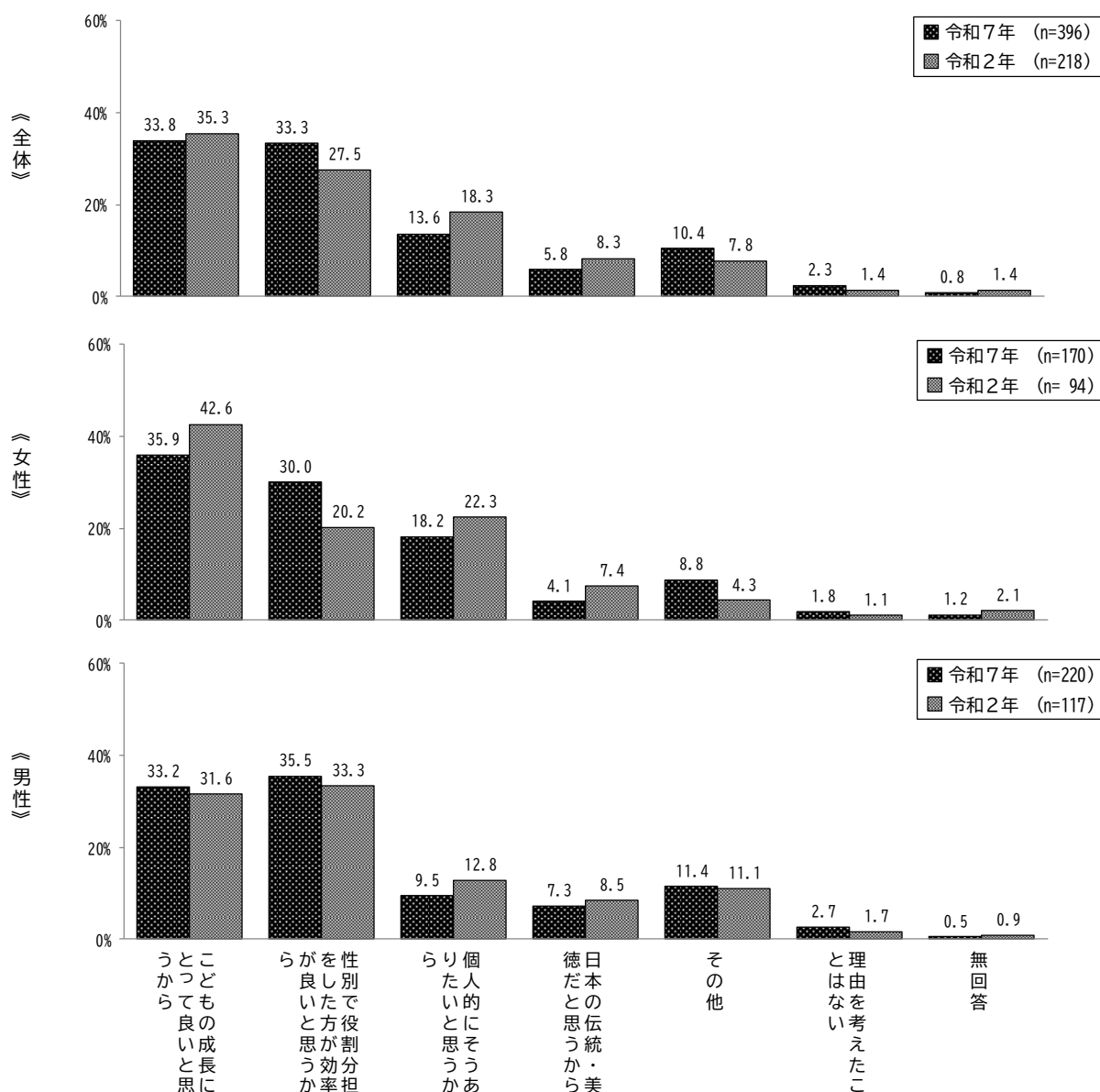


性別役割分担に同感する理由としては、全体で見ると「こどもの成長にとって良いと思うから」が33.8%と最も高く、次いで「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」(33.3%)、「個人的にそうありたいと思うから」(13.6%)となっている。

性別で見ると、女性では「こどもの成長にとって良いと思うから」(35.9%)が最も高く、次いで「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」(30.0%)となっており、男性では「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」(35.5%)が最も高く、次いで「こどもの成長にとって良いと思うから」(33.2%)となっている。

また、「理由を考えたことはない」は、女性(1.8%)、男性(2.7%)となっており、男女で意識に大きな差はみられない。(図表1-10)

図表 1-11 性別役割分担に同感する理由（令和2年度調査との比較）



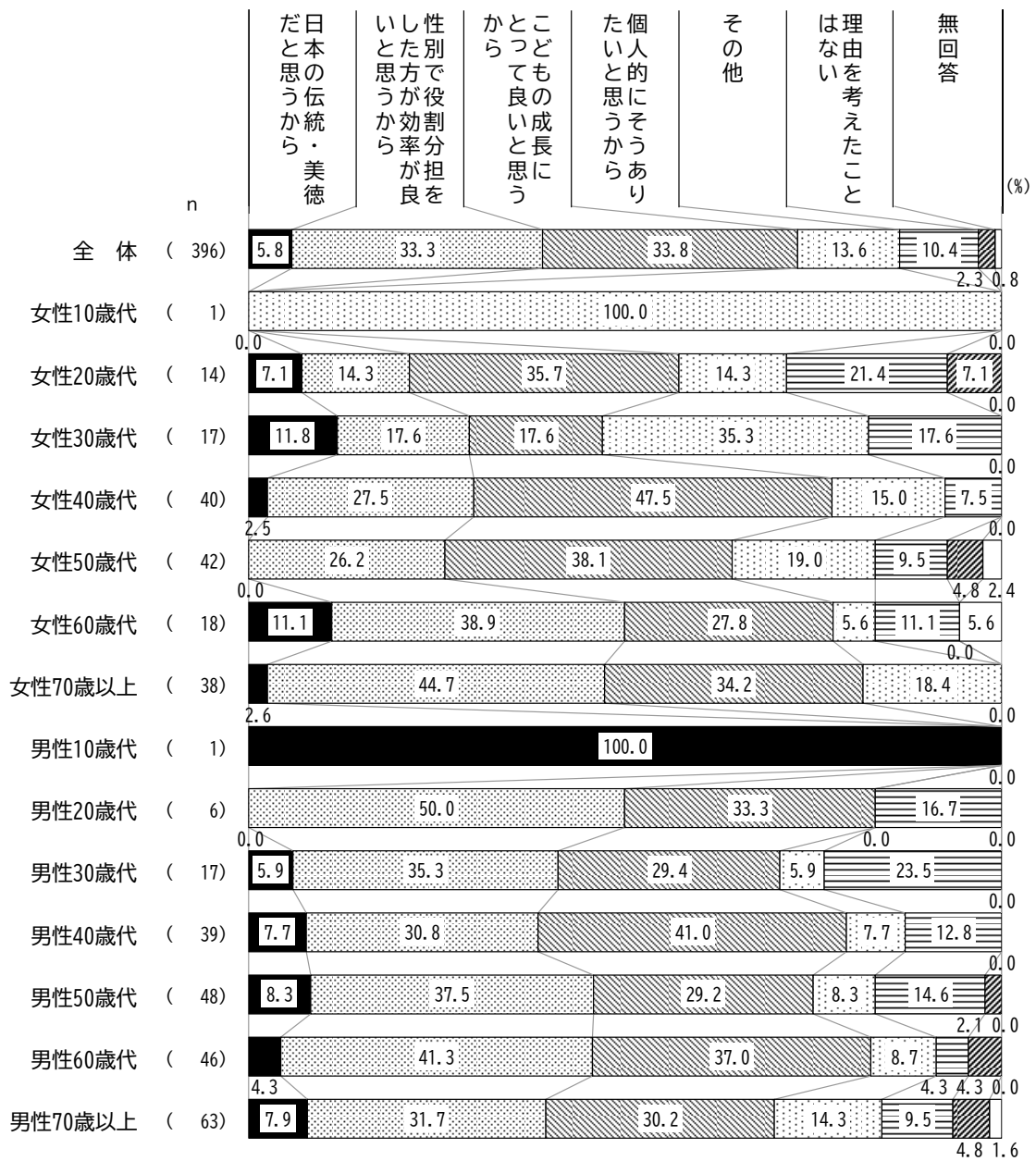
令和2年度調査と比較すると、全体で見ると「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が令和2年度調査（27.5%）から令和7年度調査（33.3%）で5.8ポイント増加している。

一方、「個人的にそうありたいと思うから」が令和2年度調査（18.3%）から令和7年度調査（13.6%）で4.7ポイント減少している。

性別で見ると、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」は女性が令和2年度調査（20.2%）から令和7年度調査（30.0%）で9.8ポイント増加している。

「個人的にそうありたいと思うから」は男性が令和2年度調査（12.8%）から令和7年度調査（9.5%）で3.3ポイントの減少となっている。（図表 1-11）

図表 1-12 性別役割分担に同感する理由（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10～30歳代、60歳代、男性10～30歳代は参考扱いとする。

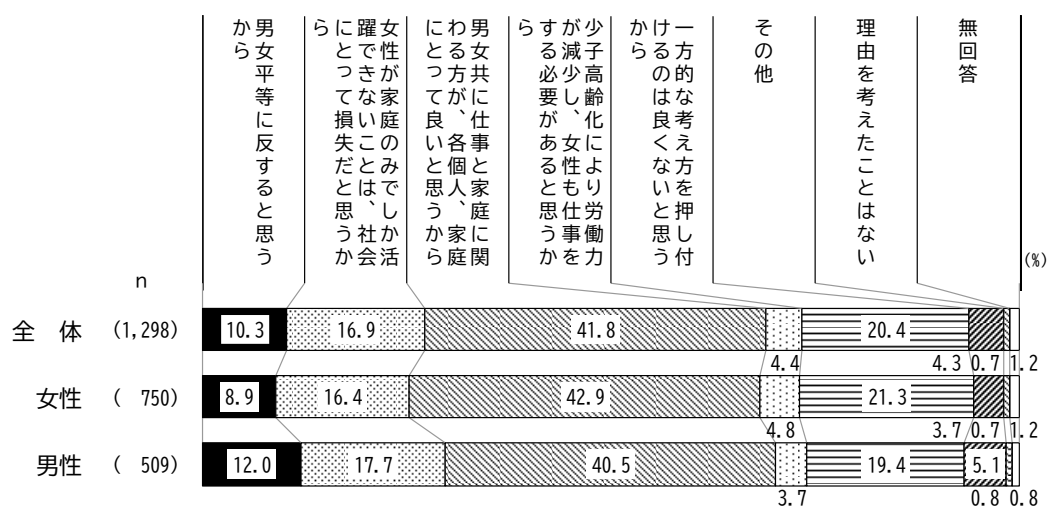
性／年齢別でみると、女性の70歳以上では「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」(44.7%)が4割台半ばと高くなっており、男性の70歳以上(31.7%)に比べ13.0ポイント高くなっている。(図表 1-12)

(4) 性別役割分担に同感しない理由

◎「男女共に仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が4割を超え最も高くなっている

【問2で「3」「4」と回答した方に】
 問2-2 そう思う理由を教えてください。(1つだけに○)

図表1-13 性別役割分担に同感しない理由

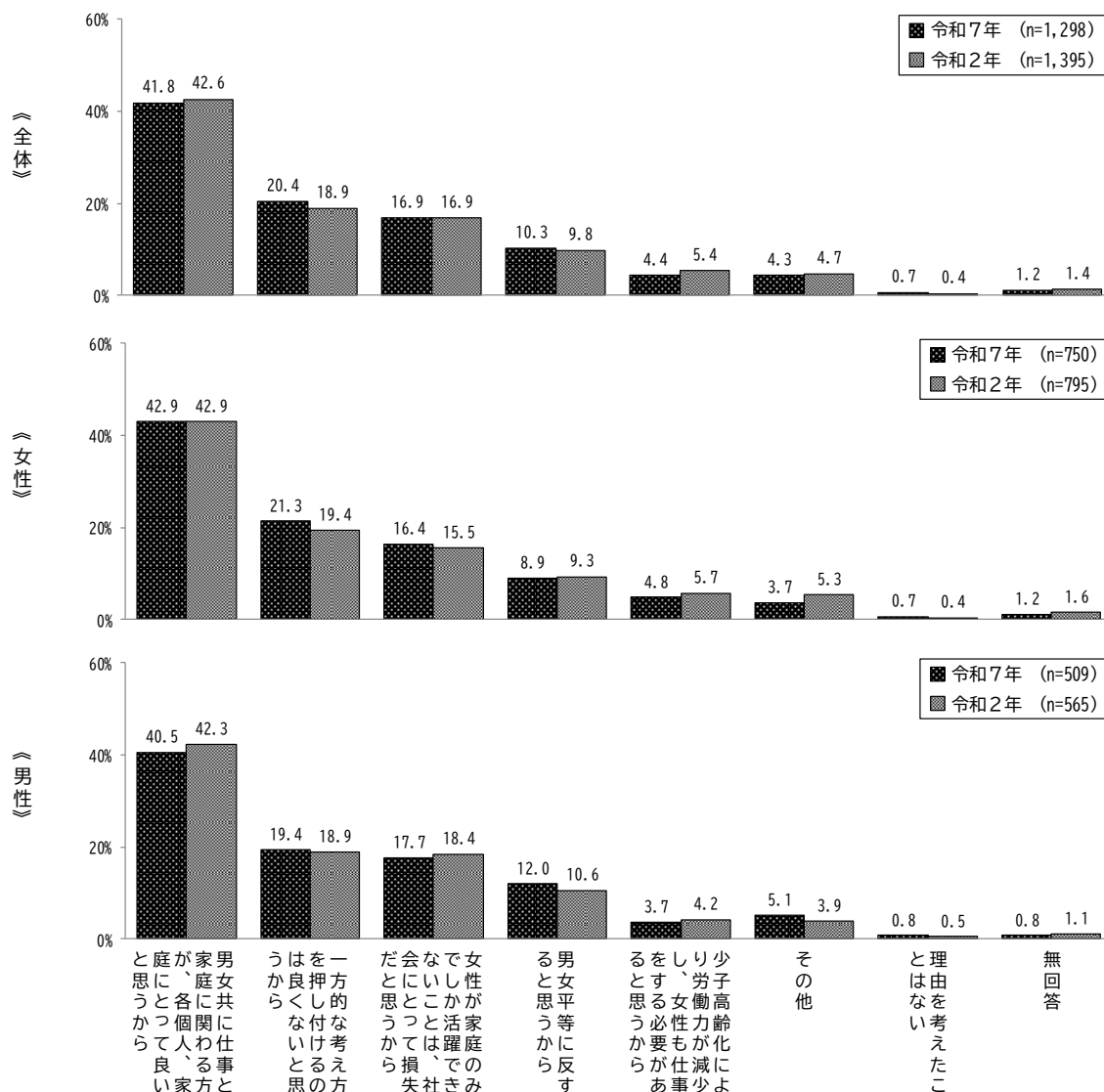


性別役割分担に同感しない理由としては、全体で見ると「男女共に仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が41.8%で最も高く、次いで「一方向的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」(20.4%)、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」(16.9%)となっている。

性別で見ると、男女ともに「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が4割台で最も高くなっている。(図表1-13)

第IV章 調査の結果

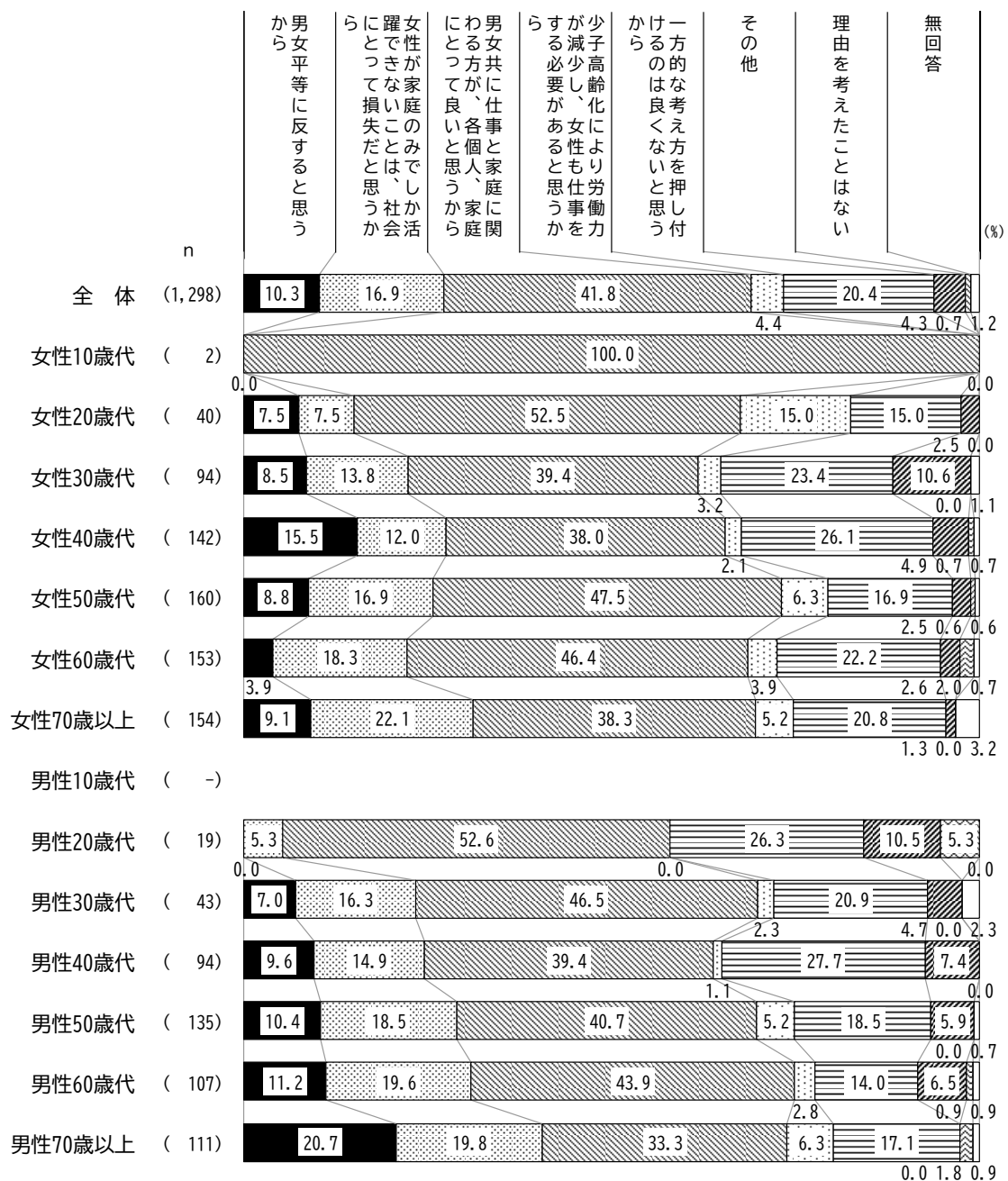
図表 1-14 性別役割分担に同感しない理由（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、全体で見ると「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が令和2年度調査（18.9%）から令和7年度調査（20.4%）で1.5ポイント増加している。

性別で見ると、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が女性では令和2年度調査（19.4%）から令和7年度調査（21.3%）で1.9ポイント増加している。一方、男性では「男女共に仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が令和2年度調査（42.3%）から令和7年度調査（40.5%）で1.8ポイント減少している。（図表1-14）

図表1-15 性別役割分担に同感しない理由（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10～20歳代は参考扱いとする。

性／年齢別で見ると、「男女共に仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」は女性20歳代（52.5%）で過半数を占めている。また、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」は、男性の40歳代（27.7%）で2割台半ばを超えており、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」は女性70歳以上（22.1%）で2割強となっている。

（図表1-15）

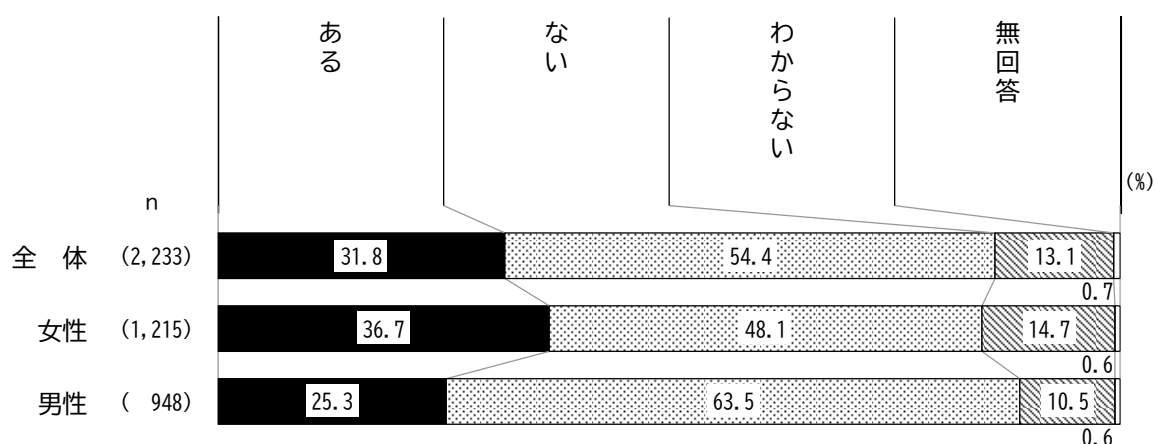
(5) 「男性らしさ」「女性らしさ」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無

◎負担感や生きづらさを感じたことについて「ある」が3割強、「ない」は5割台半ばとなっている

新規調査

問3 あなたは「男性らしさ」または「女性らしさ」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(どの性別の方もお答えください。) (1つだけに○)

図表1-16 「男性らしさ」「女性らしさ」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無

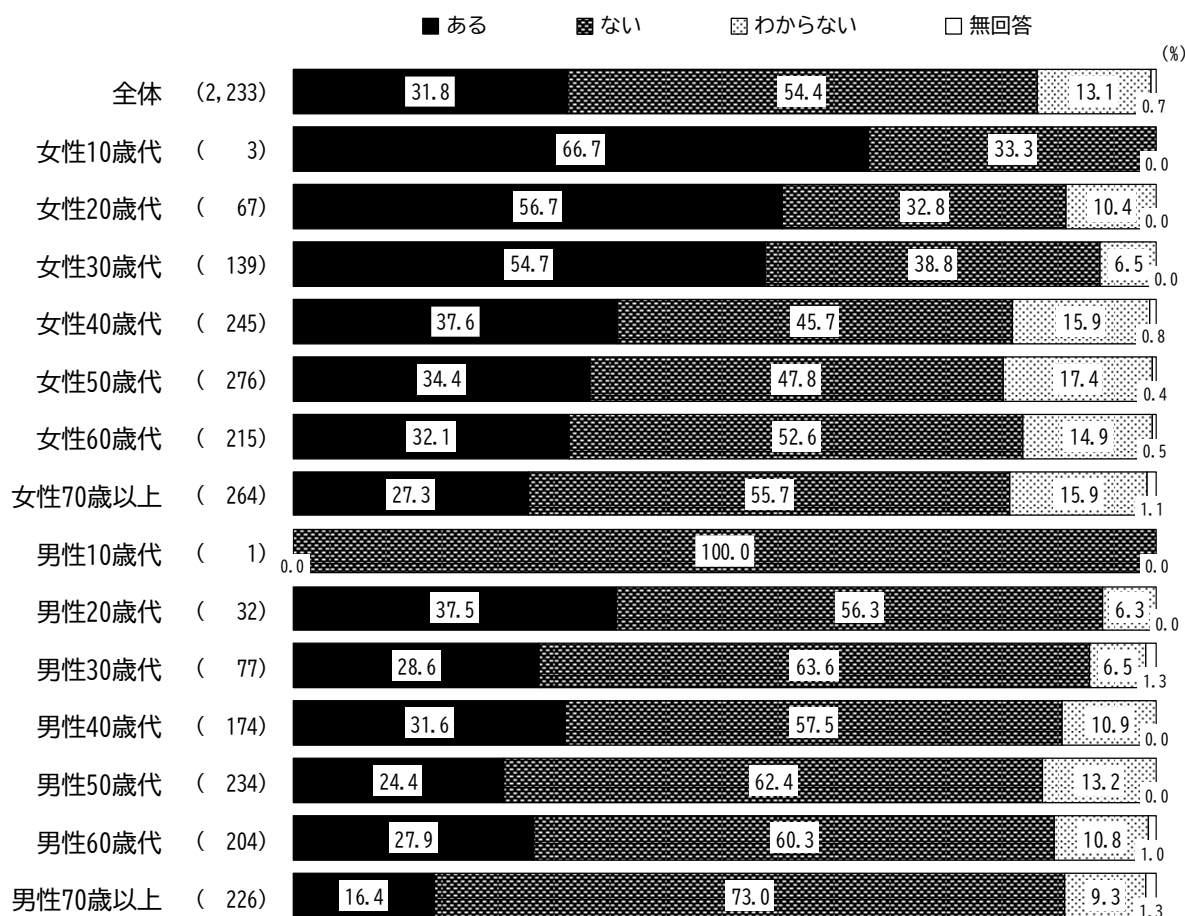


「男性らしさ」「女性らしさ」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無について、全体で見ると「ある」は31.8%、「ない」は54.4%となっている。

性別で見ると、「ある」は女性(36.7%)、男性(25.3%)と、女性が男性を11.4ポイント上回っている。「ない」は女性(48.1%)、男性(63.5%)と、男性が女性を15.4ポイント上回っている。

(図表1-16)

図表 1-17 「男性らしさ」「女性らしさ」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無
(性/年齢別)



※基数が不足しているため、性/年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性/年齢別でみると、「ある」は女性20歳代で5割台半ばを超え、30歳代で5割台半ばと高くなっている。「ない」は男女ともに70歳以上が最も高く、特に男性(73.0%)は7割強と他の年代と比べて高くなっている。

(図表 1-17)

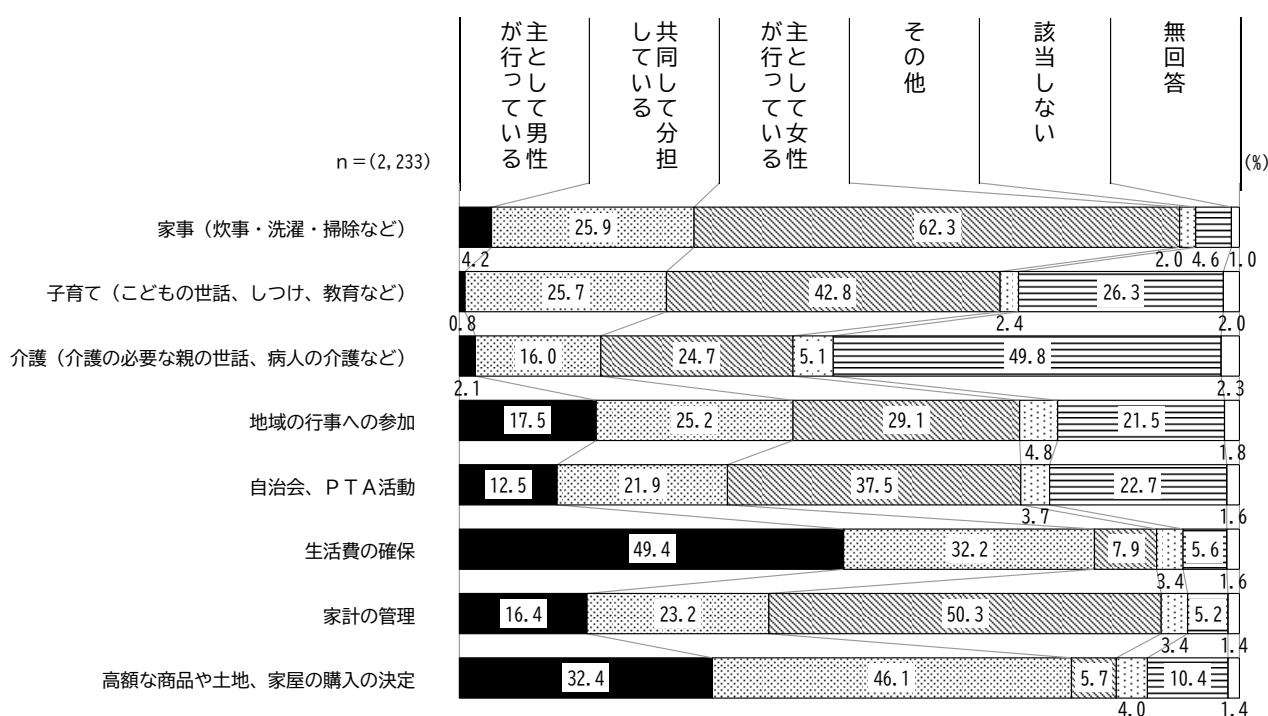
2. 家庭生活・子育てについて

(1) 家庭生活での役割分担

◎【家事】【子育て】【介護】【地域の行事への参加】【自治会、PTA活動】【家計の管理】は「主として女性が行っている」

問4 あなたの家庭では、次の(1)～(8)のことについて、主に男性、女性のどちらが行なっていますか。(それぞれ1つずつに○)

図表2-1 家庭生活での役割分担

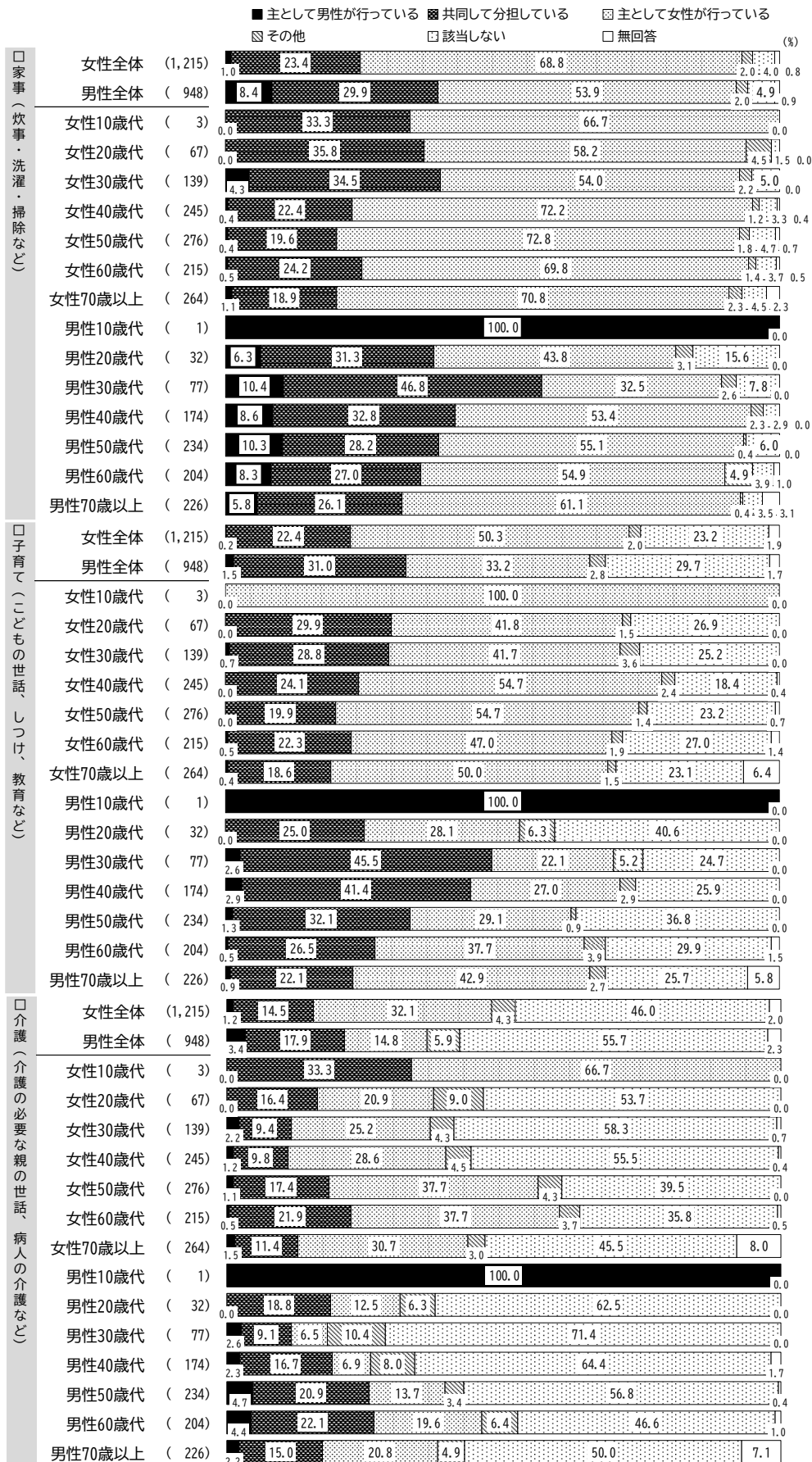


8つの分野について家庭における役割分担の状況を聞いたところ、【生活費の確保】、【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】を除いた6つの分野で「主として女性が行っている」が高くなっており、特に【家事（炊事・洗濯・掃除など）】(62.3%)、【家計の管理】(50.3%)、【子育て（こどもの世話、しつけ、教育など）】(42.8%)で高くなっている。

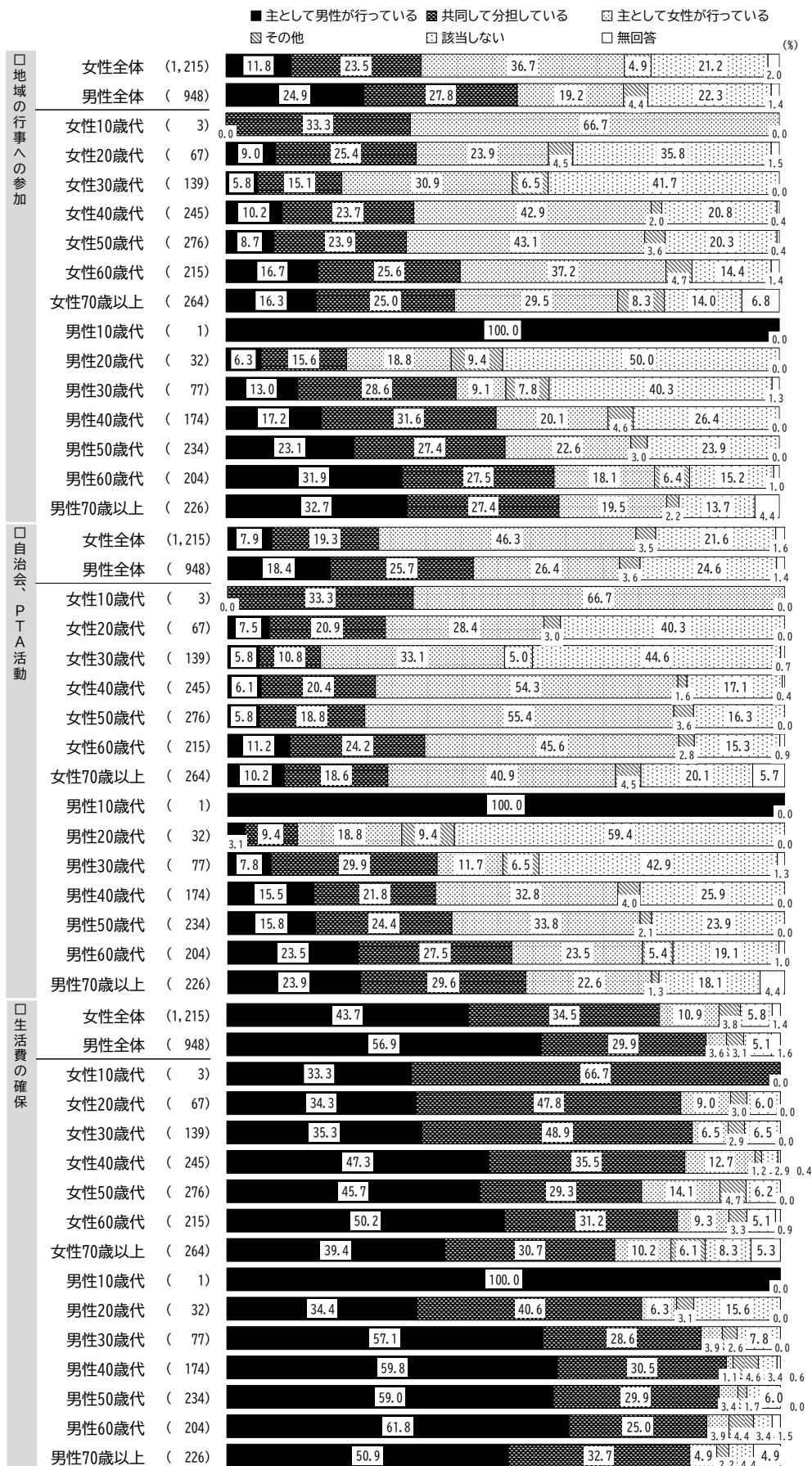
一方、【生活費の確保】では「主として男性が行っている」が49.4%で最も高くなっており、【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】は「共同して分担している」が46.1%で最も高くなっている。

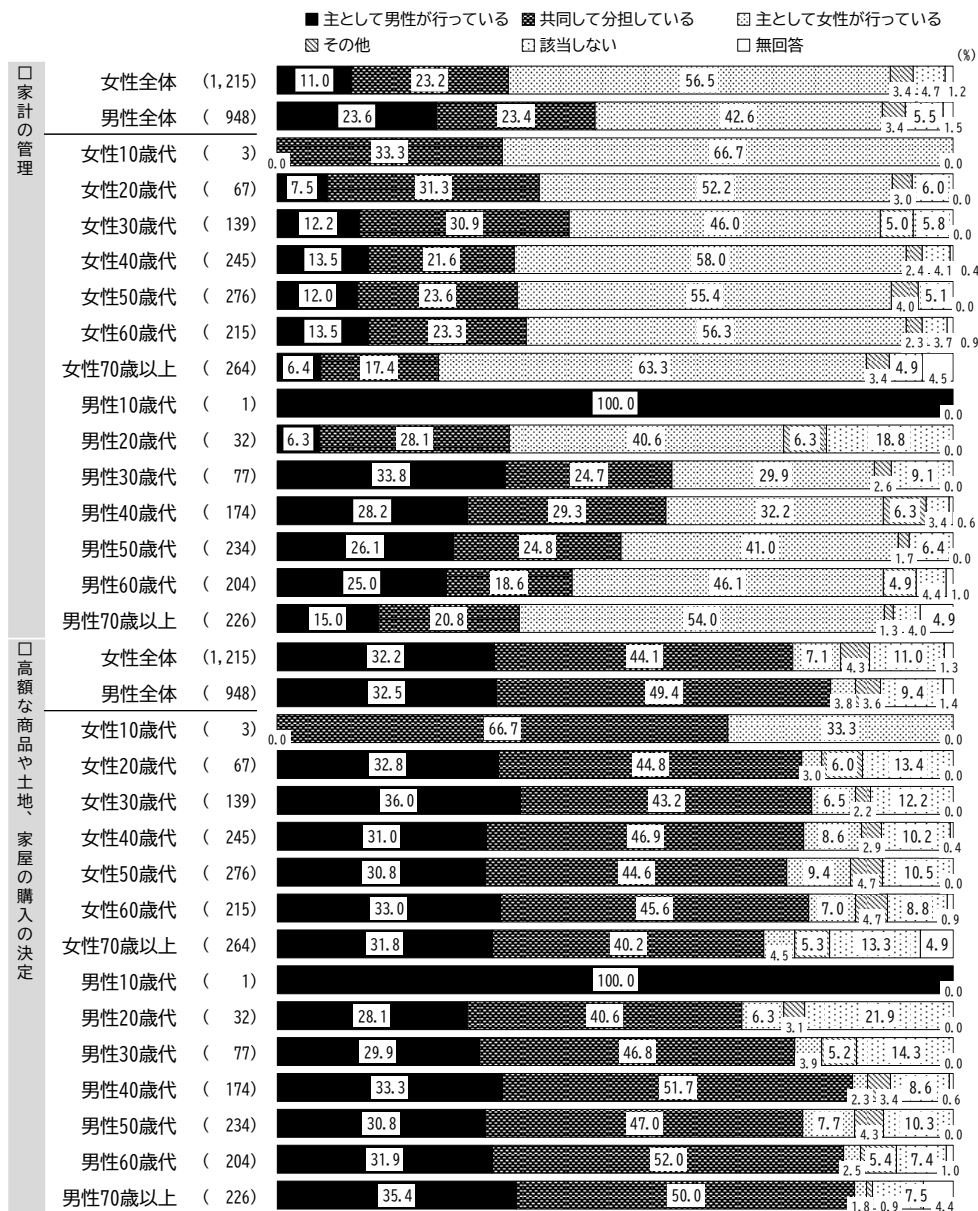
(図表2-1)

図表2-2 家庭生活での役割分担（性別・性／年齢別）



第IV章 調査の結果





※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

第IV章 調査の結果

性別でみると、「主として女性が行っている」は、すべての分野で女性が男性を上回っており、特に【家事（炊事・洗濯・掃除など）】、【子育て（こどもの世話、しつけ、教育など）】、【介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）】、【地域の行事への参加】、【自治会、PTA活動】、【家計の管理】の6つの分野で女性が男性を10ポイント以上上回っている。

「共同して分担している」で最も高いのは、男女ともに【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】となっている。「主として男性が行っている」が最も高いのは男女ともに【生活費の確保】で女性43.7%、男性が56.9%となっている。

性／年齢別でみると、【家事（炊事・洗濯・掃除など）】について「主として女性が行っている」は、女性では40～50歳代で7割強、70歳以上で7割を超えて高くなっており、男性では70歳以上では6割強となっている。「共同して分担している」は、女性では20～30歳代で3割台半ば、男性では30歳代で4割台半ばを超え高くなってきている。

【子育て（こどもの世話、しつけ、教育など）】について、女性ではすべての年代で「主として女性が行っている」が「共同して分担している」より高く、4割強～5割台半ばとなっている。男性では「主として女性が行っている」で最も高いのは70歳以上で4割強となっている。また、「共同して分担している」は20歳代を除くすべての年代で男性が女性を上回っており、最も高いのは男性30歳代で4割台半ばとなっている。

【介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）】について女性ではすべての世代で「主として女性が行っている」が「共同して分担している」を上回っており、特に50～60歳代の女性では3割台半ばを超え高くなってきている。男性の20～60歳代では「主として女性が行っている」よりも「共同して分担している」の割合が高くなってきている。

【地域の行事への参加】について女性は20歳代を除くすべての年代で「共同して分担している」よりも「主として女性が行っている」が上回っている。男性では年代が上がるにつれ「主として男性が行っている」の割合が増加傾向となっている。

【自治会、PTA活動】について「主として女性が行っている」が女性では20歳代を除くすべての年代で最も高く、50歳代女性で55.4%となっている。男性では年代が上がるにつれ「主として男性が行っている」の割合が増加傾向となっており、男性の70歳以上では23.9%となっている。

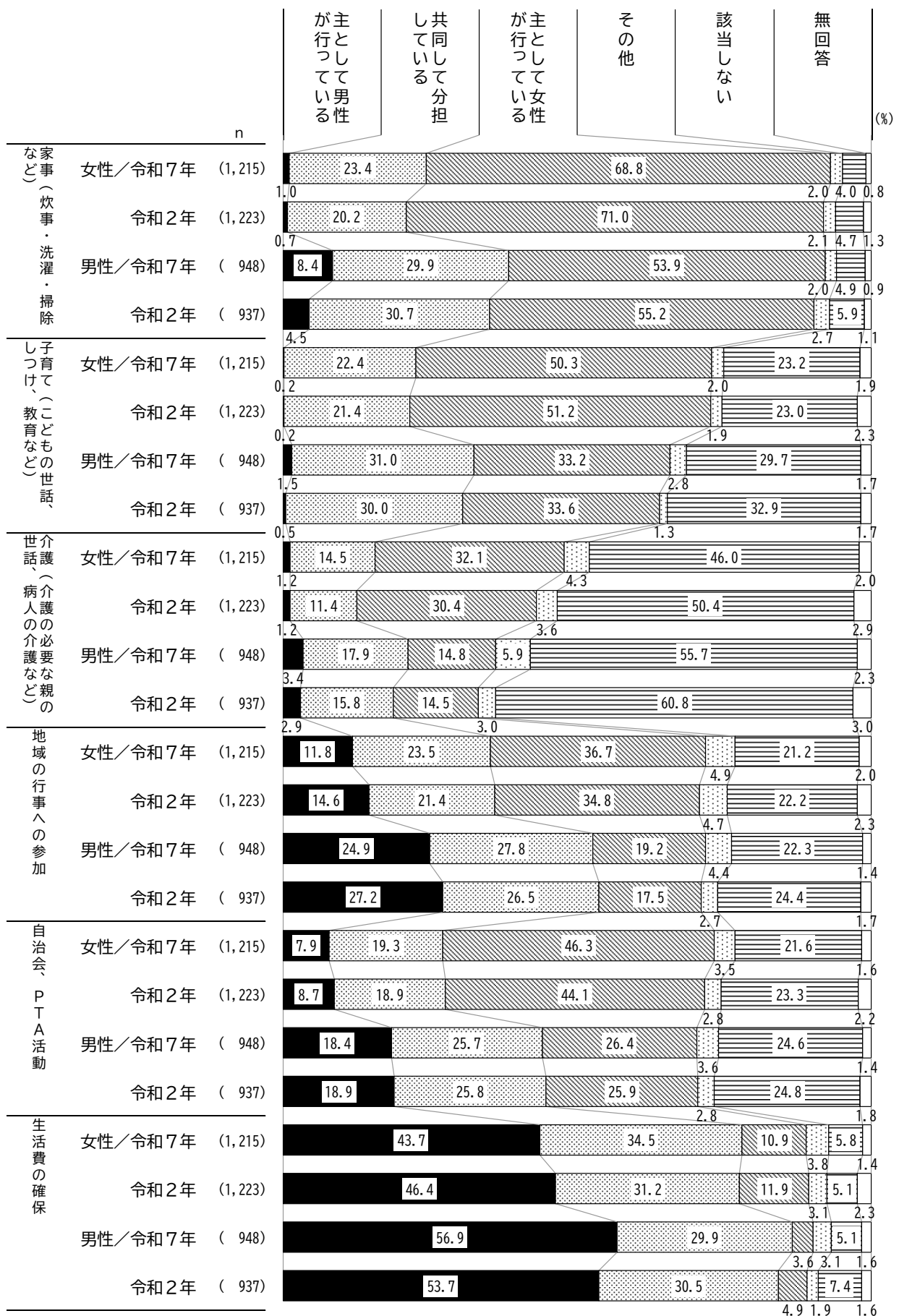
【生活費の確保】では、女性20～30歳代、男性20歳代を除くすべての年代で「主として男性が行っている」が最も高く、60歳代男性では6割強となっている。

【家計の管理】では男性30歳代を除くすべての年代で「主として女性が行っている」が最も高くなっている。特に女性の70歳以上は6割強と最も高くなっている。

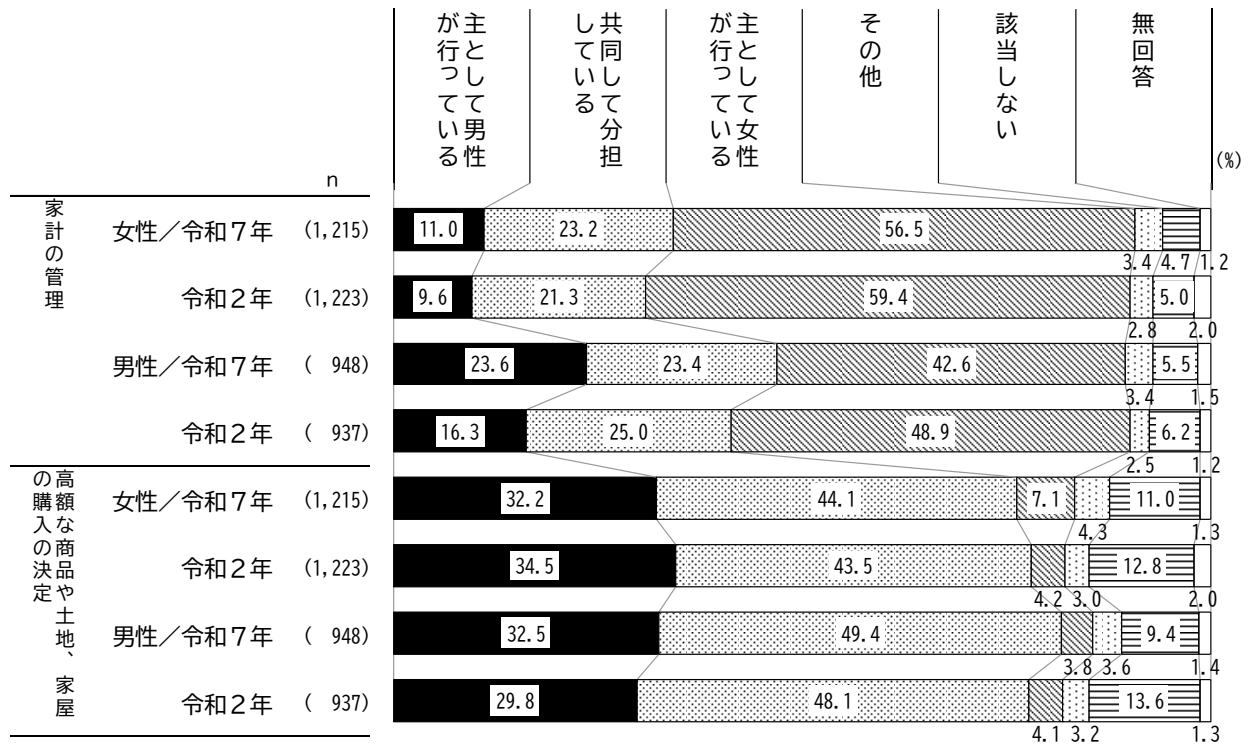
【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】では「共同して分担している」が男女ともにすべての年代で最も高くなっており、特に男性の40歳代、60歳代、70歳以上では半数以上を占めている。

(図表2-2)

図表2-3 家庭生活での役割分担（令和2年度調査との比較）



第IV章 調査の結果



令和2年度調査と比較すると、【地域の行事への参加】では「主として男性が行っている」が女性で2.8ポイント減少となっている。【生活費の確保】では「共同して分担している」が女性で3.3ポイント増加しており、「主として男性が行っている」が男性で3.2ポイント増加している。【家計の管理】では「主として女性が行っている」が女性で2.9ポイント、男性で6.3ポイントそれぞれ減少となっている。

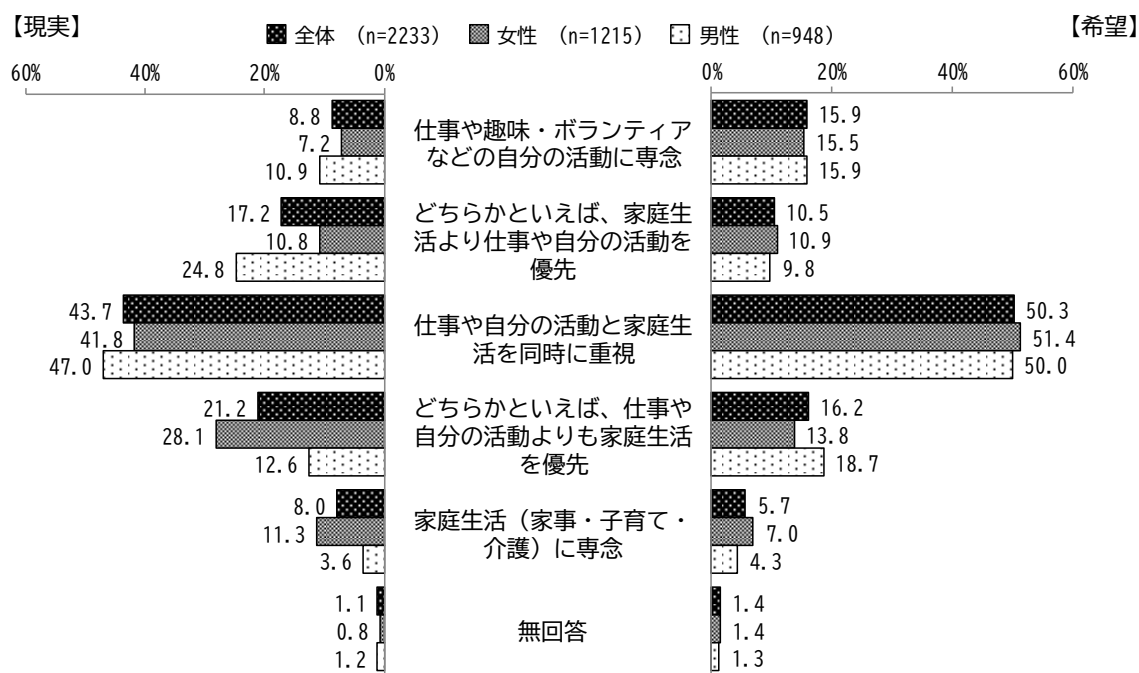
(図表2-3)

(2) 家庭生活の優先度

◎【現実】【希望】、男女ともに「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が最も高くなっている

問5 家庭生活（家事・子育て・介護）の考え方について、あなたは「現実」では何を優先していますか。また、「希望」では何を優先したいですか。（それぞれ1つずつに○）

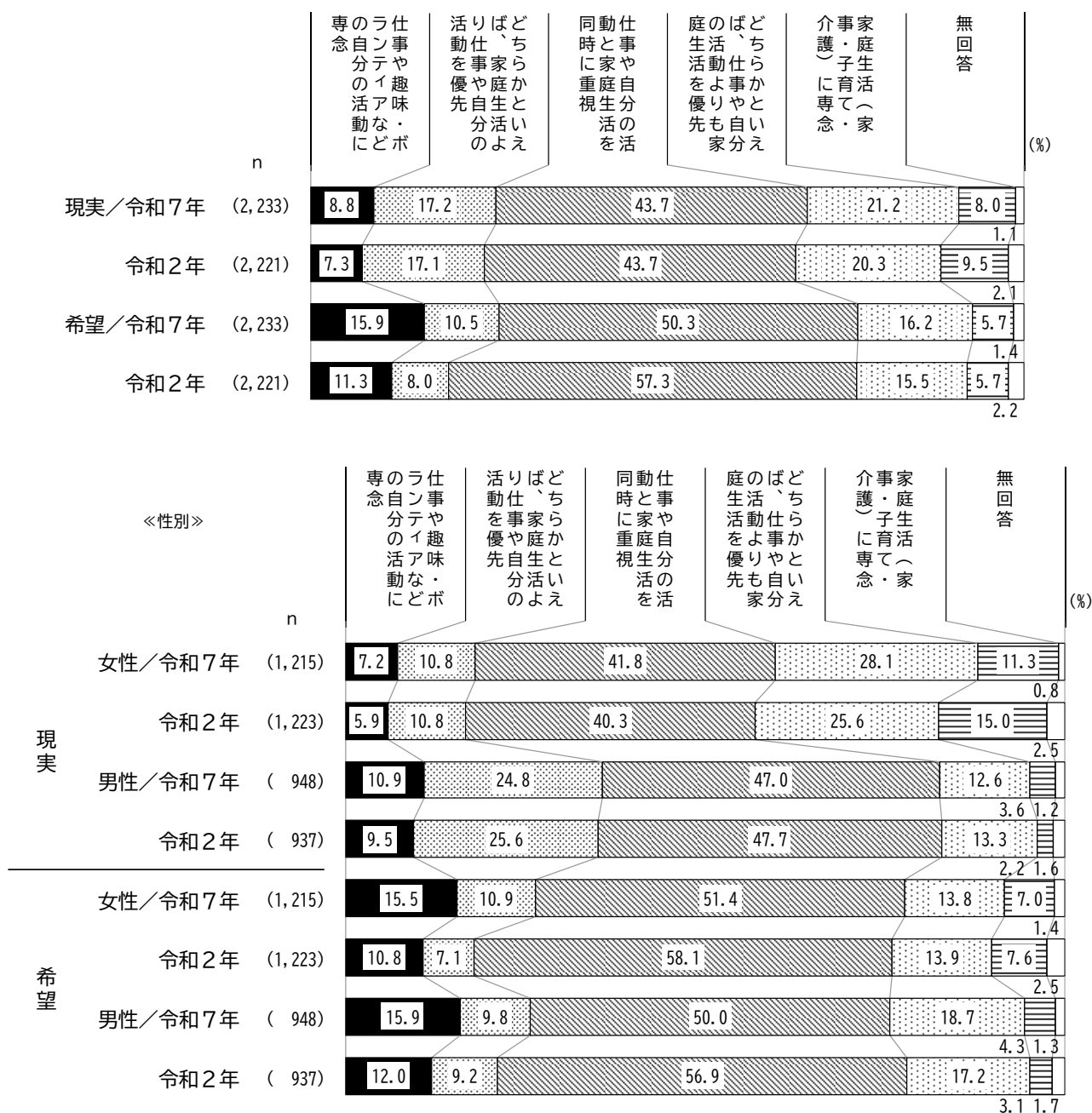
図表2-4 家庭生活の優先度



家庭生活の優先度についての現実と希望を比較すると、【現実】では男女ともに「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が、女性が41.8%、男性が47.0%で最も高くなっている。次いで、女性では「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」が28.1%、男性では「どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先」が24.8%となっている。

一方、【希望】では男女ともに「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が過半数を占めている。(図表2-4)

図表 2-5 家庭生活の優先度（令和2年度調査との比較）

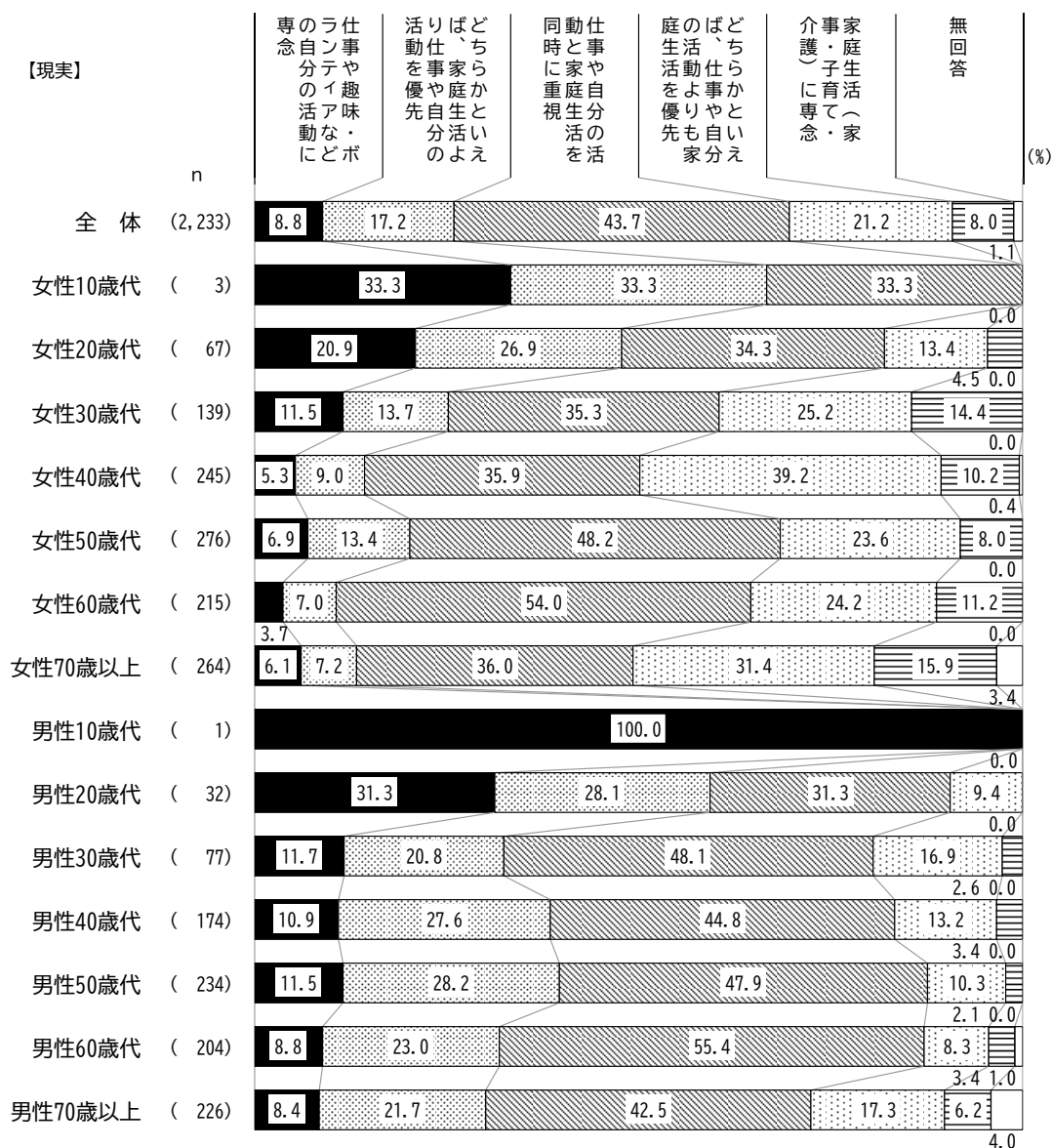


令和2年度調査と比較すると、全体でみると【現実】では「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」は令和2年度調査（7.3%）から令和7年度調査（8.8%）で1.5ポイント増加している。

【希望】では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が令和2年度調査（57.3%）から令和7年度調査（50.3%）で7.0ポイント減少している。

性別でみると【現実】では「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」は、女性で令和2年度調査（25.6%）から令和7年度調査（28.1%）で2.5ポイント増加している。【希望】では「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」は、女性で令和2年度調査（10.8%）から令和7年度調査（15.5%）で4.7ポイント増加、男性では令和2年度調査（12.0%）から令和7年度調査（15.9%）で3.9ポイント増加している。（図表2-5）

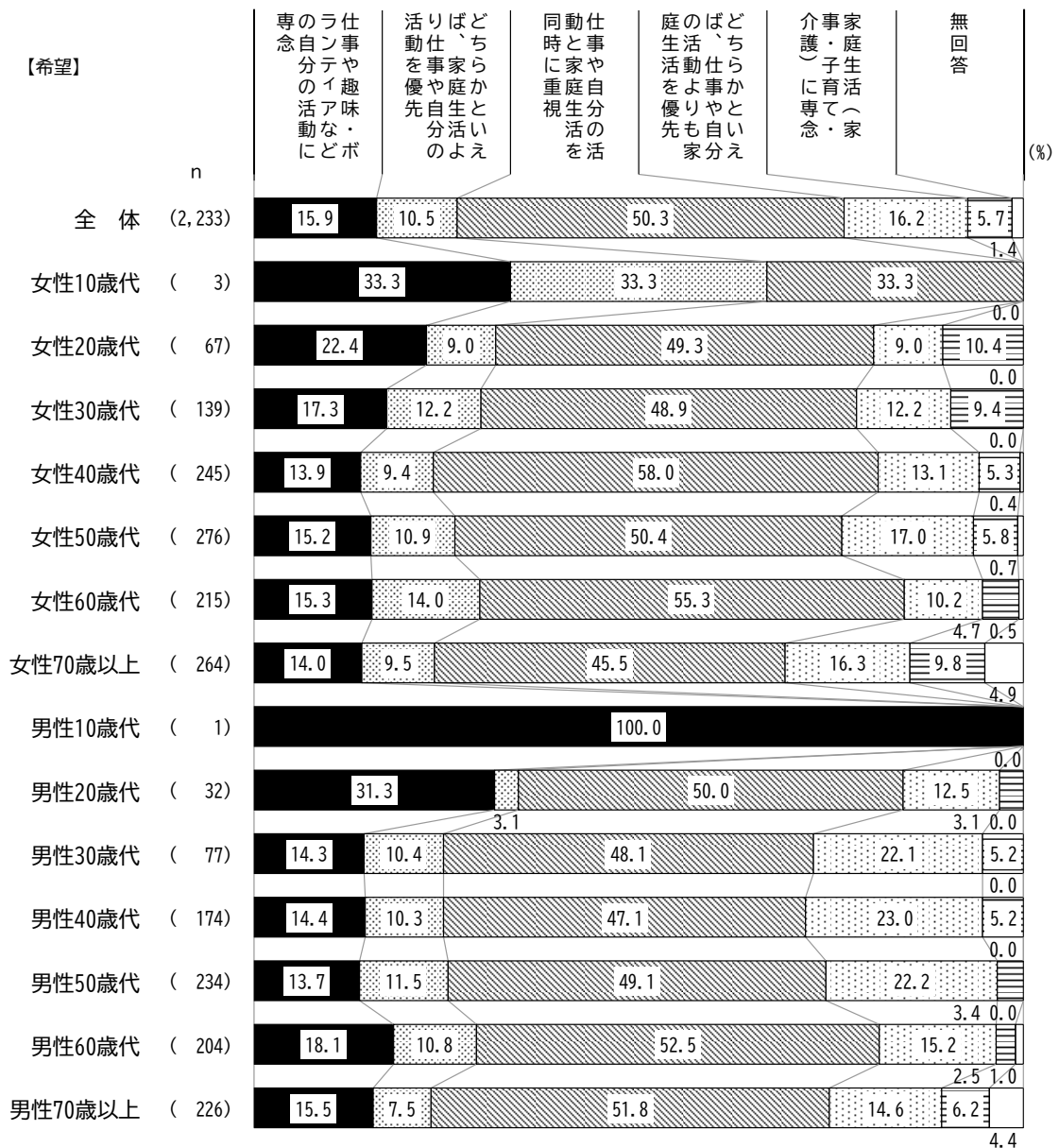
図表 2-6 家庭生活の優先度（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【現実】について、性／年齢別でみると、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」は、男女とも60歳代で5割台半ばとそれぞれ高くなっている。（図表2-6）

図表 2-7 家庭生活の優先度（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【希望】について、性／年齢別でみると、女性40～60歳代、男性20歳代、60歳以上で「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」の割合が過半数を占めている。（図表 2-7）

(3) 子育て経験の有無

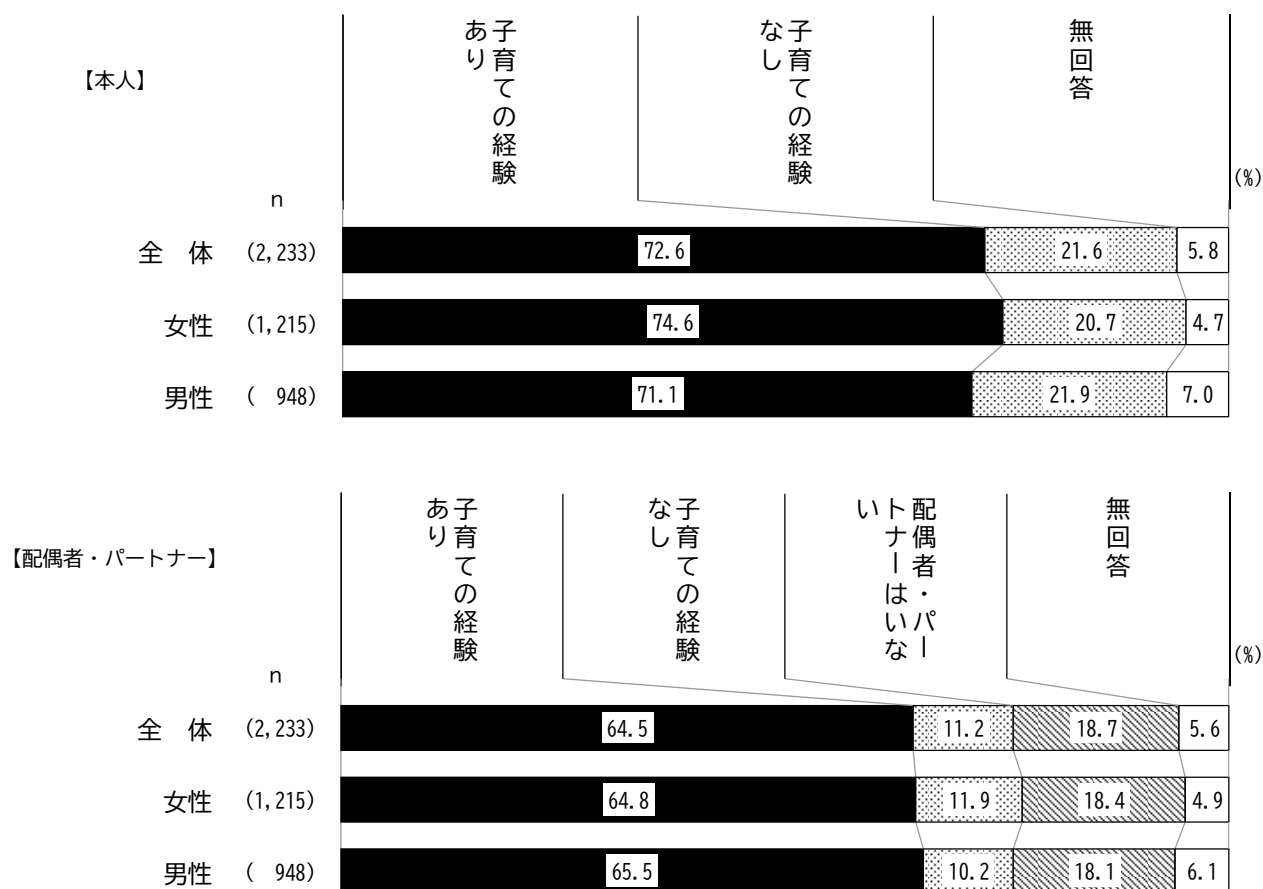
◎「あり」は【本人】で7割強、【配偶者・パートナー】で6割台半ば

新規調査

問6 あなたと配偶者・パートナーは、今までに子育ての経験はありますか。(配偶者・パートナーがいない場合、(2)は選択肢「3」をお選びください。

(それぞれ1つずつに○)

図表2-8 子育て経験の有無



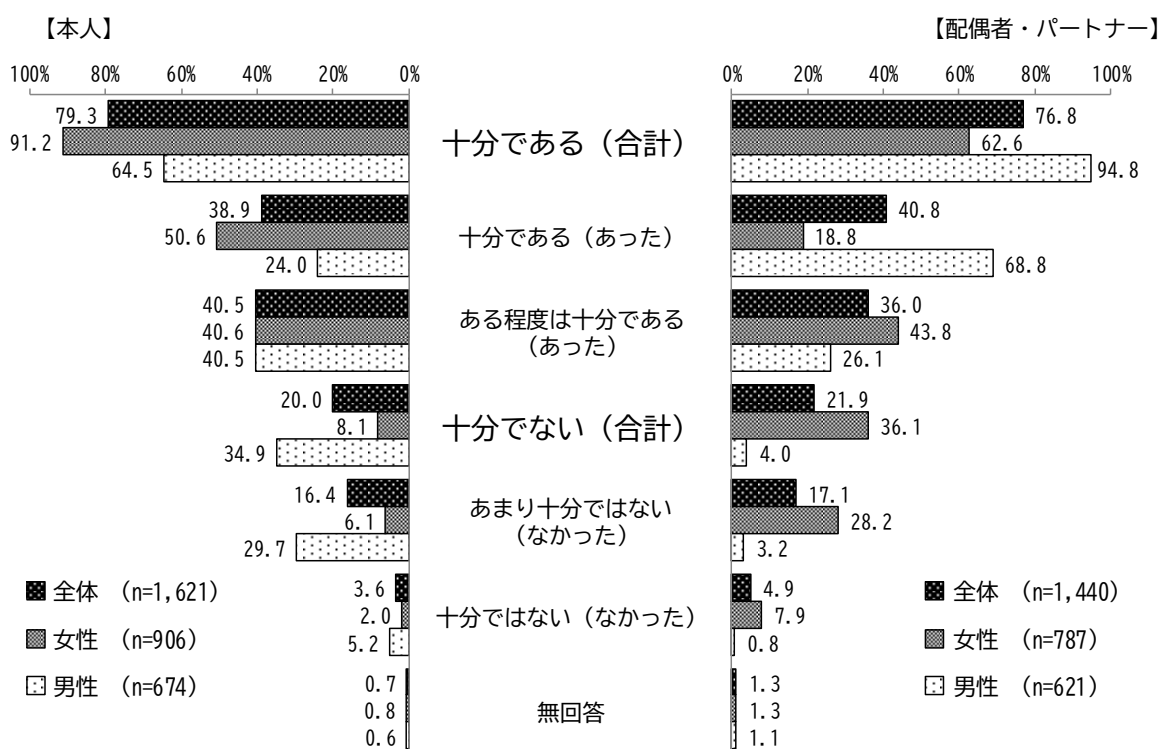
子育て経験の有無について性別でみると、男女とも【本人】(自分自身)は7割台、【配偶者・パートナー】は6割台半ばとなっている。(図表2-8)

(4) 子育てへのかかわり

◎【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりについて、女性の36.1%が《十分でない(合計)》としている

【問6で「子育ての経験あり」に1つでも回答した方に】
問7 あなたと配偶者・パートナーの子育てのかかわりは十分だと思いますか。
 (それぞれ1つずつに○)

図表2-9 子育てへのかかわり



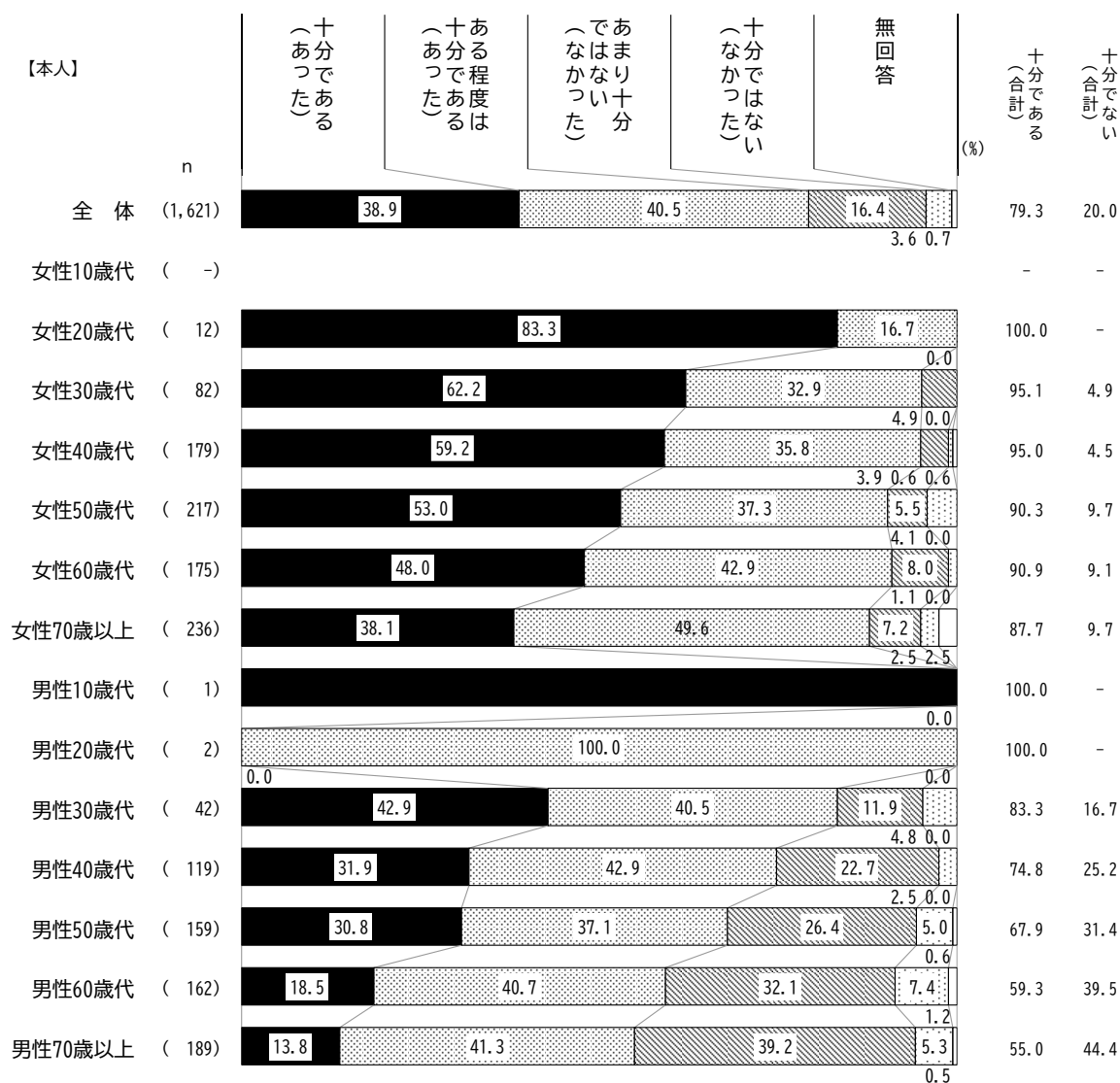
子育て経験がある方に、子育てのかかわり方について聞いたところ、全体でみると【本人】(自分自身)については《十分である(合計)》(「十分である(あった)」と「ある程度は十分である(あった)」の合計)が79.3%となっており、【配偶者・パートナー】については76.8%となっている。

性別でみると、男女とも【本人】(自分自身)、【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりについて、《十分である(合計)》が《十分でない(合計)》(「あまり十分ではない(なかった)」と「十分ではない(なかった)」の合計)を上回っている。

【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりについて、《十分でない(合計)》は女性で36.1%、男性は4.0%となっている。

また、男性の34.9%が【本人】(自分自身)の子育てのかかわりを《十分でない(合計)》と考えている。(図表2-9)

図表 2-10 子育てへのかかわり（性／年齢別）

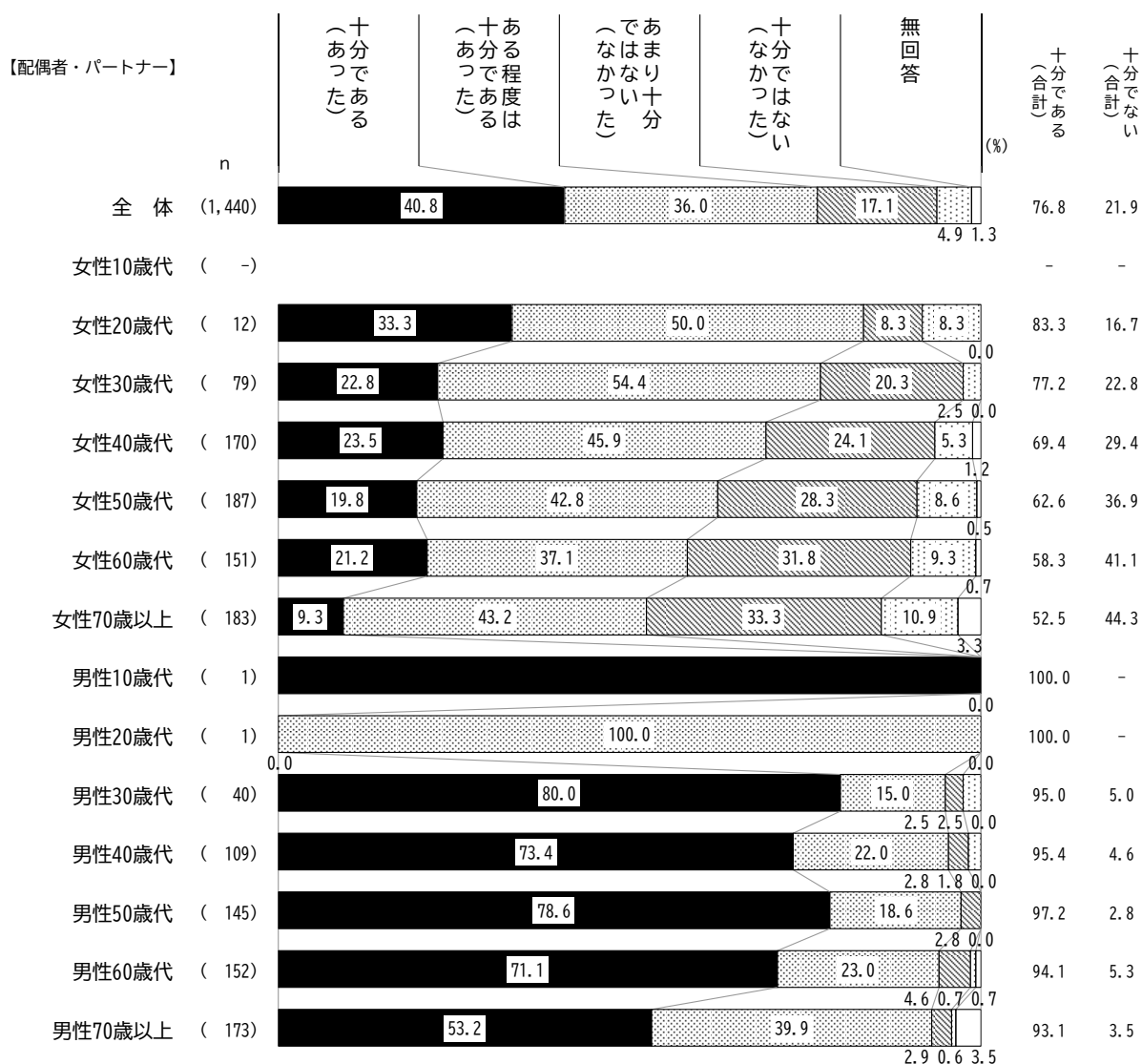


※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10～20歳代及び男性10～20歳代は参考扱いとする。

子育て経験がある方に、子育てのかかわり方について、性／年齢別でみると、【本人】（自分自身）について《十分である（合計）》は女性ではすべての年代で8割以上となっており、年代が上がるにつれて概ね減少傾向となっている。男性では30歳代が83.3%で最も高くなっている。（図表 2-10）

第IV章 調査の結果

図表 2-11 子育てへのかかわり（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10～20歳代及び男性10～20歳代は参考扱いとする

子育て経験があると答えた方に、子育てのかかわり方について聞いたところ、性／年齢別でみると、【配偶者・パートナー】については、《十分である（合計）》は女性の30歳代が7割台半ばを超えているが、年代が上がるにつれて減少している。一方、男性はすべての年代で《十分である（合計）》が9割を超えている。（図表 2-11）

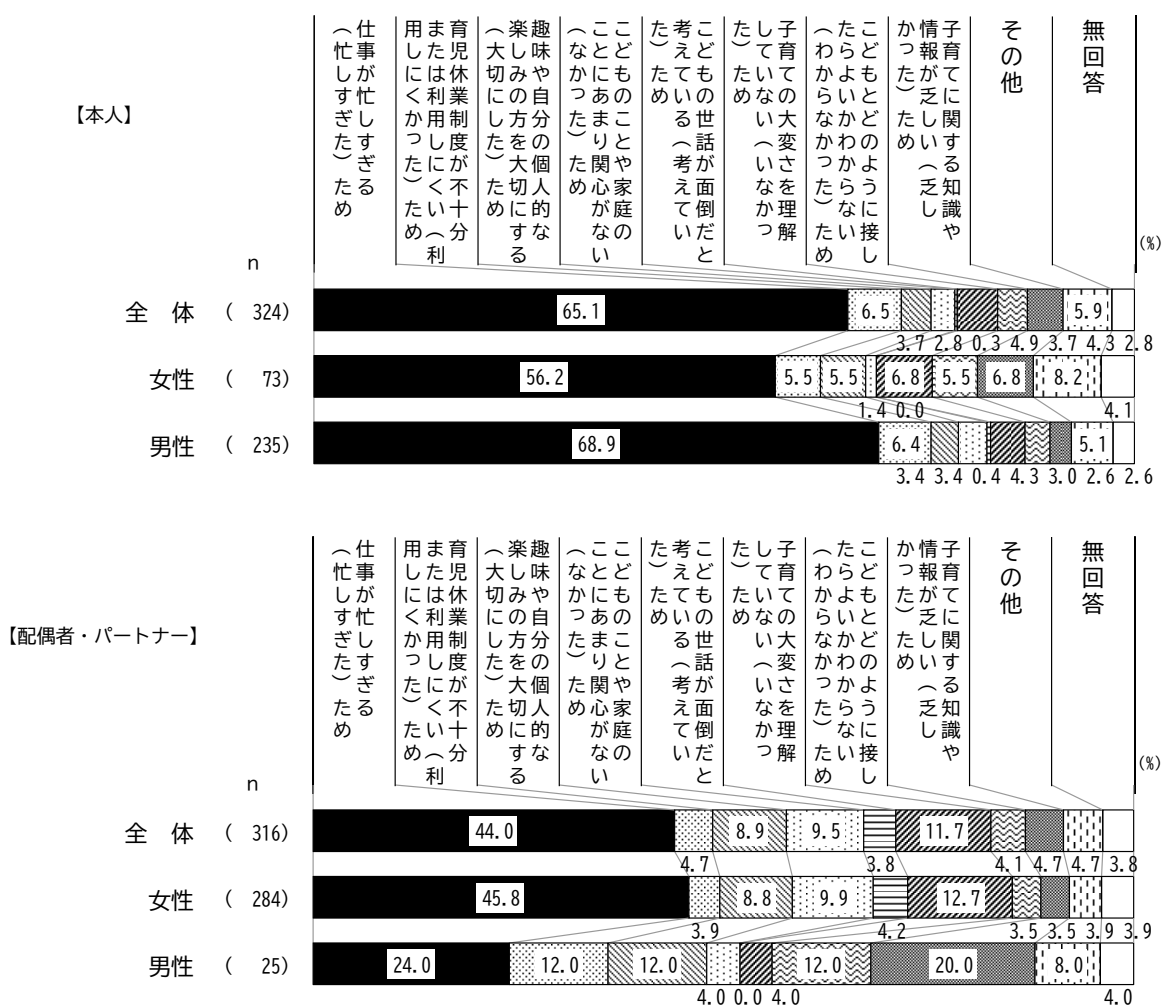
(5) 子育てへのかかわりが十分ではない理由

◎かかわりが十分ではない理由は、「仕事が忙しすぎる」が最も高くなっている

【問7で「3 あまり十分ではない（なかった）」または「4 十分ではない（なかった）」と回答した方に伺います】

問7-1 かかわりが十分ではない（なかった）のは何が原因であると思いますか。
(それぞれ1つずつに○)

図表2-12 子育てへのかかわりが十分ではない理由

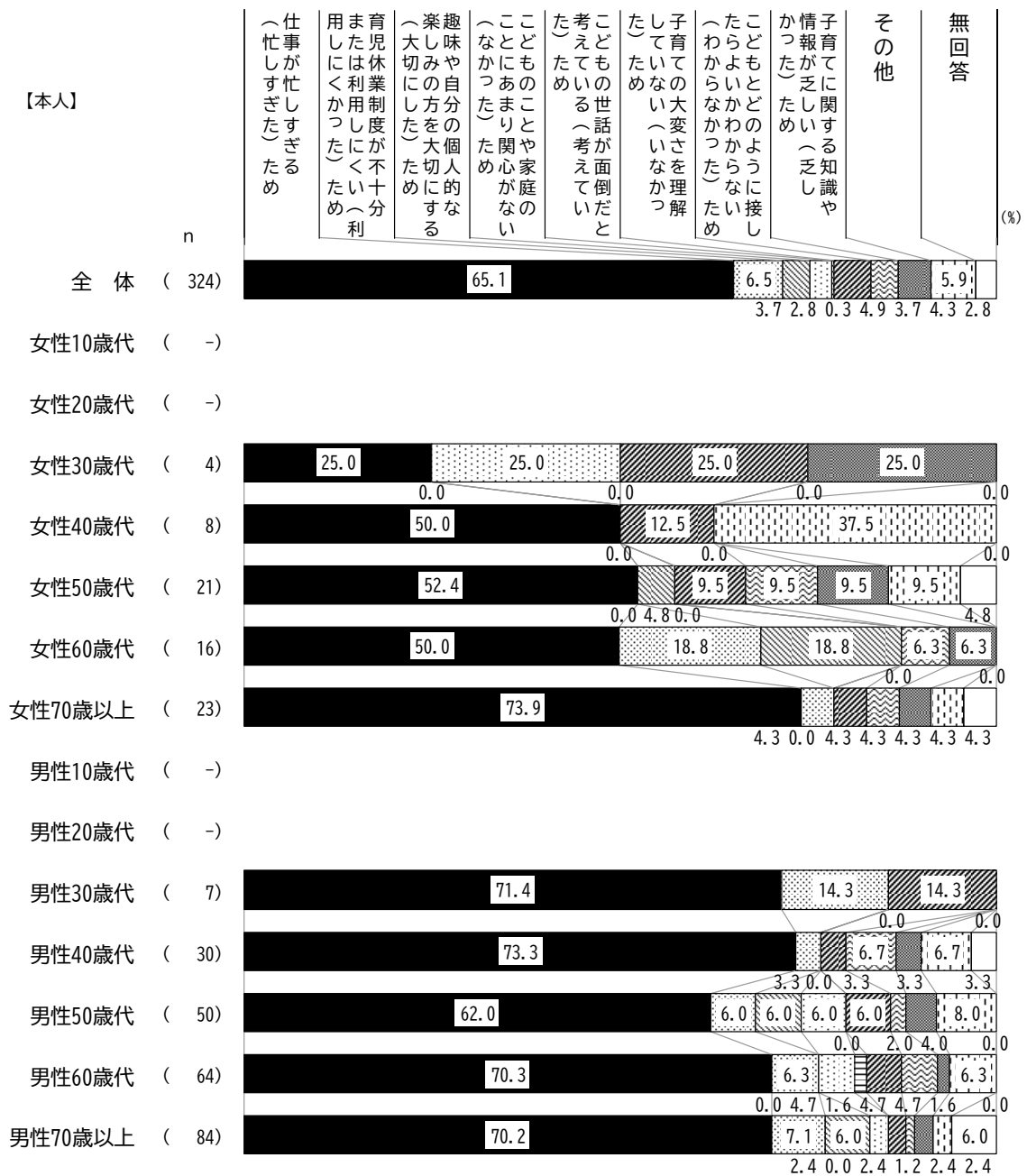


子育てへのかかわりが十分ではない（なかった）理由について聞いたところ、全体で見ると「仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため」が【本人】（65.1%）、【配偶者・パートナー】（44.0%）ともに最も高くなっている。

性別で見ると、【本人】では「仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため」が女性（56.2%）、男性（68.9%）と、男性が女性を12.7ポイント上回っている。【配偶者・パートナー】では「仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため」が女性（45.8%）、男性（24.0%）と、女性が男性を21.8ポイント上回っている。（図表2-12）

第IV章 調査の結果

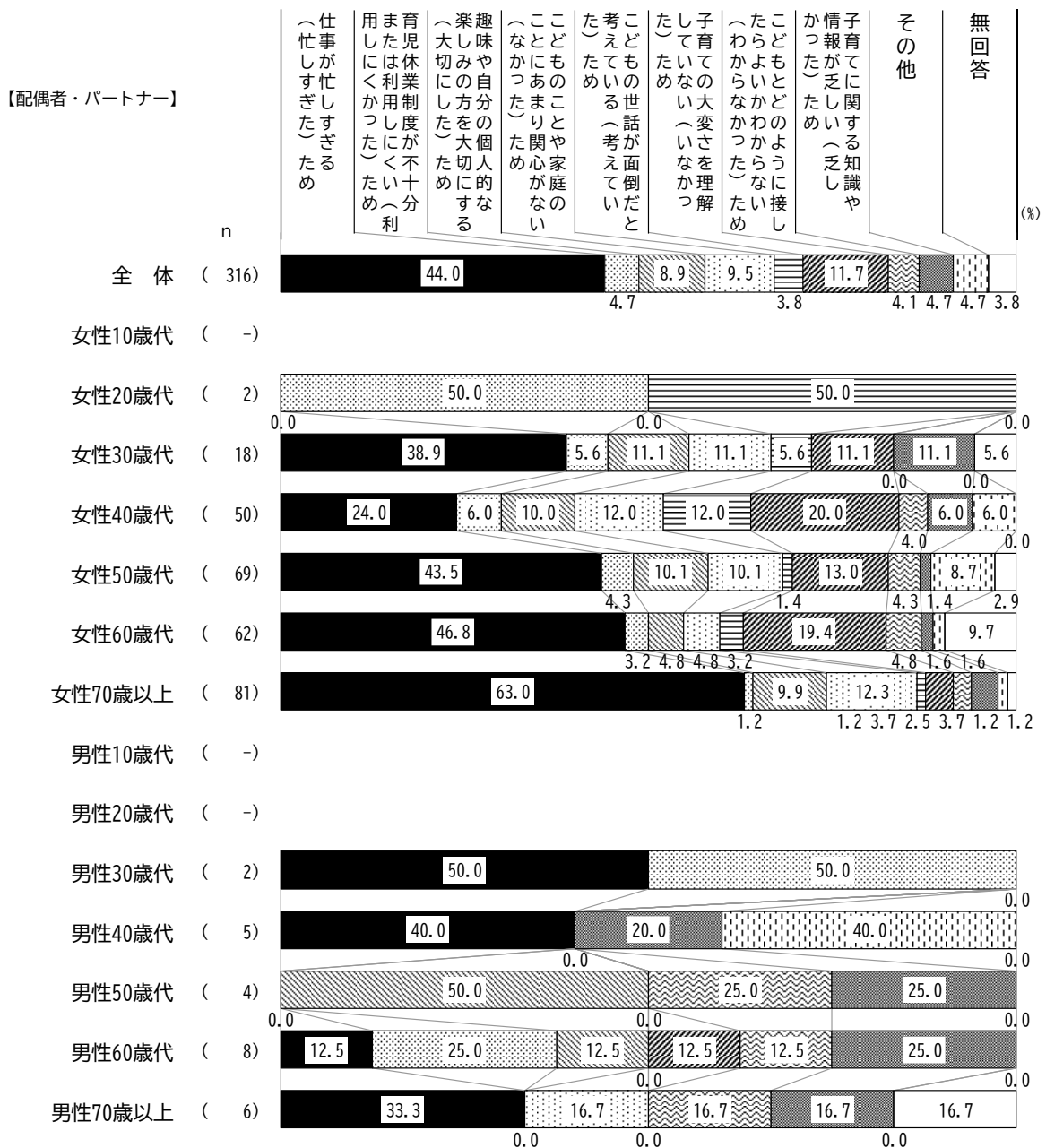
図表 2-13 子育てへのかかわりが十分ではない理由（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性のすべての年代、男性の30歳代以下は参考扱いとする。

【本人】(自分自身)の子育てへのかかわりが十分ではない理由を性／年齢別で見ると、男性のすべての年代で「仕事が多すぎる(忙しすぎた)ため」が最も高く、いずれも過半数を占めている。(図表 2-13)

図表 2-14 子育てへのかかわりが十分ではない理由（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性の30歳代以下、男性のすべての年代は参考扱いとする。

【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりが十分ではない理由を性／年齢別で見ると、女性ではすべての年代で「仕事が多すぎる（忙しすぎた）ため」が最も高くなっている。（図表 2-14）

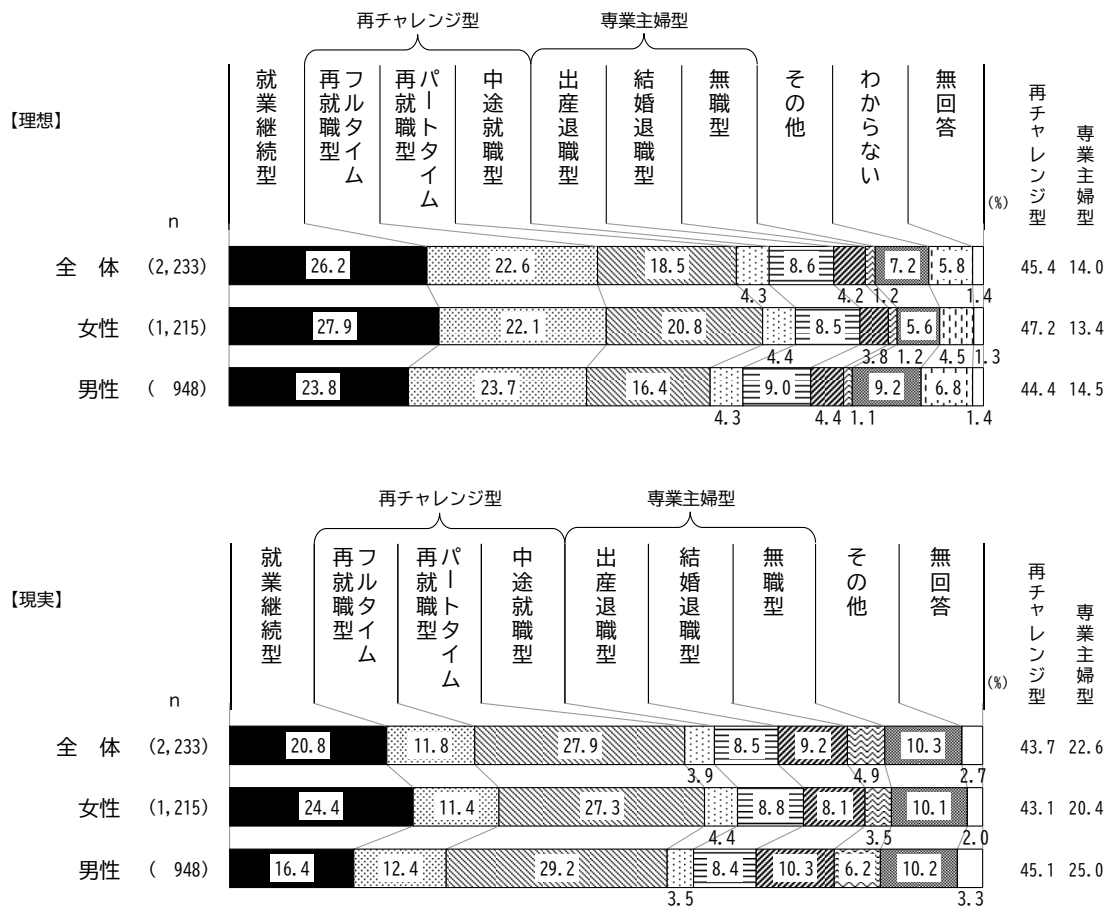
3. 男女の就業・仕事について

(1) 女性の働き方の理想と現実

◎【理想】の働き方は、《再チャレンジ型》が4割台半ばとなっており、【現実】の働き方は、《再チャレンジ型》が4割強となっている

問8 あなたは、女性の働き方について、「理想」はどうあるべきだと思いますか。また、あなた自身について（男性の場合は配偶者・パートナーについて）、「現実」にはどうですか（どうでしたか）。※結婚には事実婚を含みます。（それぞれ1つずつに○）

図表3-1 女性の働き方の理想と現実



※説明を簡略化するため、以下のように選択肢を再定義している。

再定義した選択肢	本来の選択肢
就業継続型	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
フルタイム再就職型	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
パートタイム再就職型	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
中途就職型	結婚後または子育て終了時から仕事をもつ
出産退職型	子どもができるまでは仕事もち、子どもができたら家事や子育てに専念する
結婚退職型	結婚するまで仕事もち、結婚後は家事などに専念する
無職型	仕事はもたない

分析を明確にするために、「フルタイム再就職型」、「パートタイム再就職型」、「中途就職型」の3つを《再チャレンジ型》としてまとめた。また、「出産退職型」、「結婚退職型」、「無職型」の3つを《専業主婦型》としてまとめた。

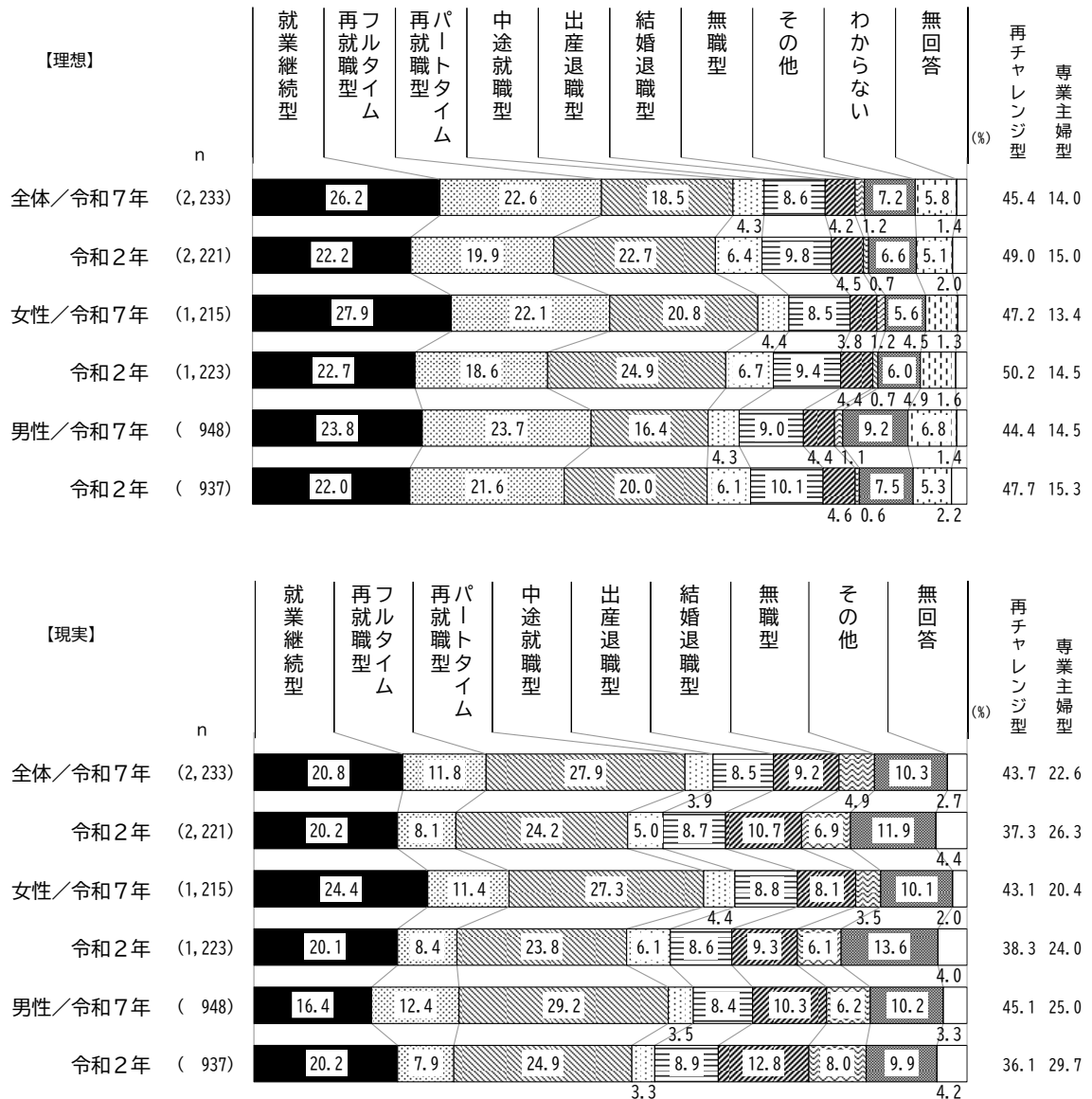
全体で見ると、【理想】の働き方は「就業継続型」が26.2%で最も高く、次いで「フルタイム再就職型」が22.6%、「パートタイム再就職型」が18.5%となっている。また、《再チャレンジ型》が45.4%となっており、《専業主婦型》の14.0%を31.4ポイント上回っている。

【現実】の働き方は「パートタイム再就職型」が27.9%と最も高く、次いで「就業継続型」が20.8%、「フルタイム再就職型」が11.8%となっている。また、《再チャレンジ型》が43.7%となっており、《専業主婦型》の22.6%を21.1ポイント上回っている。

性別で見ると、【理想】の働き方は「パートタイム再就職型」で女性が20.8%、男性が16.4%となっており、男性より女性が4.4ポイント上回っている。《再チャレンジ型》では女性が47.2%、男性が44.4%と、女性が男性より2.8ポイント上回っている。一方、《専業主婦型》では女性は13.4%、男性は14.5%となっている。

【現実】では「就業継続型」で女性が24.4%、男性が16.4%となっており、男性より女性が8.0ポイント上回っている。《再チャレンジ型》では女性が43.1%、男性が45.1%と、男性が女性より2.0ポイント上回っている。一方、《専業主婦型》では女性は20.4%、男性は25.0%となっている。(図表3-1)

図表3-2 女性の働き方の理想と現実（令和2年度調査との比較）

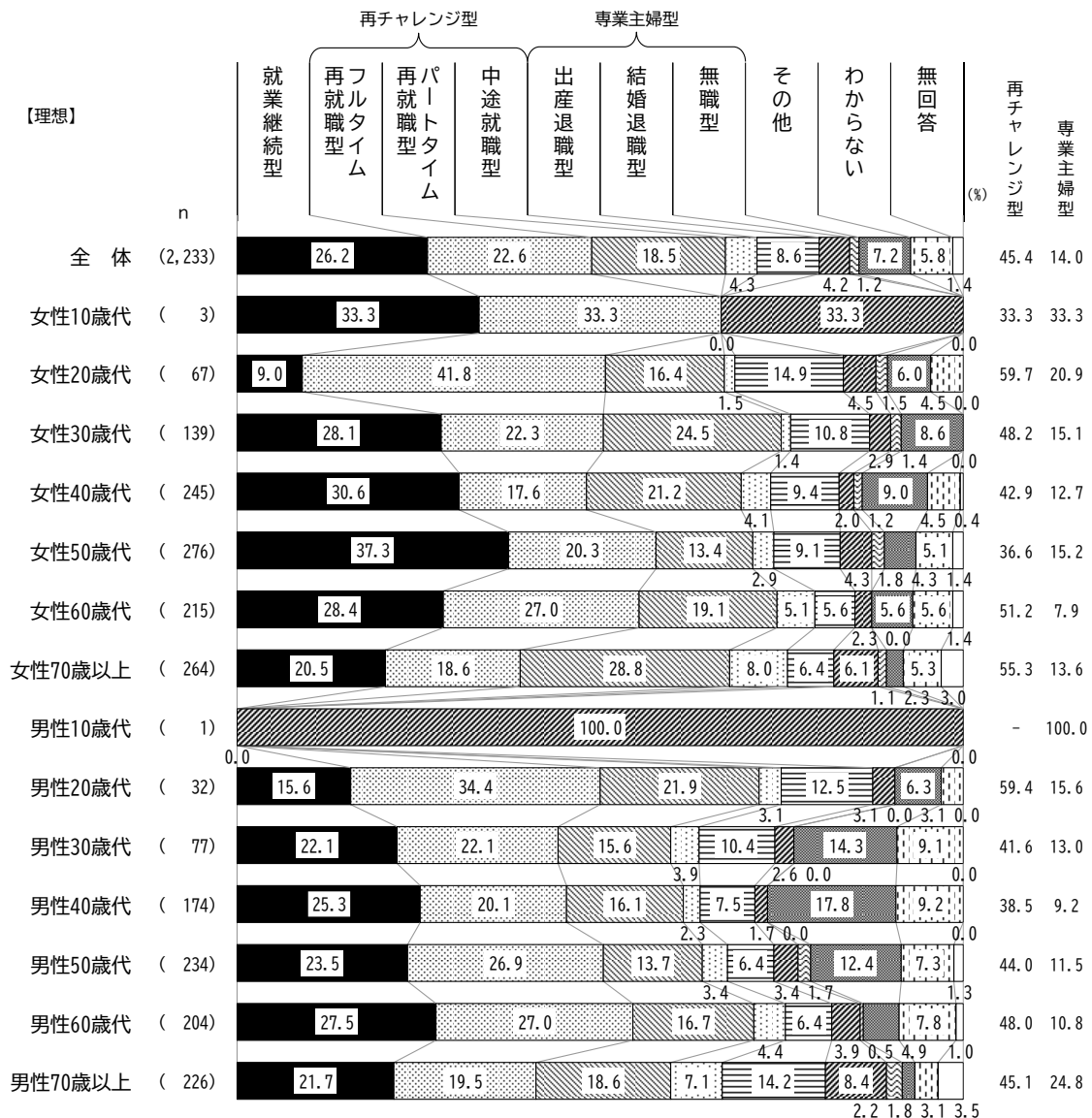


令和2年度調査と比較すると、【理想】では全体で《再チャレンジ型》が3.6ポイント減少しており、《専業主婦型》は1.0ポイント減少している。

性別でみると、男女ともに《専業主婦型》、《再チャレンジ型》のいずれも減少している。また、女性では「就業継続型」が5.2ポイント増加、「フルタイム再就職型」が3.5ポイント増加しており、男性では「パートタイム再就職型」が3.6ポイント減少、「フルタイム再就職型」が2.1ポイント増加、「就職継続型」が1.8ポイント増加している。

【現実】では「就業継続型」が全体、女性で増加、男性で減少している。《再チャレンジ型》は全体では6.4ポイント、女性では4.8ポイント、男性では9.0ポイント増加している。（図表3-2）

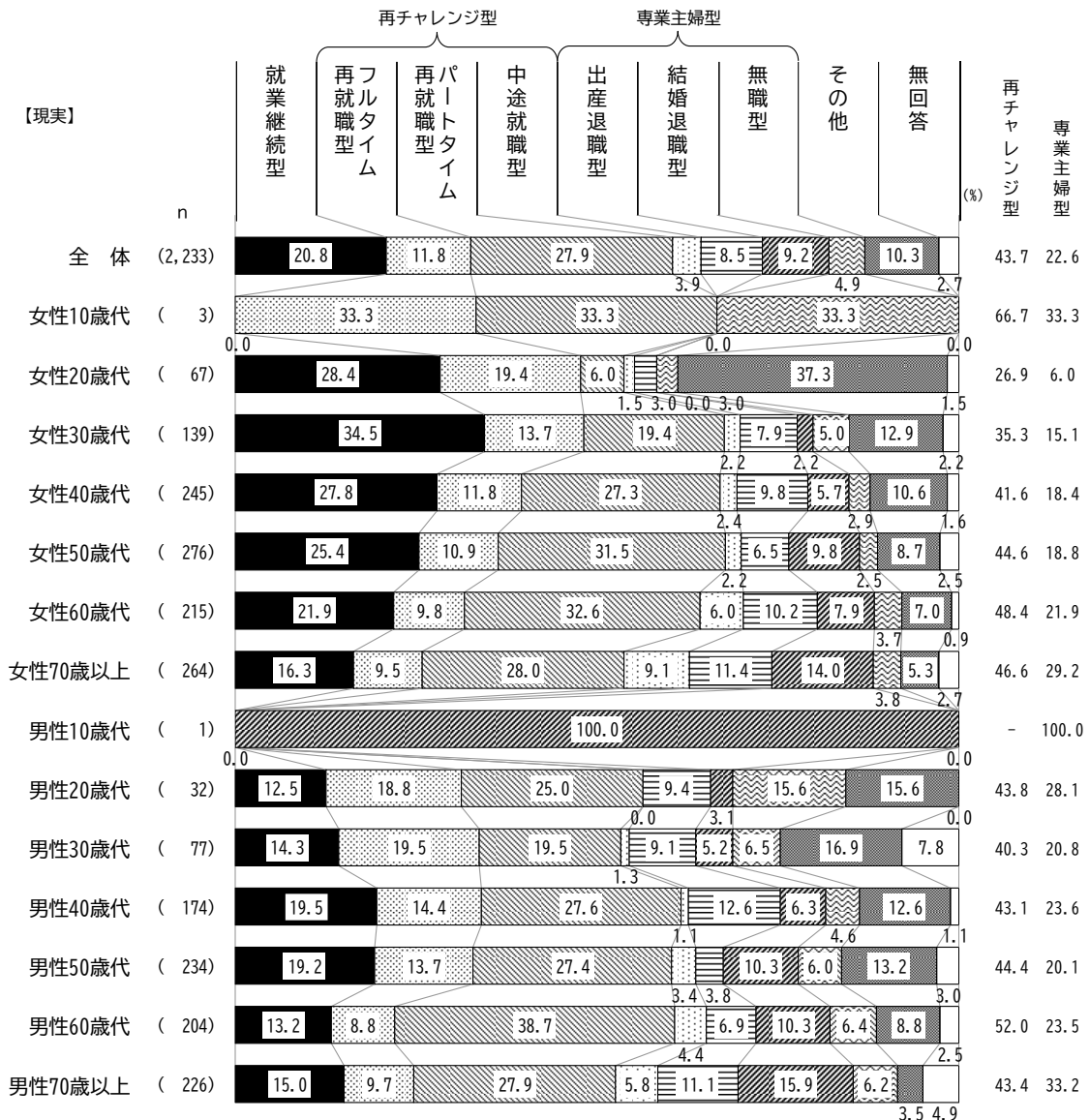
図表3-3 女性の働き方の理想と現実（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【理想】について、性／年齢別でみると、女性では《再チャレンジ型》は50歳代を除くすべての年代で4割を超えており、20歳代と60歳代以上で過半数を占めている。男性では《再チャレンジ型》が40歳代を除くすべての年代で4割を超えており、20歳代では過半数を占めている。（図表3-3）

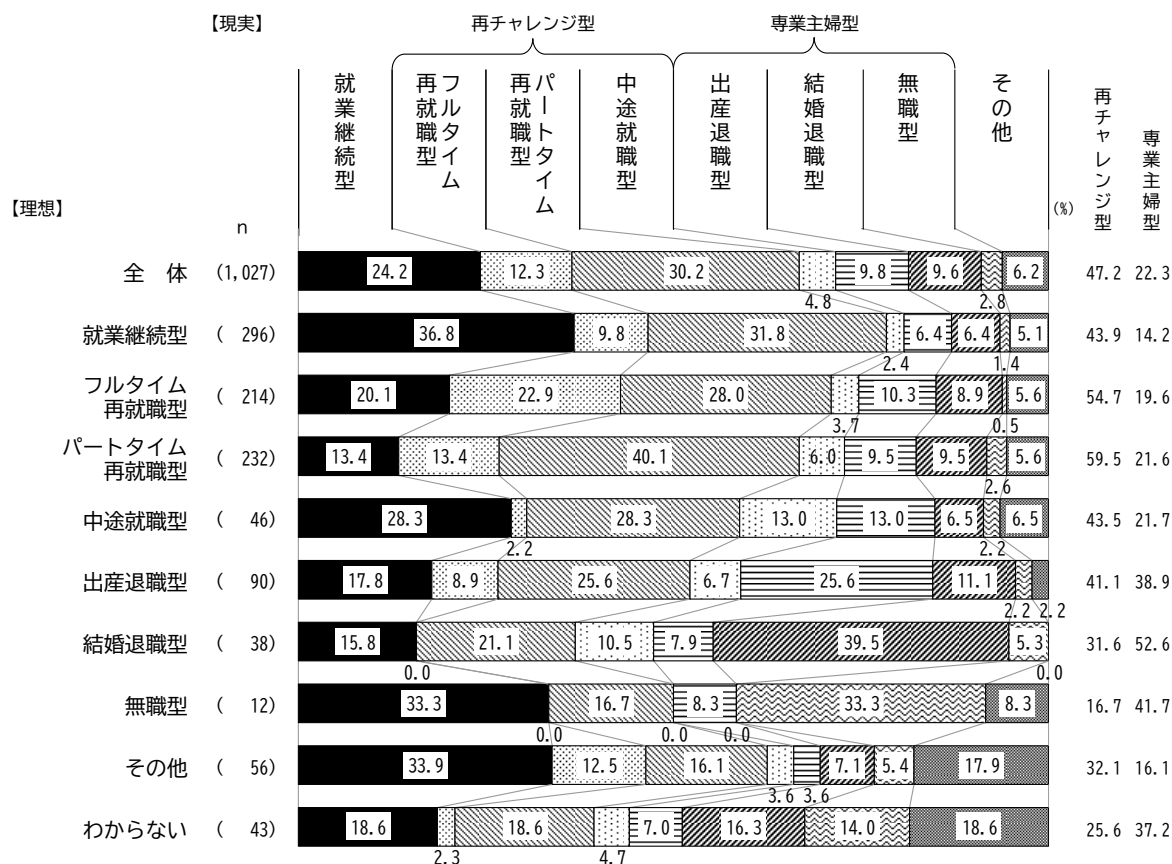
図表3-4 女性の働き方の理想と現実（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【現実】について、性／年齢別でみると、「就業継続型」は女性30歳代で3割台半ばと他の年代と比べて高くなっている。《再チャレンジ型》は女性では20歳代～60歳代で年代が上がるにつれ増加しており、最も高い60歳代で48.4%となっている。男性では60歳代（52.0%）で5割強と最も高くなっており、それ以外の年代では4割台となっている。（図表3-4）

図表3-5 女性の働き方の理想と現実（結婚経験のある女性）



※基数が不足しているため、無職型は参考扱いとする。

【現実】の働き方を【理想】別にみて、女性がどのような働き方を理想とし、それが実現している（一致型）かどうか、また一致ではない場合、現実ではどのような働き方をしているかを分析する。なお、ここでは分析を明確にするため、対象を《結婚経験のある》女性に限り、かつ【理想】と【現実】をどちらも回答している人に絞り込んでいる。

「就業継続型」を理想とする人の36.8%は現実も「就業継続型」と希望どおり働いており、《再チャレンジ型》が4割強、《専業主婦型》が1割台半ばとなっている。

「フルタイム再就職型」は希望どおり働いている人は22.9%で、現実では「パートタイム再就職型」が28.0%と最も高くなっている。「パートタイム再就職型」では希望どおり働いている人が40.1%で最も高く、「中途就職型」では希望どおり働いている人は「就業継続型」、「パートタイム再就職型」で働いている人がともに28.3%で最も高くなっている。

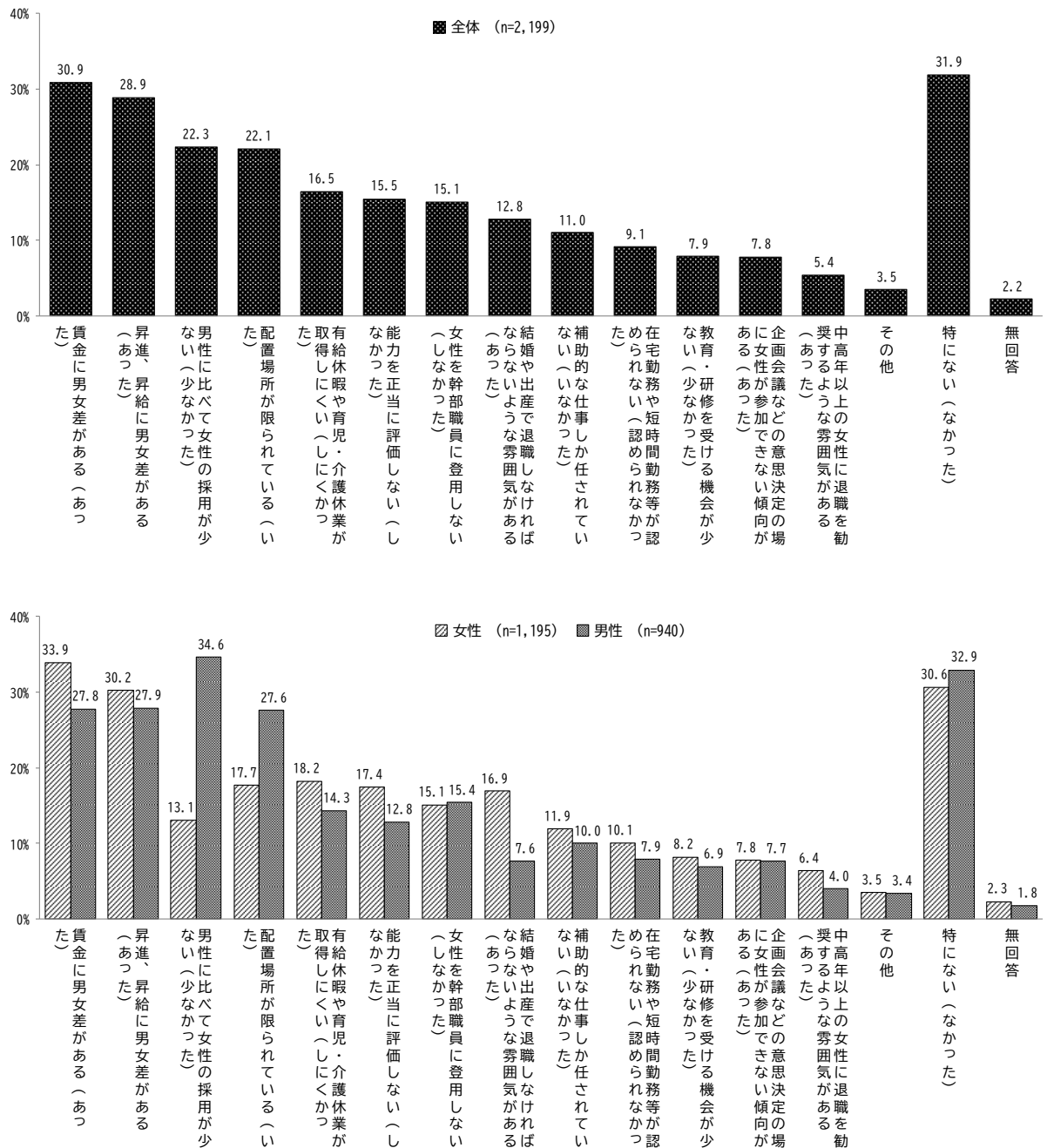
「出産退職型」は希望どおりの人は25.6%となっており、「パートタイム再就職型」で働いている人も同様に25.6%で最も高くなっている。「結婚退職型」は希望どおりの人が39.5%で最も高くなっている。（図表3-5）

(2) 勤務先の女性の労働環境

◎「賃金に男女差がある(あった)」が最も多く3割を超えている

【就労経験のある方にうかがいます】(就労経験のない方は、問10へ)
問9 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか(ありましたか)。(あてはまるものすべてに○)

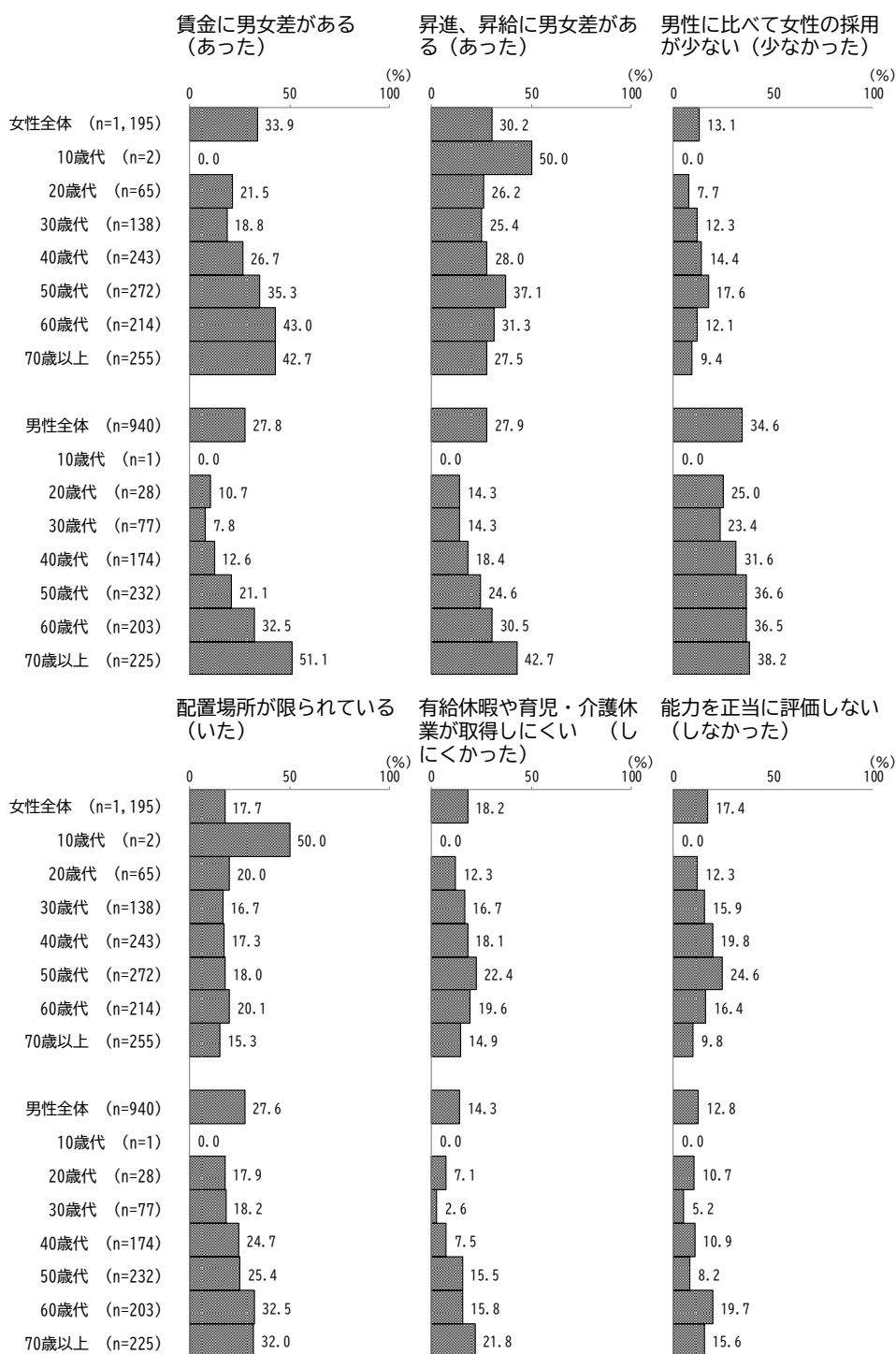
図表3-6 勤務先の女性の労働環境



就労経験のある方に、勤務先の女性の労働環境を聞いたところ、全体でみると「特にない」を除き、「賃金に男女差がある（あった）」が30.9%で最も高く、次いで「昇進、昇給に男女差がある（あった）」（28.9%）、「男性に比べて女性の採用が少ない（少なかった）」（22.3%）となっている。

性別でみると、「特にない」を除き、女性では「賃金に男女差がある（あった）」が33.9%で最も高く、次いで「昇進、昇給に男女差がある（あった）」（30.2%）、「有給休暇や育児・介護休業が取得しにくい（しにくかった）」（18.2%）となっている。男性では「男性に比べて女性の採用が少ない（少なかった）」が34.6%で最も高く、次いで「昇進、昇給に男女差がある（あった）」（27.9%）、「賃金に男女差がある（あった）」（27.8%）となっている。（図表3-6）

図表3-7 勤務先の女性の労働環境（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

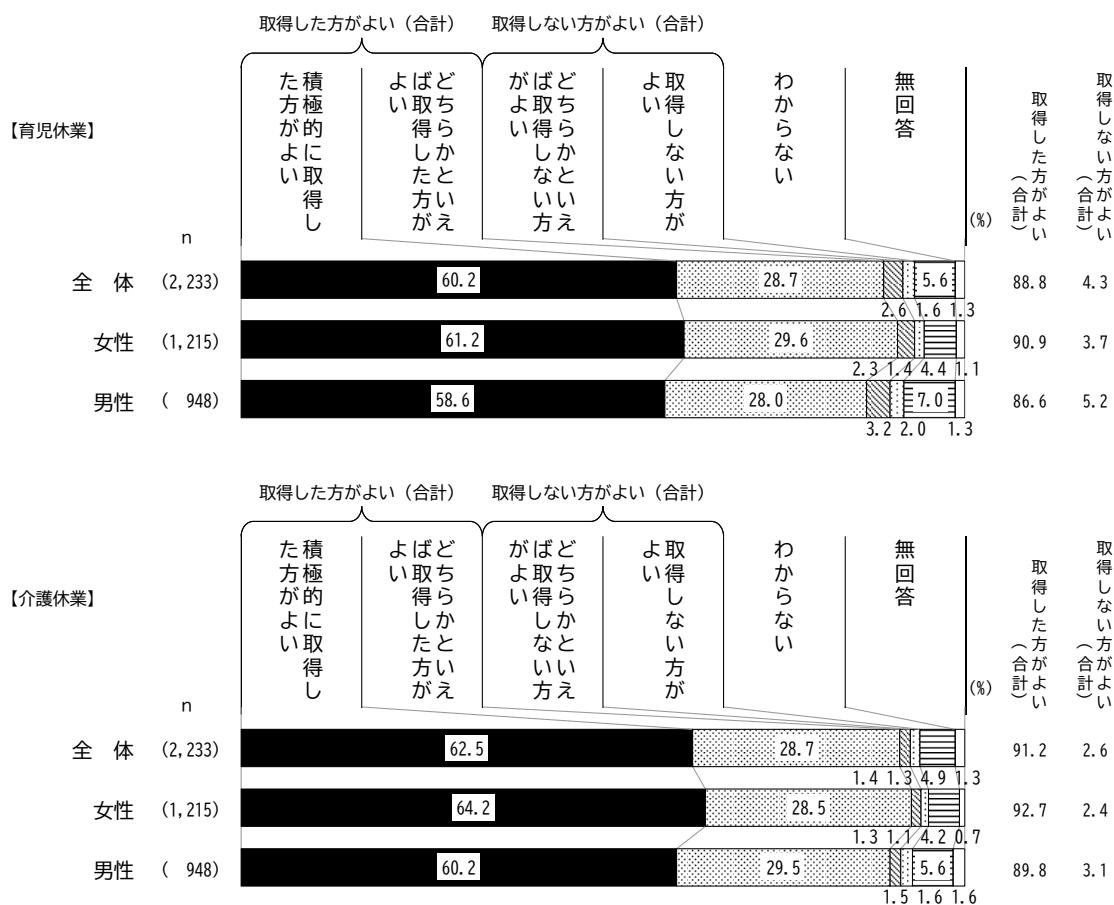
性／年齢別でみると、「賃金に男女差がある」は、女性では概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、60歳以上で4割強となっている。男性でも同様の傾向が見られ、70歳以上で5割強となっている。(図表3-7)

(3) 男性が育児・介護休業を取得することについての考え

◎ 《取得した方がよい（合計）》が育児休業で9割弱、介護休業で9割強となっている

問10 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。（それぞれ1つずつに○）

図表3-8 男性が育児・介護休業を取得することについての考え

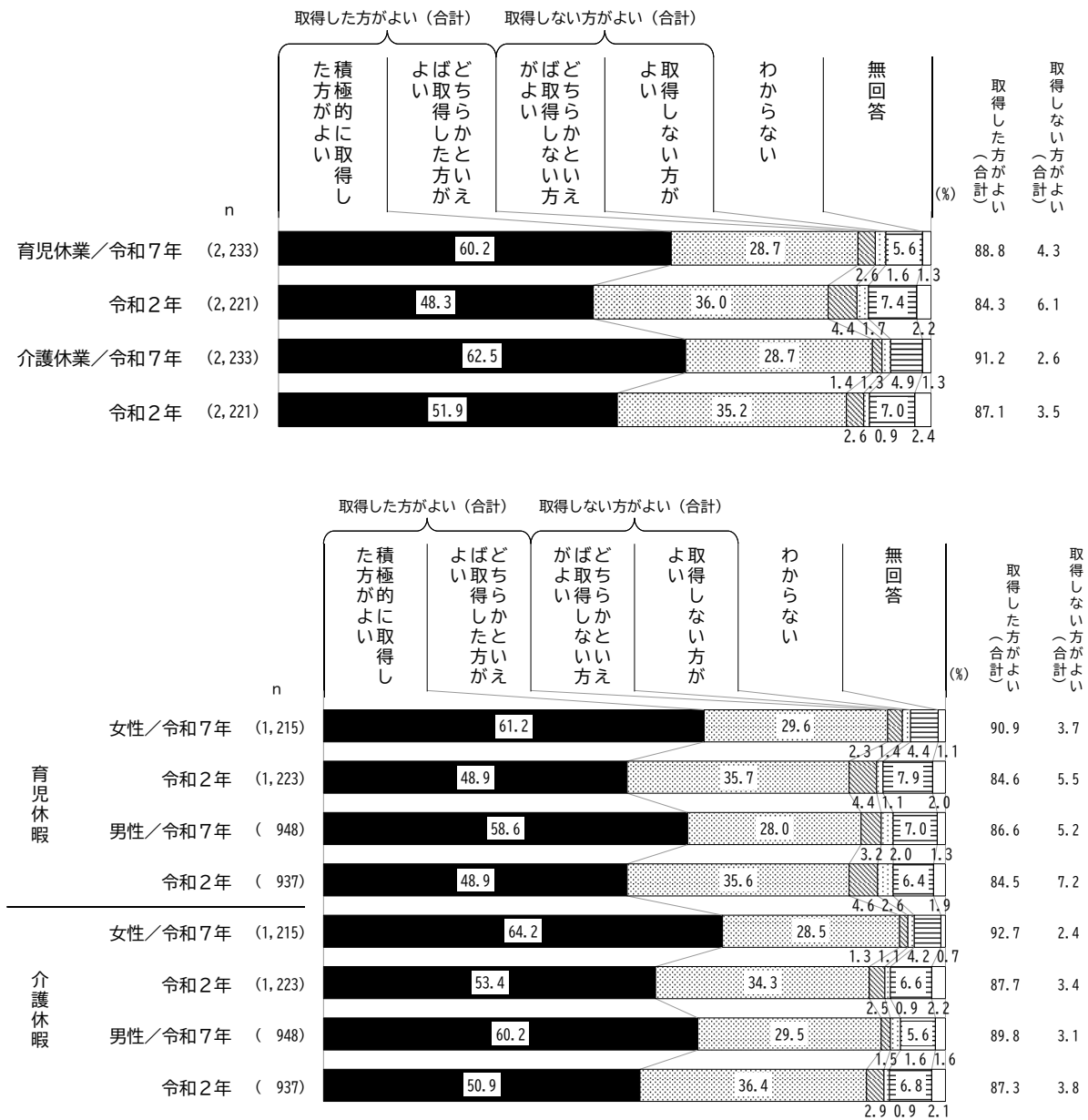


性別で見ると、【育児休業】は《取得した方がよい（合計）》（「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」の合計）が女性（90.9%）、男性（86.6%）と、女性が男性を4.3ポイント上回っている。

性別で見ると、【介護休業】でも《取得した方がよい（合計）》は女性（92.7%）、男性（89.8%）と、女性が男性を2.9ポイント上回っている。（図表3-8）

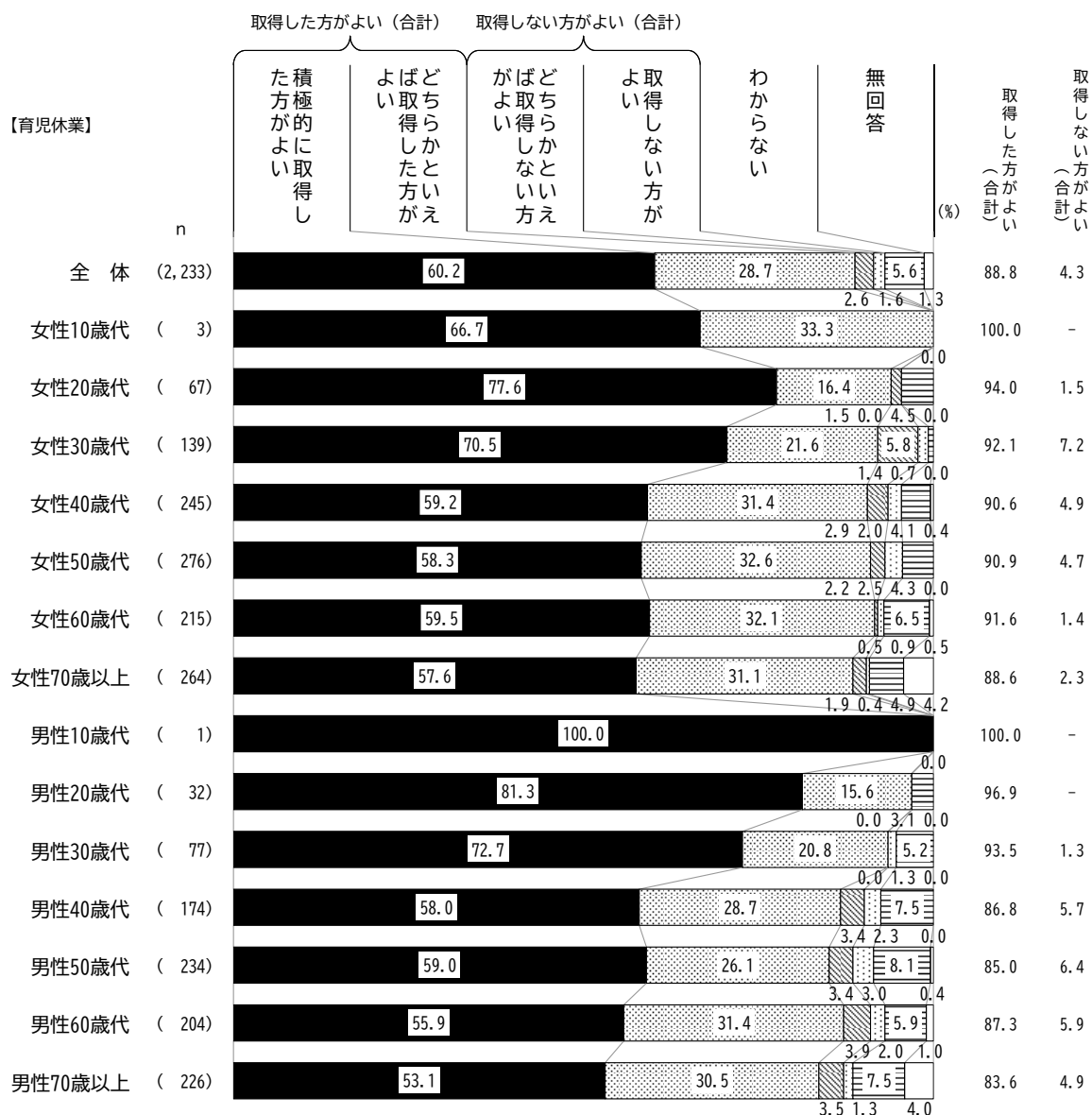
第IV章 調査の結果

図表3-9 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、【育児休業】と【介護休業】は全体、男女ともに《取得した方がよい（合計）》が増加している。特に【育児休業】では女性が令和2年度調査（84.6%）から令和7年度調査（90.9%）で6.3ポイント増加している。（図表3-9）

図表3-10 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（性／年齢別）

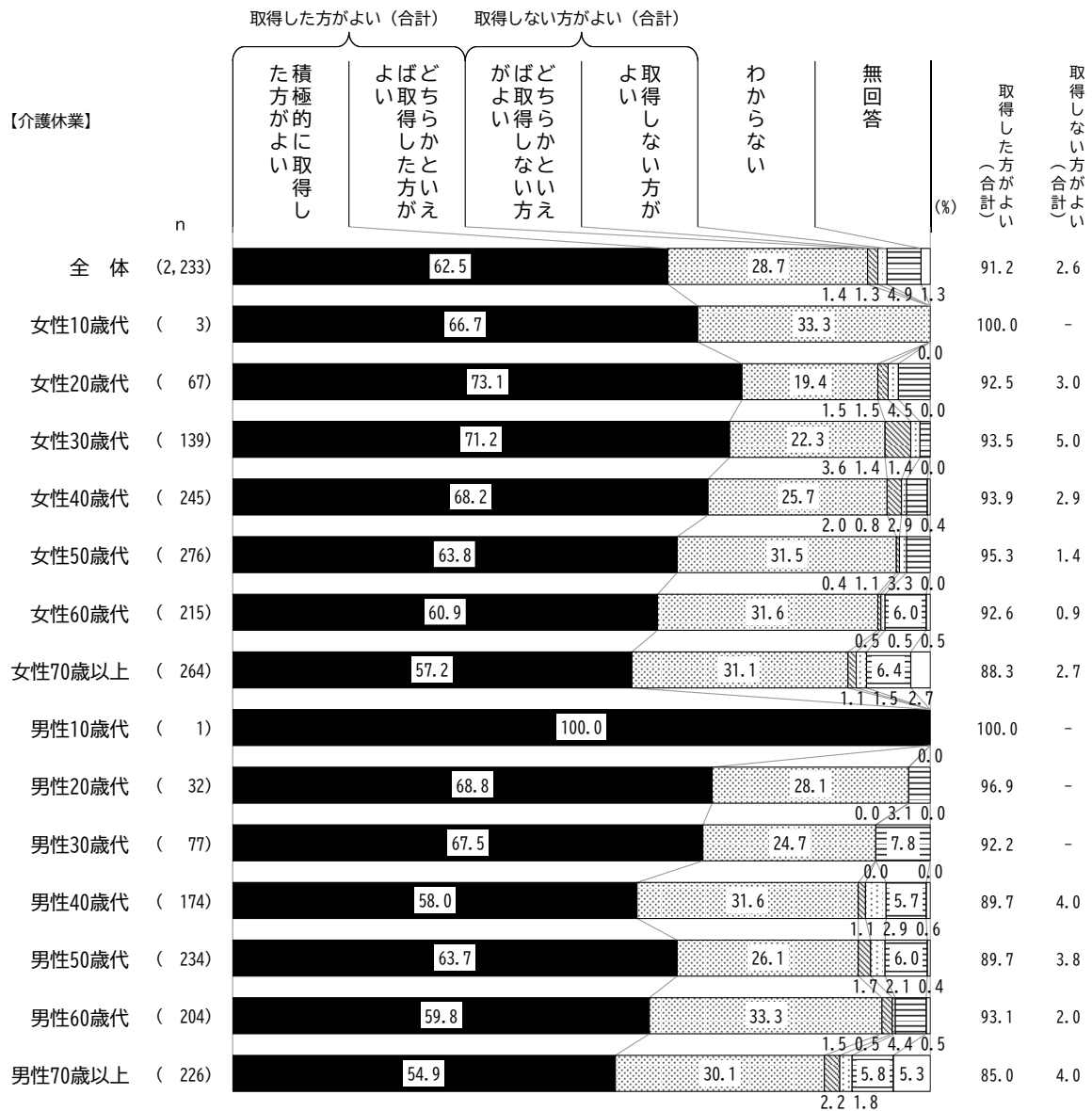


※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【育児休業】について、性／年齢別でみると、《取得した方がよい（合計）》は女性では20歳代で9割半ばとなっており、男性でも20歳代で9割台半ばを超えている。（図表3-10）

第IV章 調査の結果

図表3-11 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

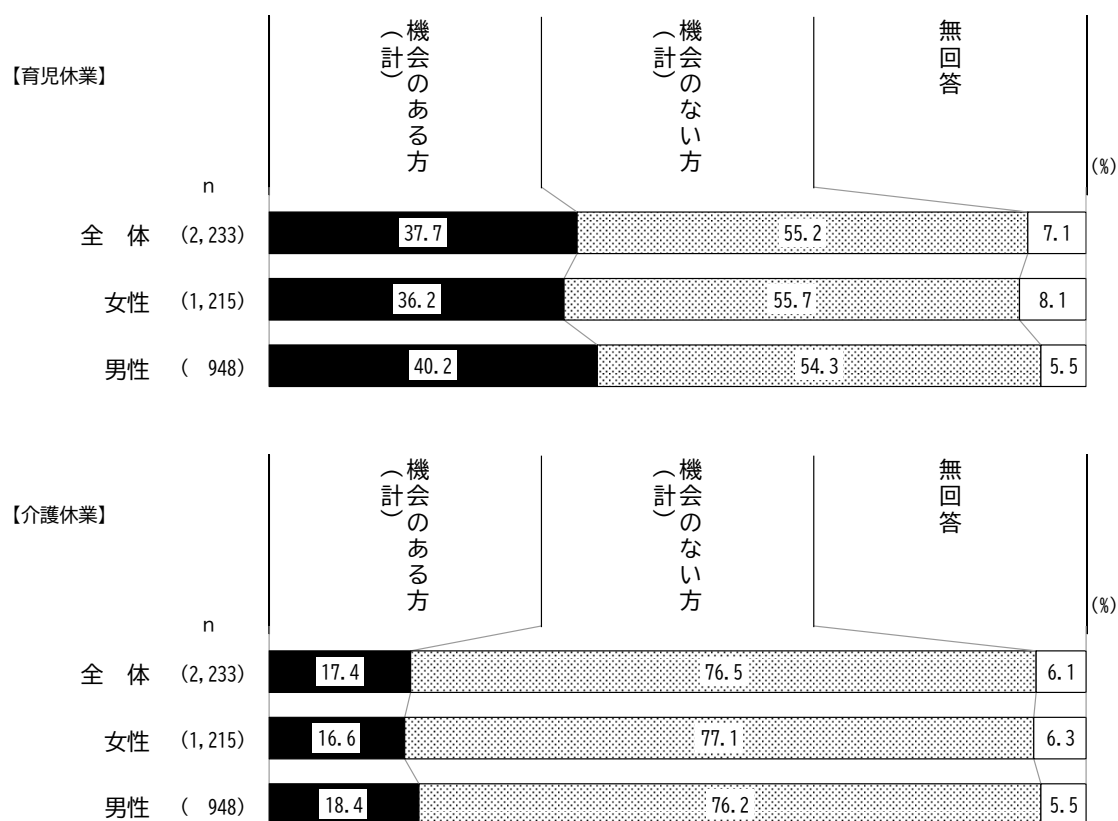
【介護休業】について、性／年齢別でみると、《取得した方がよい（合計）》は、女性では50歳代で9割台半ばとなっている。男性では20歳代で9割台半ばを超えている。（図表3-11）

(4) 育児・介護休業の取得状況

◎【育児休業】の取得経験は37.7%、【介護休業】の取得経験は17.4%となっている

問11 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度に関連してあなたの状況を教えてください。
(それぞれ1つずつに○)

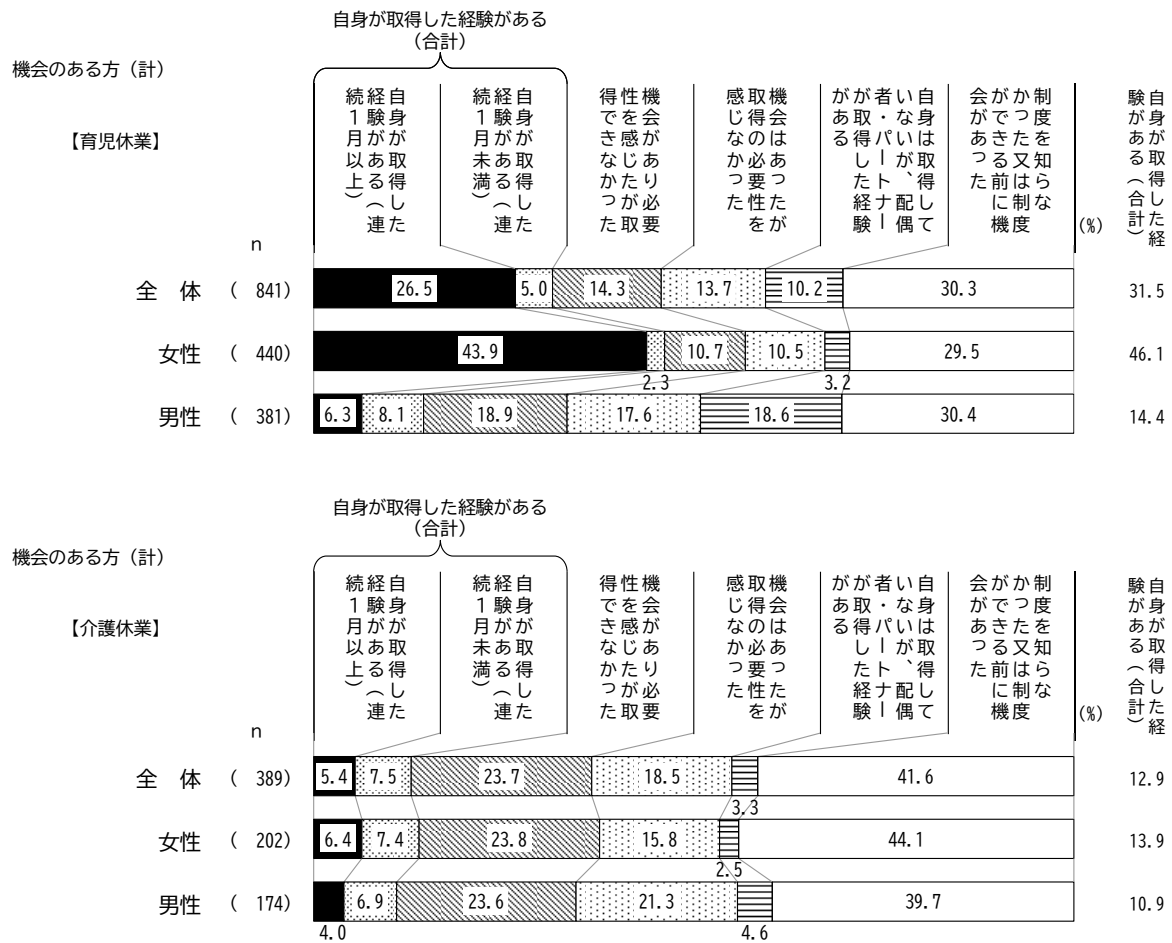
図表3-12 育児・介護休業の取得状況



性別で見ると、【育児休業】について取得する「機会有る方 (計)」は、女性 (36.2%)、男性 (40.2%) と、男性が女性より4.0ポイント高くなっている。

性別で見ると、【介護休業】について取得する「機会有る方 (計)」は、女性 (16.6%)、男性 (18.4%) と、男性が女性より1.8ポイント高くなっている。(図表3-12)

図表3-13 育児・介護休業の取得状況



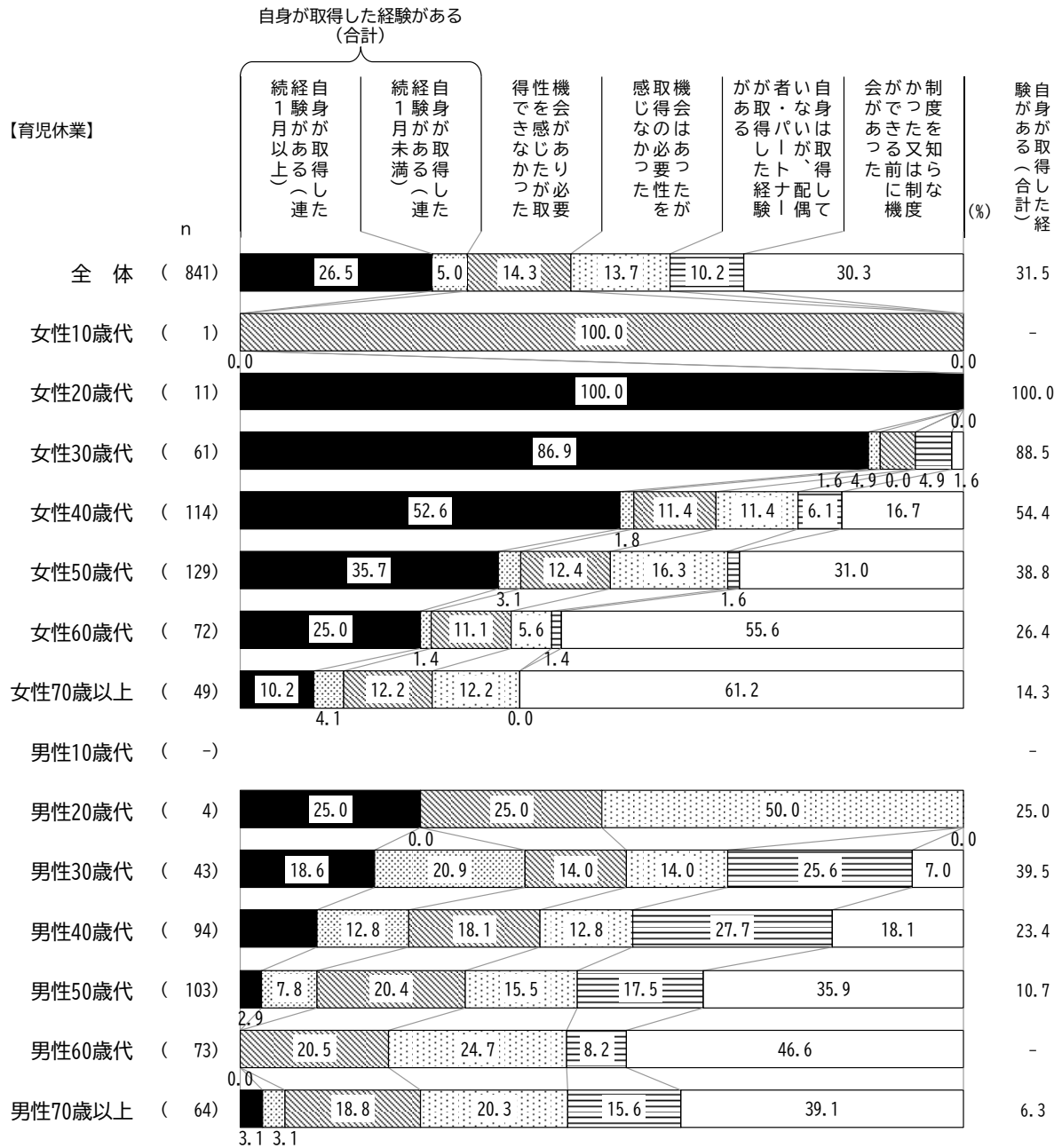
【育児休業】の取得状況について、「機会のある方」に聞いたところ、全体でみると《自身取得した経験がある (合計)》(「自身取得した経験がある (連続1月以上)」と「自身取得した経験がある (連続1月未満)」の合計)は、31.5%となっている。

性別でみると、《自身取得した経験がある (合計)》は、女性 (46.1%)、男性 (14.4%) と、女性が男性より31.7ポイント高くなっており、「自身は取得していないが、配偶者・パートナーが取得した経験がある」は、女性 (3.2%)、男性 (18.6%) と、男性が女性より15.4ポイント高くなっている。

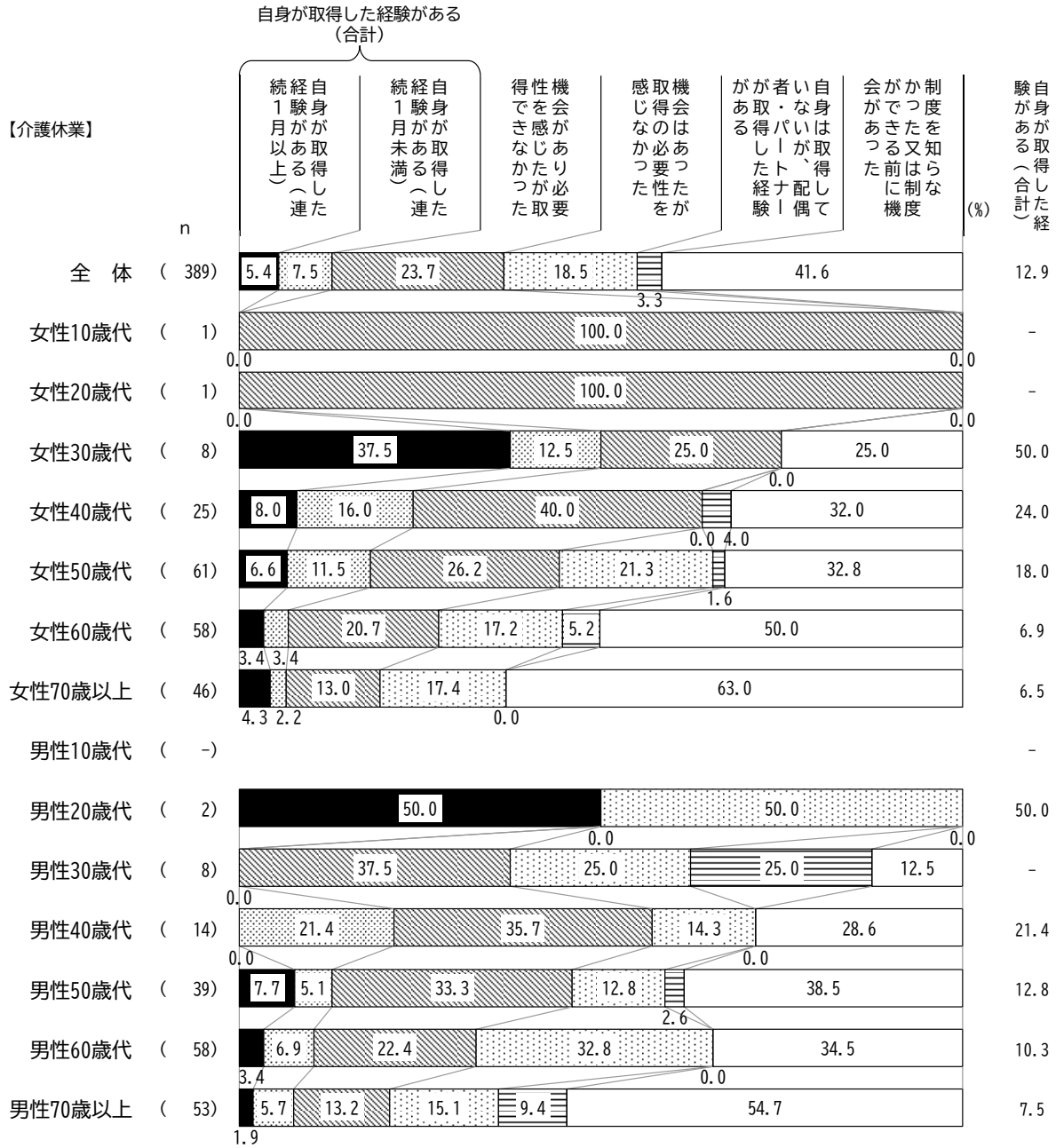
【介護休業】の取得状況について、「機会のある方」に聞いたところ、全体でみると《自身取得した経験がある (合計)》は、12.9%となっている。

性別でみると、《自身取得した経験がある (合計)》は、女性 (13.9%)、男性 (10.9%) と、女性が男性より3.0ポイント高くなっている。(図表3-13)

図表3-14 育児・介護休業の取得状況



第IV章 調査の結果

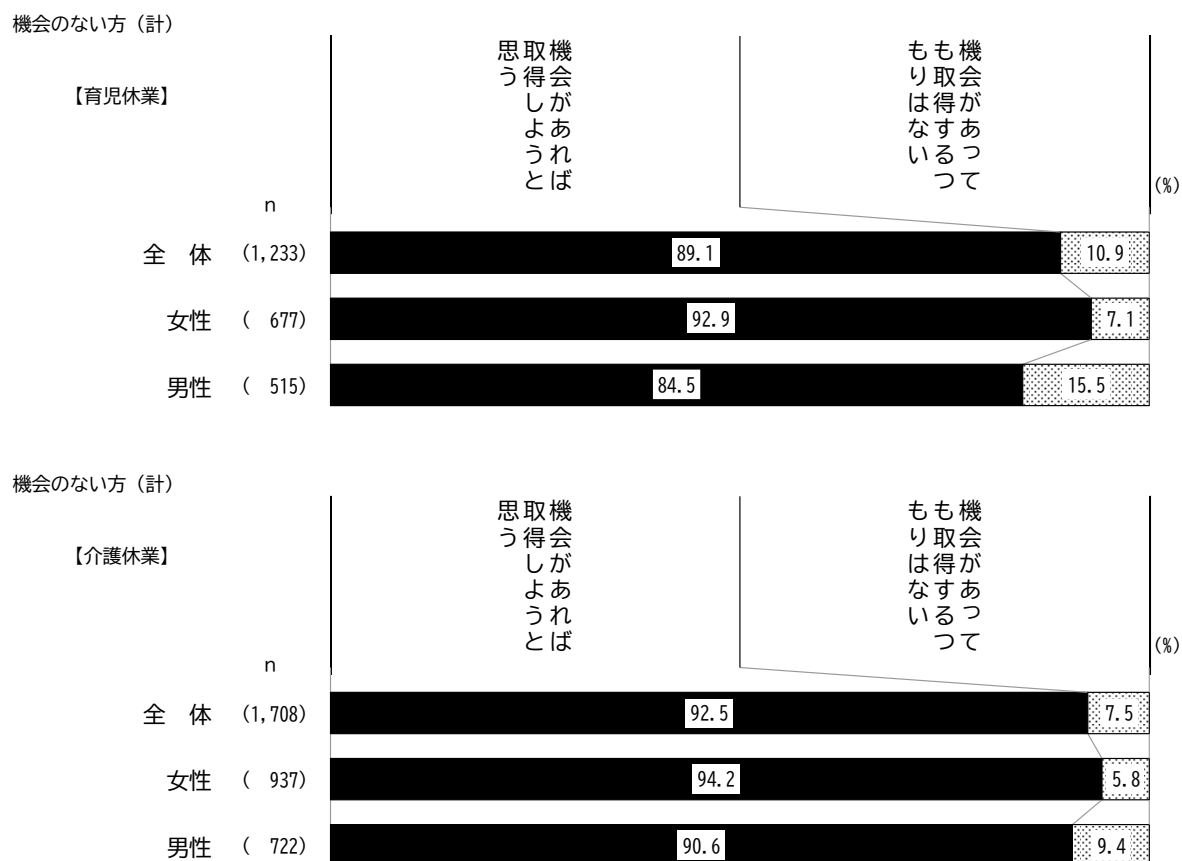


※基数が不足しているため、性/年齢別の女性10~20歳代、男性10~20歳代は参考扱いとする。

【育児休業】の取得状況について、「機会のある方」に聞いたところ、性/年齢別でみると、「自身が取得した経験がある (合計)」は、女性で最も高い30歳代で88.5%であるのに対し、男性で最も高い30歳代では39.5%に留まっている。

「取得経験がある」について、男女間で最も大きな差があるのは30歳代で、「連続1ヶ月以上の休業」は女性が86.9%であるのに対して男性は18.6%で、「連続1ヶ月未満の休業」では女性が1.6%、男性が20.9%となっている。(図表3-14)

図表3-15 育児・介護休業の取得状況



【育児休業】の取得意向について、「機会のない方」に聞いたところ、全体でみると「機会があれば取得しようと思う」は、89.1%となっている。

性別でみると、「機会があれば取得しようと思う」は、女性（92.9%）、男性（84.5%）と、女性が男性より8.4ポイント高くなっている。

【介護休業】の取得意向について、「機会のない方」に聞いたところ、全体でみると「機会があれば取得しようと思う」は、92.5%となっている。

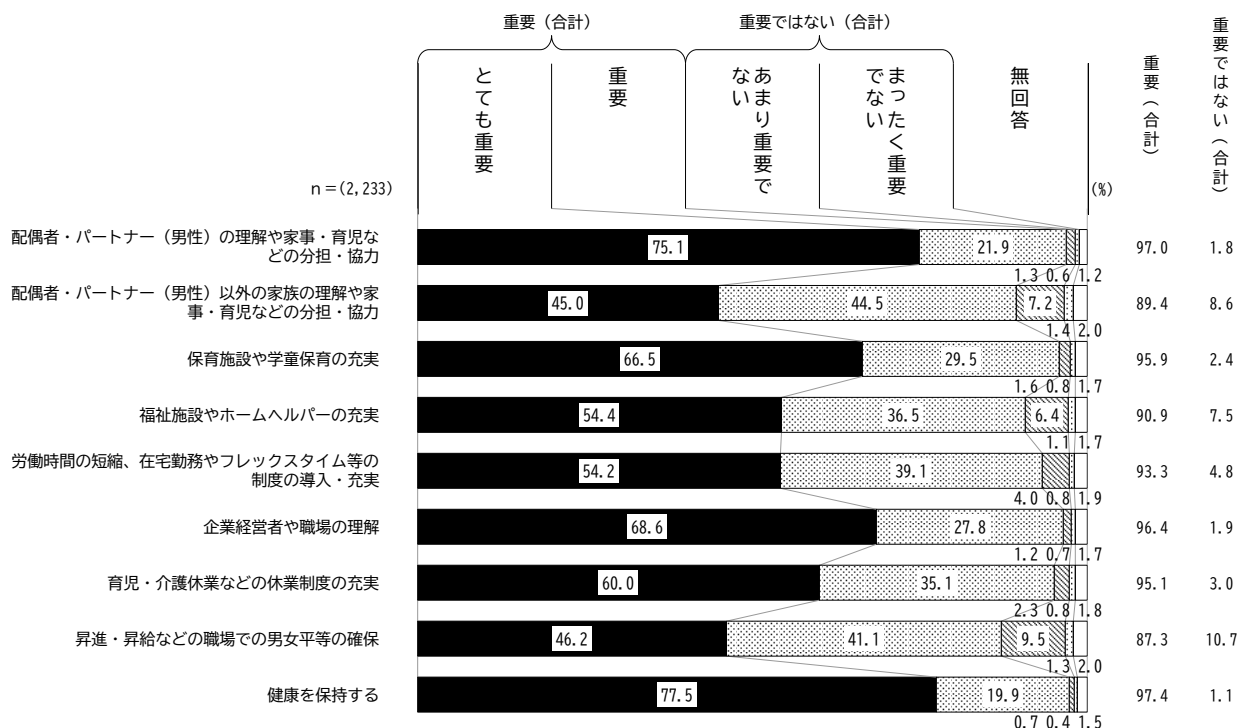
性別でみると、「機会があれば取得しようと思う」は、女性（94.2%）、男性（90.6%）と、女性が男性より3.6ポイント高くなっている。（図表3-15）

(5) 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

◎「健康を保持する」が9割台半ばを超え、最も高くなっている

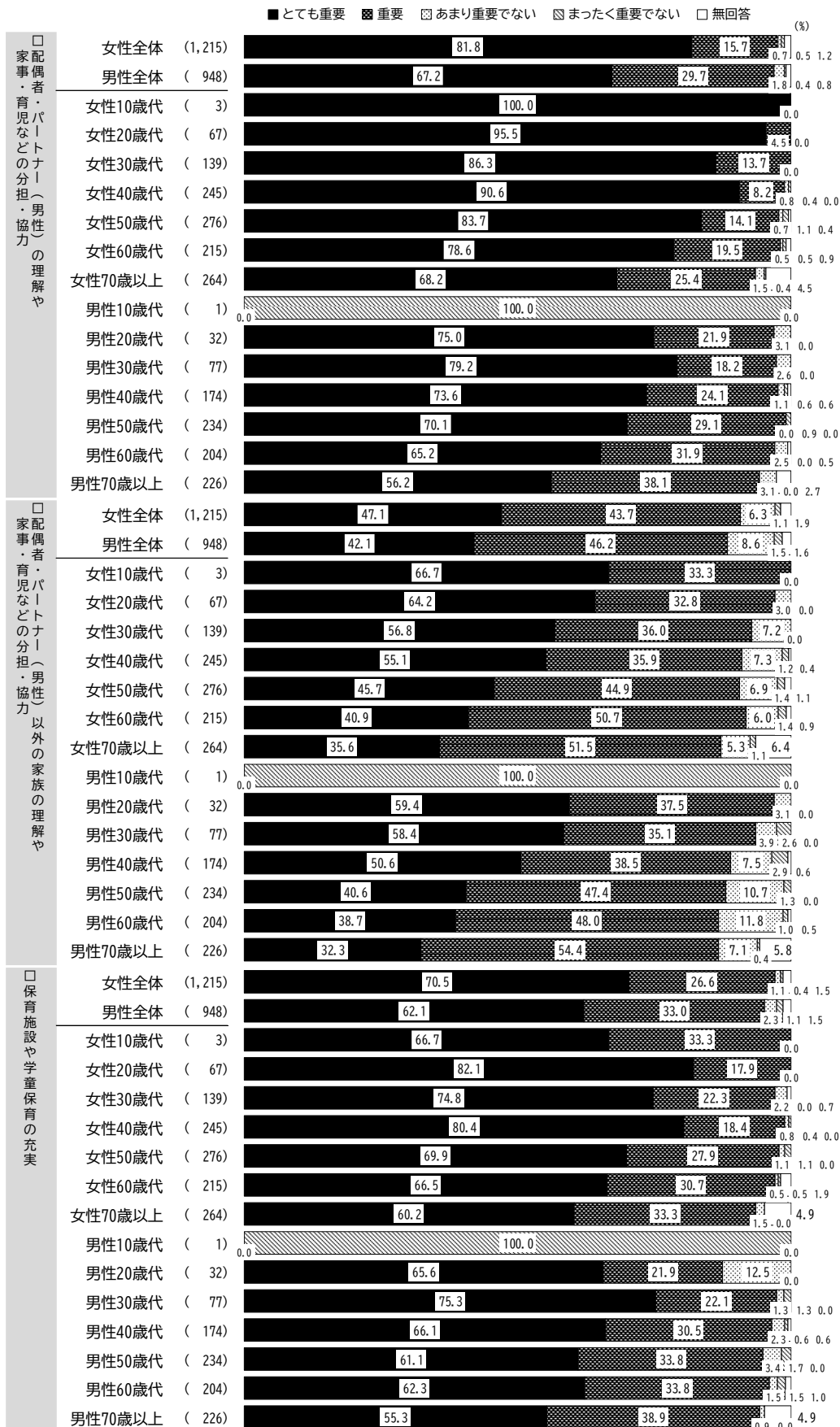
問12 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(9)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○)

図表3-16 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

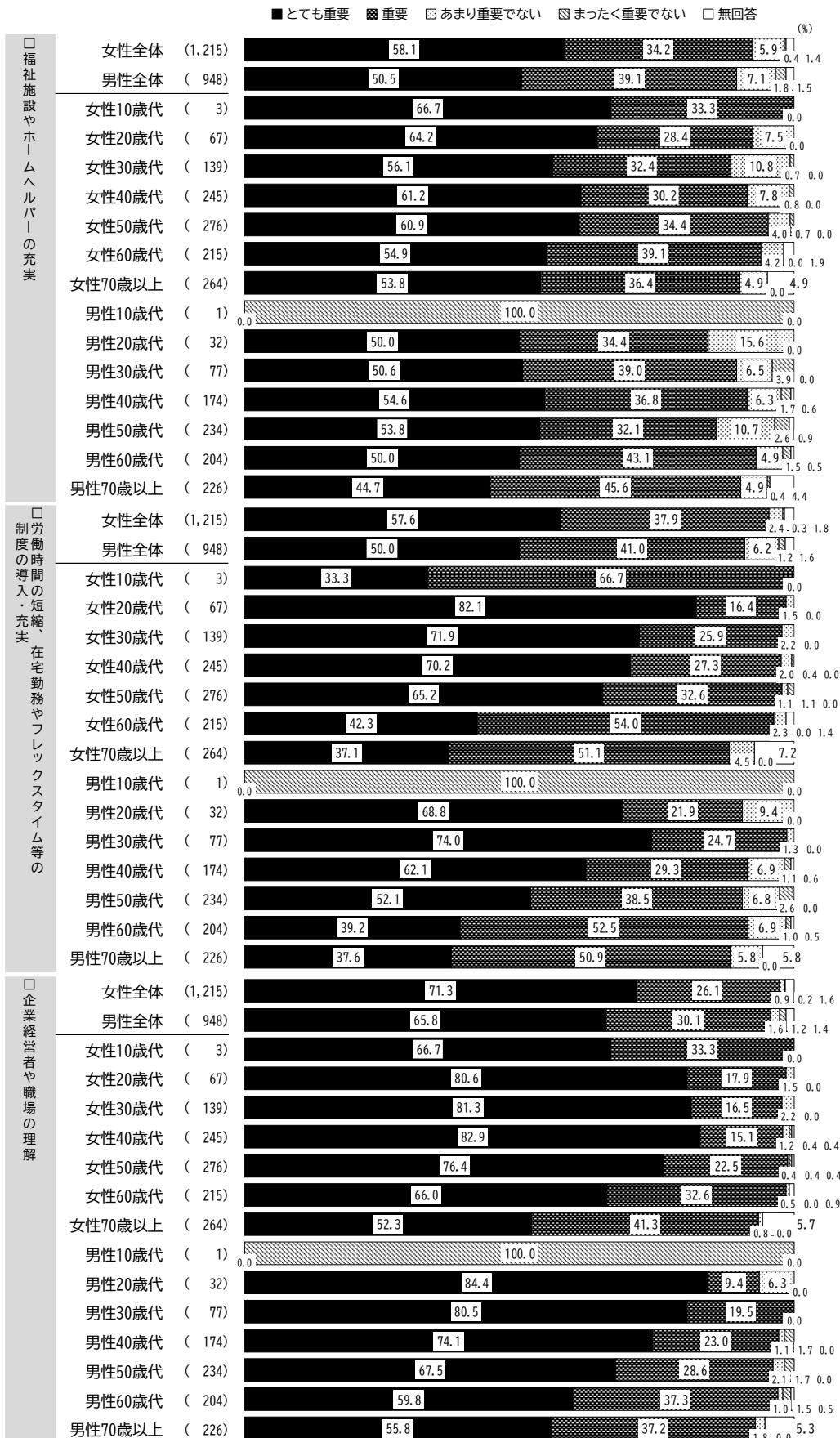


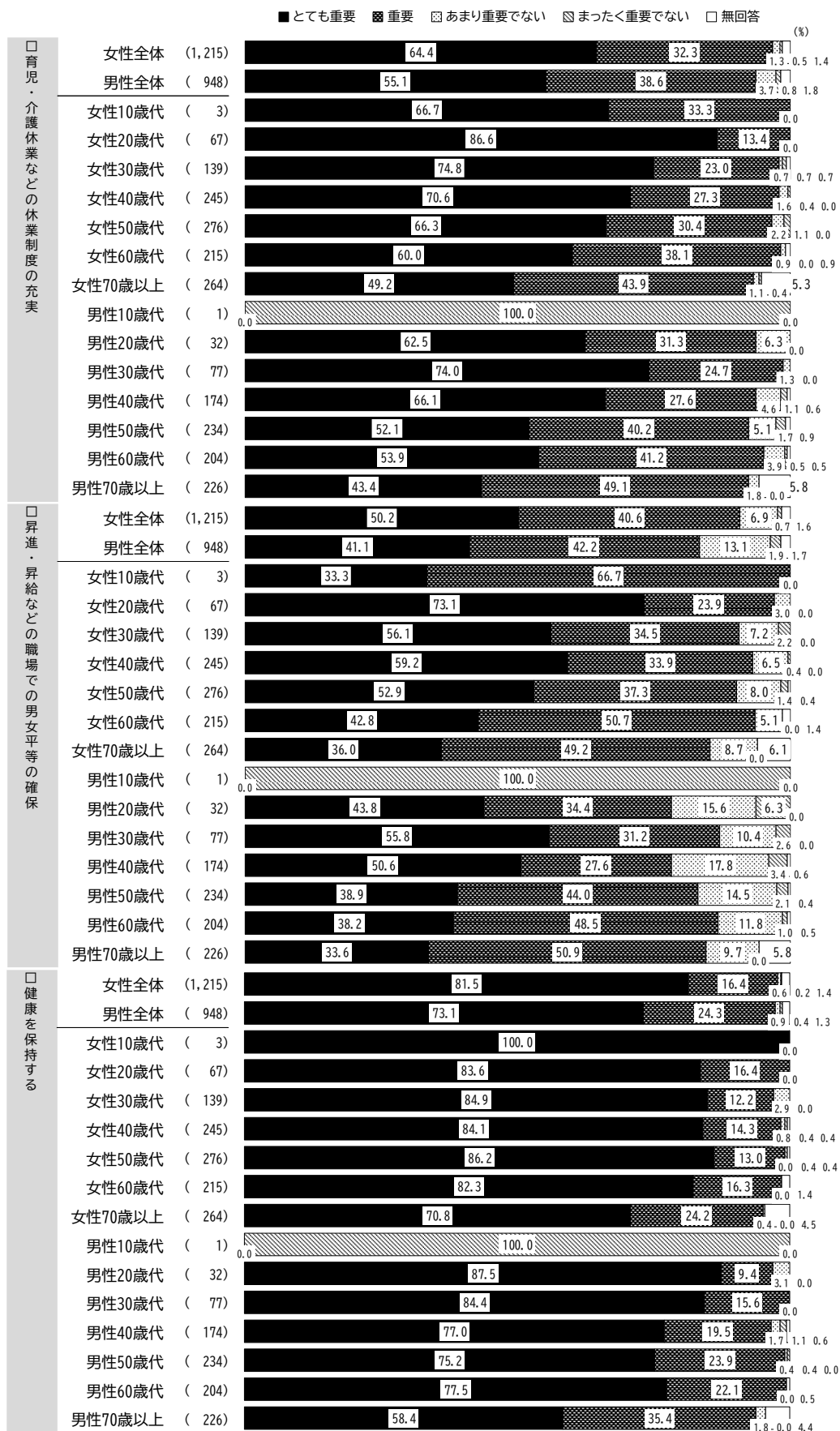
女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要だと思うことについて聞いたところ、《重要 (合計)》(「とても重要」と「重要」の合計)では「健康を保持する」が97.4%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー (男性) の理解や家事・育児などの分担・協力」(97.0%)、「企業経営者や職場の理解」(96.4%)、「保育施設や学童保育の充実」(95.9%)となっており、いずれも9割台半ば以上となっている。(図表3-16)

図表3-17 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと（性／年齢別）



第IV章 調査の結果





※基数が不足しているため、性/年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

第IV章 調査の結果

性別でみると、《重要（合計）》は女性・男性ともに【健康を保持する】が最も高くなっている。

また、《重要（合計）》のうち「とても重要」で、男女差が大きいものを見ると、【配偶者・パートナー（男性）の理解や家事・育児などの分担・協力】では14.6ポイント（女性81.8%、男性67.2%）、【育児・介護休業などの休業制度の充実】では9.3ポイント（女性64.4%、男性55.1%）、【昇進・昇給などの職場での男女平等の確保】では9.1ポイント（女性50.2%、男性41.1%）と女性が男性を上回っている。

性／年齢別でみると、【配偶者・パートナー（男性）の理解や家事・育児などの分担・協力】、【企業経営者や職場の理解】、【育児・介護休業などの休業制度の充実】【健康を保持する】の《重要（合計）》は男女ともにすべての年代で9割以上となっている。

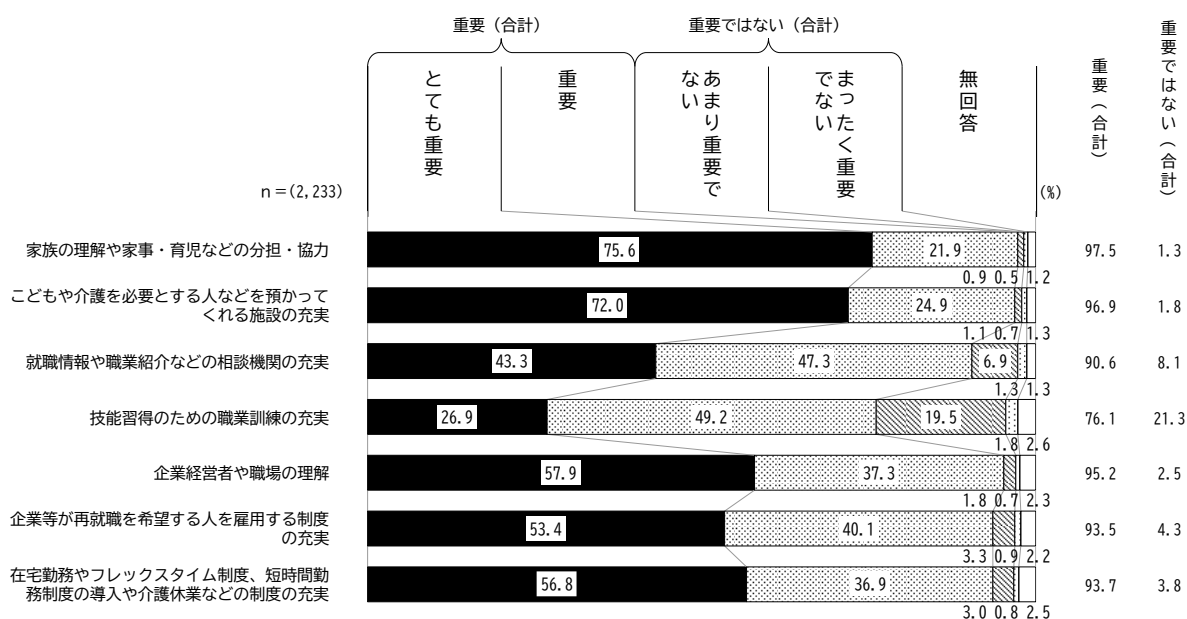
また、【昇進・昇給などの職場での男女平等の確保】の《重要ではない（合計）》は男性の40歳代で2割強となっている。（図表3-17）

(6) 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと

◎「家族の理解や家事・育児などの分担・協力」の重要度が最も高く、次いで「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」となっている

問13 あなたは、女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○)

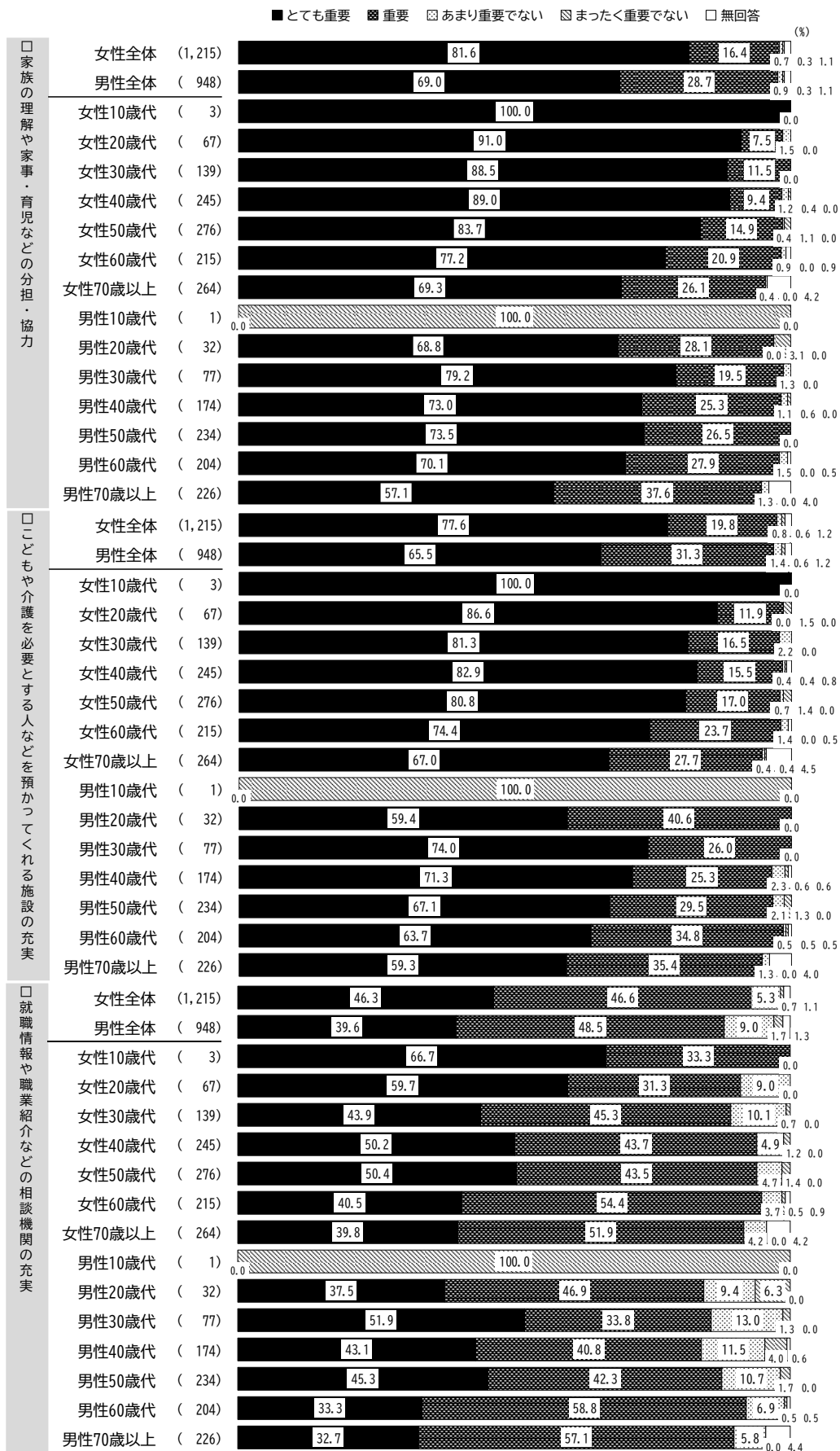
図表3-18 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと

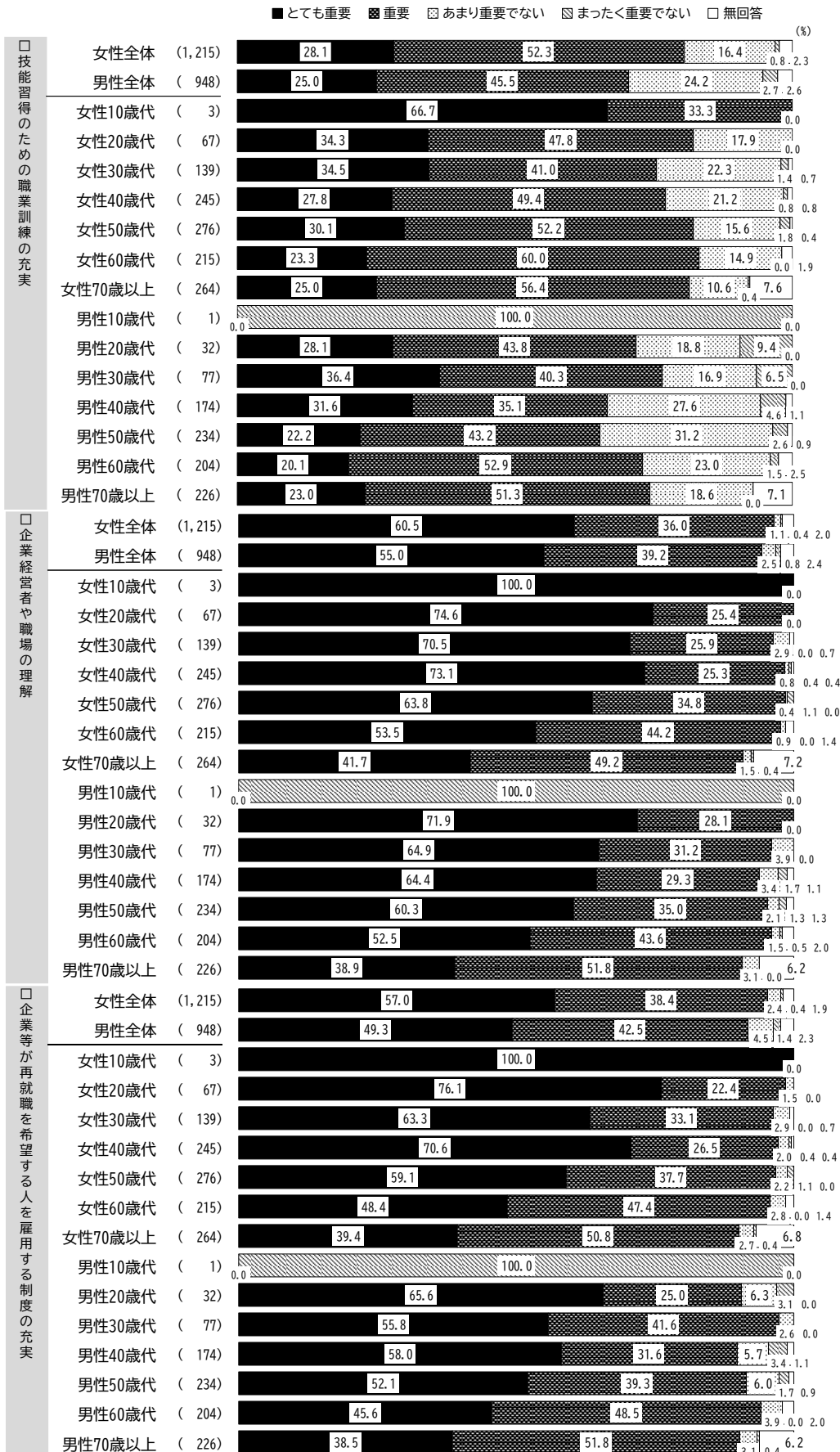


女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要だと思うことについて《重要 (合計)》(「とても重要」と「重要」の合計)は、「家族の理解や家事・育児などの分担・協力」(97.5%)が最も高く、次いで「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」(96.9%)が9割台半ばを超え、「企業経営者や職場の理解」(95.2%)は9割台半ばとなっている。(図表3-18)

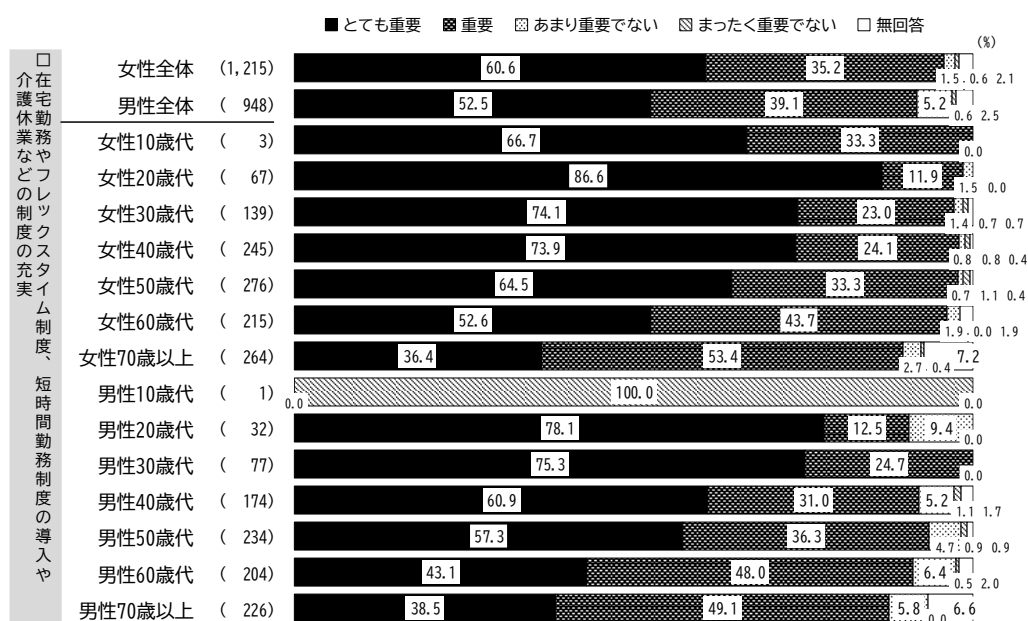
第IV章 調査の結果

図表3-19 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと（性/年齢別）





第IV章 調査の結果



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性別で見ると、7項目すべてについて、《重要（合計）》は女性が男性を上回っている。

《重要（合計）》と《重要ではない（合計）》（「あまり重要でない」と「まったく重要でない」の合計）で男女の意識の差が大きいものを分野別で見ると、【技能習得のための職業訓練の充実】の《重要（合計）》は女性（80.4%）、男性（70.5%）と、女性が男性を9.9ポイント上回っており、《重要ではない（合計）》は女性（17.2%）、男性（26.9%）と、男性が女性を9.7ポイント上回っている。【就職情報や職業紹介などの相談機関の充実】の《重要（合計）》は女性（92.9%）、男性（88.1%）と、女性が男性を4.8ポイント上回っており、《重要ではない（合計）》は女性（6.0%）、男性（10.7%）と、男性が女性を4.7ポイント上回っている。

《重要（合計）》のうち、「とても重要」で男女の差が大きいものを見ると、【家族の理解や家事・育児などの分担・協力】では12.6ポイント（女性81.6%、男性69.0%）、【子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実】では12.1ポイント（女性77.6%、男性65.5%）、【在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度の導入や介護休業などの制度の充実】では8.1ポイント（女性60.6%、男性52.5%）女性が男性を上回っている。

性／年齢別で見ると、【家族の理解や家事・育児などの分担・協力】、【子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実】の《重要（合計）》は男女ともに概ねすべての年代で9割台後半となっている。

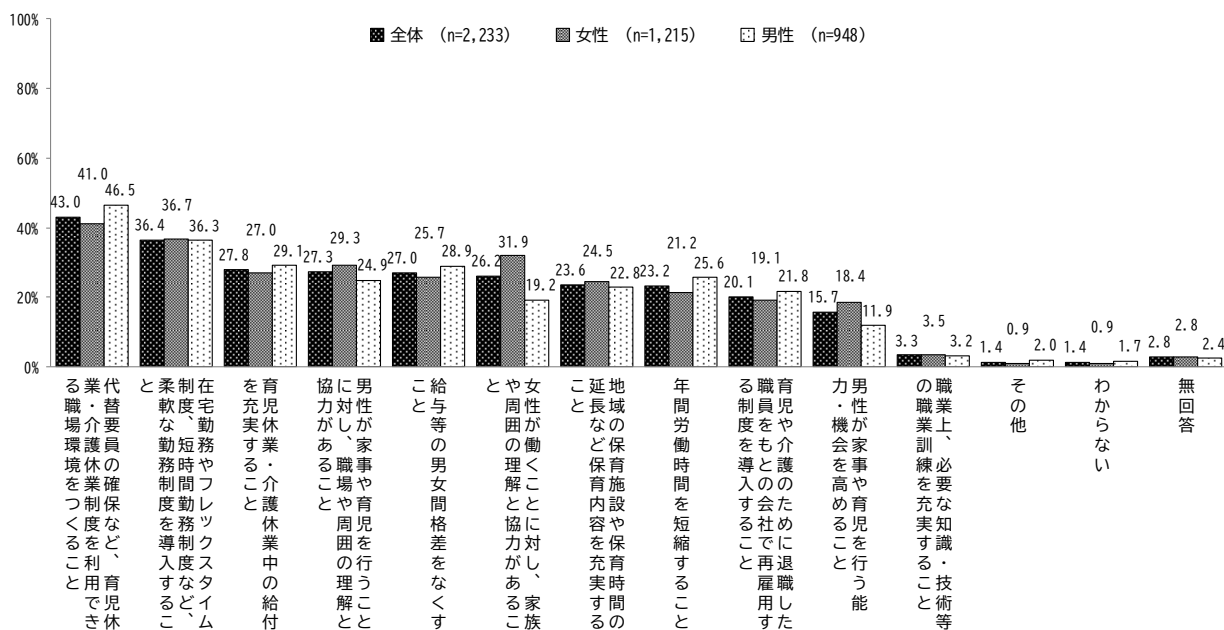
また、【技能習得のための職業訓練の充実】の《重要ではない（合計）》は男性の40～50歳代で3割強と高くなっている。（図表3-19）

(7) 仕事と家庭の両立に必要なこと

◎「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が最も高く4割強となっている

問14 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。(3つまでに○)

図表3-20 仕事と家庭の両立に必要なこと

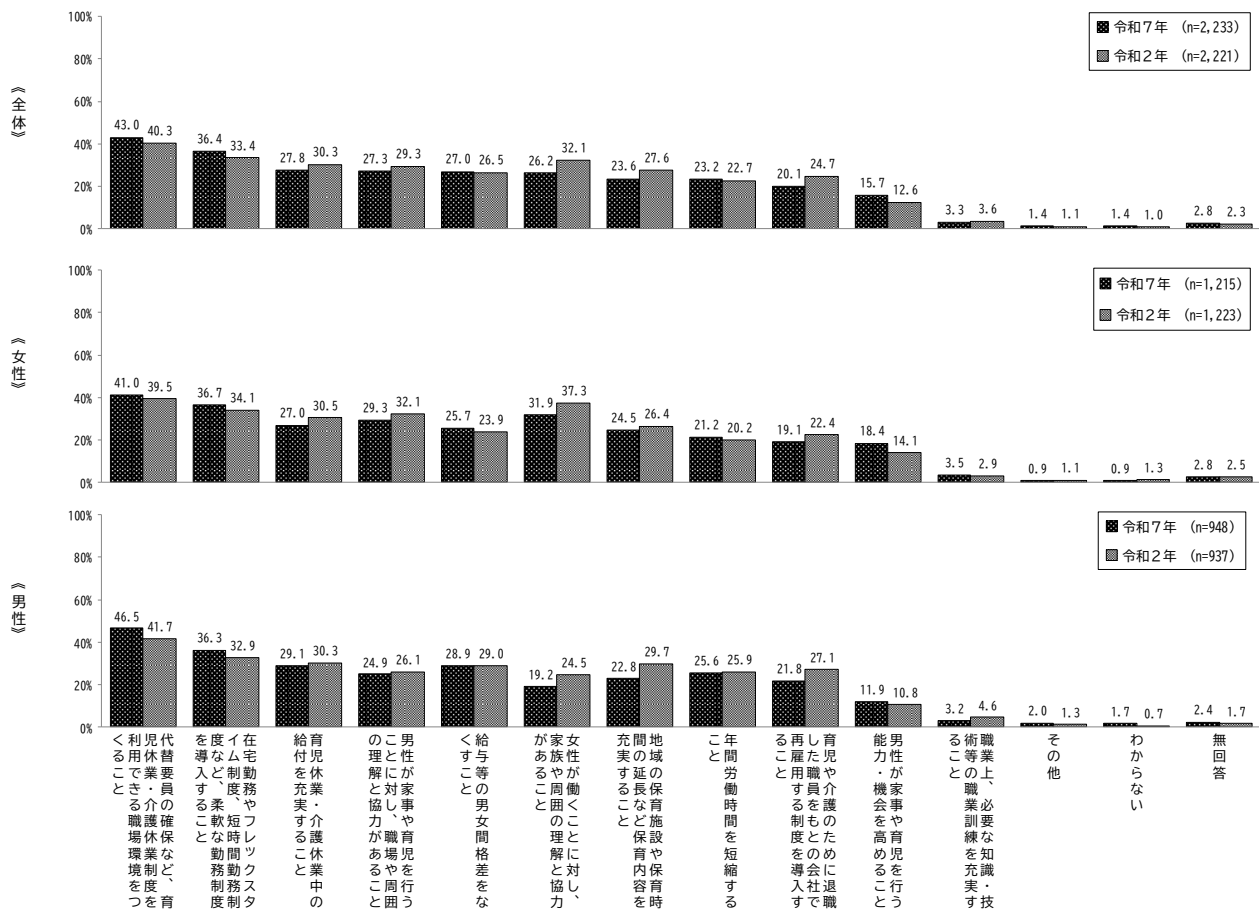


仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件は、全体で見ると「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が43.0%で最も高く、次いで「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(36.4%)、「育児休業・介護休業中の給付を充実すること」(27.8%)となっている。

性別で見ると、女性と男性で意識の差が大きいものは「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」で女性(31.9%)、男性(19.2%)と、女性が男性を12.7ポイント、「男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること」で女性(18.4%)、男性(11.9%)と、女性が男性を6.5ポイント、それぞれ上回っている。(図表3-20)

第IV章 調査の結果

図表3-21 仕事と家庭の両立に必要なこと（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、全体で見ると「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が5.9ポイント減少している。性別で見ると、女性で前回と差が大きいものは「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」で5.4ポイント減少している。男性で前回と差が大きいものは「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」が6.9ポイント減少している。（図表3-21）

図表3-22 仕事と家庭の両立に必要なこと（令和2年度調査との比較、上位6項目）

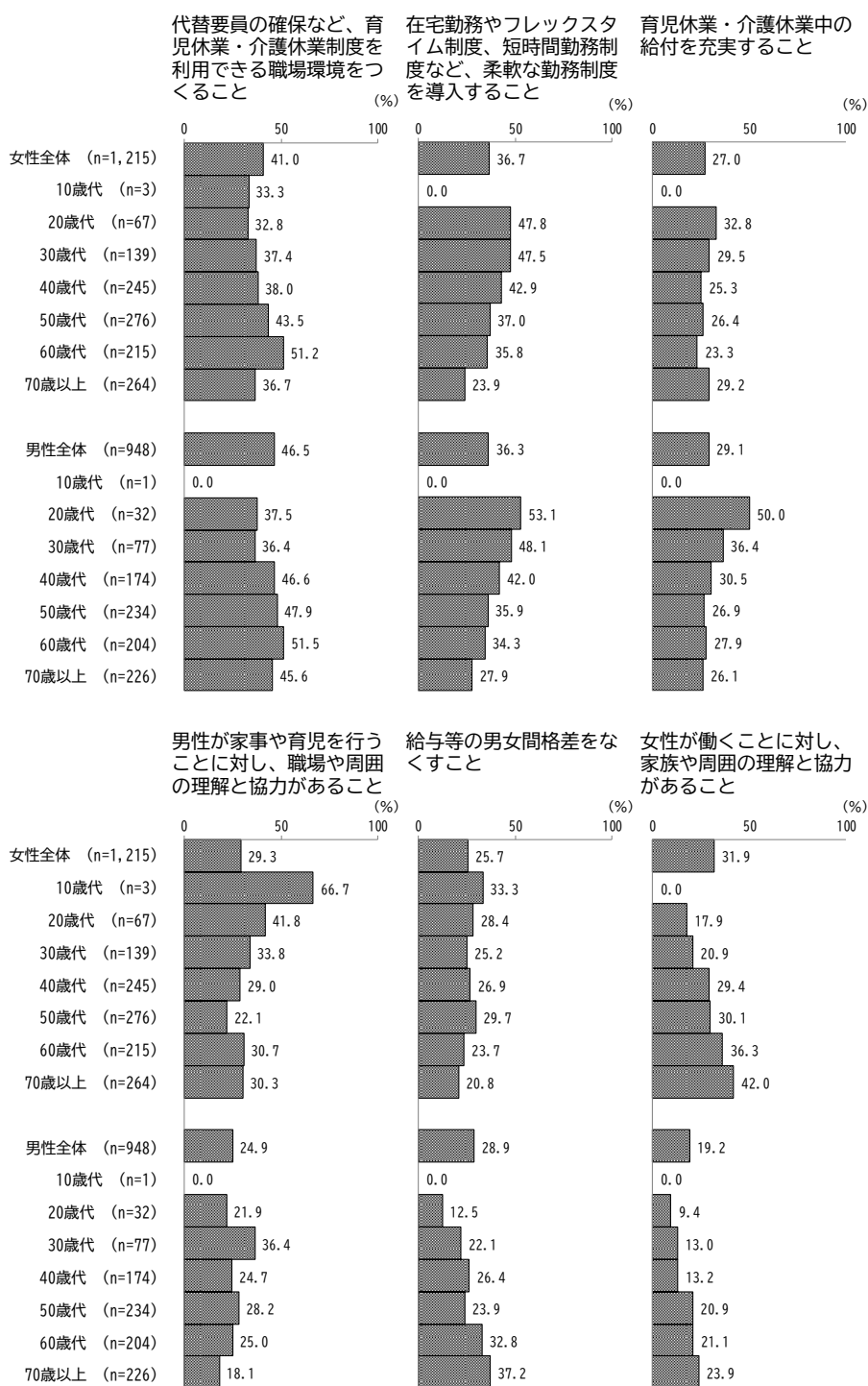
【全体】			令和7年 (n=2,233)			令和2年 (n=2,221)		
第1位	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	↑ (43.0)	←	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	(40.3)			
第2位	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	↑ (36.4)	←	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	(33.4)			
第3位	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	↓ (27.8)	←	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	(32.1)			
第4位	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	↓ (27.3)	←	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	(30.3)			
第5位	給与等の男女間格差をなくすこと	↑ (27.0)	←	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	(29.3)			
第6位	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	↓ (26.2)	←	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	(27.6)			

【女性】			令和7年 (n=1,215)			令和2年 (n=1,223)		
第1位	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	↑ (41.0)	←	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	(39.5)			
第2位	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	↑ (36.7)	←	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	(37.3)			
第3位	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	↓ (31.9)	←	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	(34.1)			
第4位	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	↓ (29.3)	←	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	(32.1)			
第5位	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	↓ (27.0)	←	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	(30.5)			
第6位	給与等の男女間格差をなくすこと	↑ (25.7)	←	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	(26.4)			

【男性】			令和7年 (n=948)			令和2年 (n=937)		
第1位	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	↑ (46.5)	←	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	(41.7)			
第2位	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	↑ (36.3)	←	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	(32.9)			
第3位	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	↓ (29.1)	←	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	(30.3)			
第4位	給与等の男女間格差をなくすこと	↓ (28.9)	←	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	(29.7)			
第5位	年間労働時間を短縮すること	↑ (25.6)	←	給与等の男女間格差をなくすこと	(29.0)			
第6位	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	↑ (24.9)	←	育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	(27.1)			

令和2年度調査との比較を順位表（上位6項目）として、全体で見ると「育児休業・介護休業中の給付を充実すること」、「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」の順位が上昇している。また、新たに「給与等の男女間格差をなくすこと」が第5位に入っている。性別で見ると、女性では「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」の順位が前回第3位から第2位に上昇しており、男性では「給与等の男女間格差をなくすこと」の順位が前回第5位から第4位に上昇している。（図表3-22）

図表3-23 仕事と家庭の両立に必要なこと（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」は男女ともに60歳代で5割強、「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」は男性の20歳代で5割強と高くなっている。

また、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」ではすべての年代で女性が男性を上回っており、女性の70歳以上で4割強と高くなっている。(図表3-23)

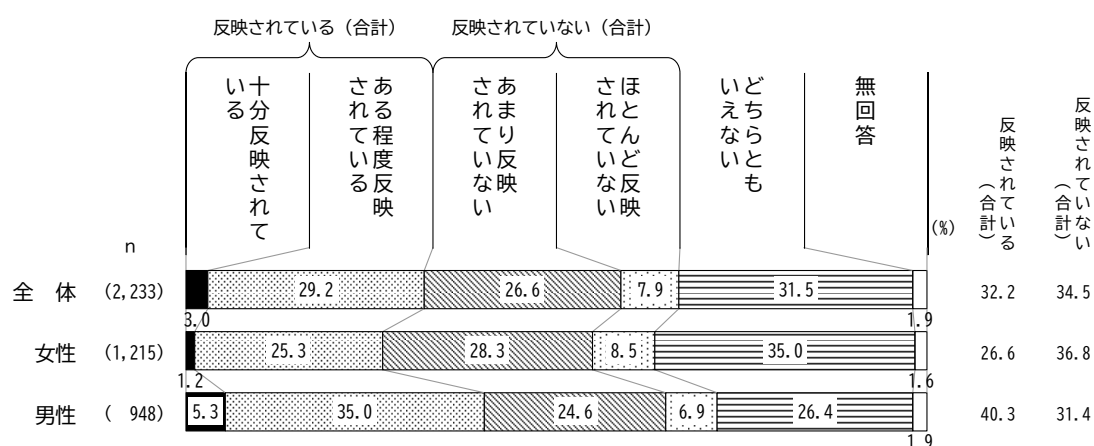
4. 男女の社会参画について

(1) 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度

◎女性の意見が《反映されている（合計）》は3割強となっている

問15 あなたは、地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。（1つだけに○）

図表4-1 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度

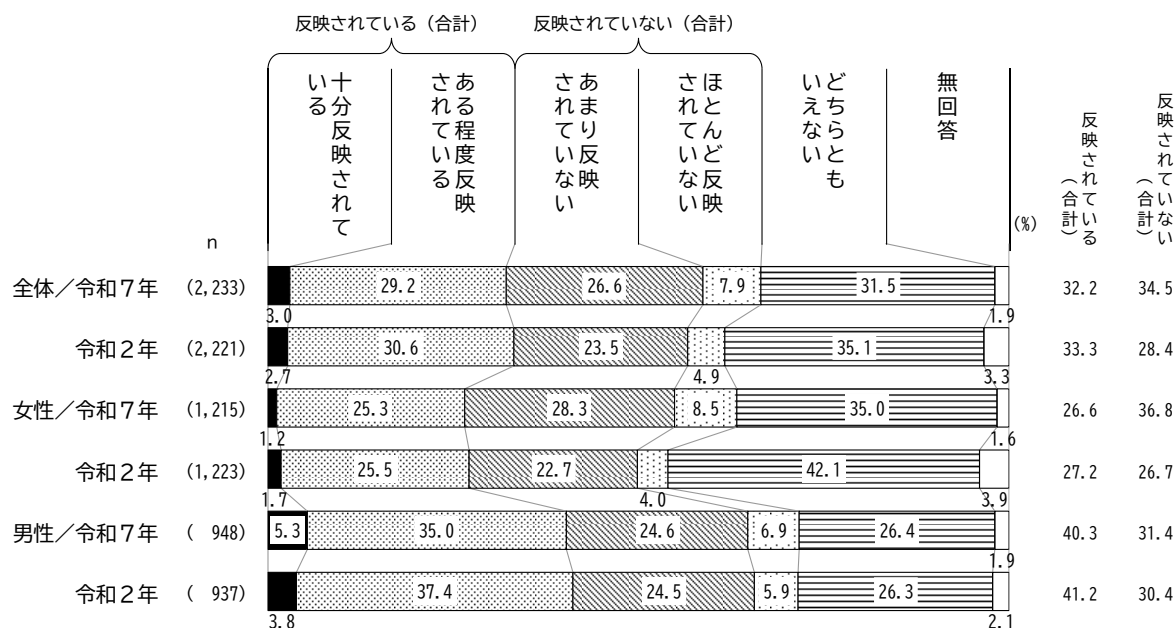


地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度を聞いたところ、全体で見ると《反映されている（合計）》（「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計）は32.2%となっている。一方、《反映されていない（合計）》（「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」の合計）は34.5%となっている。

性別で見ると、《反映されている（合計）》は、女性（26.6%）、男性（40.3%）と、男性が女性を13.7ポイント上回っている。（図表4-1）

第IV章 調査の結果

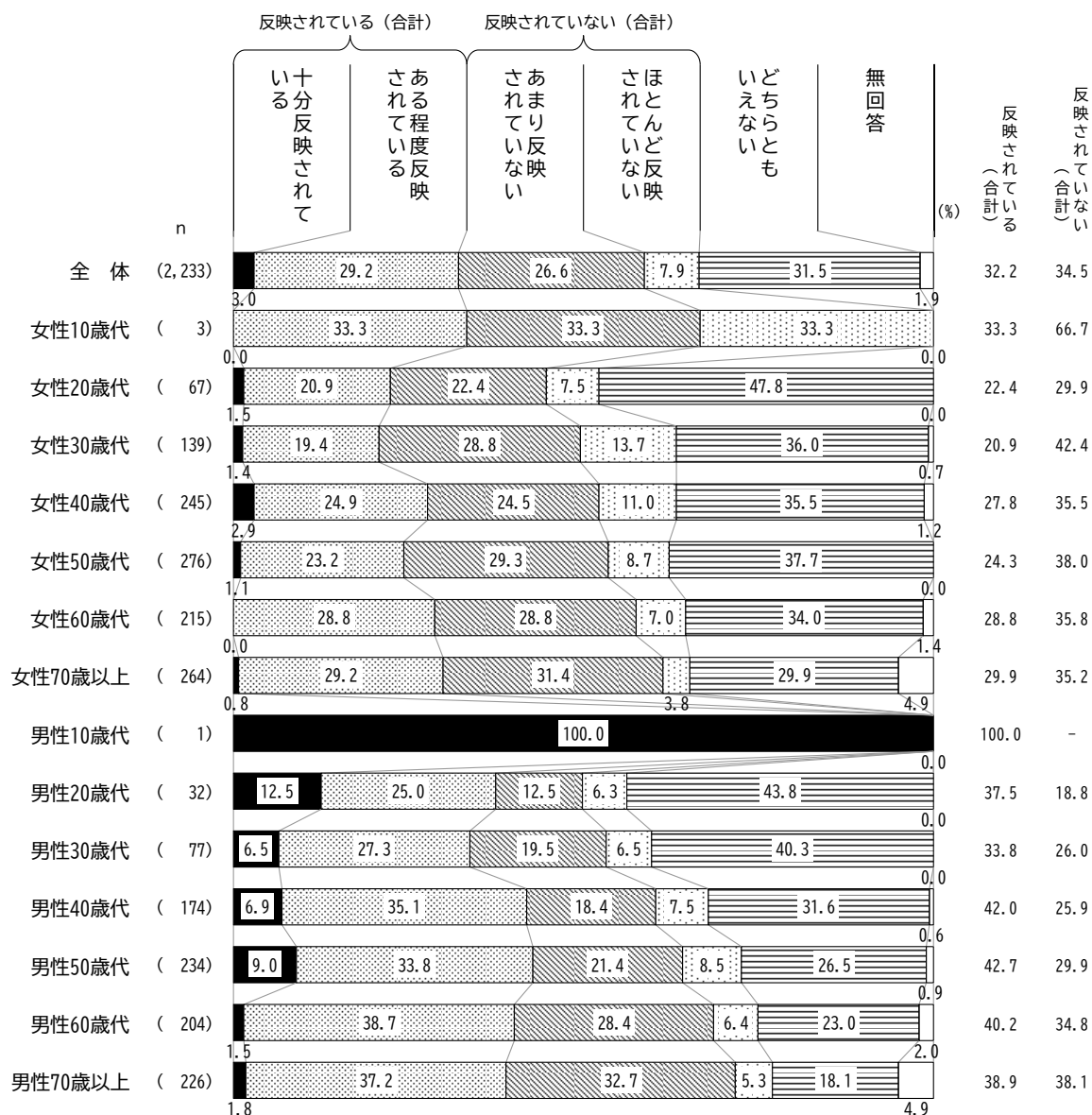
図表4-2 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、全体では《反映されている（合計）》が前回より1.1ポイント減少し、《反映されていない（合計）》が前回より6.1ポイント増加している。

性別で見ると、女性では《反映されていない（合計）》が前回より10.1ポイント増加し、「どちらともいえない」が前回より7.1ポイント減少している。（図表4-2）

図表4-3 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、《反映されている (合計)》は、女性では70歳以上で約3割となっており、男性では40～50歳代で4割強となっている。一方、《反映されていない (合計)》は、女性では30歳代で4割強となっており、男性では70歳以上で4割弱となっている。また、「どちらともいえない」は、女性の20歳代で4割台半ばを超えている。(図表4-3)

第IV章 調査の結果

図表4-4 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度（居住地域別）

	n	反映されている (合計)		反映されていない (合計)			無回答	(%)	反映されている (合計)	反映されていない (合計)
		十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	どちらともいえない				
全体	2,233	3.0	29.2	26.6	7.9	31.5	1.9	32.2	34.5	
居住地域別										
南部地域	221	2.7	25.8	28.1	5.4	36.7	1.4	28.5	33.5	
南西部地域	221	5.9	31.2	24.9	6.3	30.8	0.9	37.1	31.2	
東部地域	320	2.2	25.3	25.9	11.9	32.8	1.9	27.5	37.8	
さいたま地域	398	2.3	29.9	25.1	9.5	31.4	1.8	32.2	34.7	
県央地域	173	3.5	30.6	26.6	5.2	33.5	0.6	34.1	31.8	
川越比企地域	216	4.2	29.6	29.2	6.0	29.2	1.9	33.8	35.2	
西部地域	266	2.3	27.8	28.9	6.4	32.3	2.3	30.1	35.3	
利根地域	206	2.9	33.0	22.8	8.3	31.1	1.9	35.9	31.1	
北部地域	177	2.3	31.6	28.2	9.6	25.4	2.8	33.9	37.9	
秩父地域	26	-	34.6	30.8	3.8	19.2	11.5	34.6	34.6	

居住地域別でみると、「反映されている（合計）」は南西部地域が37.1%で最も高く、次いで利根地域が35.9%となっており、他の地域では2割台後半～3割台半ばとなっている。

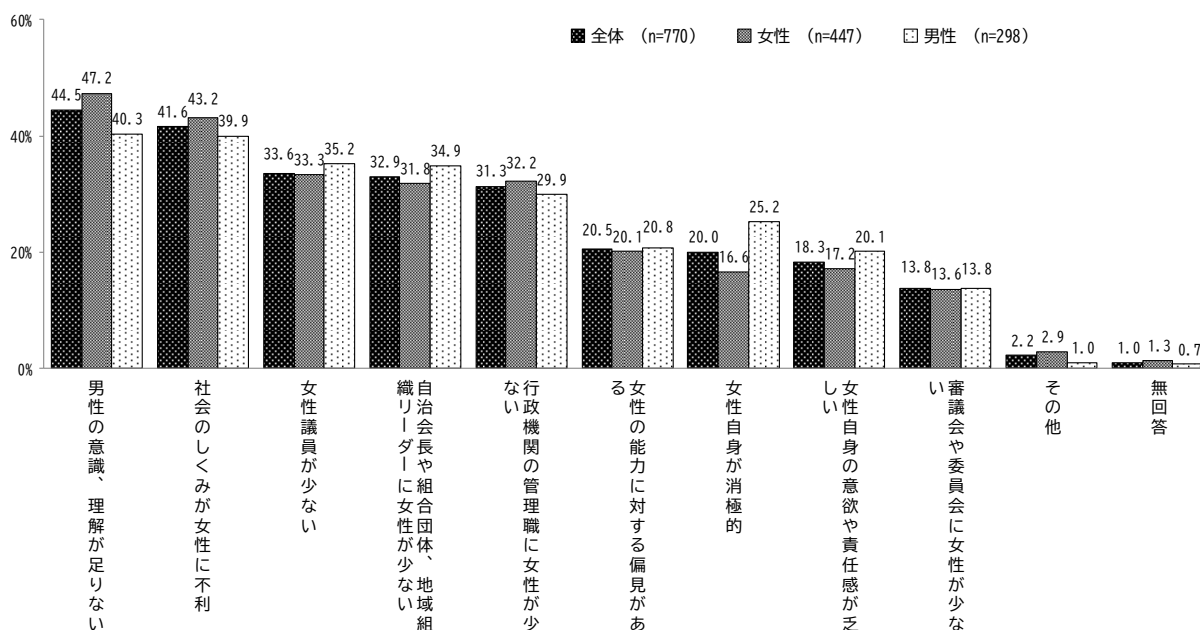
一方、「反映されていない（合計）」は北部地域が37.9%で最も高くなっている。（図表4-4）

(2) 女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由

◎「男性の意識、理解が足りない」が4割台半ば

問15-1-1 反映されていないと回答した方は、反映されていないと思う理由を選んでください。(3つまでに○)

図表4-5 女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由

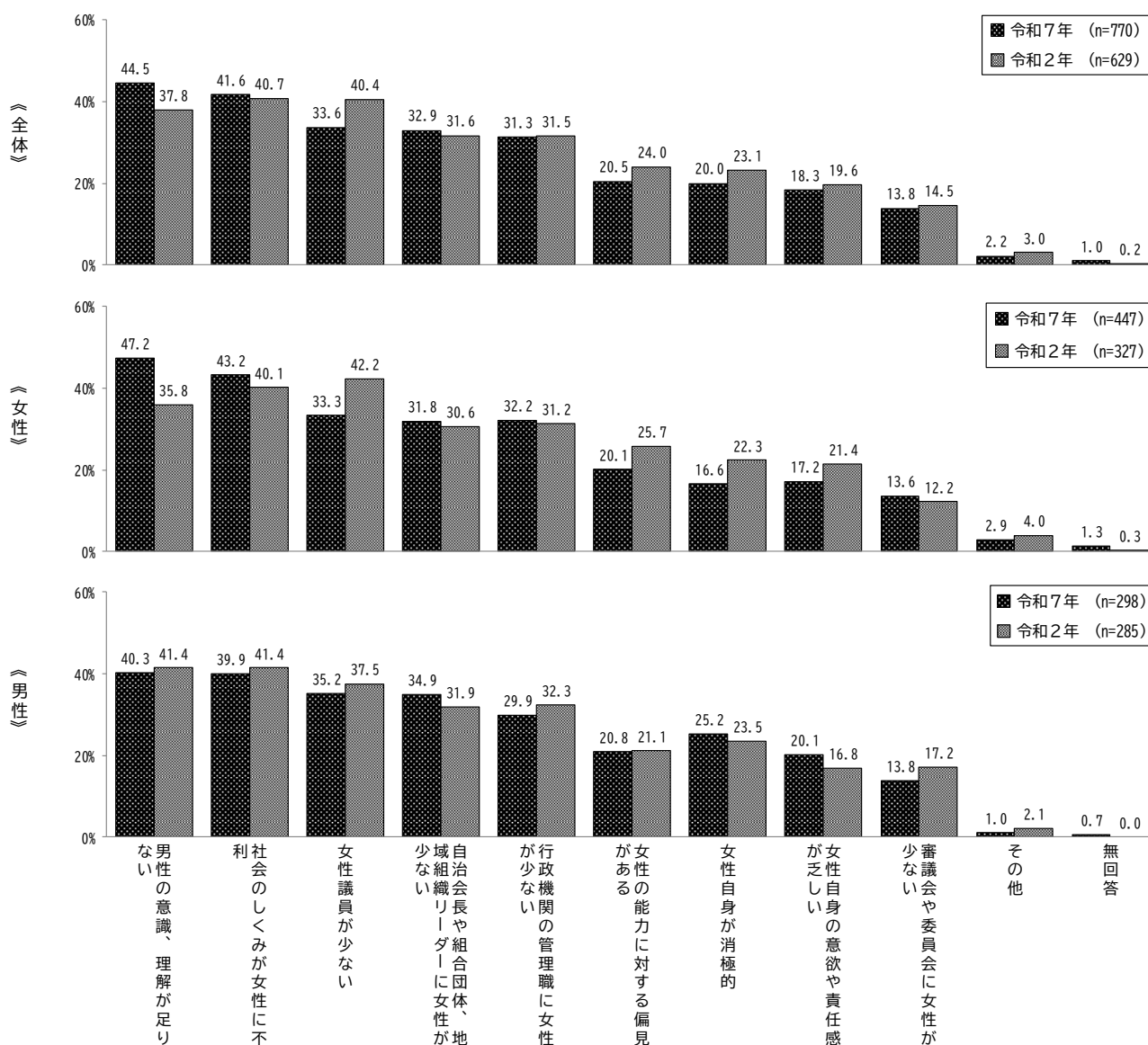


女性の意見や考え方が反映されていない理由を、全体で見ると「男性の意識、理解が足りない」が44.5%で最も高く、次いで「社会のしくみが女性に不利」(41.6%)、「女性議員が少ない」(33.6%)となっている。

性別で見ると、「男性の意識、理解が足りない」は女性(47.2%)、男性(40.3%)と、女性が男性を6.9ポイント上回っている。「女性自身が消極的」は女性(16.6%)、男性(25.2%)と、男性が女性を8.6ポイント上回っている。(図表4-5)

第IV章 調査の結果

図表4-6 女性の意見や考え方が反映されていない理由（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、全体で見ると「女性議員が少ない」は前回より6.8ポイント減少し、「男性の意識、理解が足りない」は前回より6.7ポイント増加している。

性別で見ると、女性では、「男性の意識、理解が足りない」は前回より11.4ポイント増加している一方で、「女性議員が少ない」が前回より8.9ポイント減少している。男性では「審議会や委員会に女性が少ない」は前回より3.4ポイント減少している一方で、「女性自身の意欲や責任感が乏しい」が3.3ポイント増加している。（図表4-6）

図表 4-7 女性の意見や考え方が反映されていない理由（令和2年度調査との比較、上位6項目）

【全体】		令和7年 (n=770)		令和2年 (n=629)	
第1位	男性の意識、理解が足りない	↑	(44.5)	社会のしくみが女性に不利	(40.7)
第2位	社会のしくみが女性に不利	↑	(41.6)	女性議員が少ない	(40.4)
第3位	女性議員が少ない	↓	(33.6)	男性の意識、理解が足りない	(37.8)
第4位	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	↑	(32.9)	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	(31.6)
第5位	行政機関の管理職に女性が少ない	↓	(31.3)	行政機関の管理職に女性が少ない	(31.5)
第6位	女性の能力に対する偏見がある	↓	(20.5)	女性の能力に対する偏見がある	(24.0)

【女性】		令和7年 (n=447)		令和2年 (n=327)	
第1位	男性の意識、理解が足りない	↑	(47.2)	女性議員が少ない	(42.2)
第2位	社会のしくみが女性に不利	↑	(43.2)	社会のしくみが女性に不利	(40.1)
第3位	女性議員が少ない	↓	(33.3)	男性の意識、理解が足りない	(35.8)
第4位	行政機関の管理職に女性が少ない	↑	(32.2)	行政機関の管理職に女性が少ない	(31.2)
第5位	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	↑	(31.8)	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	(30.6)
第6位	女性の能力に対する偏見がある	↓	(20.1)	女性の能力に対する偏見がある	(25.7)

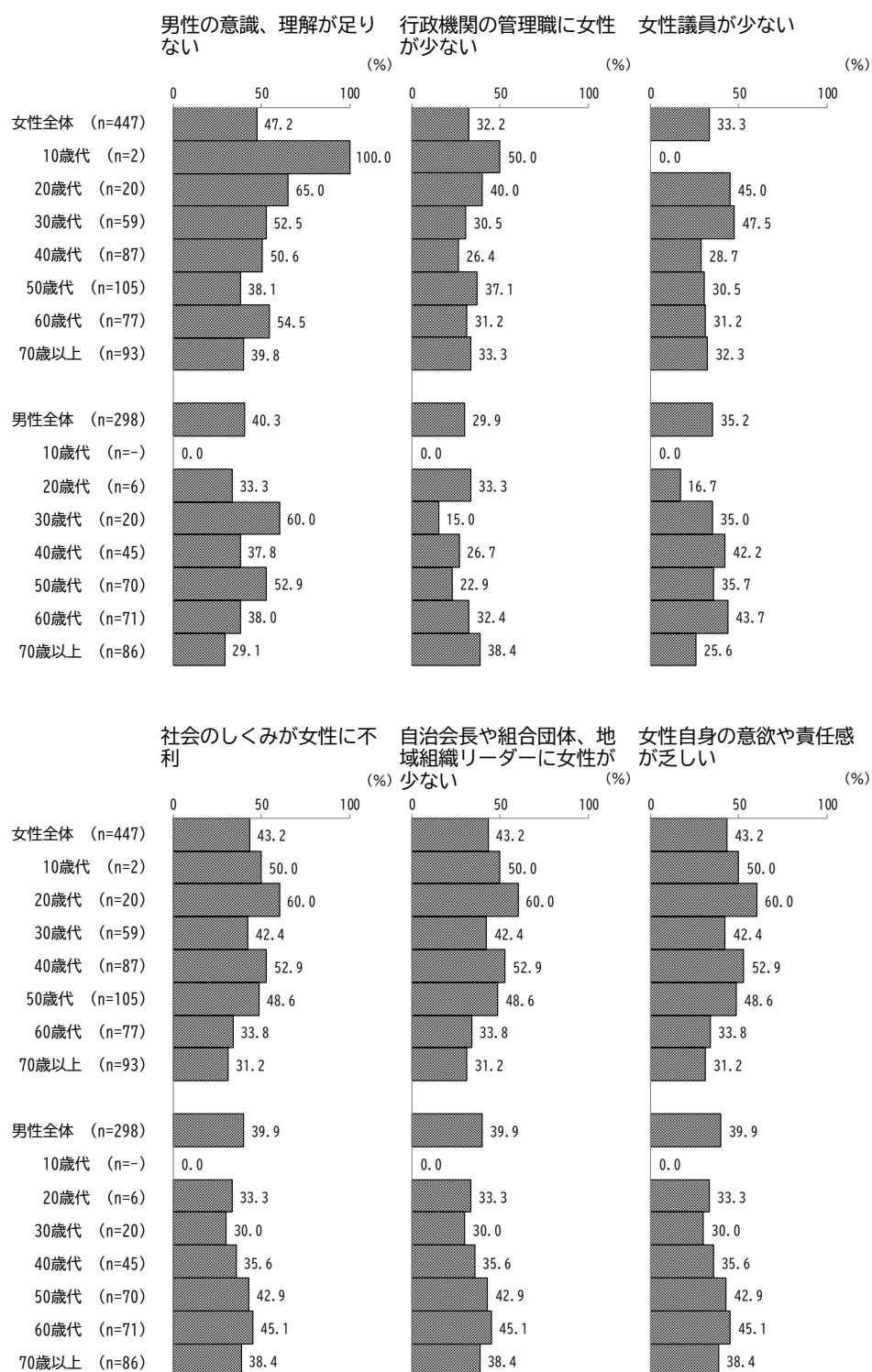
【男性】		令和7年 (n=298)		令和2年 (n=285)	
第1位	男性の意識、理解が足りない	↓	(40.3)	男性の意識、理解が足りない	(41.4)
第2位	社会のしくみが女性に不利	↓	(39.9)	社会のしくみが女性に不利	(41.4)
第3位	女性議員が少ない	↓	(35.2)	女性議員が少ない	(37.5)
第4位	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	↑	(34.9)	行政機関の管理職に女性が少ない	(32.3)
第5位	行政機関の管理職に女性が少ない	↓	(29.9)	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	(31.9)
第6位	女性自身が消極的	↑	(25.2)	女性自身が消極的	(23.5)

令和2年度調査との比較を順位表（上位6項目）としてみると、全体でみると上位6項目の内訳に変化は無いものの、「男性の意識、理解が足りない」が第3位から第1位へ上昇している。

性別でみると、女性では「男性の意識、理解が足りない」が第3位から第1位へ上昇している。男性では上位6項目の内訳に変化はないものの、「自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない」が第5位から第4位へ上昇している。（図表4-7）

第IV章 調査の結果

図表4-8 女性の意見や考え方が反映されていない理由（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性の20歳代以下、男性の30歳代以下は参考扱いとする。

性／年齢別で見ると、女性では「女性議員が少ない」が30歳代で4割半ばを超え最も高くなっている。男性では「自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない」が50歳代を除く年代で概ね4割前半となっている。（図表4-8）

図表4-9 女性の意見や考え方が反映されていない理由（居住地域別、上位6項目）

								(%)
		n	男性の意識、理解が足りない	社会のしくみが女性に不利	女性議員が少ない	自治会長や組合団体、リーダーに女性が少ない	行政機関の管理職に女性が少ない	女性の能力に対する偏見がある
居住地域別	全体	770	44.5	41.6	33.6	32.9	31.3	20.5
	南部地域	74	50.0	37.8	35.1	39.2	33.8	17.6
	南西部地域	69	44.9	40.6	30.4	29.0	27.5	20.3
	東部地域	121	47.1	42.1	32.2	33.9	30.6	22.3
	さいたま地域	138	52.2	51.4	38.4	24.6	33.3	23.2
	県央地域	55	32.7	50.9	34.5	29.1	34.5	7.3
	川越比企地域	76	42.1	38.2	34.2	32.9	31.6	25.0
	西部地域	94	40.4	30.9	30.9	28.7	35.1	23.4
	利根地域	64	48.4	40.6	29.7	40.6	31.3	20.3
	北部地域	67	34.3	41.8	31.3	46.3	23.9	17.9
	秩父地域	9	33.3	11.1	55.6	44.4	11.1	11.1

※基数が不足しているため、居住地域での秩父地域は参考扱いとする。

居住地域別でみると、「男性の意識、理解が足りない」、「社会のしくみが女性に不利」、「女性議員が少ない」の上位3項目ではさいたま地域で最も高くなっている。（図表4-9）

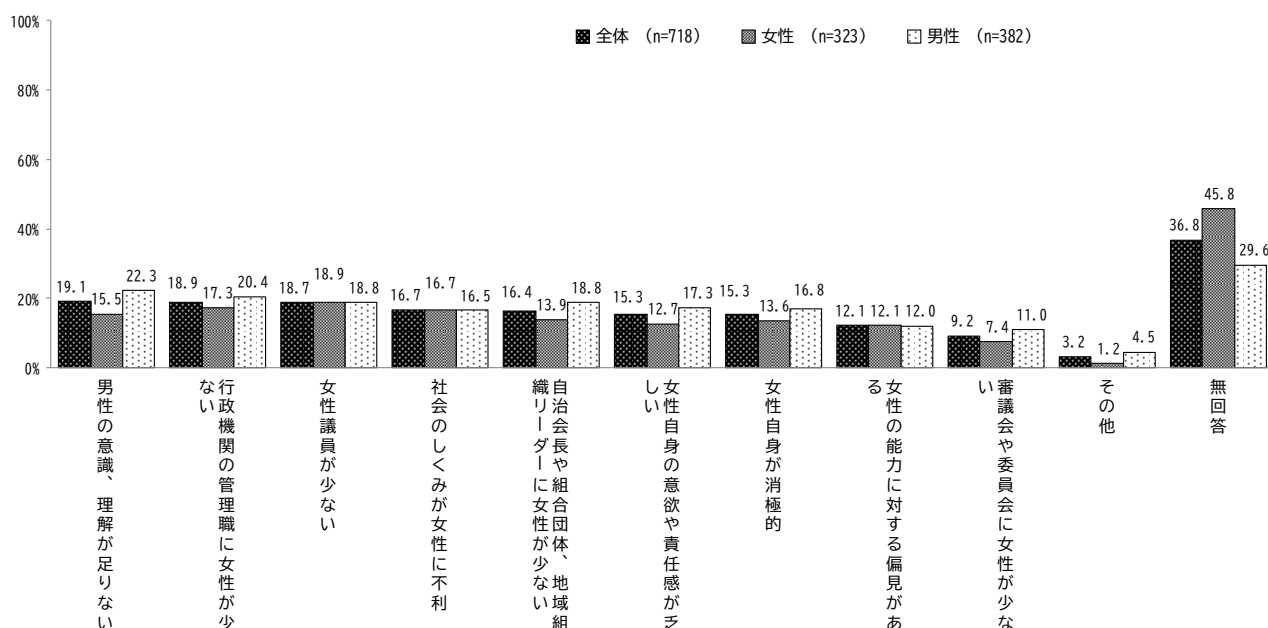
(3) 女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うもの

◎「男性の意識、理解が足りない」が約2割

新規調査

問15-1-2 反映されていると回答した方は、より反映させるために、改善する必要があると思うものを選んでください。(3つまでに○)

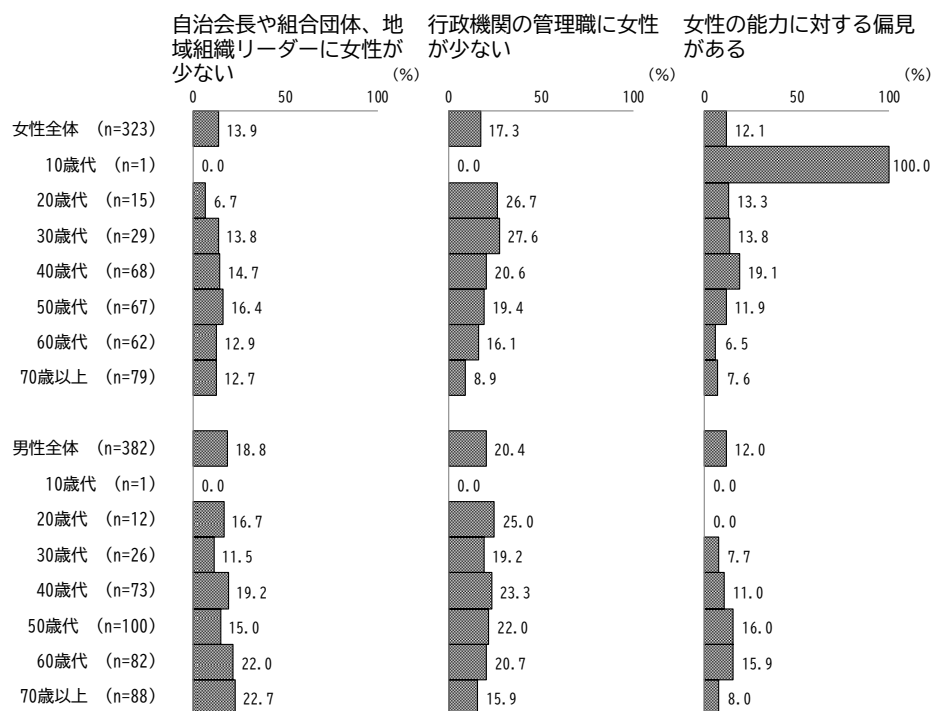
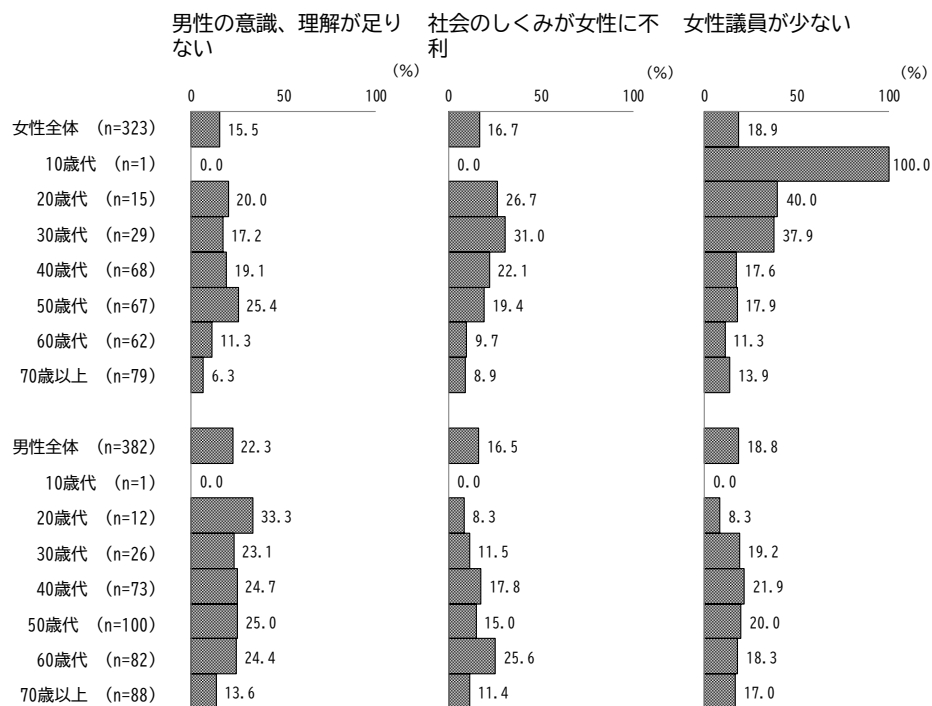
図表4-10 女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うもの



女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うものを、全体でみると「男性の意識、理解が足りない」が19.1%で最も高く、次いで「行政機関の管理職に女性が少ない」(18.9%)、「女性議員が少ない」(18.7%)となっている。

性別でみると、「男性の意識、理解が足りない」は女性(15.5%)、男性(22.3%)と、男性が女性を6.8ポイント上回っている。(図表4-10)

図表4-11 女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うもの
(性/年齢別、上位6項目)



※基数が不足しているため、性/年齢別での女性の30歳代以下、男性の30歳代以下は参考扱いとする。

性/年齢別でみると、「社会のしくみが女性に不利」は女性では40歳代で2割強と最も高く、男性では60歳代で2割台半ばと最も高くなっている。「女性議員が少ない」では男性の40歳代で2割強と最も高くなっている。(図表4-11)

第IV章 調査の結果

図表 4-12 女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うもの
(居住地域別、上位6項目)

								(%)
		n	男性の意識、理解が足りない	行政機関の管理職に女性が少ない	女性議員が少ない	社会のしくみが女性に不利	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	女性自身の意欲や責任感が乏しい
居住地域別	全体	718	19.1	18.9	18.7	16.7	16.4	15.3
	南部地域	63	27.0	17.5	12.7	14.3	22.2	22.2
	南西部地域	82	31.7	8.5	15.9	23.2	7.3	13.4
	東部地域	88	14.8	22.7	19.3	19.3	17.0	18.2
	さいたま地域	128	14.8	18.8	20.3	12.5	12.5	15.6
	県央地域	59	13.6	11.9	23.7	11.9	20.3	13.6
	川越比企地域	73	12.3	24.7	6.8	23.3	12.3	16.4
	西部地域	80	20.0	17.5	20.0	17.5	13.8	12.5
	利根地域	74	21.6	23.0	28.4	17.6	27.0	12.2
	北部地域	60	20.0	25.0	18.3	11.7	20.0	11.7
	秩父地域	9	11.1	33.3	22.2	11.1	33.3	33.3

※基数が不足しているため、居住地域での秩父地域は参考扱いとする。

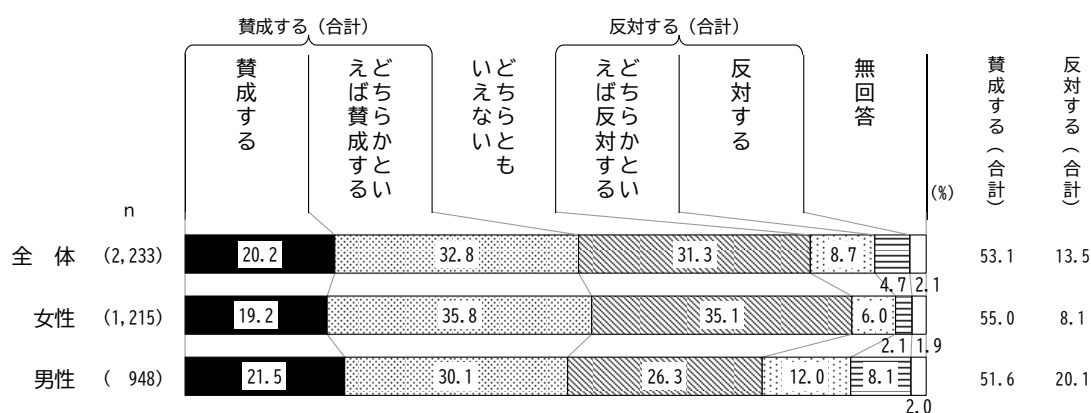
居住地域別でみると、「男性の意識、理解が足りない」では南西部地域で31.7%と最も高くなっている。「行政機関の管理職に女性が少ない」では北部地域で25.0%と最も高くなっている。「女性議員が少ない」では利根地域で28.4%と最も高くなっている。(図表 4-12)

(4) ポジティブアクションに対する考え方

◎ 《賛成する（合計）》が過半数を占めている

問16 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして、男女の実質的な機会の均等を確保すべきである」（＝ポジティブアクション）という考え方について、あなたはどのように思いますか。
(1つだけに○)

図表4-13 ポジティブアクションに対する考え方

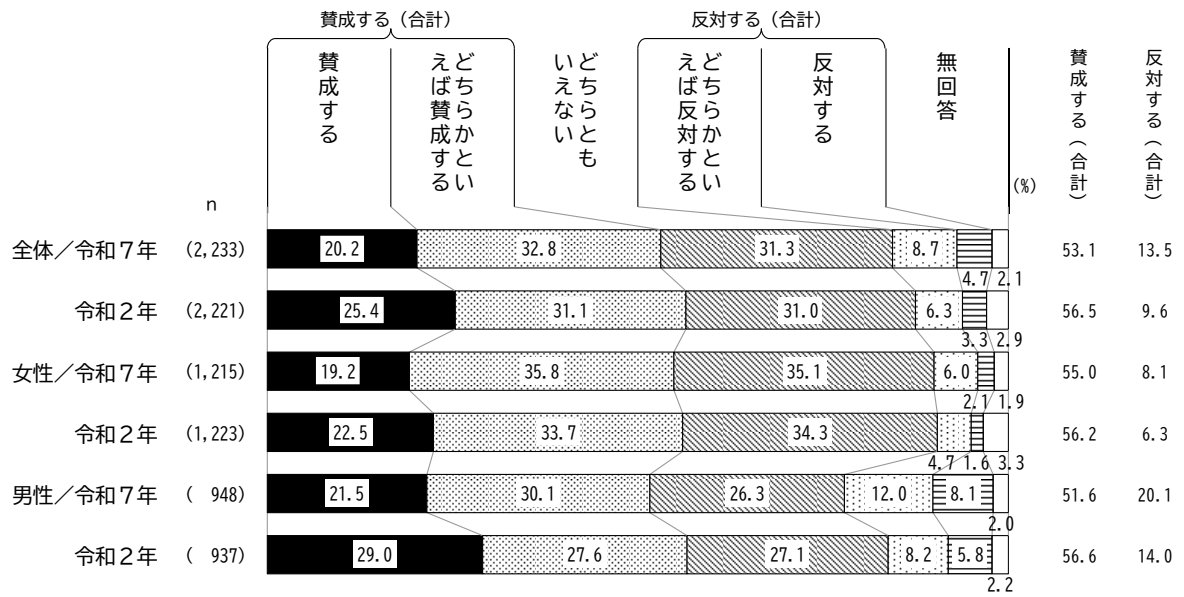


ポジティブアクションに対する考え方を聞いたところ、全体でみると「賛成する」(20.2%)と「どちらかといえば賛成する」(32.8%)を合わせた《賛成する(合計)》は53.1%と過半数を占めている。一方、「どちらかといえば反対する」(8.7%)と「反対する」(4.7%)を合わせた《反対する(合計)》は13.5%となっている。

性別でみると、《賛成する(合計)》は男女ともに過半数を占めている。また、《賛成する(合計)》は女性(55.0%)、男性(51.6%)と、女性が男性を3.4ポイント上回っている。一方、《反対する(合計)》は女性(8.1%)、男性(20.1%)と、男性が女性を12.0ポイント上回っている。(図表4-13)

第IV章 調査の結果

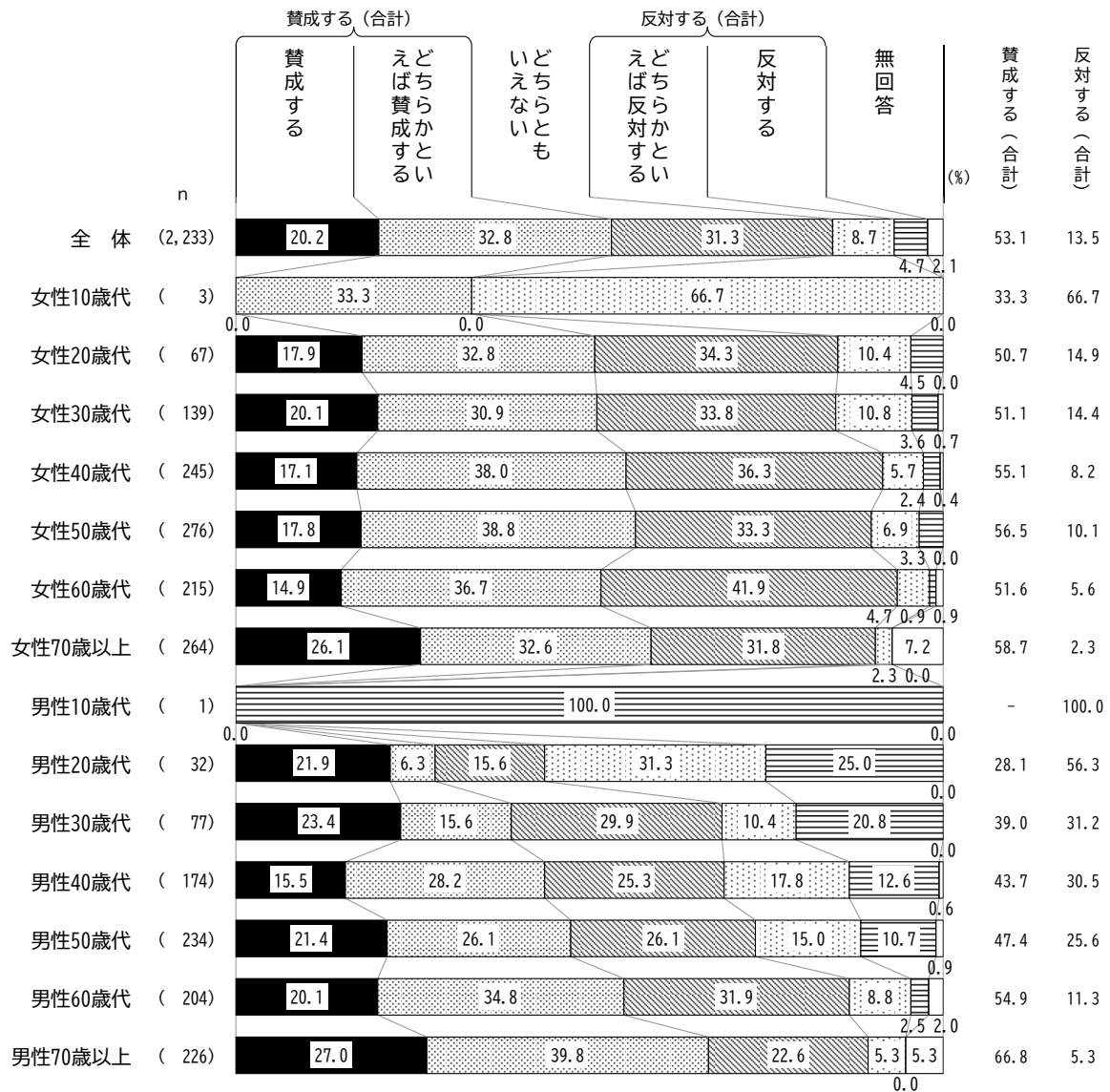
図表4-14 ポジティブアクションに対する考え方（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、全体では《賛成する（合計）》は前回より3.4ポイントの減少が見られ、《反対する（合計）》は前回より3.9ポイントの増加が見られる。

性別で見ると、女性では大きな変化はみられないが、男性では《賛成する（合計）》は前回より5.0ポイント減少し、《反対する（合計）》は前回より6.1ポイント増加している。（図表4-14）

図表4-15 ポジティブアクションに対する考え方（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別で見ると、女性では《賛成する (合計)》はすべての年代で過半数を占めている。一方、《反対する (合計)》は、男性の20歳代で5割台半ばを超えて高くなっている。(図表4-15)

(5) 強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさ

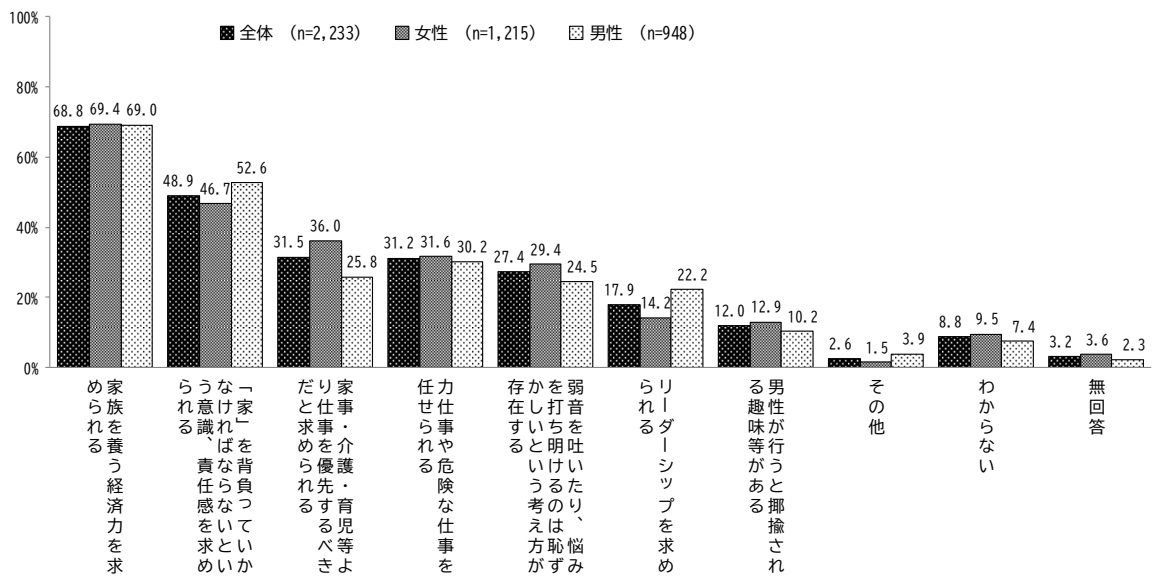
◎「家族を養う経済力を求められる」が7割弱

新規調査

問17 日本社会において「男性である」がゆえに生じる、男性特有の負担感や生きづらさについて、次のうちどれが強く存在すると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

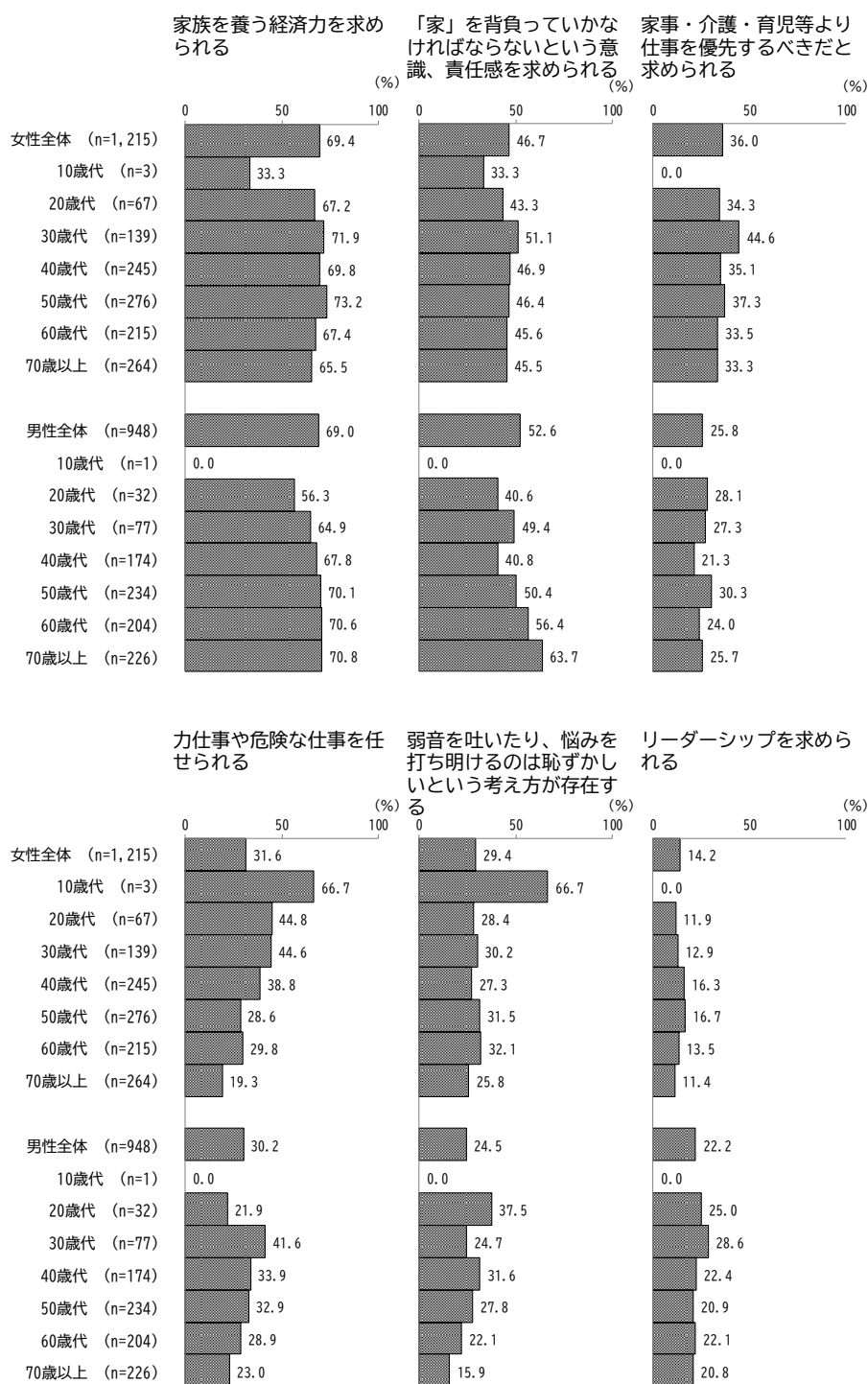
図表4-16 強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさ



強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさを聞いたところ、全体でみると「家族を養う経済力を求められる」が68.8%で最も高く、次いで「「家」を背負っていかねばならないという意識、責任感を求められる」(48.9%)、「家事・介護・育児等より仕事を優先するべきだと求められる」(31.5%)となっている。

性別でみると、「家事・介護・育児等より仕事を優先するべきだと求められる」は女性(36.0%)、男性(25.8%)と、女性が男性を10.2ポイント上回っている。「リーダーシップを求められる」は女性(14.2%)、男性(22.2%)と、男性が女性を8.0ポイント上回っている。(図表4-16)

図表4-17 強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさ（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、女性では「家族を養う経済力を求められる」が30歳代と50歳代で7割強と高くなっている。男性では「家族を養う経済力を求められる」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、50歳以上では7割を超えている。(図表4-17)

(6) 男性特有の負担感や生きづらさが強く現れていると思う場面

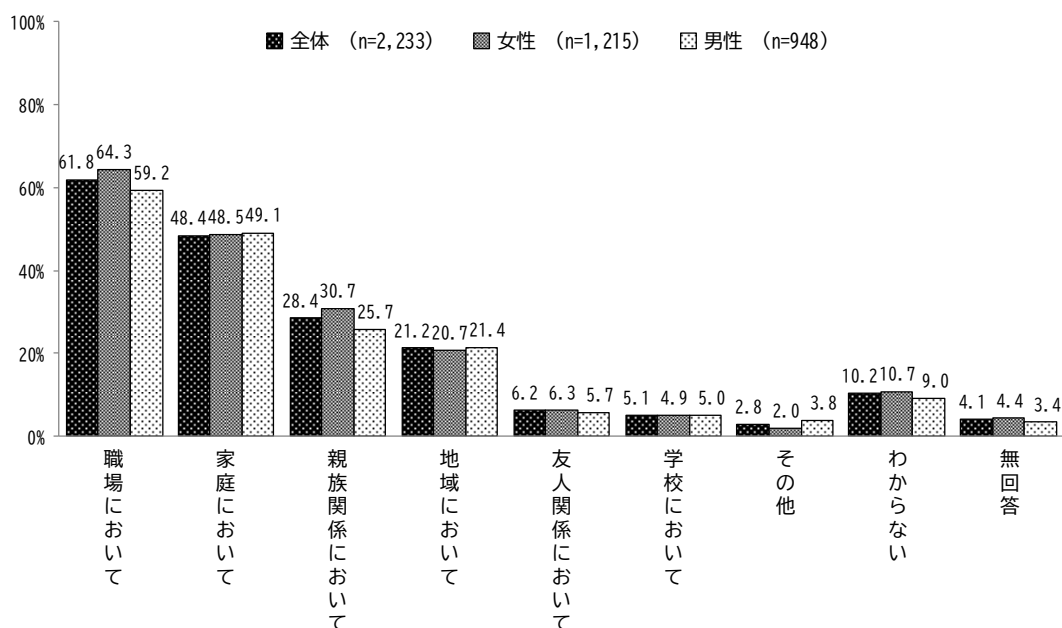
◎「職場において」が6割強

新規調査

問18 それは、どのような場面において強く現れていると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

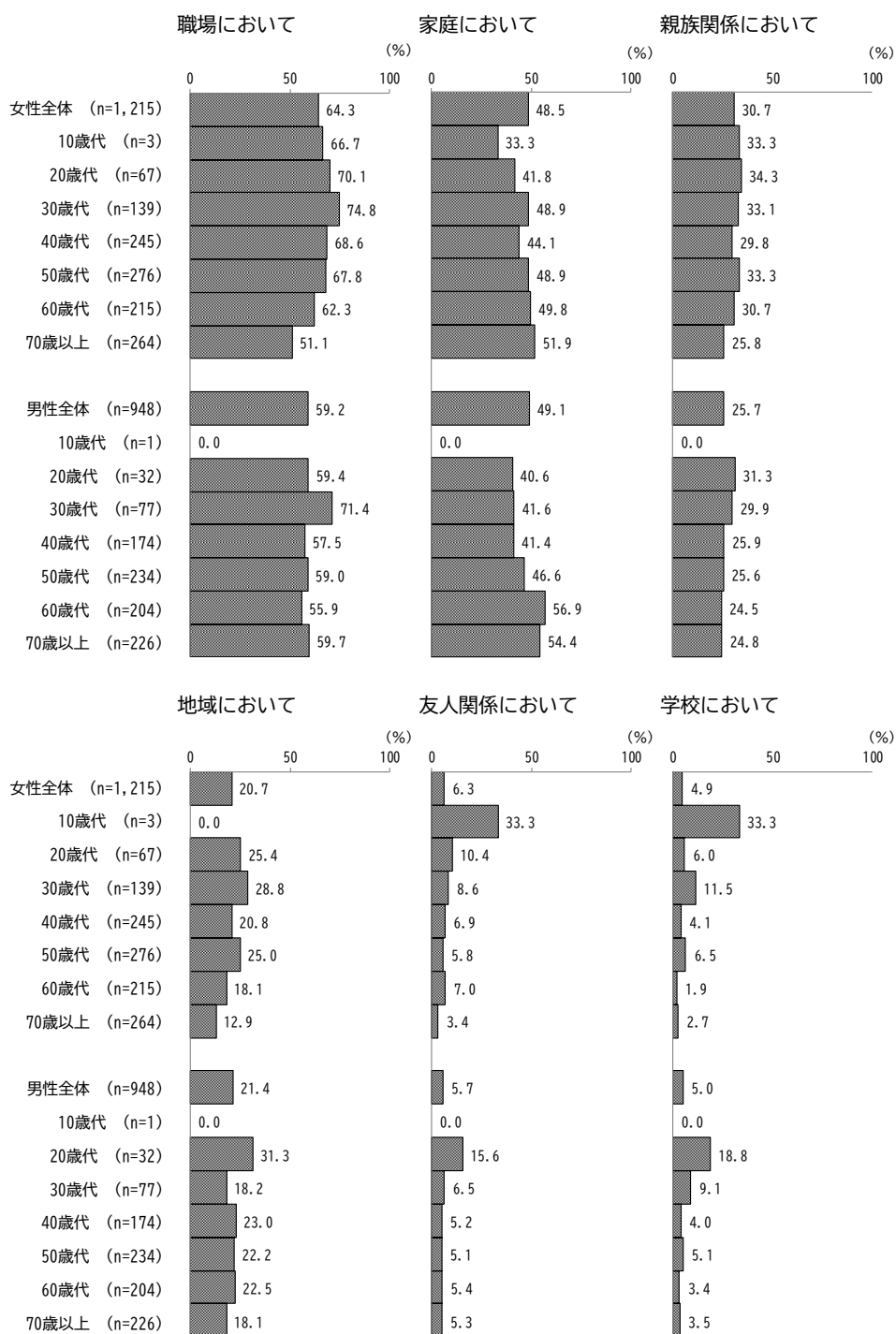
図表4-18 男性特有の負担感や生きづらさが強く現れていると思う場面



男性特有の負担感や生きづらさが強く現れていると思う場面を聞いたところ、全体でみると「職場において」が61.8%で最も高く、次いで「家庭において」(48.4%)、「親族関係において」(28.4%)となっている。

性別でみると、「職場においては」は女性(64.3%)、男性(59.2%)と、女性が男性を5.1ポイント上回っている。(図表4-18)

図表4-19 男性特有の負担感や生きづらさが強く現れていると思う場面
(性/年齢別、上位6項目)



※基数が不足しているため、性/年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性/年齢別で見ると、男女ともに「職場において」が30歳代で最も高く、女性で74.8%、男性で71.4%となっている。男性では「家庭において」は概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、60歳代で5割台半ばを超えている。(図表4-19)

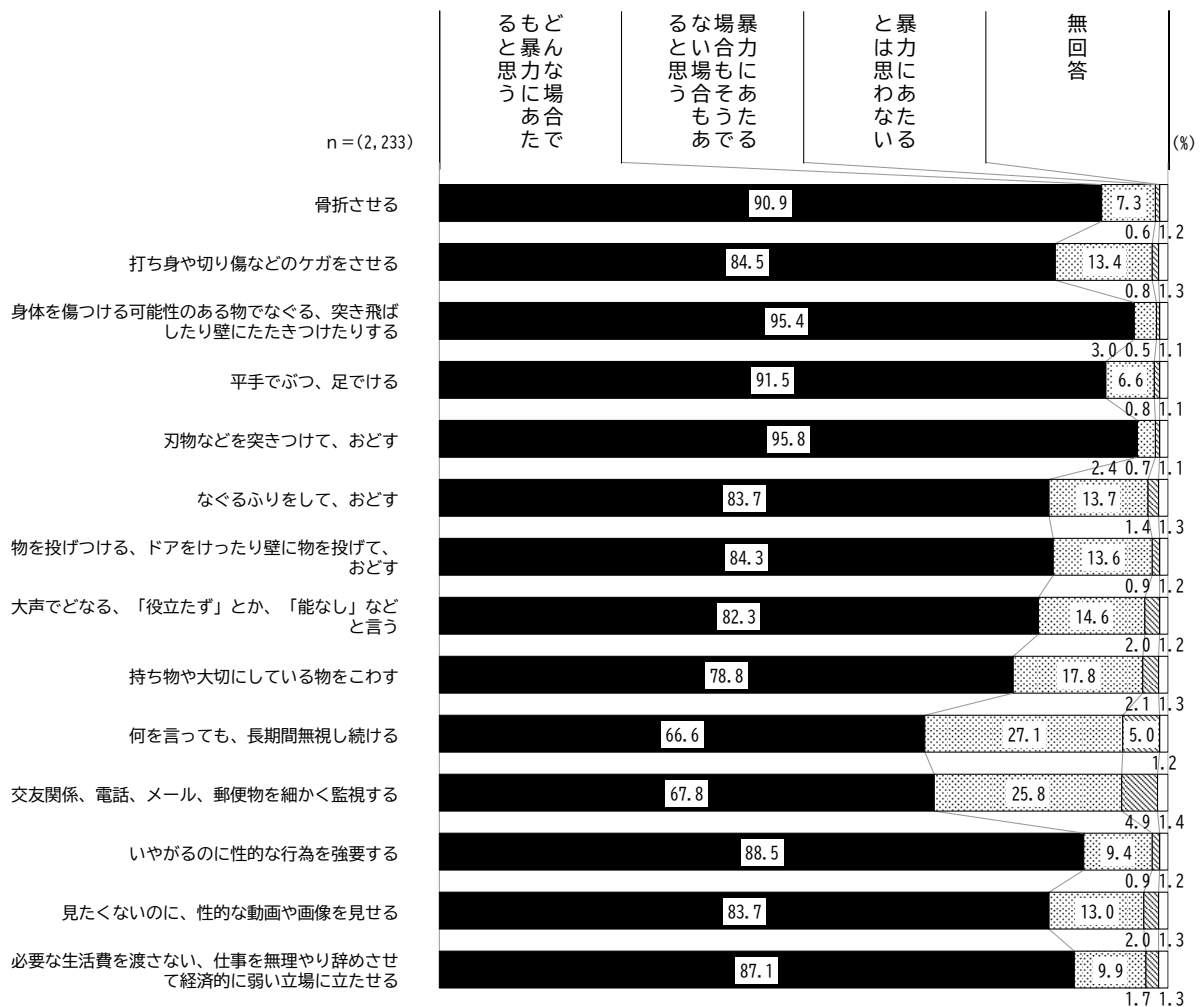
5. 男女間における暴力について

(1) 夫婦間の暴力と認識される行為

◎【刃物などを突きつけて、おどす】【身体を傷つける可能性のある物でなぐる、突き飛ばしたり壁にたたきつけたりする】【平手でぶつ、足でける】が上位3項目となっている

問19 あなたは、次の(1)～(14)のようなことが夫婦(事実婚や別居中を含む)の間で行われた場合、それをどのように感じますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○)

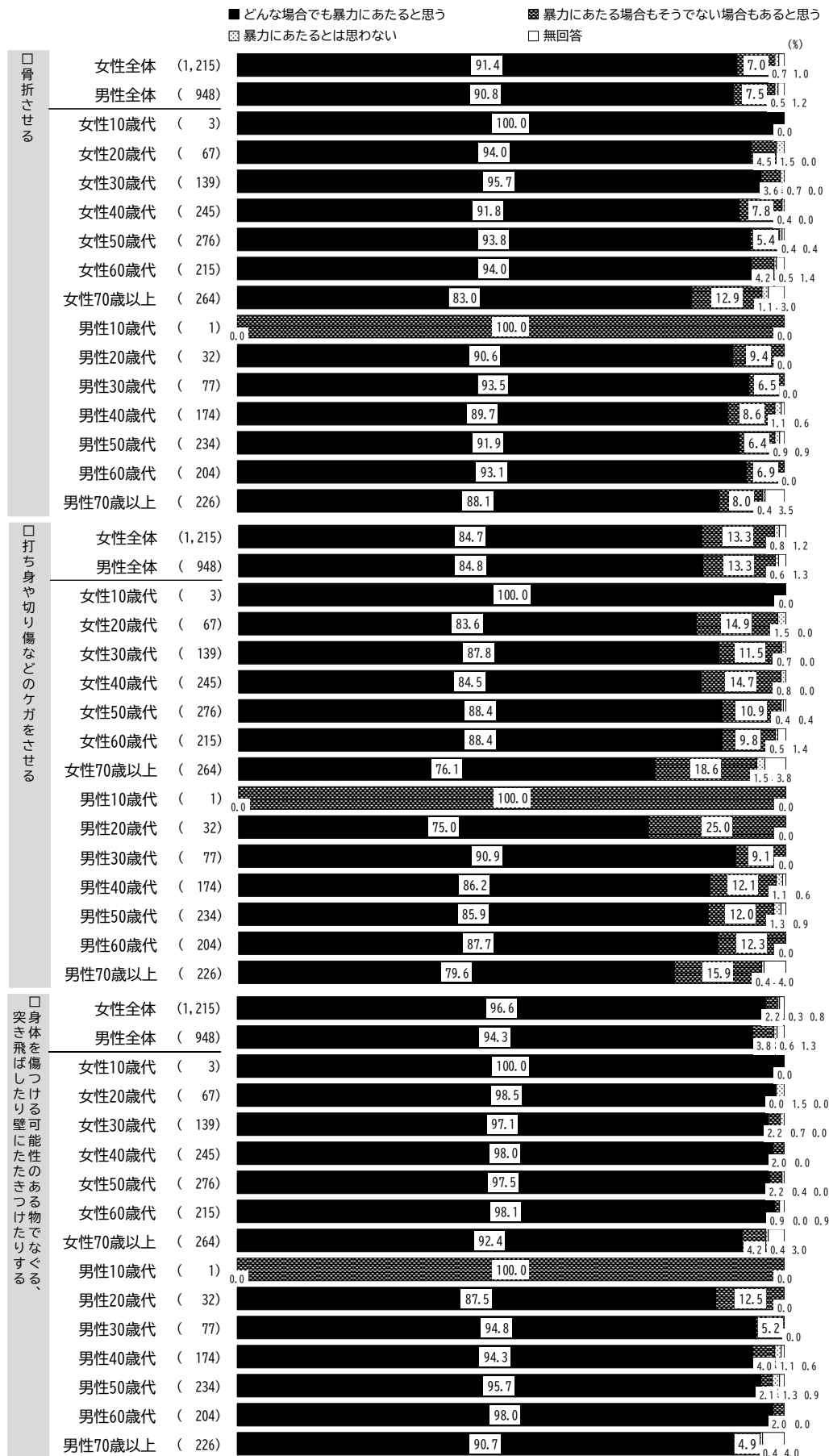
図表5-1 夫婦間の暴力と認識される行為



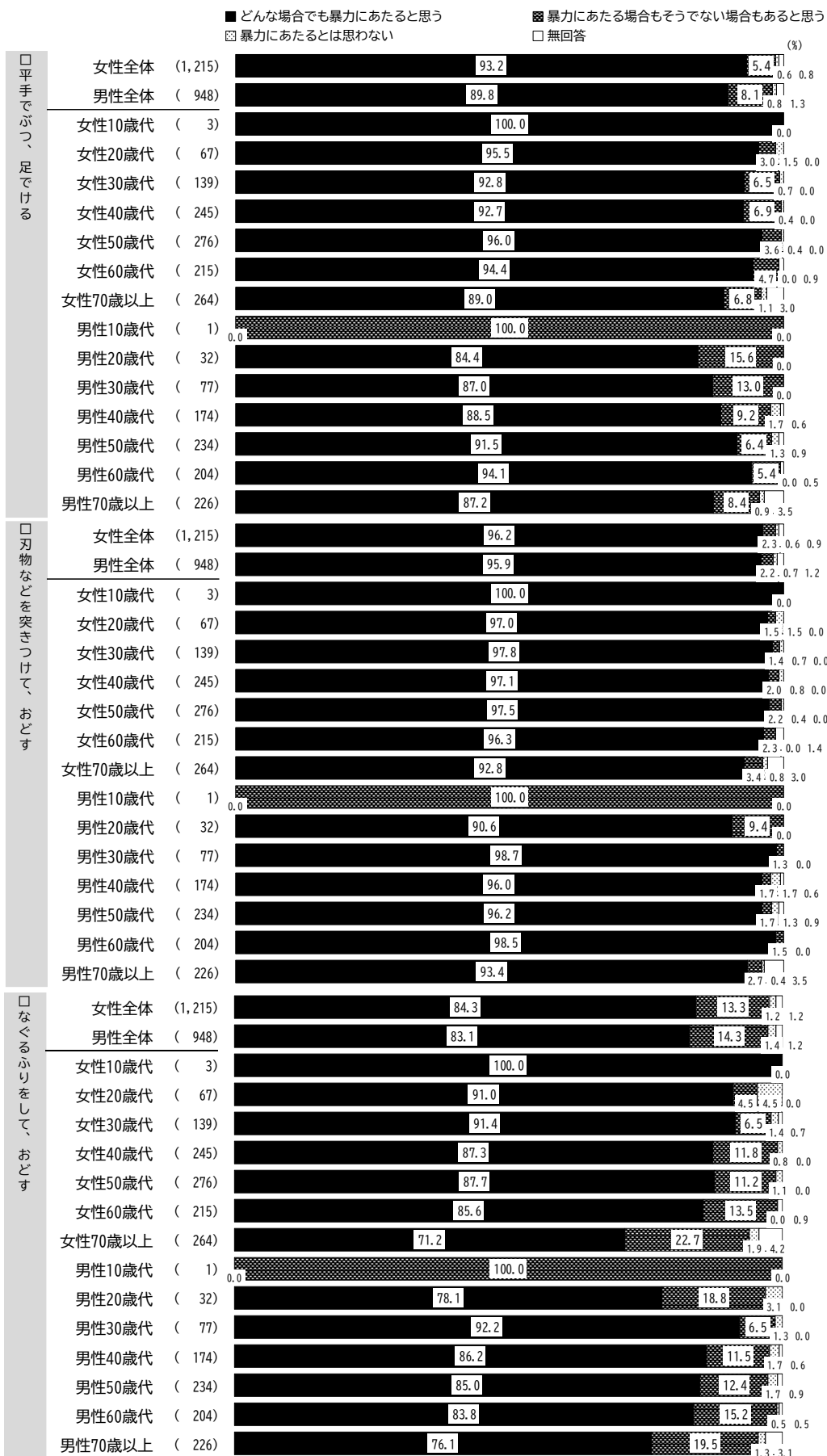
14項目の行為が夫婦(事実婚や別居中を含む)の間で行われた場合、「どんな場合でも暴力にあたる」と考える人が多いのは、【刃物などを突きつけて、おどす】が95.8%で最も高く、次いで【身体を傷つける可能性のある物でなぐる、突き飛ばしたり壁にたたきつけたりする】(95.4%)、【平手でぶつ、足でける】(91.5%)となっており、9割強～9割台半ばが「暴力にあたる」と認識している。

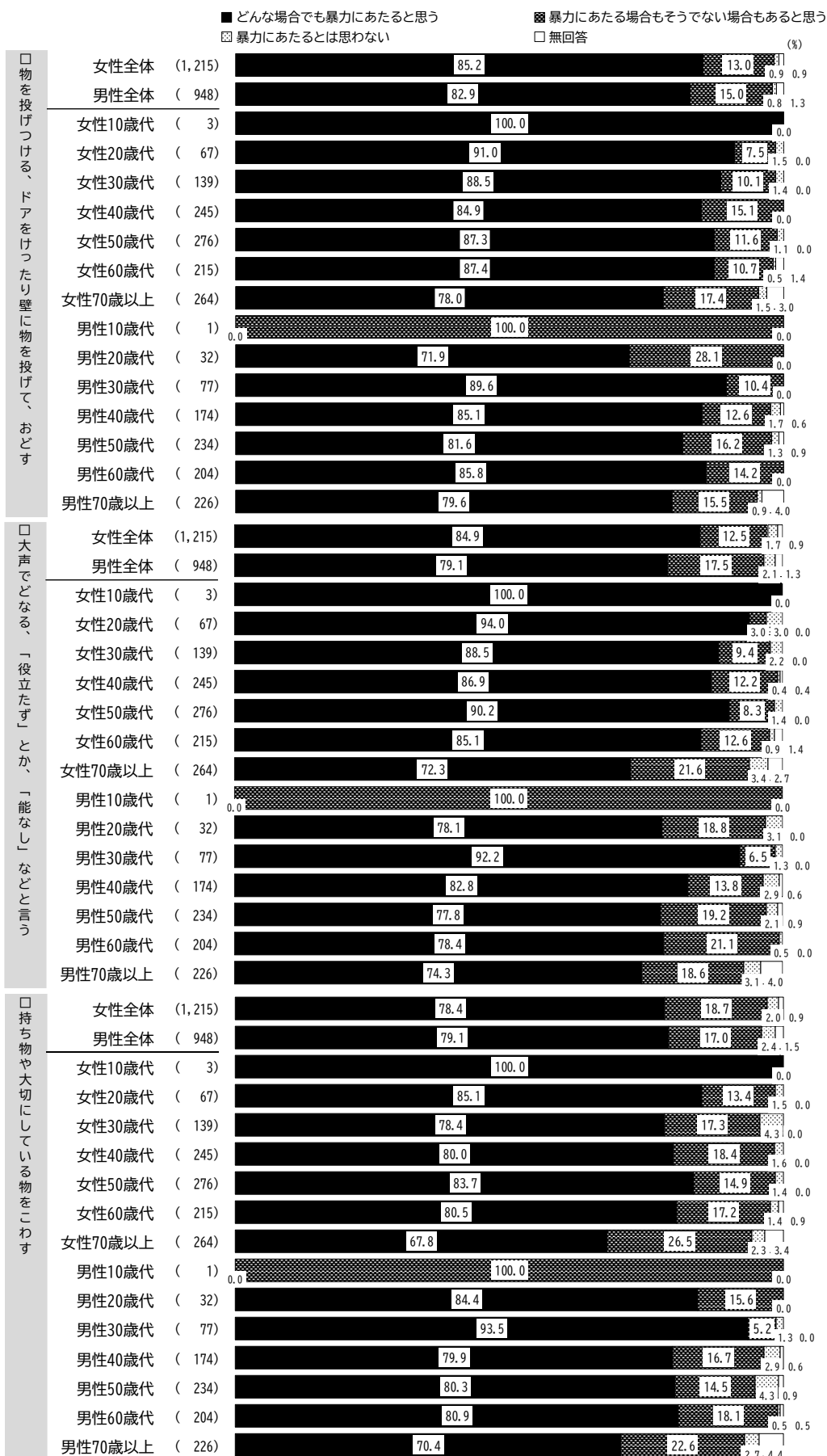
一方、「暴力にあたるとは思わない」と考える人が多いのは、【何を言っても、長期間無視し続ける】(5.0%)、【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】(4.9%)の2項目で、他の項目に比べて「暴力にあたる」という認識が低くなっている。(図表5-1)

図表5-2 夫婦間の暴力と認識される行為（性別・性／年齢別）

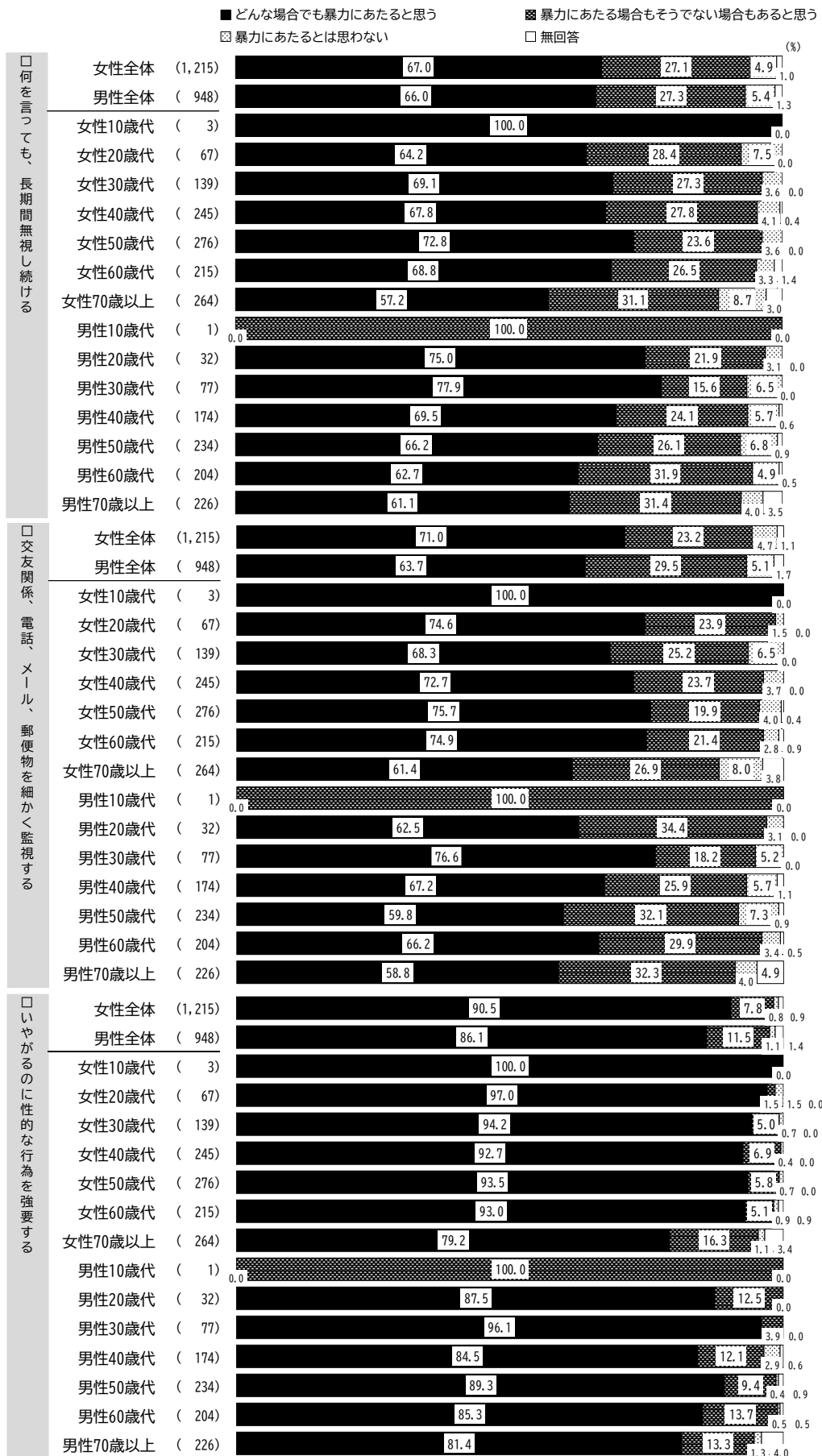


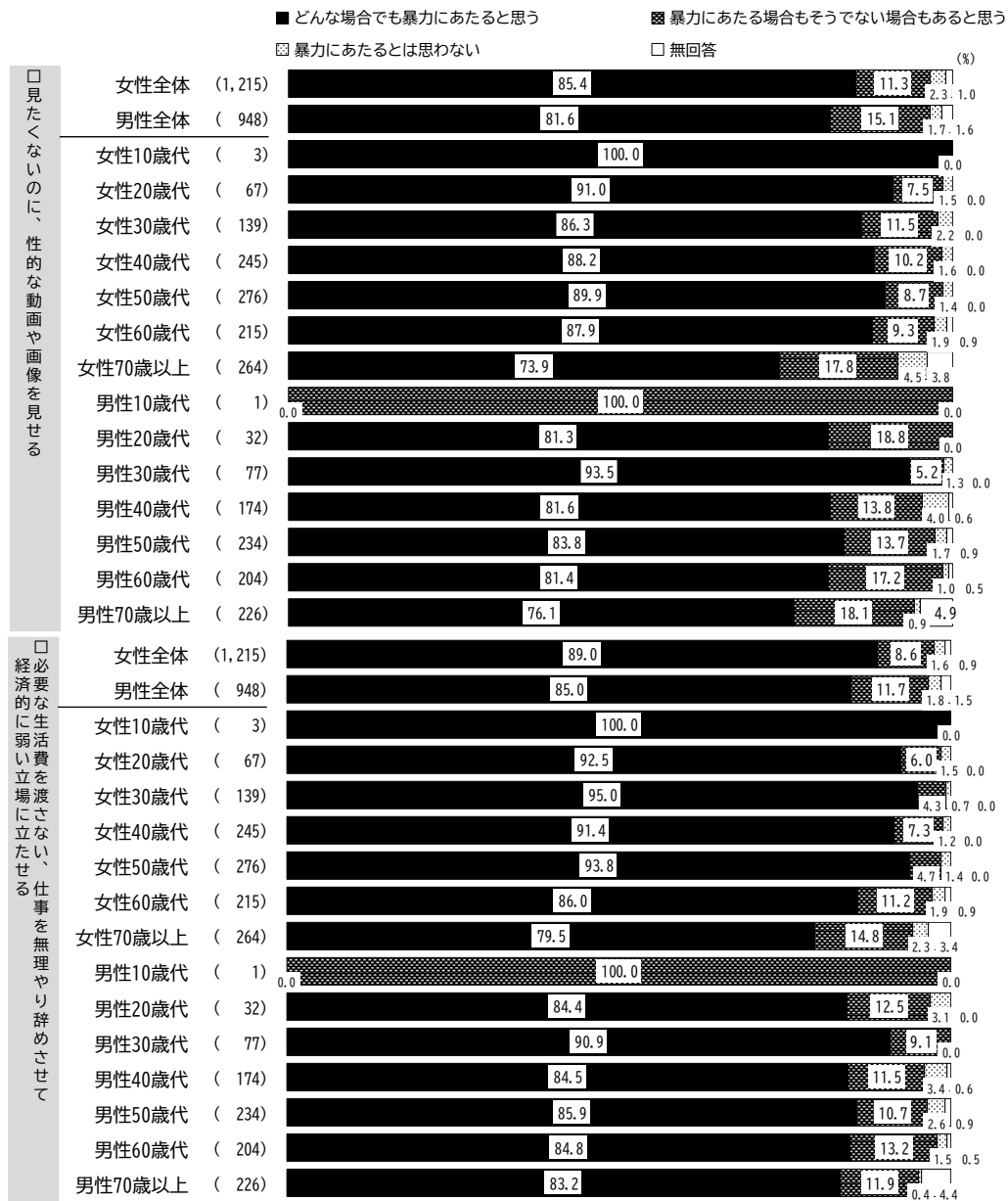
第IV章 調査の結果





第IV章 調査の結果





※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

第IV章 調査の結果

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】では7.3ポイント（女性71.0%、男性63.7%）、【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】では5.8ポイント（女性84.9%、男性79.1%）、【いやがるのに性的な行為を強要する】では4.4ポイント（女性90.5%、男性86.1%）それぞれ女性が男性を上回っている。また、【持ち物や大切にしている物をこわす】では0.7ポイント（女性78.4%、男性79.1%）、それぞれ男性が女性を上回っており、男女で意識に差が出ている。

性／年齢別でみると、【骨折させる】で「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね9割弱～9割台半ばだが、女性の70歳以上で83.0%と他の年代に比べて低くなっている。

【打ち身や切り傷などのケガをさせる】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね約8割～9割弱だが、女性の70歳以上で76.1%、男性の20歳代で75.0%と他の年代に比べて低くなっている。

【身体を傷つける可能性のある物でなぐる、突き飛ばしたり壁にたたきつけたりする】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね9割以上だが、男性の20歳代で87.5%と他の年代に比べて低くなっている。

【平手でぶつ、足でける】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね8割台後半～9割台後半だが、男性の20歳代で84.4%と他の年代に比べて低くなっている。

【刃物などを突きつけて、おどす】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね9割強～10割弱だが、男性の20歳代で90.6%と他の年代に比べて低くなっている。

【なぐるふりをして、おどす】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね7割台後半～9割強だが、女性の70歳以上で71.2%と他の年代に比べて低くなっている。

【物を投げつける、ドアをけったり壁に物を投げて、おどす】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね8割弱～9割強だが、男性の20歳代で71.9%と他の年代に比べて低くなっている。

【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね7割台後半～9割台半ばだが、男性の70歳以上で74.3%、女性の70歳以上で72.3%と他の年代に比べて低くなっている。

【持ち物や大切にしている物をこわす】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね6割台後半～8割台半ばだが、男性の30歳代で93.5%と他の年代に比べて高くなっている。

【何を言っても、長期間無視し続ける】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね6割強～7割台後半だが、女性の70歳以上で57.2%と他の年代に比べて低くなっている。

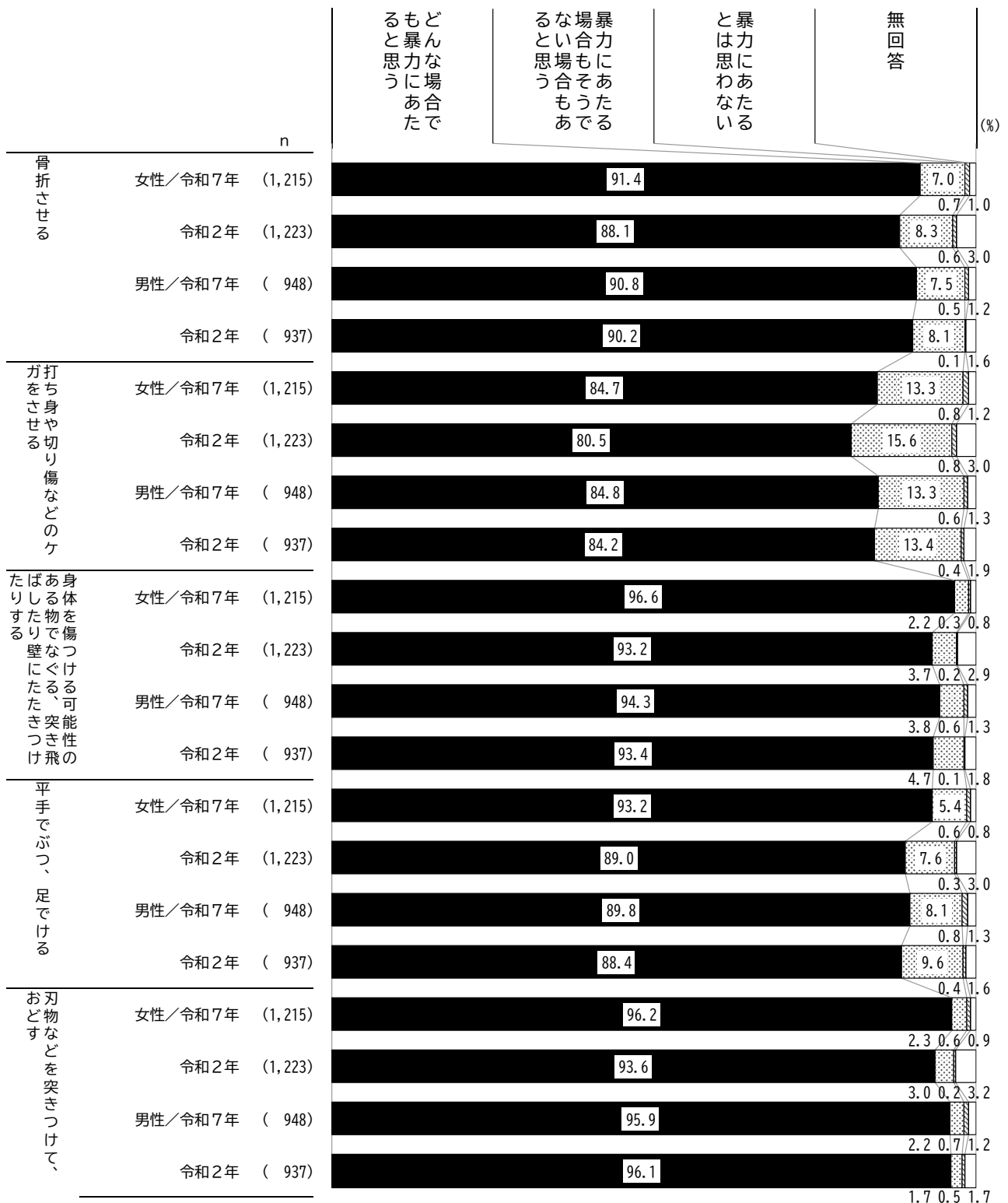
【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね6割弱～7割台後半となっている。

【いやがるのに性的な行為を強要する】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね約8割～9割台後半だが、女性の70歳以上で79.2%と他の年代に比べて低くなっている。

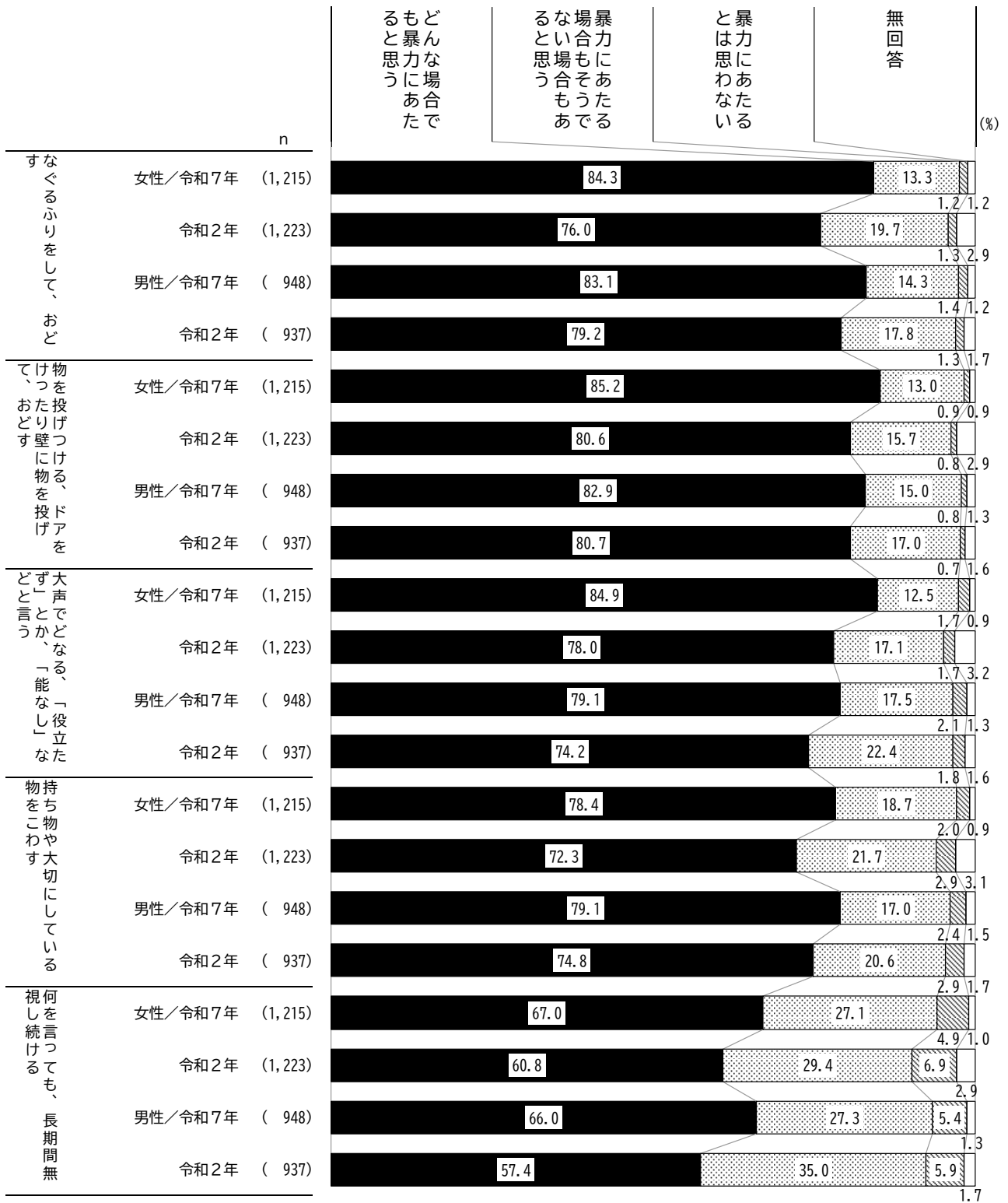
【見たくないのに、性的な動画や画像を見せる】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね7割強～9割強だが、男性の30歳代で93.5%と他の年代に比べて高くなっている。

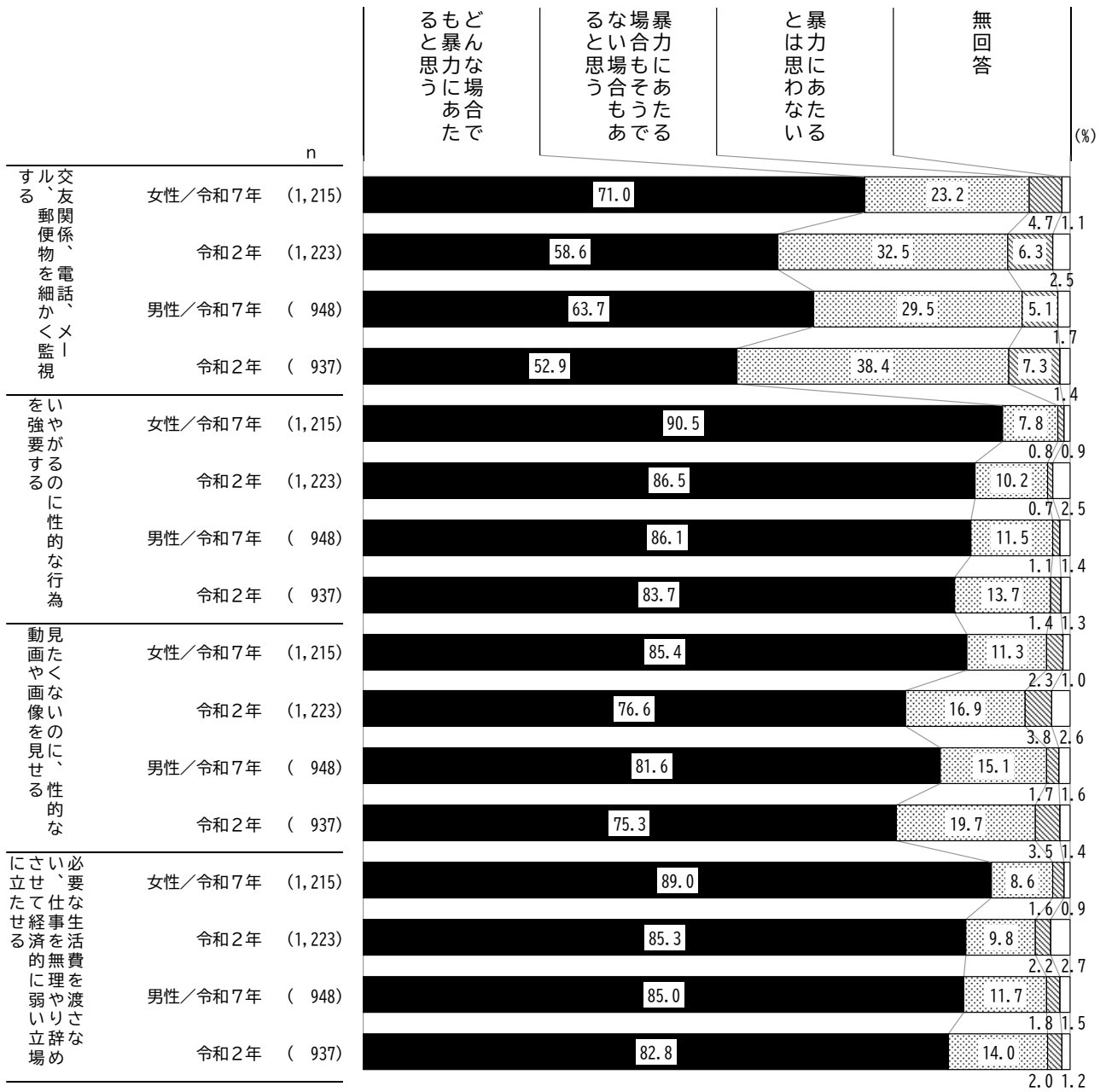
【必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせて経済的に弱い立場に立たせる】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね8割強～9割台半ばだが、女性の70歳以上で79.5%と他の年代に比べて低くなっている。（図表5-2）

図表5-3 夫婦間の暴力と認識される行為（令和2年度調査との比較）



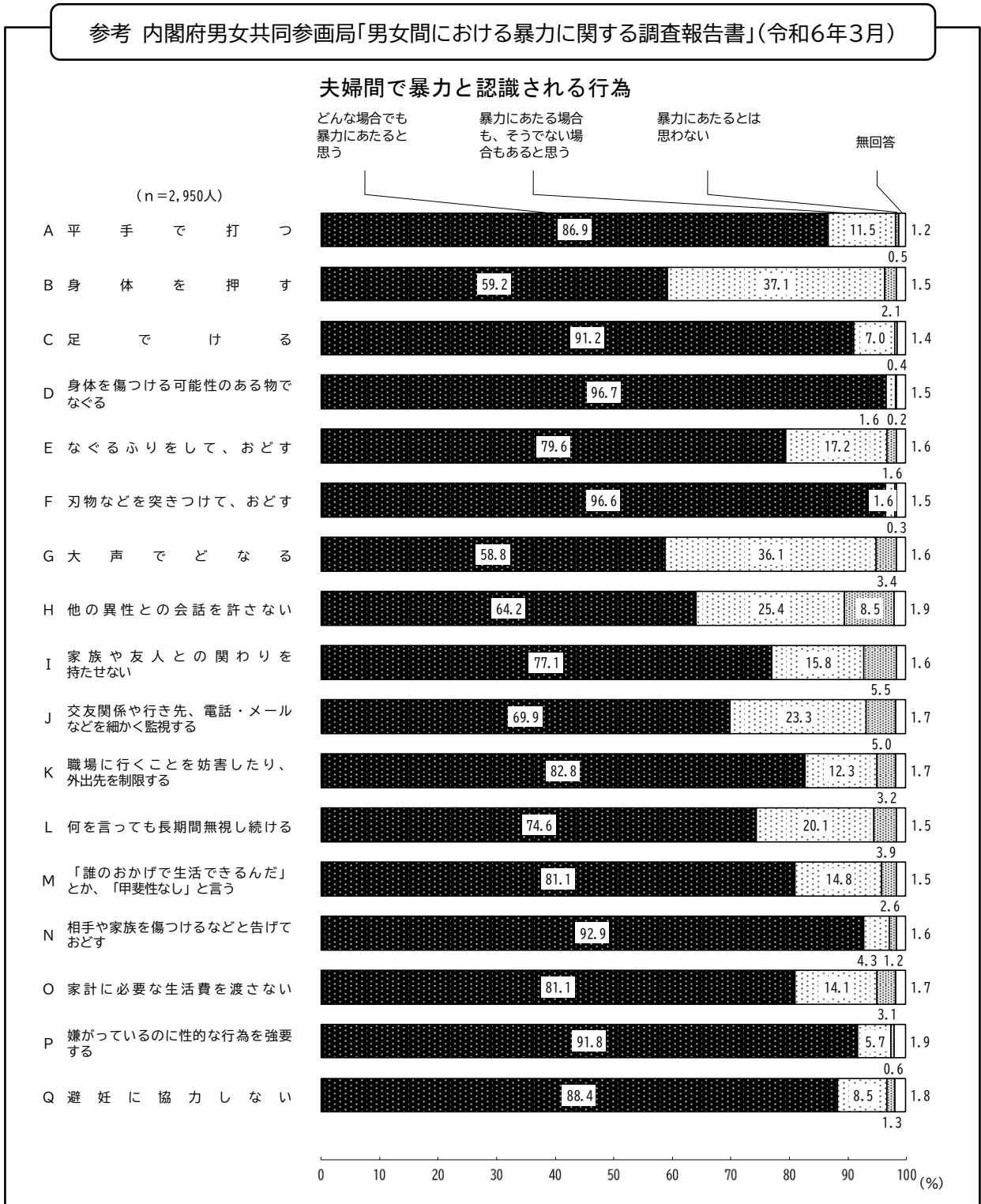
第IV章 調査の結果





第IV章 調査の結果

令和2年度調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合は女性ではすべての項目で増加しており、特に【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】、【見たくないのに、性的な動画や画像を見せる】、【なぐるふりをして、おどす】、【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】、【何を言っても、長期間無視し続ける】、【持ち物や大切にしている物をこわす】の6項目が前回に比べ6ポイント以上増加している。男性では【刃物などを突きつけて、おどす】を除くすべての項目で増加しており、【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】は10.8ポイント、【何を言っても、長期間無視し続ける】は8.6ポイント、それぞれ前回に比べ増加している。(図表5-3)

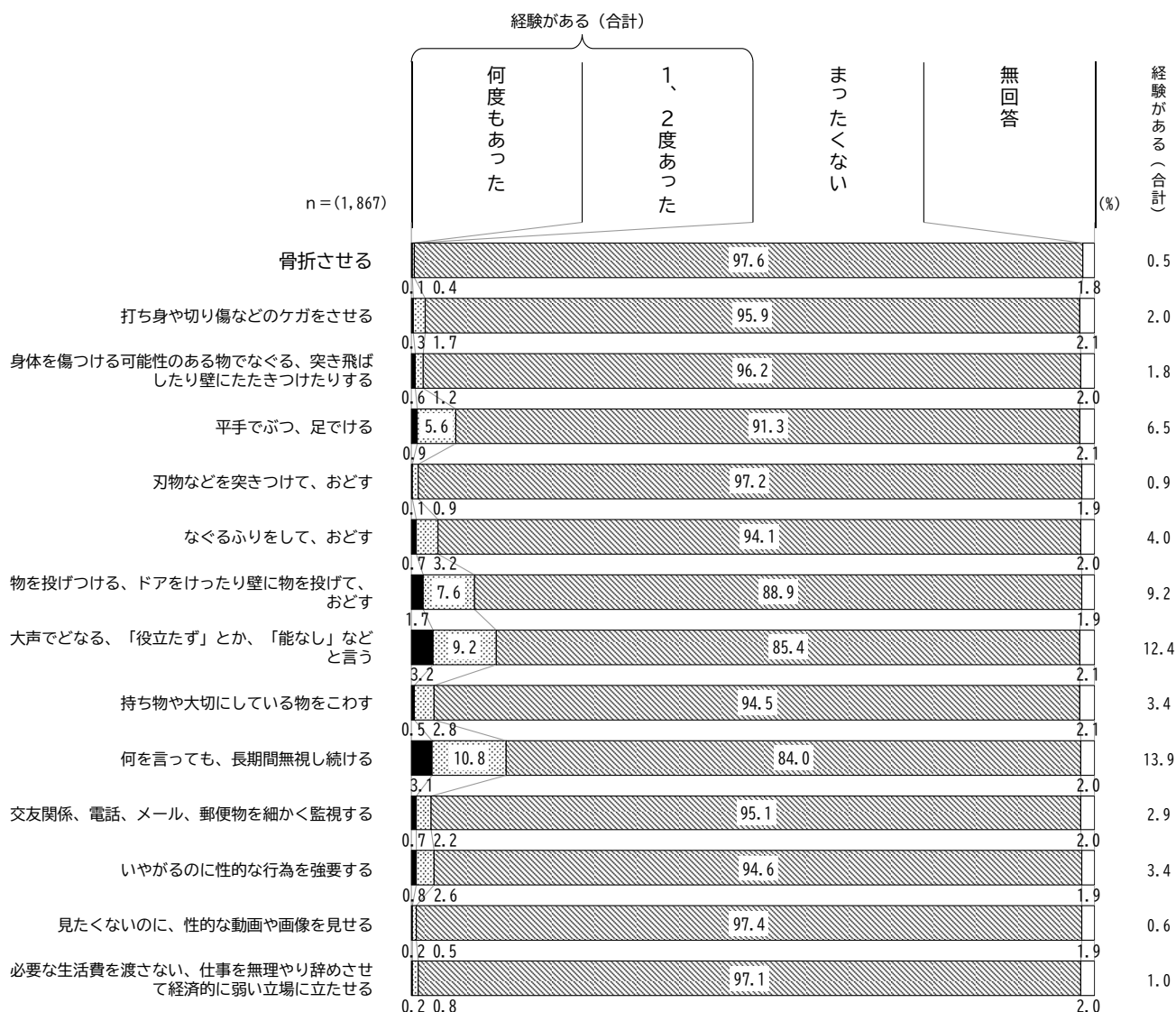


(2) 配偶者等への暴力の加害経験

◎ 《経験がある（合計）》は「何を言っても、長期間無視し続ける」が1割強で最も高くなっている

【問20から問21-7は、配偶者がいる方、または過去に配偶者がいた方にうかがいます】
 (該当されない場合は問22へ)
問20 あなたはこれまでに、あなたの配偶者に対して(1)～(14)のような行為をした
ことがありますか。 (それぞれ1つずつに○)

図表5-4 配偶者等への暴力の加害経験



※この設問は「F4 配偶者の有無で『配偶者がいる』、『配偶者がいたことがあるが、離別・死別した』と回答した人」を対象とした。

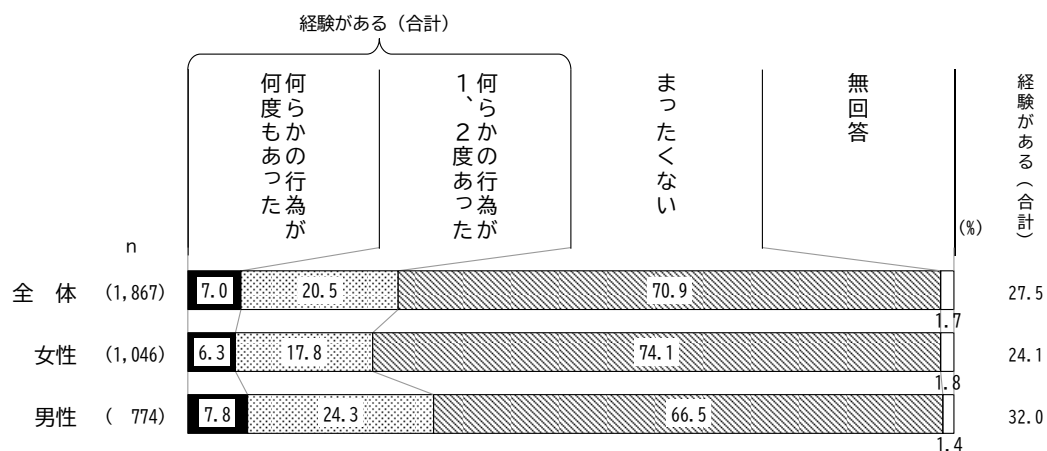
なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

第IV章 調査の結果

配偶者・パートナーがいる（いた）人について14項目の加害行為をした経験を聞いたところ、《経験がある（合計）》（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計）では、【何を言っても、長期間無視し続ける】が13.9%で最も高く、次いで【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】（12.4%）、【物を投げつける、ドアをけったり壁に物を投げて、おどす】（9.2%）となっている。

（図表5-4）

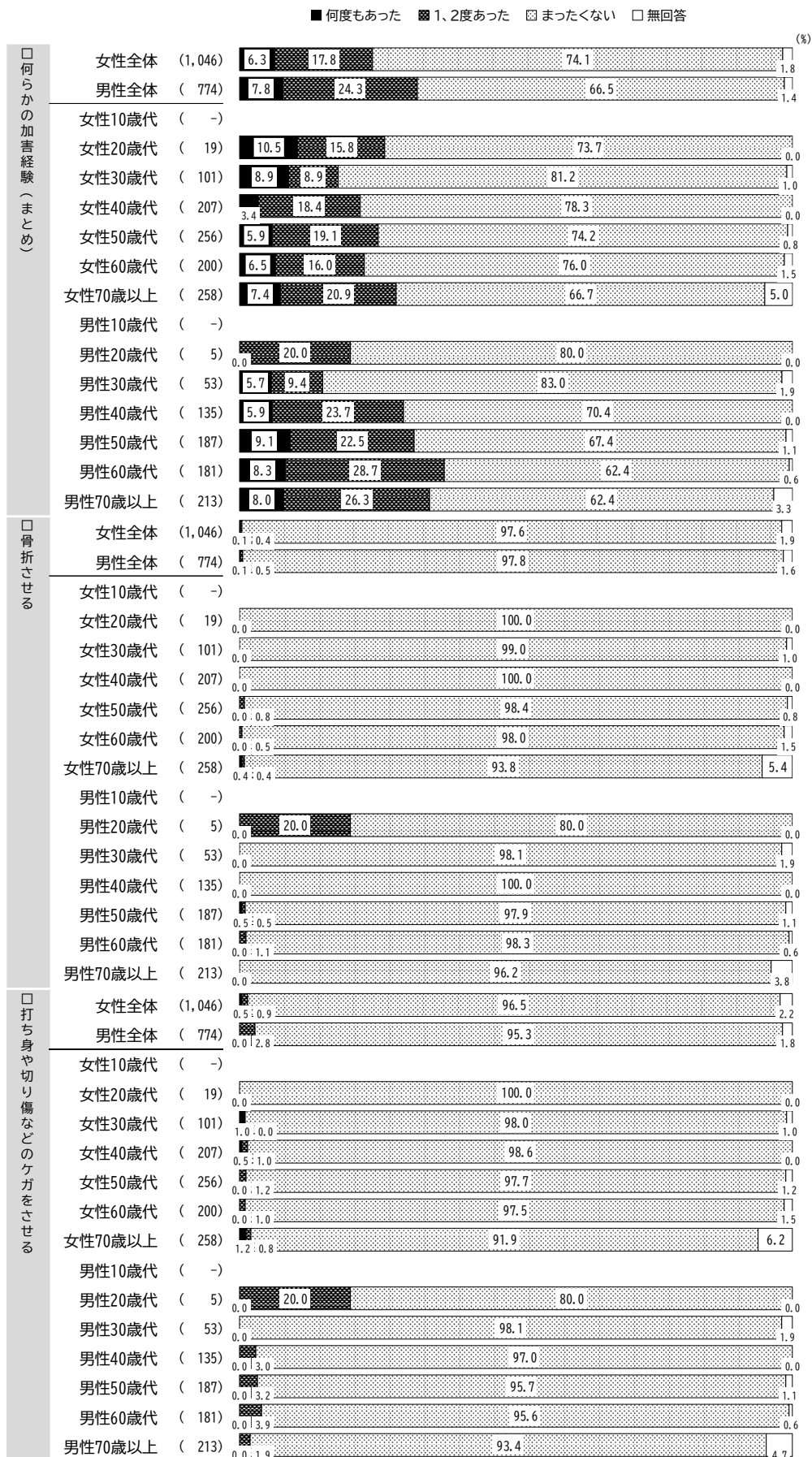
図表 5 - 5 配偶者等への暴力の加害経験（性別）

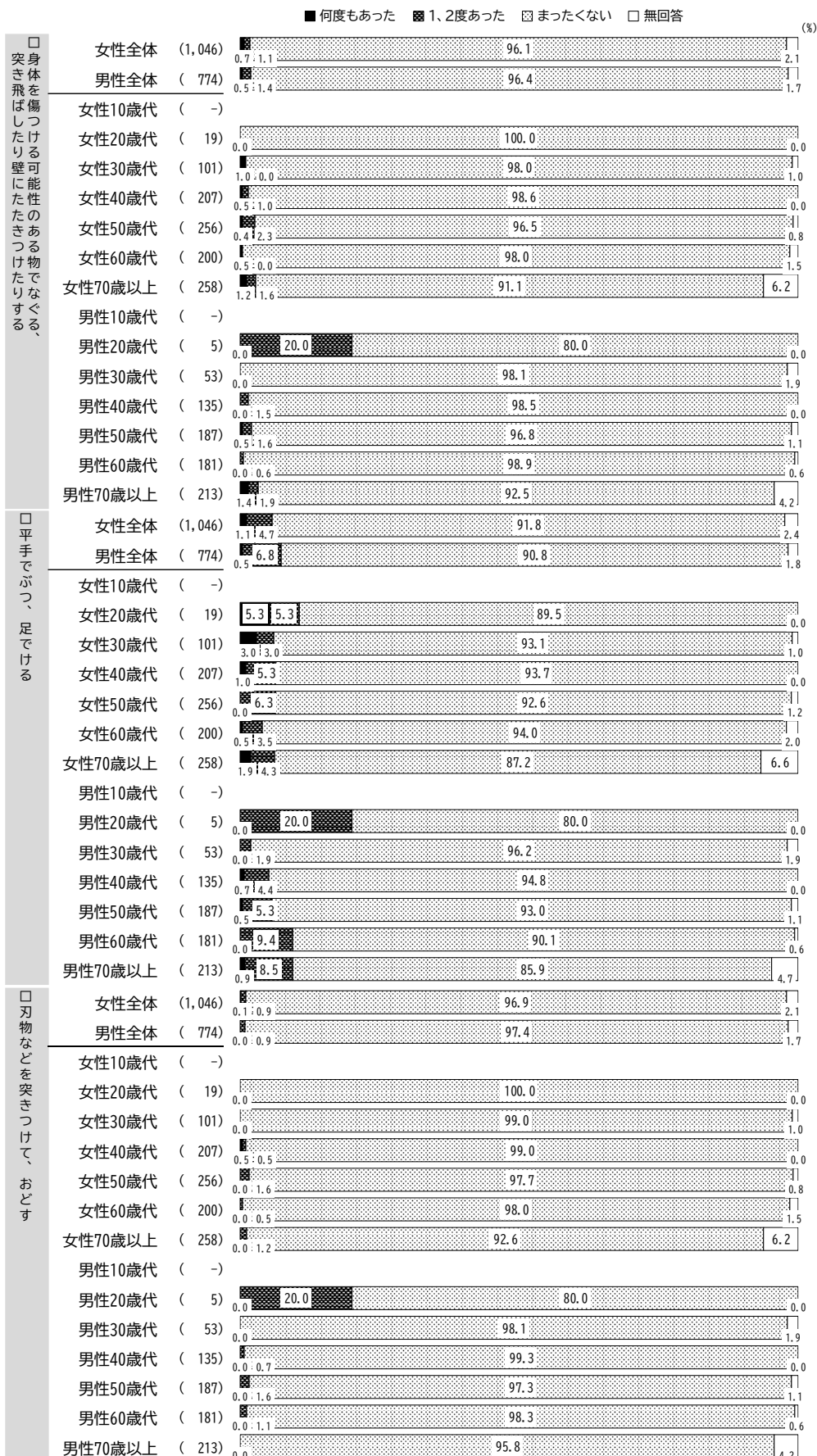


配偶者等への何らかの加害経験がある人をまとめたところ、全体で見ると《経験がある（合計）》で2割台半ばを超えている。

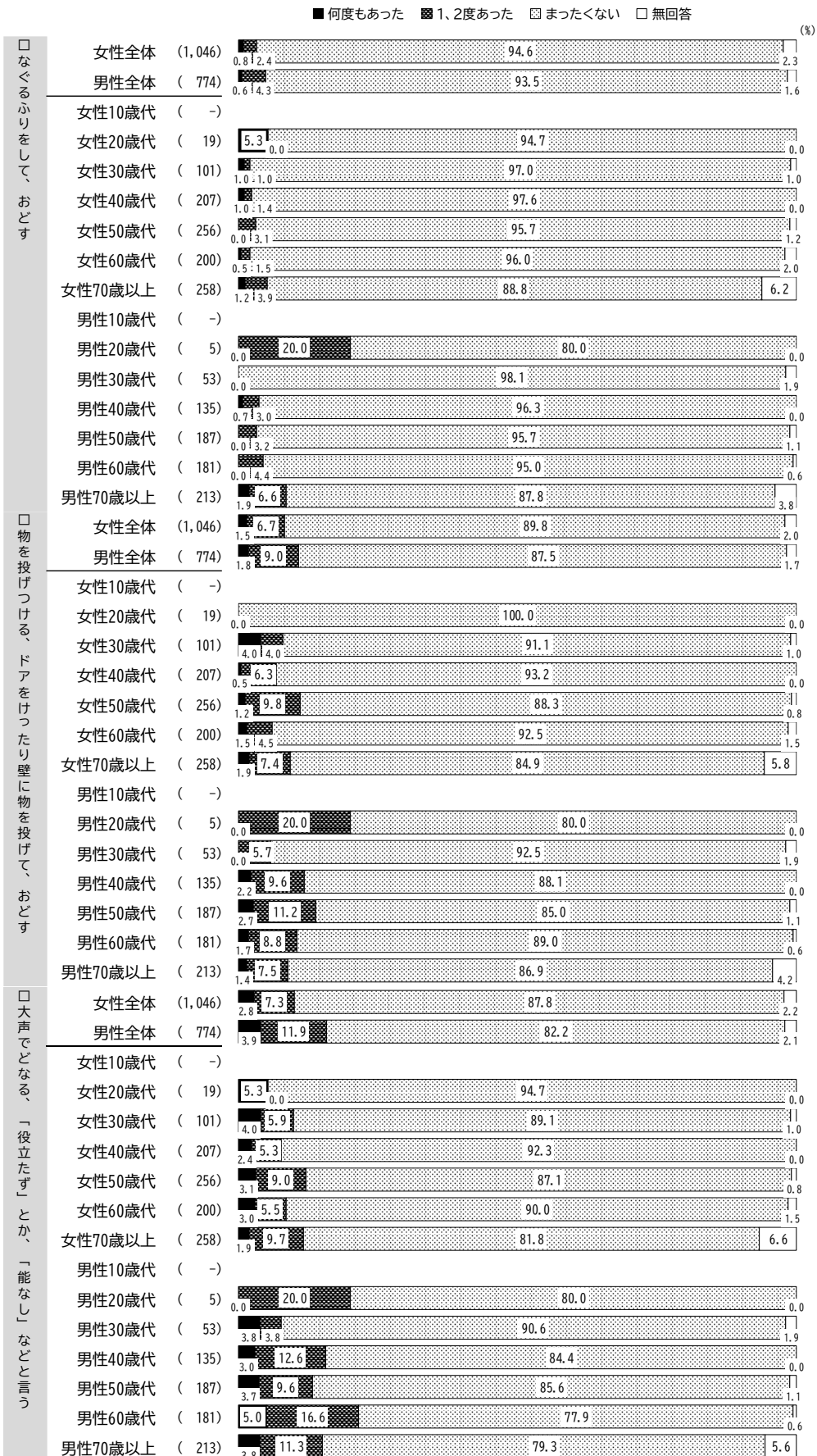
性別で見ると、《経験がある（合計）》は女性（24.1%）、男性（32.0%）と、男性が女性より7.9ポイント上回っている。（図表 5 - 5）

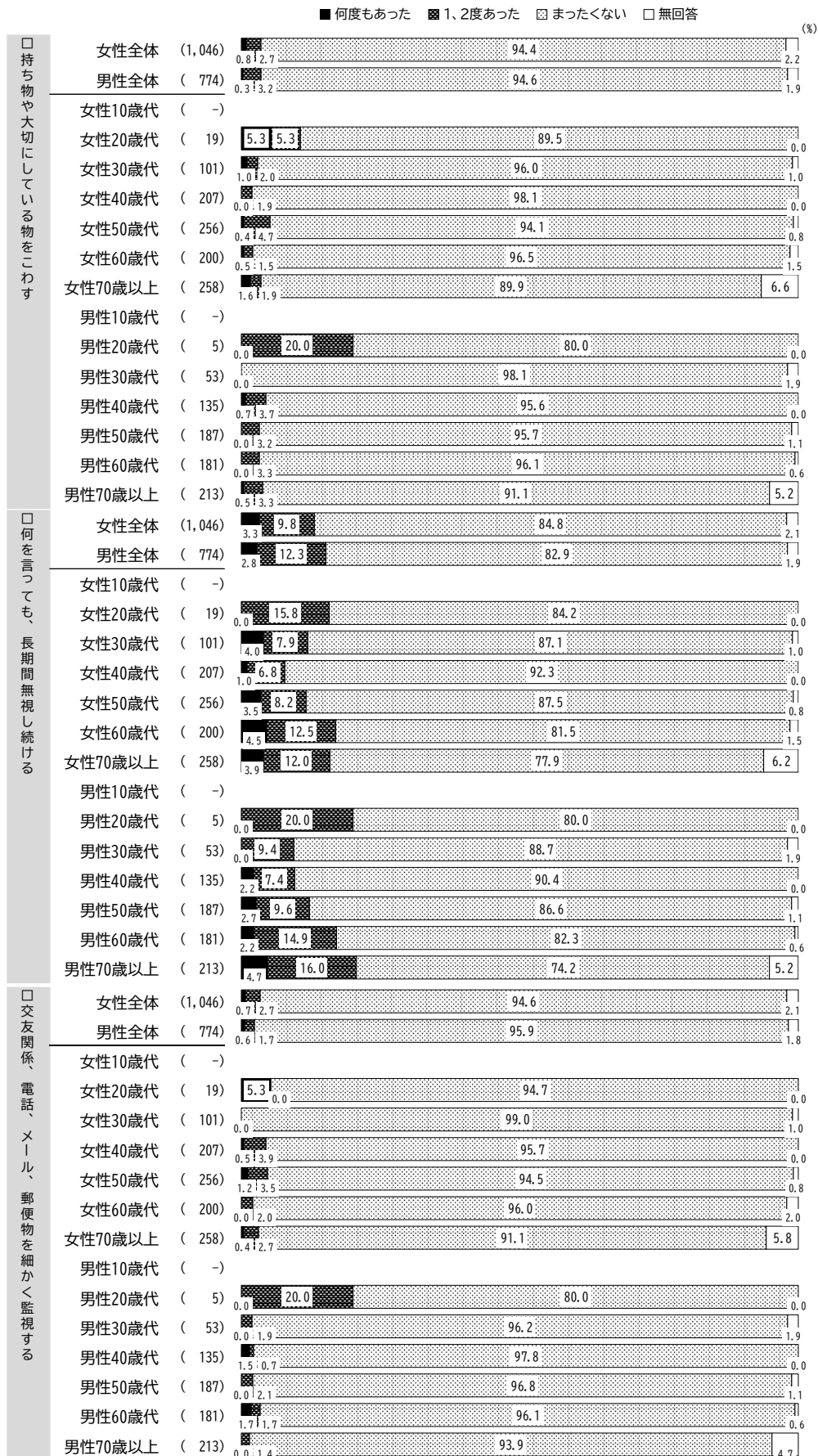
図表5-6 配偶者等への暴力の加害経験（性別・性／年齢別）



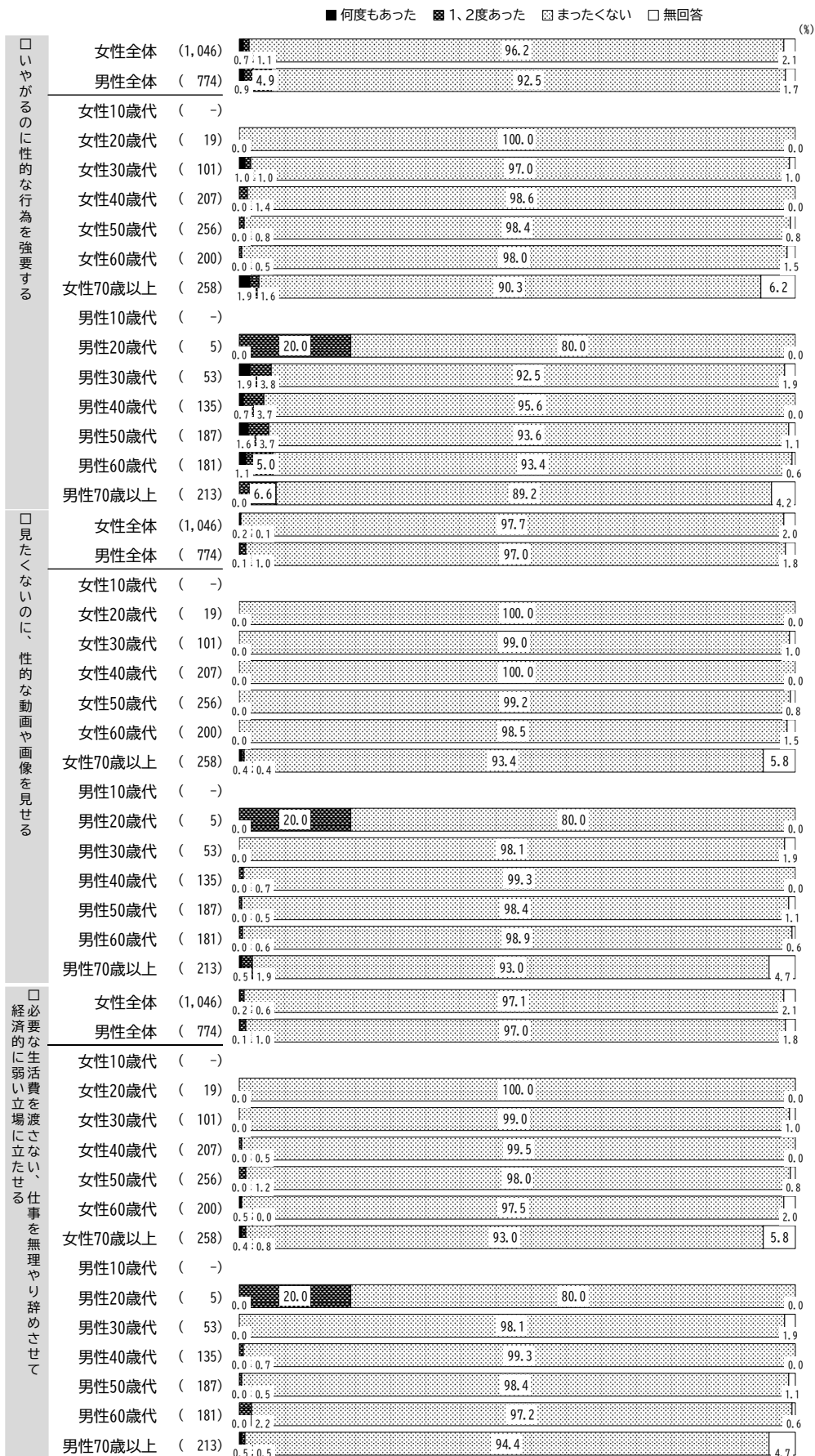


第IV章 調査の結果





第IV章 調査の結果



※基数が不足しているため、性/年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性別で見ると、《経験がある（合計）》で女性と男性の差が大きいのは【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】で女性（10.1%）、男性（15.8%）と、男性が女性を5.7ポイント上回っている。また、【何らかの加害経験（まとめ）】では女性（24.1%）、男性（32.1%）と、男性が女性を8ポイント上回っている。

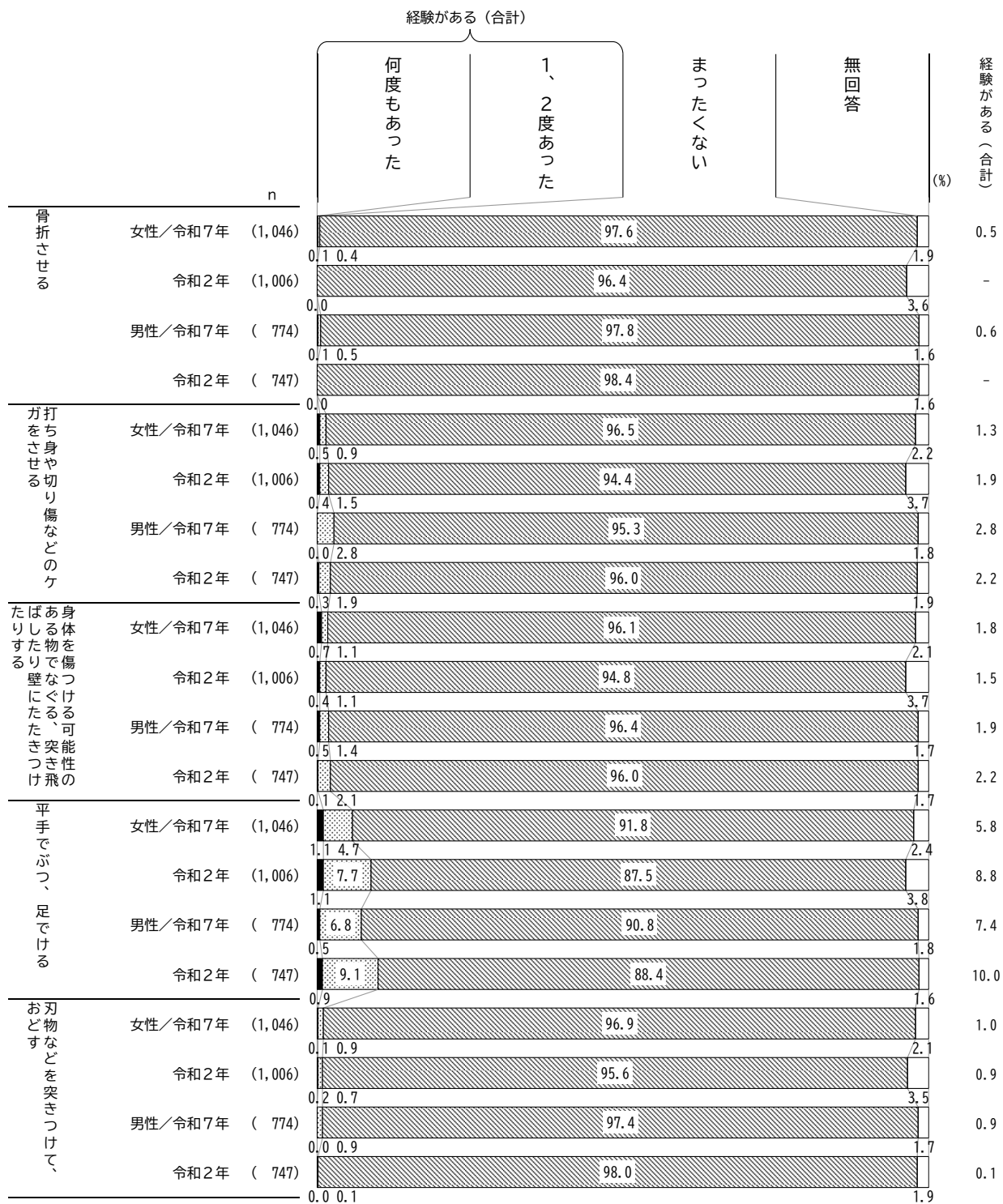
性／年齢別で見ると、【何らかの加害経験（まとめ）】では《経験がある（合計）》は男性の60歳代で3割台半ばを超え他の年代に比べて高くなっている。

【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】では《経験がある（合計）》は男性の60歳代（21.6%）が2割強となっている。

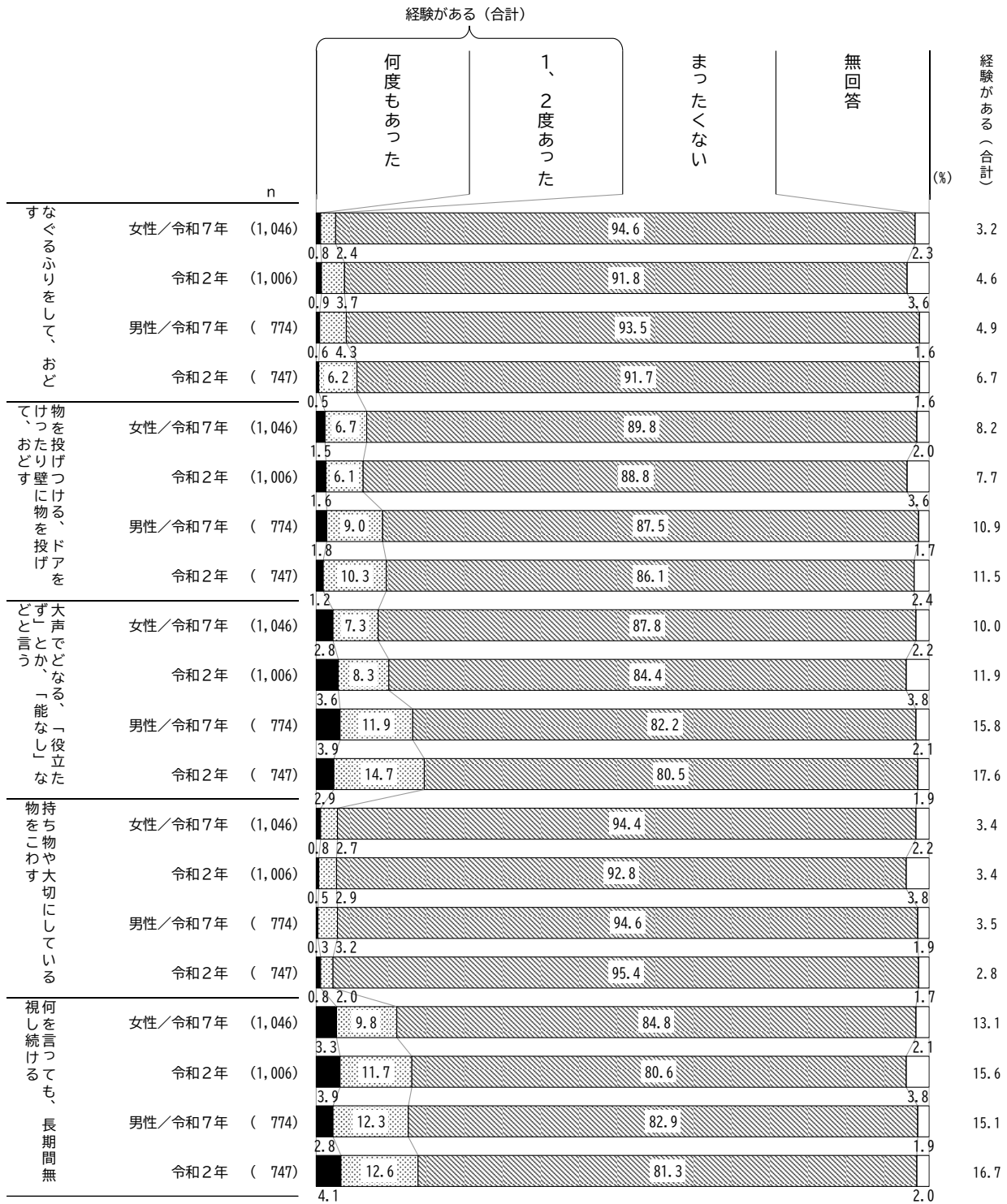
【何を言っても、長期間無視し続ける】では《経験がある（合計）》は男性の70歳以上（20.7%）が2割を超えている。（図表5－6）

第IV章 調査の結果

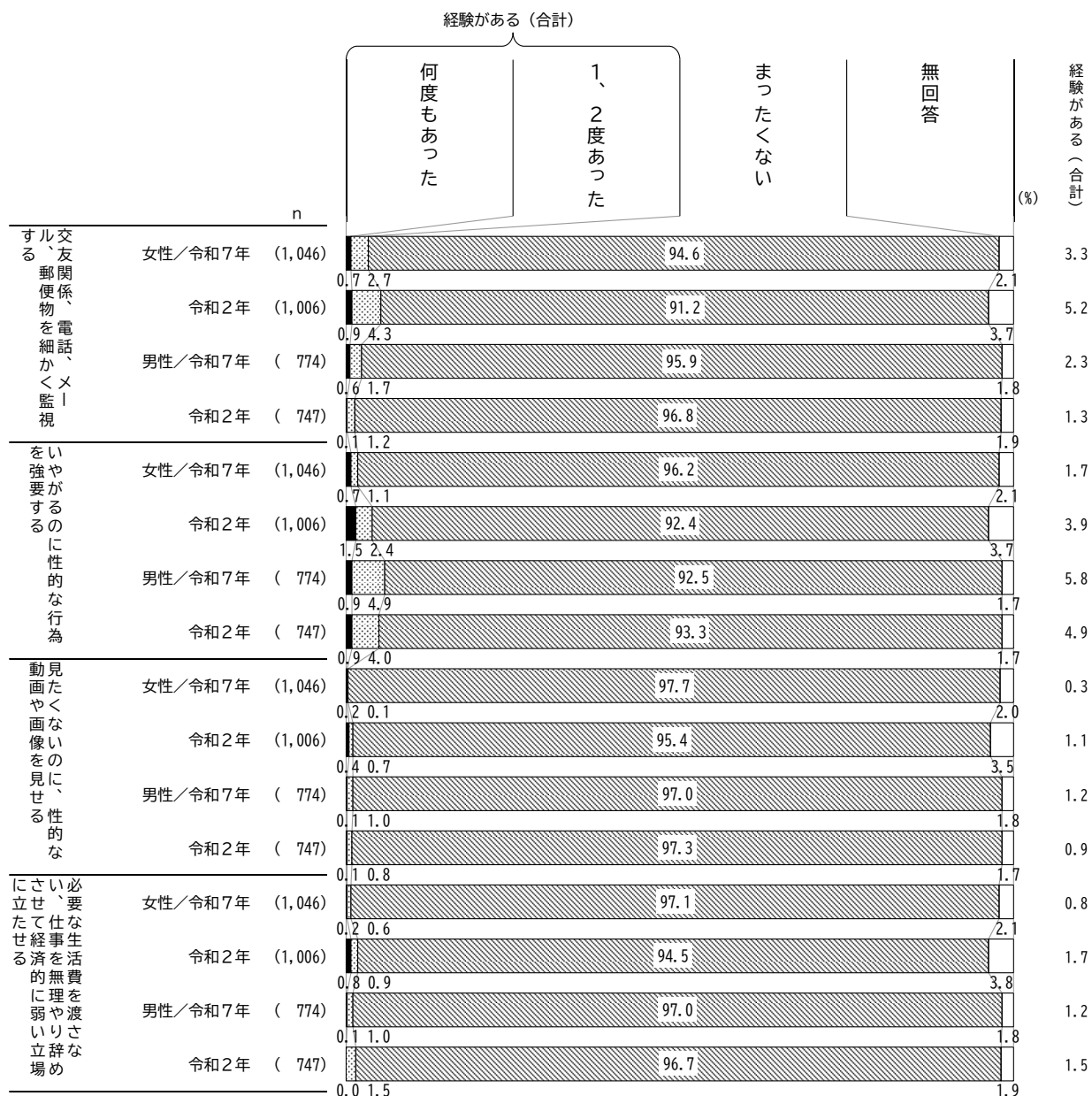
図表5-7 配偶者等への暴力の加害経験（令和2年度調査との比較）



第IV章 調査の結果



第IV章 調査の結果



令和2年度調査と比較すると、「経験がある（合計）」は、女性では【平手でごつ、足でける】、【何を言っても、長期間無視し続ける】、【いやがるのに性的な行為を強要する】の3つの項目で2ポイント以上の減少となっている。男性では【平手でごつ、足でける】で2.6ポイントの減少となったが、他に大幅な増減が見られた項目はなかった。（図表5-7）

(3) 加害行為に至ったきっかけ

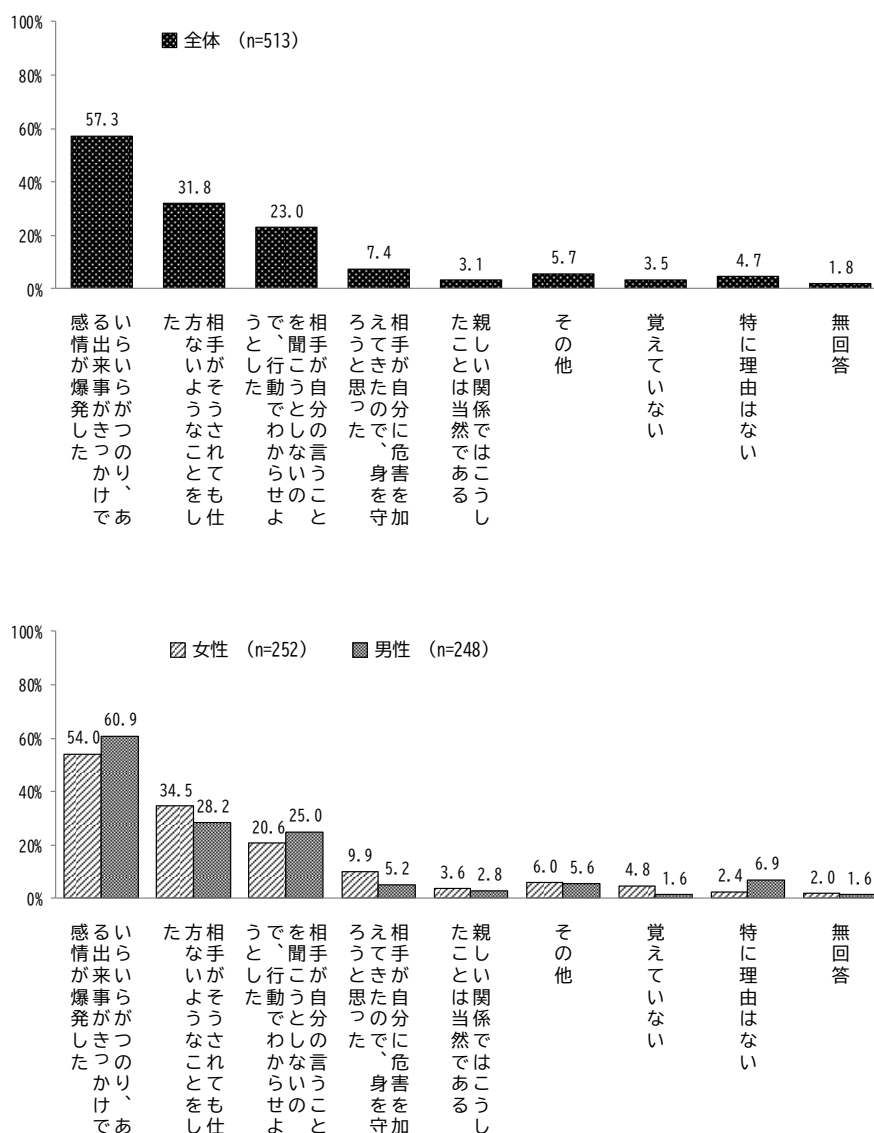
◎「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が最も高く、5割台半ばを超えている

【問20で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】

問20-1 あなたがそのような行為をするに至ったきっかけは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

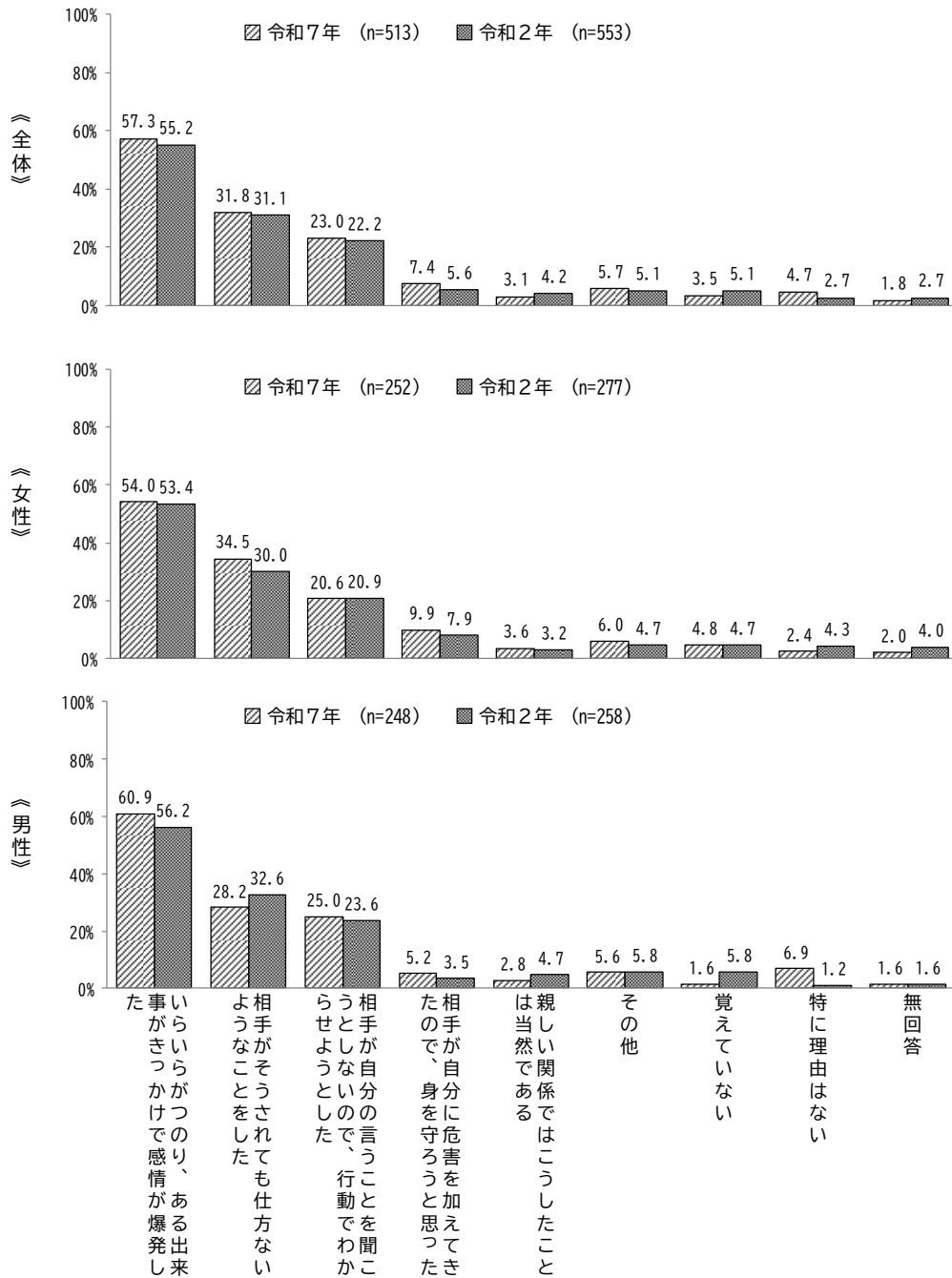
図表5-8 加害行為に至ったきっかけ



いずれかの加害行為をするに至ったきっかけは、全体でみると「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が57.3%で最も高く、次いで「相手がそうされても仕方ないようなことをした」(31.8%)、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」(23.0%)となっている。

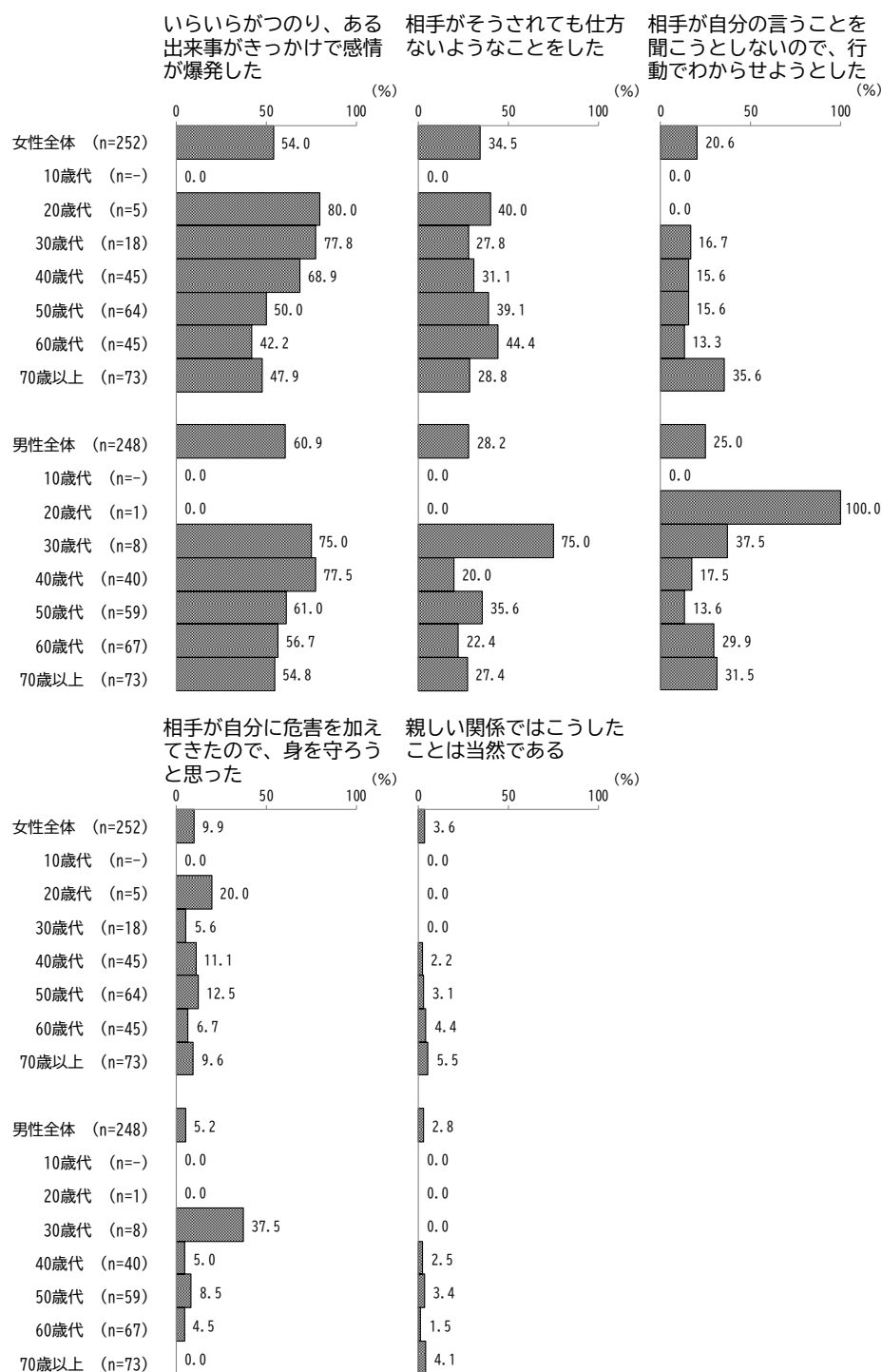
性別でみると、「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」では女性(54.0%)が5割台半ば、男性(60.9%)が6割を超えてそれぞれ最も高くなっている。(図表5-8)

図表5-9 加害行為に至ったきっかけ（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、全体で見ると「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」は、前回より2.1ポイント増加している。女性では「相手がそうされても仕方ないようなことをした」で前回より4.5ポイント増加している。男性では「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」で前回より4.7ポイント増加している。（図表5-9）

図表5-10 加害行為に至ったきっかけ（性／年齢別、上位5項目）



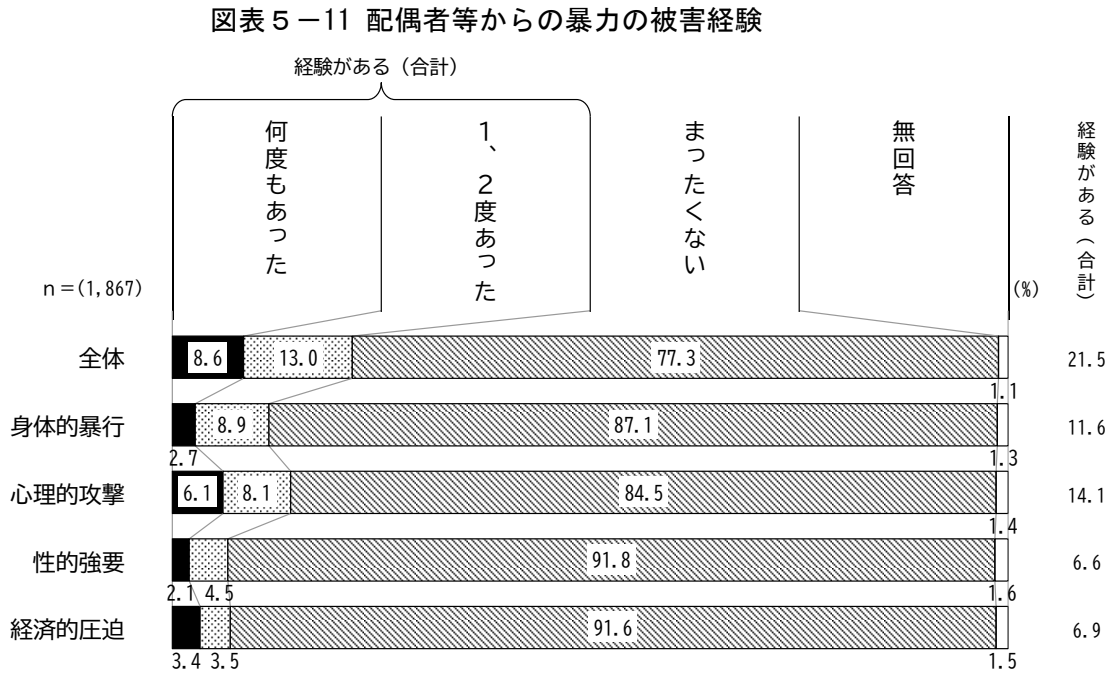
※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10～30歳代、男性10～30歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「いろいろがつり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」は女性では40歳代が68.9%、男性では40歳代が77.5%でそれぞれ最も高くなっている。「相手がそうされても仕方がないようなことをした」は女性では60歳代が44.4%、男性の50歳代が35.6%でそれぞれ最も高くなっている。(図表5-10)

(4) 配偶者等からの暴力の被害経験

◎ 《経験がある（合計）》は、【心理的攻撃】が1割台半ばで最も高く、次いで【身体的暴行】が1割強となっている

問21 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から(1)～(4)のような行為をされたことがありますか。(それぞれ1つずつに○)

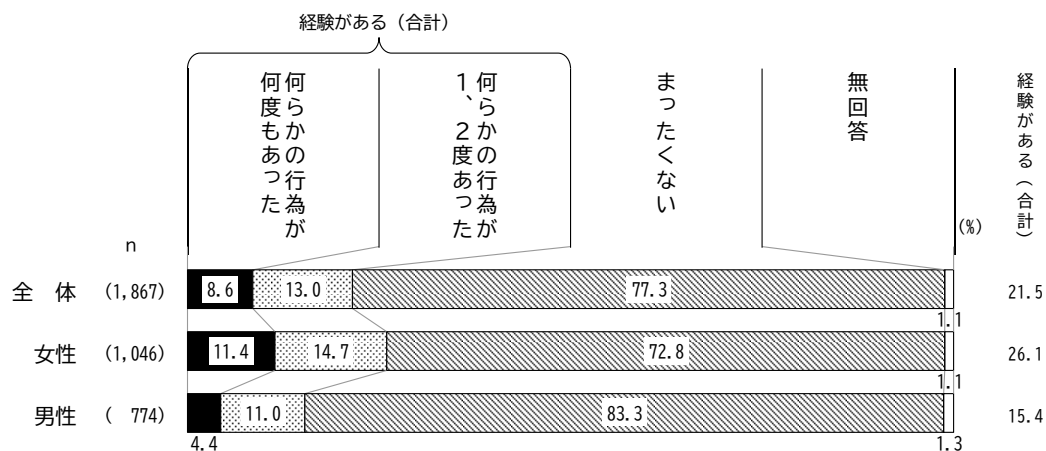


※この設問は「F4 配偶者の有無で『配偶者がいる』、『配偶者がいたことがあるが、離別・死別した』と回答した人」を対象とした。

選択肢	行為の内容
身体的暴行	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行
心理的攻撃	人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じさせるような脅迫
性的強要	いやがっているのに、性的な行為を強要する、見たくないのに性的な映像等を見せる、避妊に協力しないなど
経済的圧迫	生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害するなど

被害経験について、《経験がある（合計）》（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計）は、【身体的暴行】（11.6%）、【心理的攻撃】（14.2%）、【性的強要】（6.6%）、【経済的圧迫】（6.9%）となっている。（図表5-11）

図表 5-12 配偶者等からの暴力の被害経験（性別）

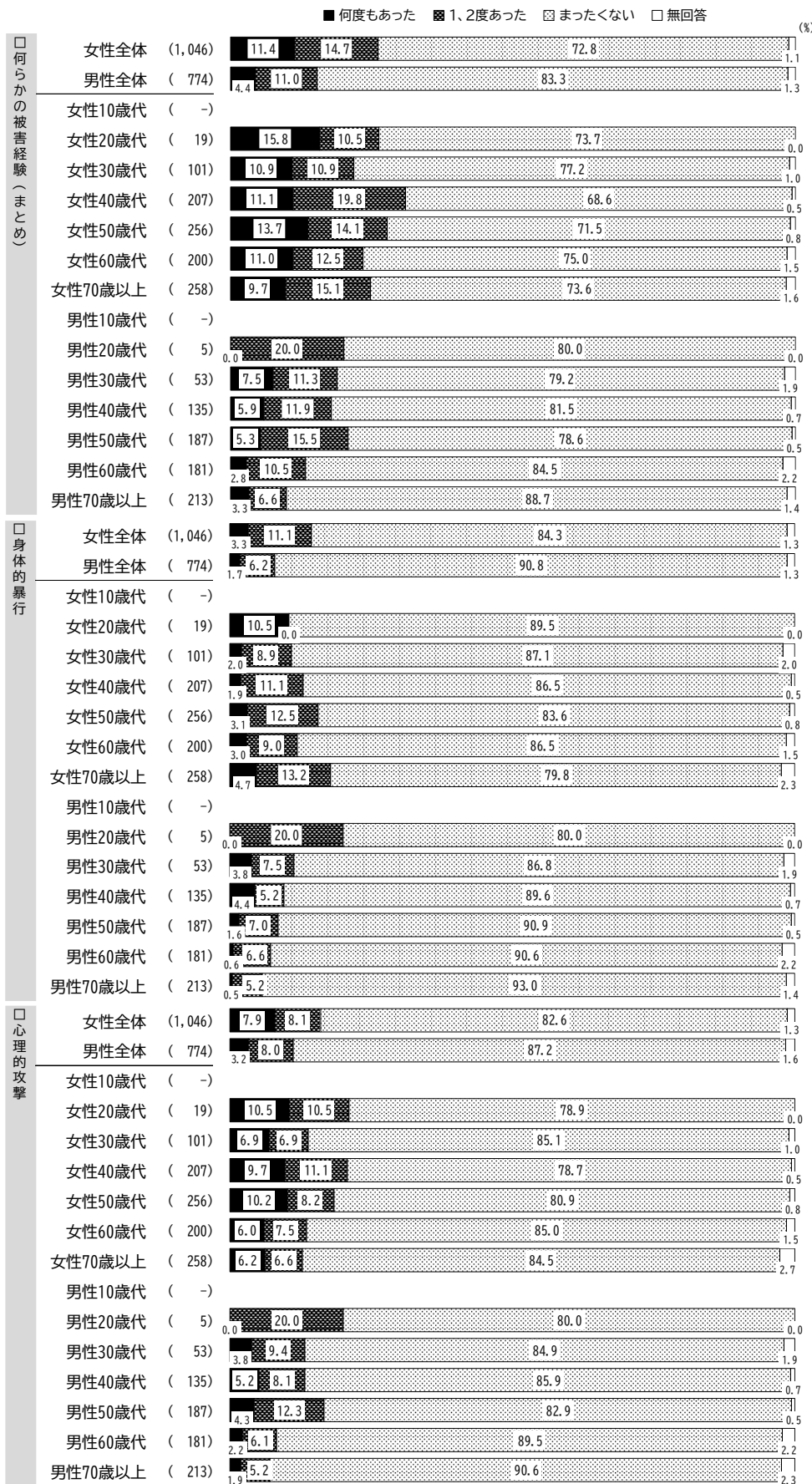


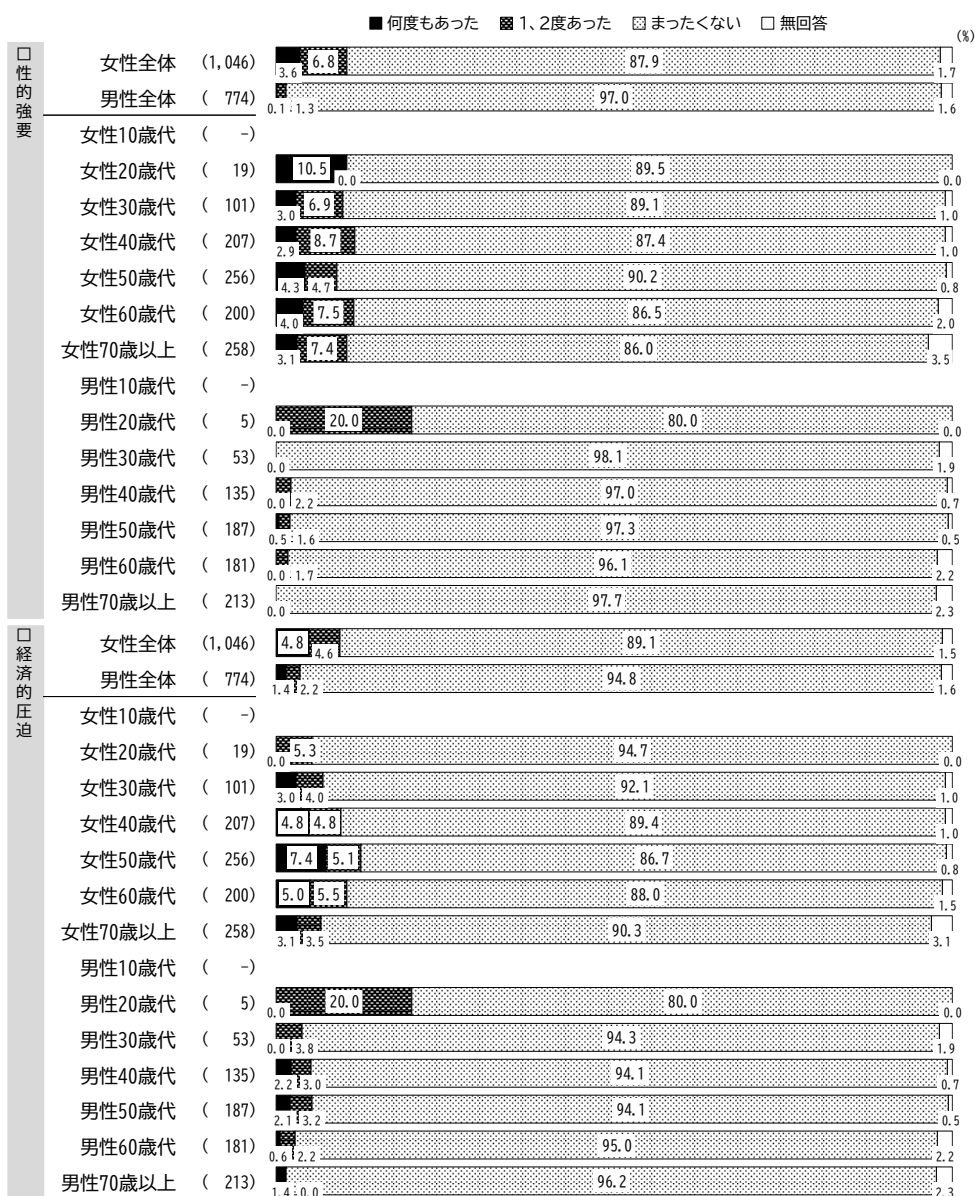
4つの行為のうち、何らかの被害経験がある人をまとめたところ、《経験がある（合計）》は、全体で21.5%となっている。

性別で見ると、《経験がある（合計）》は女性（26.1%）、男性（15.4%）と、女性が男性を10.7ポイント上回っている。（図表5-12）

第IV章 調査の結果

図表5-13 配偶者等からの暴力の被害経験（性別・性／年齢別）





※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10～20歳代と男性10～20歳代は参考扱いとする。

第IV章 調査の結果

4つの行為の被害経験について、性別で見ると、《経験がある（合計）》は【身体的暴行】では女性（14.4%）、男性（7.9%）と6.5ポイント、【心理的攻撃】では女性（16.0%）、男性（11.2%）と4.8ポイント、【性的強要】では女性（10.4%）、男性（1.4%）と9.0ポイント、【経済的圧迫】では女性（9.4%）、男性（3.6%）と5.8ポイント、それぞれ女性が男性を上回っている。

性／年齢別で見ると、【何らかの被害経験（まとめ）】について《経験がある（合計）》は女性ではすべての年代で男性を上回っており、男性では50歳代が20.8%と最も高くなっている。

【身体的暴行】について《経験がある（合計）》は女性の70歳以上で17.9%、男性の30歳代で11.3%と最も高くなっている。

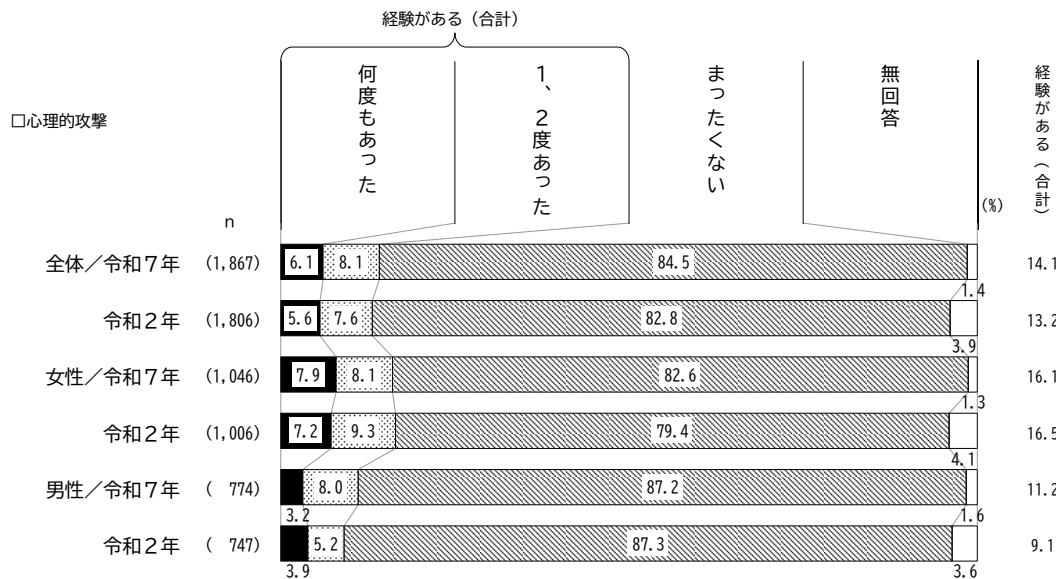
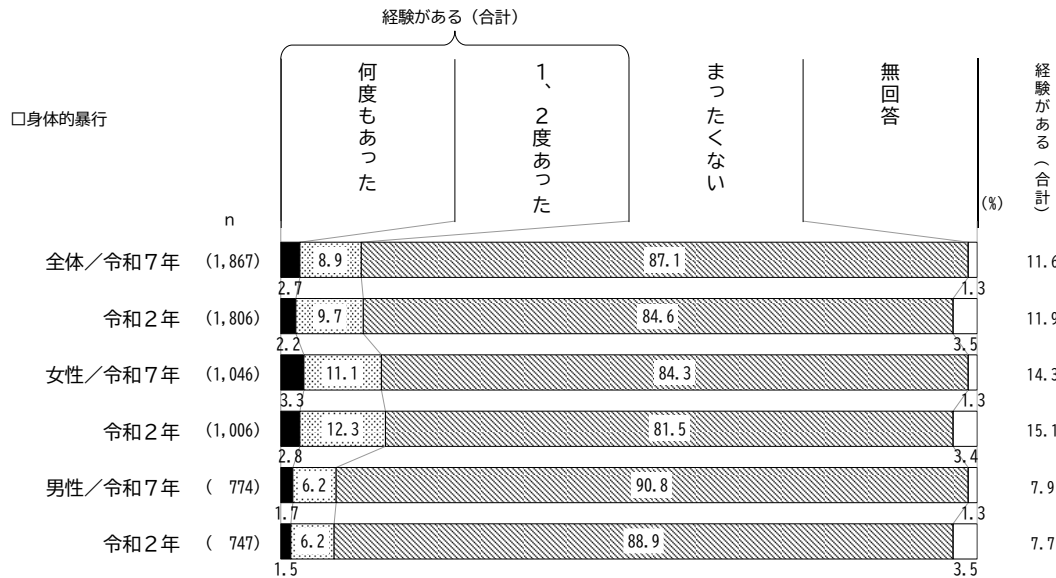
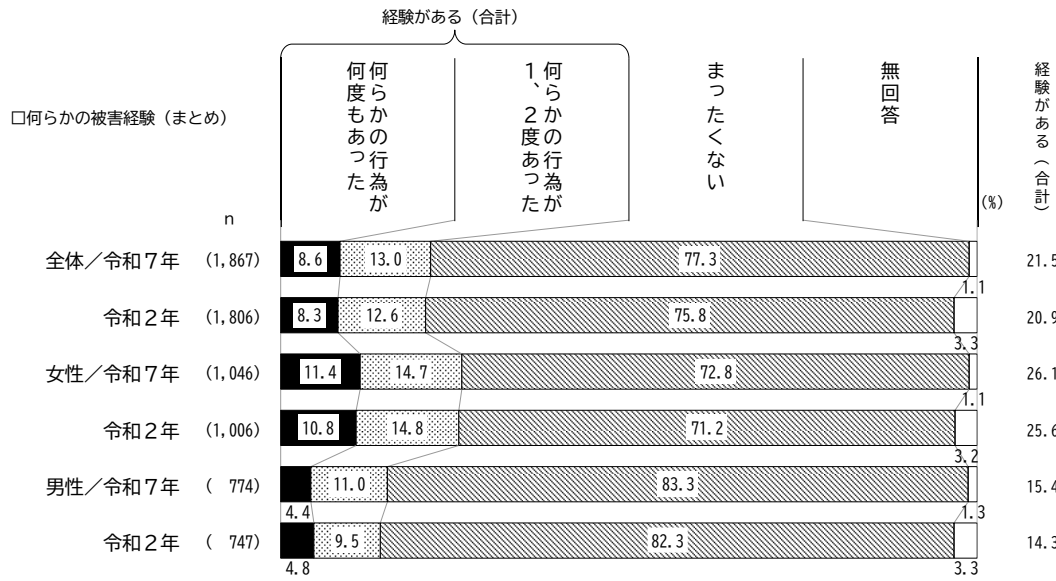
【心理的攻撃】について《経験がある（合計）》は女性の40歳代で20.8%、男性の50歳代で16.6%と最も高くなっている。

【性的強要】について《経験がある（合計）》は女性の40歳代と60歳代で1割強となっている。

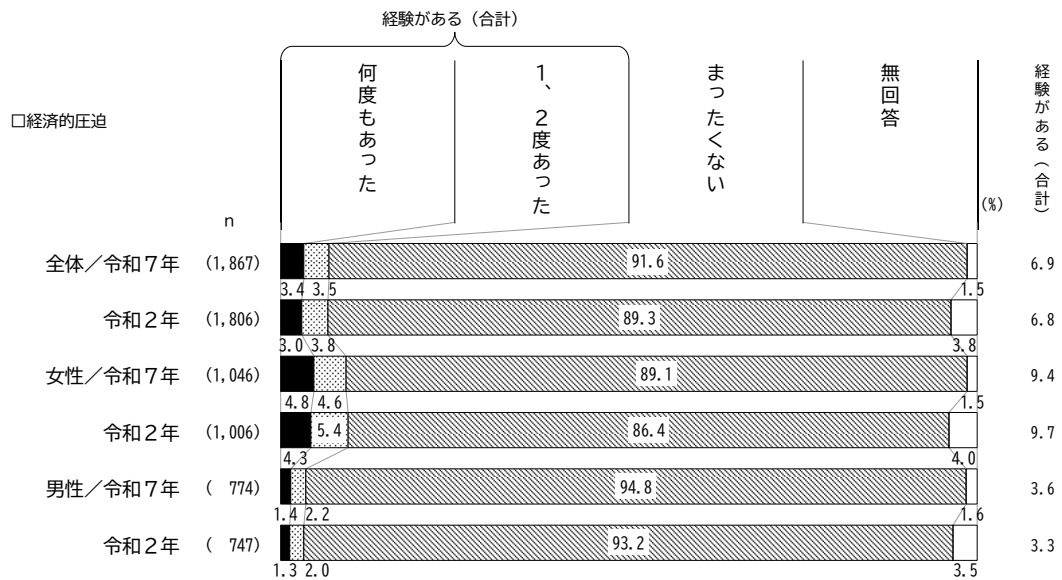
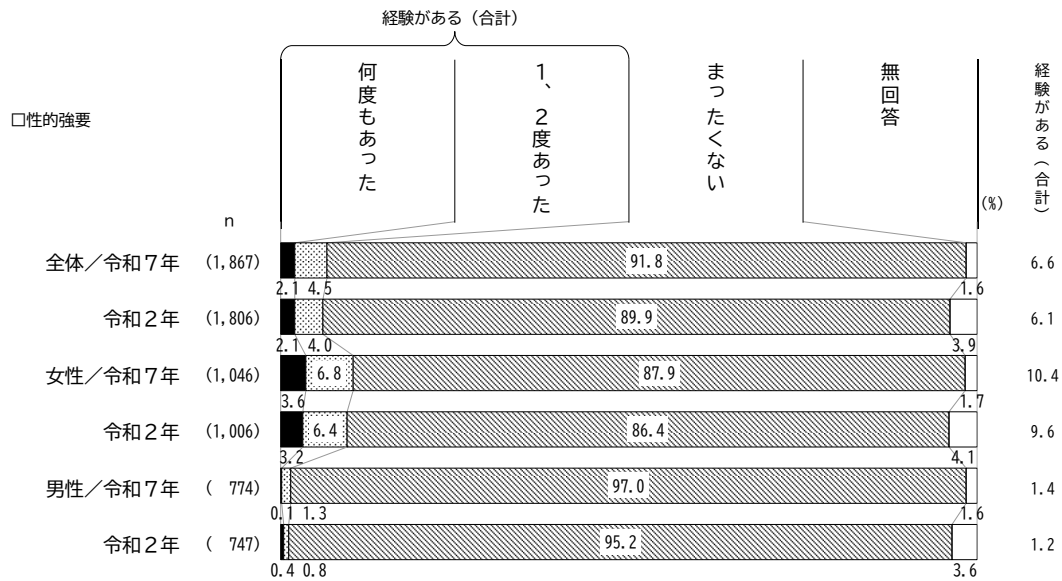
【経済的圧迫】について《経験がある（合計）》は女性の50～60歳代で1割を超えている。

(図表5-13)

図表5-14 配偶者等からの暴力の被害経験（令和2年度調査との比較）



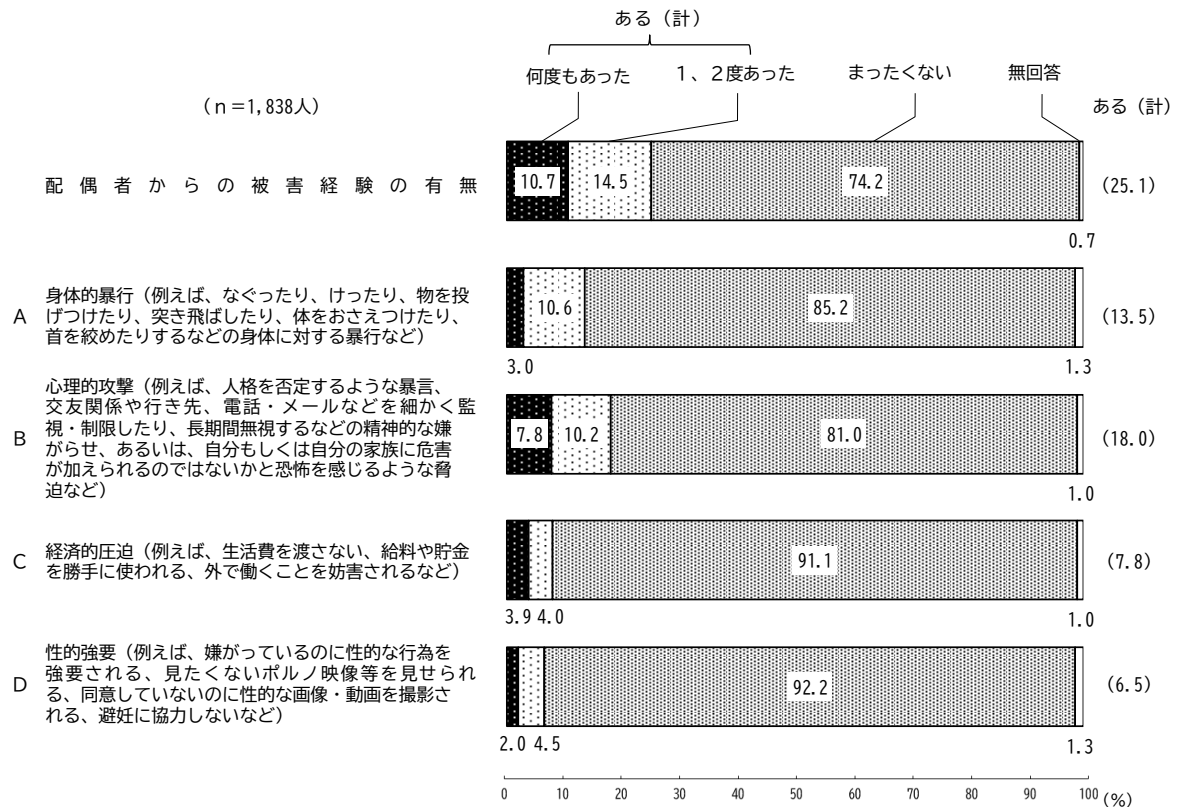
第IV章 調査の結果



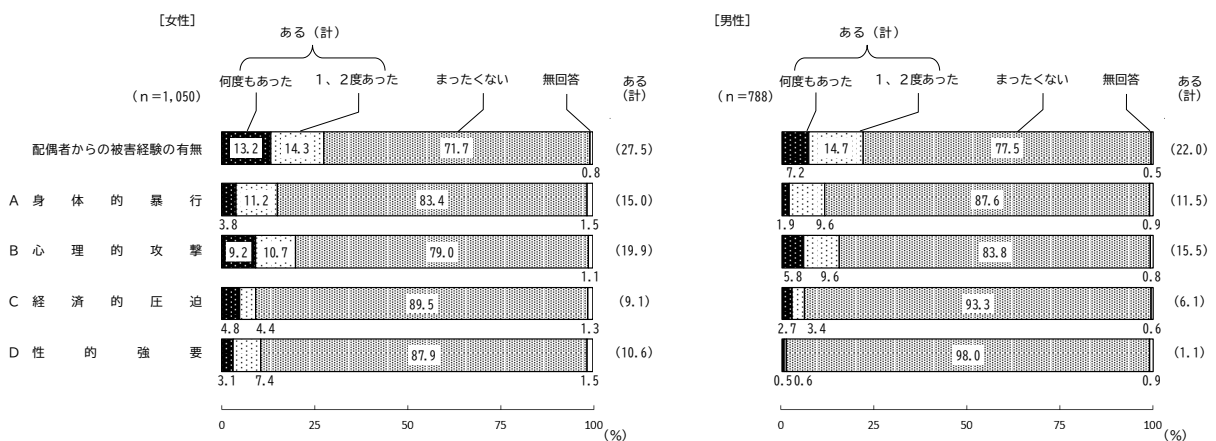
令和2年度調査と比較すると、《経験がある(合計)》は【何らかの被害経験(まとめ)】では前回より男性が1.1ポイント増加している。【心理的攻撃】では前回より男性が2.1ポイント増加している。【身体的暴行】、【性的強要】、【経済的圧迫】では男女とも大きな差異は見られない。(図表5-14)

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)

配偶者からの被害経験の有無



配偶者からの被害経験の有無 (性別)

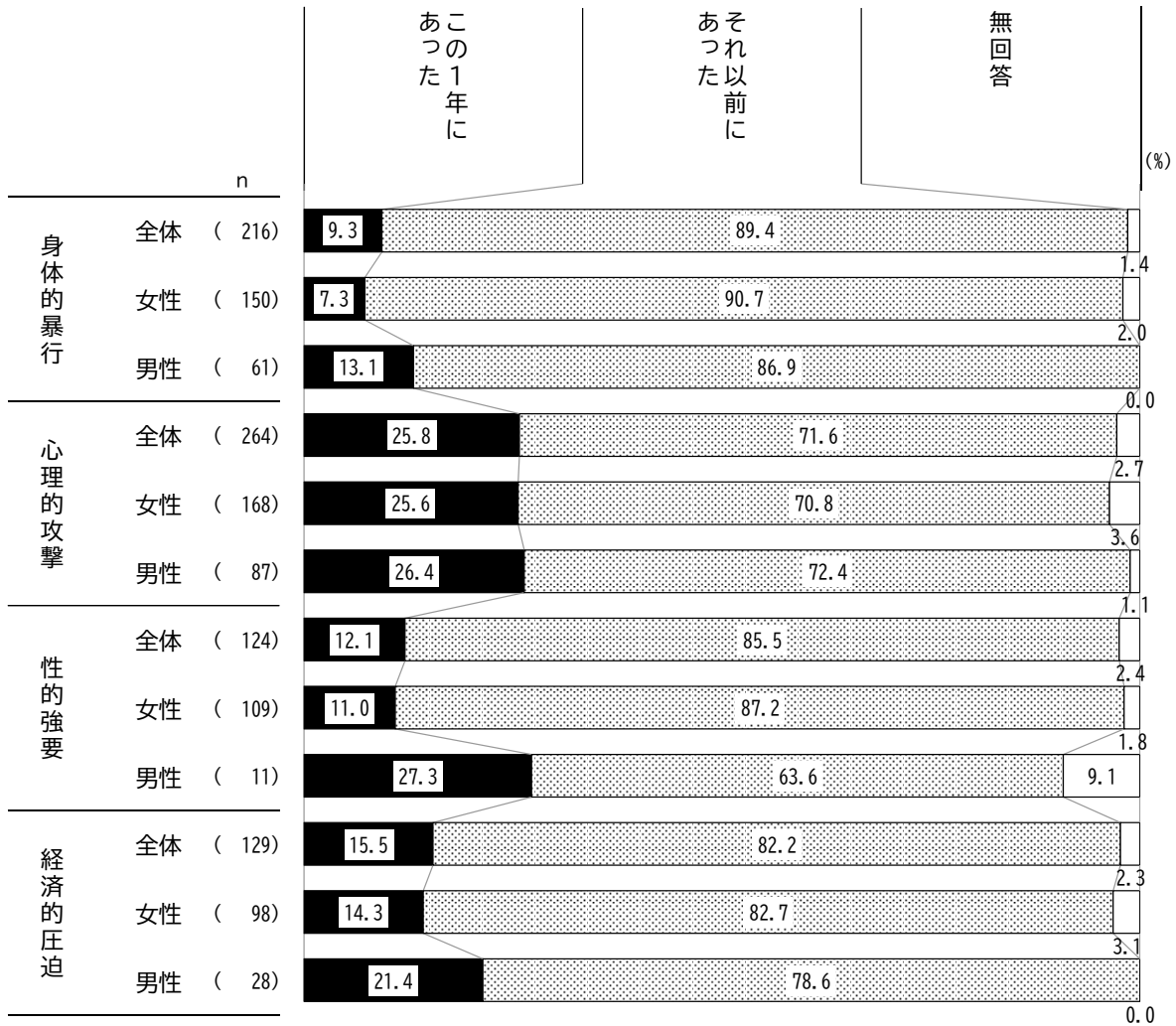


(5) 配偶者等からの暴力の被害経験の時期

◎ 【心理的攻撃】で「この1年にあった」が2割台半ばとなっている

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】
問21-1 あなたが、その相手の行為を受けたのはいつごろですか。
 (それぞれ1つずつに○)

図表5-15 配偶者等からの暴力の被害経験の時期



※基数が不足しているため、【性的強要】の男性、【経済的圧迫】の男性は参考扱いとする。

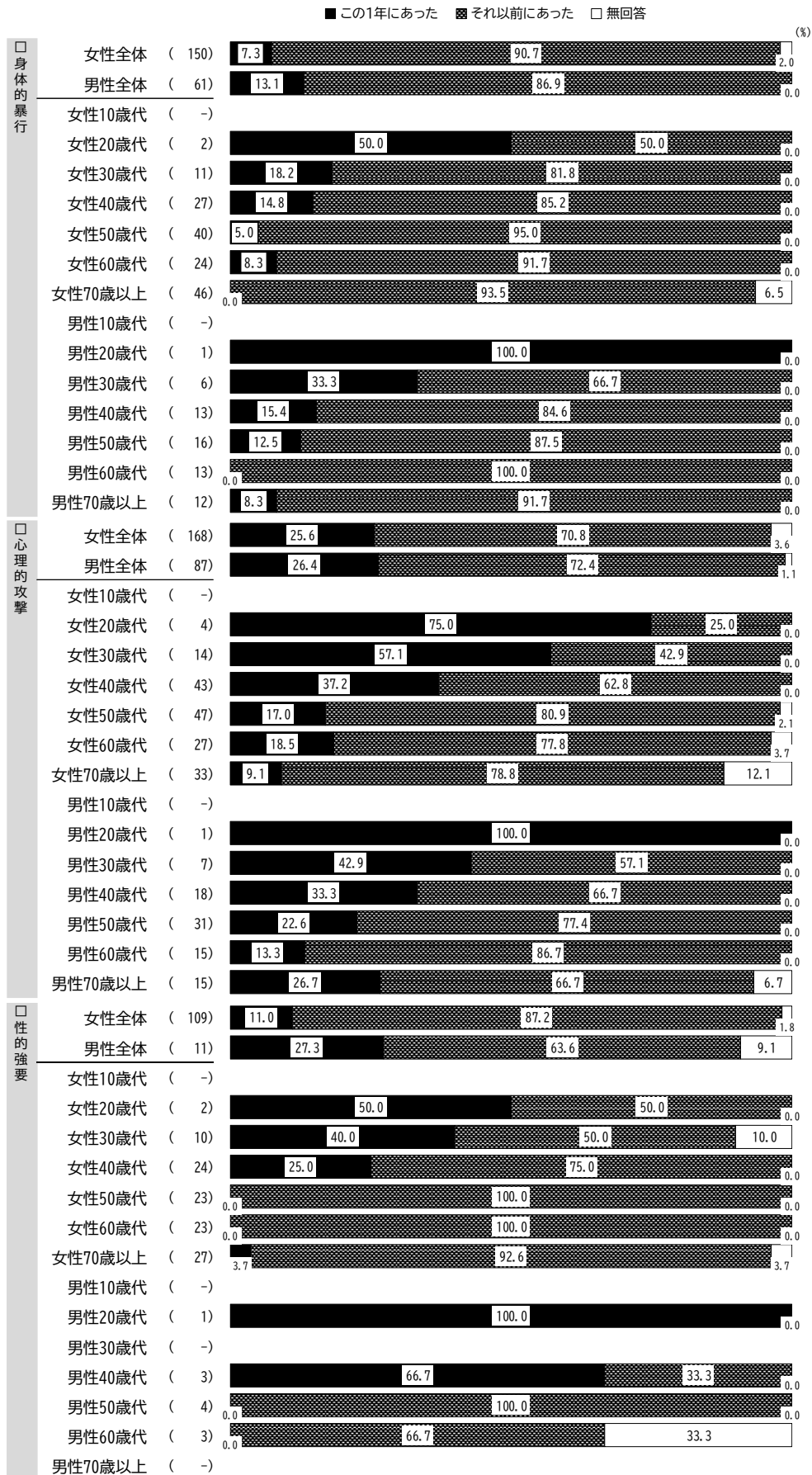
選択肢	行為の内容
身体的暴行	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行
心理的攻撃	人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じさせるような脅迫
性的強要	いやがっているのに、性的な行為を強要する、見たくないのに性的な映像等を見せる、避妊に協力しないなど
経済的圧迫	生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害するなど

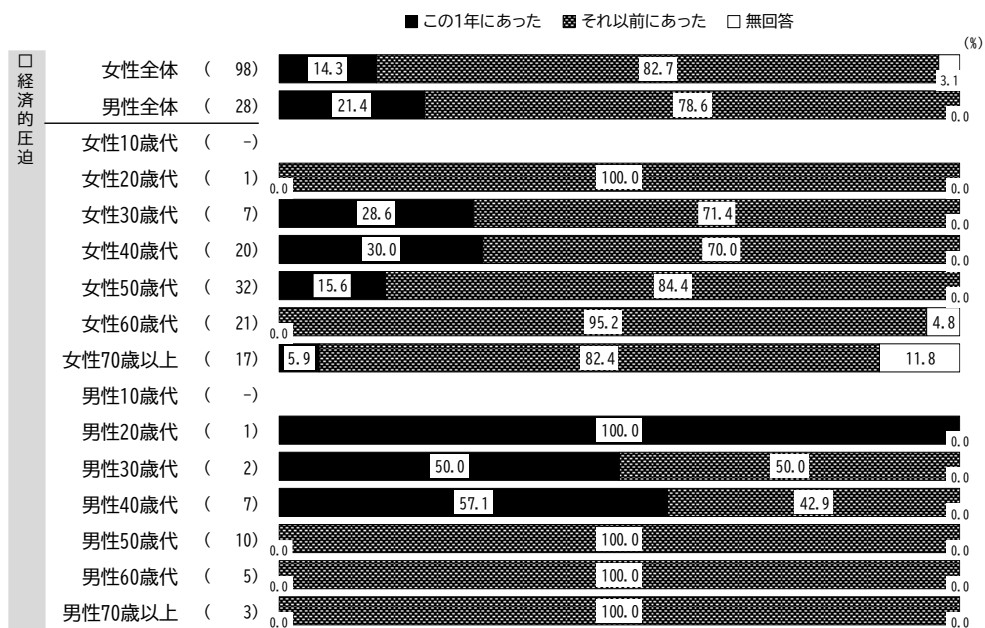
被害を受けた時期を聞いたところ、全体でみると「この1年にあった」は【身体的暴行】(9.3%)、【心理的攻撃】(25.8%)、【性的強要】(12.1%)、【経済的圧迫】(15.5%)となっている。

性別でみると、「この1年にあった」は【身体的暴行】で男性(13.1%)、女性(7.3%)と、女性が男性を5.8ポイント上回っている。(図表5-15)

第IV章 調査の結果

図表5-16 配偶者等からの暴力の被害経験の時期（性別・性／年齢別）

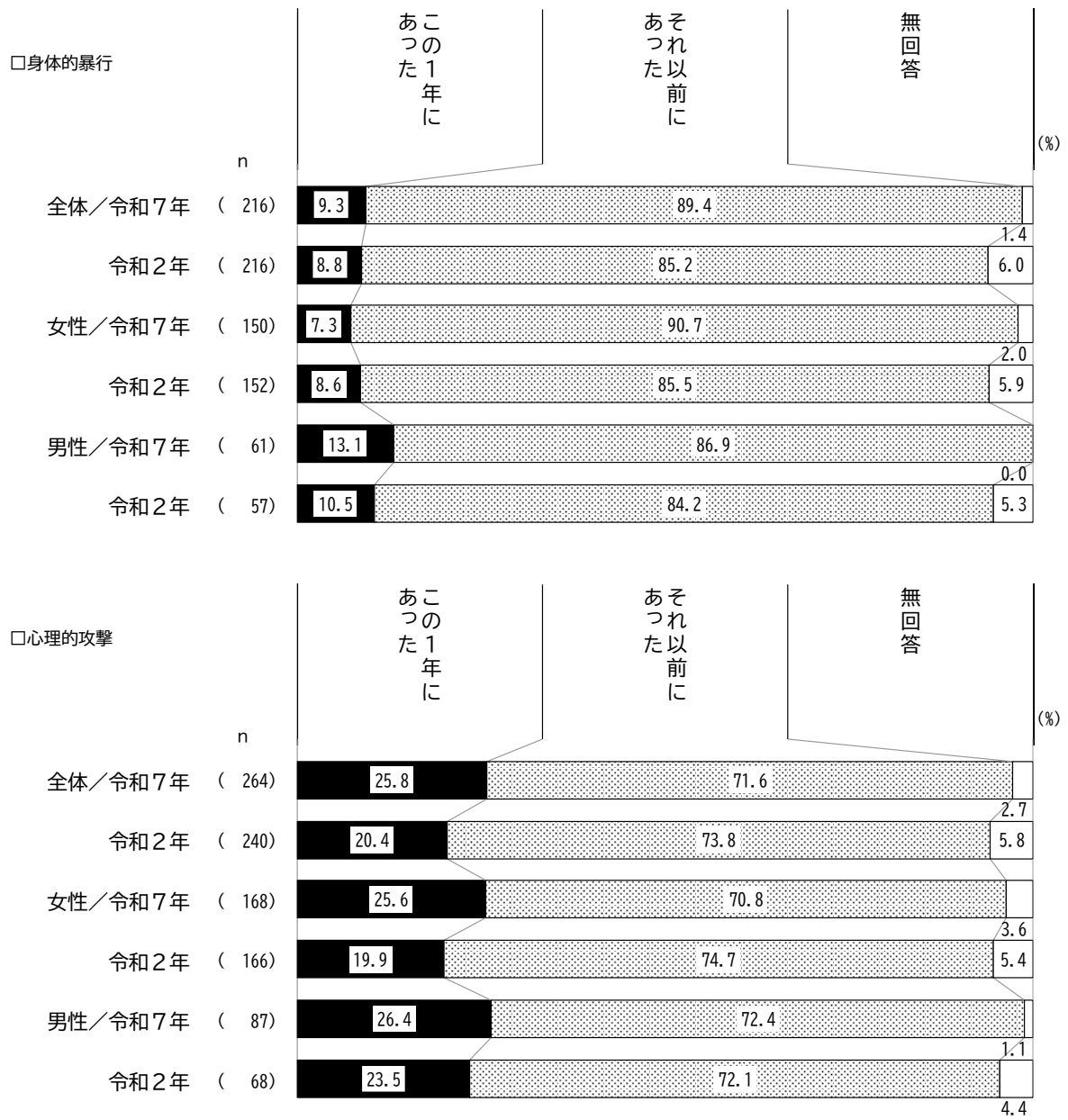


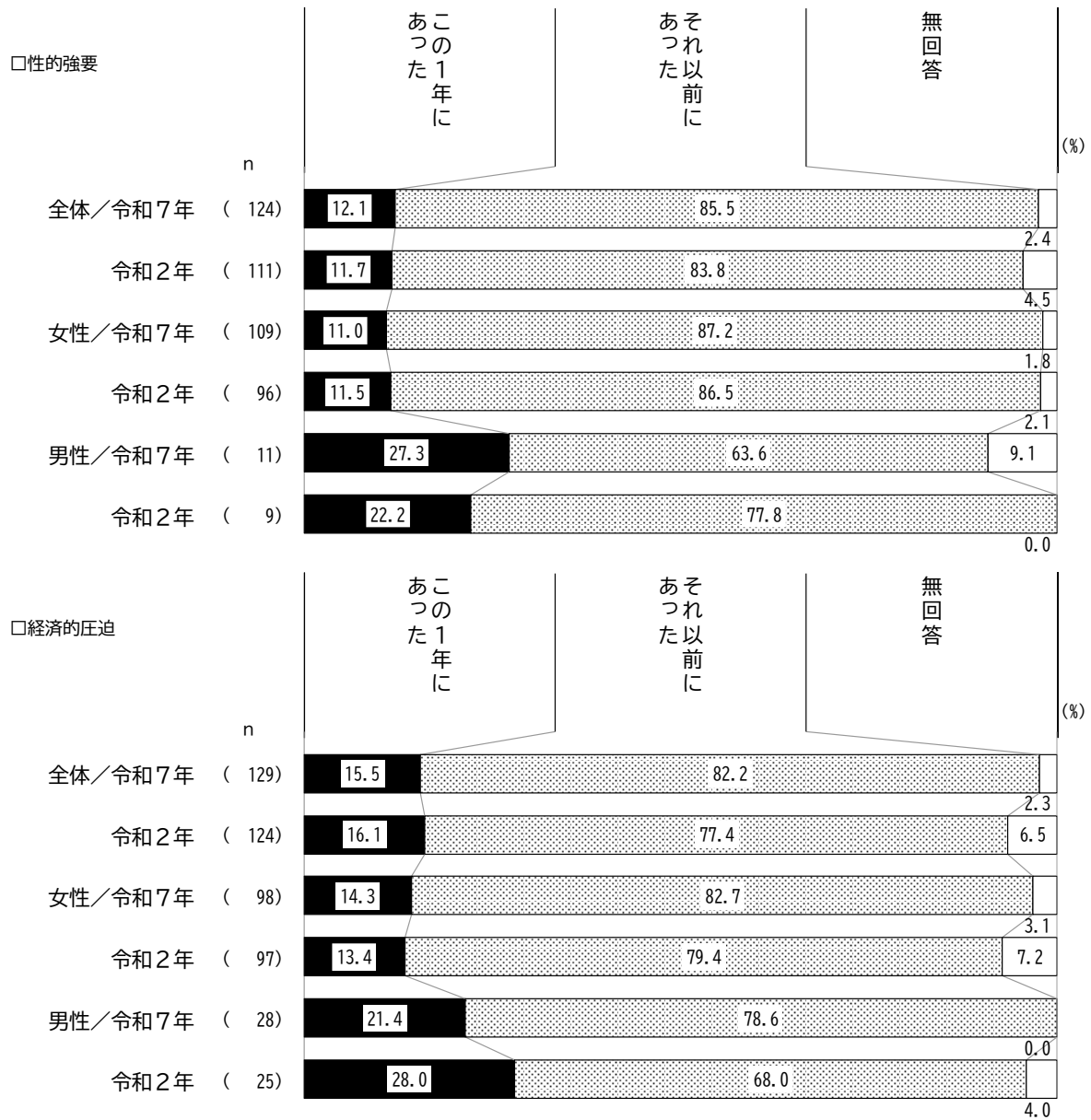


※基数が30人に満たない層は参考扱いとする。

第IV章 調査の結果

図表5-17 配偶者等からの暴力の被害経験の時期（令和2年度調査との比較）





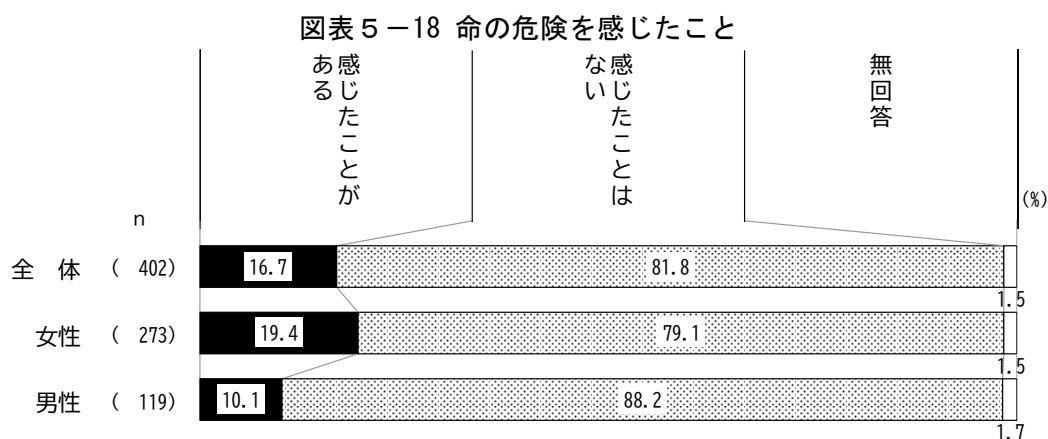
※基数が不足しているため、【性的強要】の男性、【経済的圧迫】の男性は参考扱いとする。

令和2年度調査と比較すると、【身体的暴行】では「この1年にあった」が前回より男性が2.6ポイント増加している。令和2年度調査と比較すると【心理的攻撃】では「この1年にあった」が前回より女性が5.7ポイント増加している。(図表5-17)

(6) 配偶者等からの暴力により命の危険を感じたこと

◎「感じたことがある」が1割台半ばを超えている

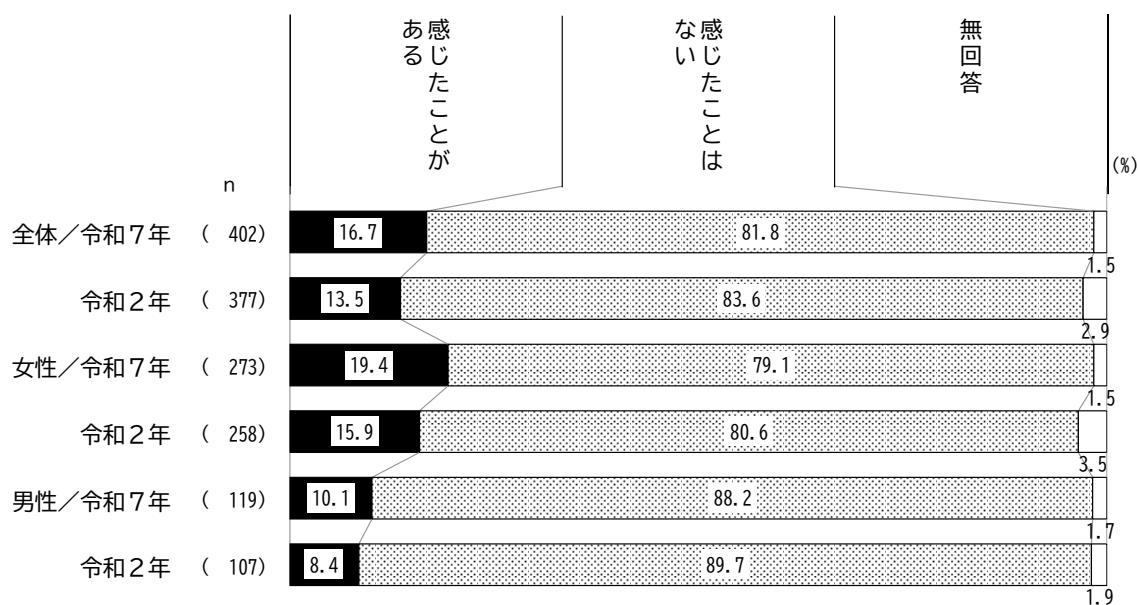
【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】
問21-2 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことはありますか。
 (1つだけに○)



相手の行為により、命の危険を感じたことがあるかどうかでは、全体で見ると「感じたことがある」が16.7%、「感じたことはない」が81.8%となっている。

性別で見ると「感じたことがある」は女性（19.4%）、男性（10.1%）と、女性が男性を9.3ポイント上回っている。（図表5-18）

図表5-19 命の危険を感じたこと（令和2年度調査との比較）

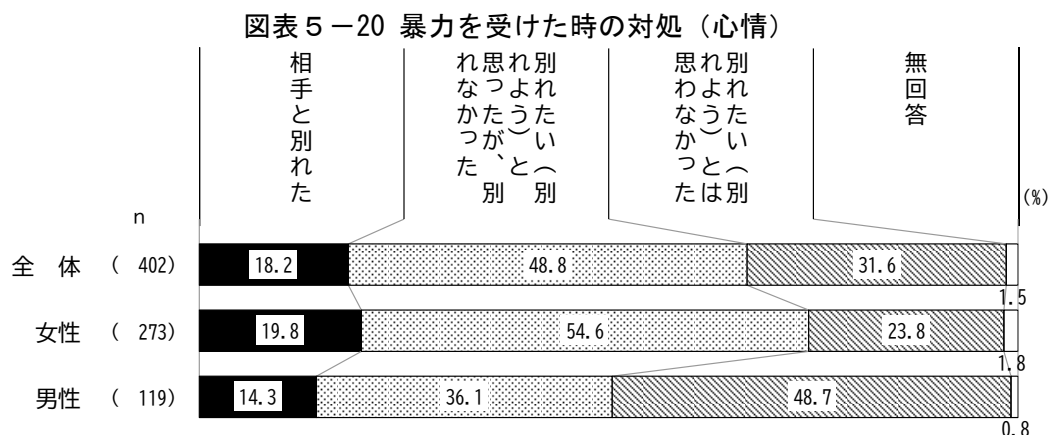


令和2年度調査と比較すると、全体で見ると「感じたことがある」は3.2ポイント増加している。性別で見ると、「感じたことがある」が女性では前回より3.5ポイント、男性では前回より1.7ポイント増加している。（図表5-19）

(7) 配偶者等から暴力を受けた時の対処（心情）

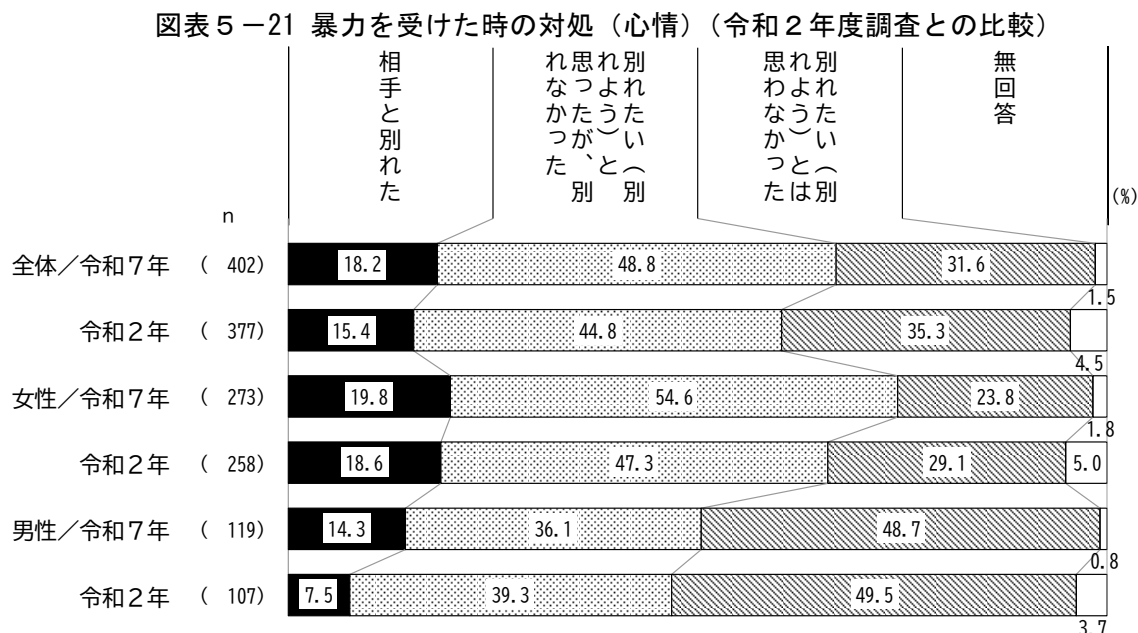
◎「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が5割弱となっている

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】
 問21-3 あなたは、その相手の行為を受けたとき、どうしましたか。（1つだけに○）



暴力を受けた時の対処（心情）は、全体で見ると「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が48.8%となっている。

性別で見ると、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が女性（54.6%）、男性（36.1%）と女性が男性を18.5ポイント上回っている。（図表5-20）



令和2年度調査と比較すると、全体で見ると「相手と別れた」が前回より2.8ポイント増加し、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が3.7ポイント減少している。性別で見ると、女性では「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が4.0ポイント増加、男性では3.2ポイント減少している。

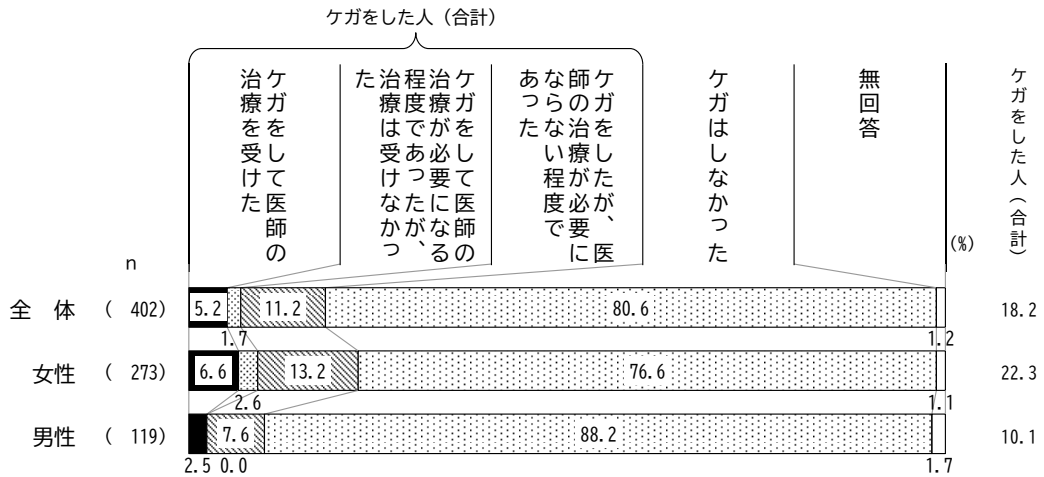
（図表5-21）

(8) 暴力行為によるケガや医師の治療

◎相手の行為によって《ケガをした人（合計）》は2割弱となっている

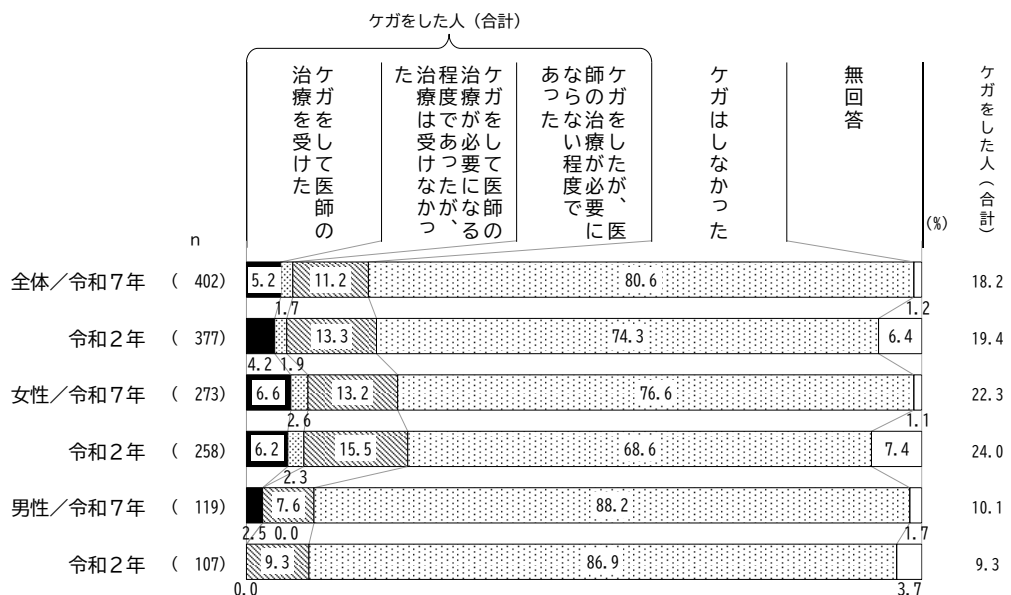
【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】
問21-4 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、ケガをしたり、医師の治療を受けたことがありますか。
 (1つだけに○)

図表5-22 暴力行為によるケガや医師の治療



相手の行為によってケガをした人は、全体で見ると《ケガをした人（合計）》で18.2%となっている。
 (図表5-22)

図表5-23 暴力行為によるケガや医師の治療（令和2年度調査との比較）



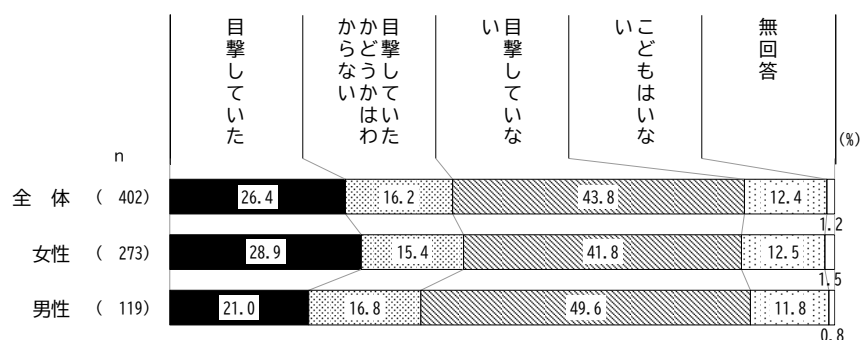
令和2年度調査と比較すると、《ケガをした人（合計）》は、全体では1.2ポイントの減少となっている。女性は前回より1.7ポイント減少している。(図表5-23)

(9) こどもによる暴力被害の目撃

◎親の被害をこどもが「目撃していた」ケースは2割台後半となっている

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】
 問21-5 あなたが、その行為を受けた時に、あなたのお子さんはそれを目撃しましたか。
 (1つだけに○)

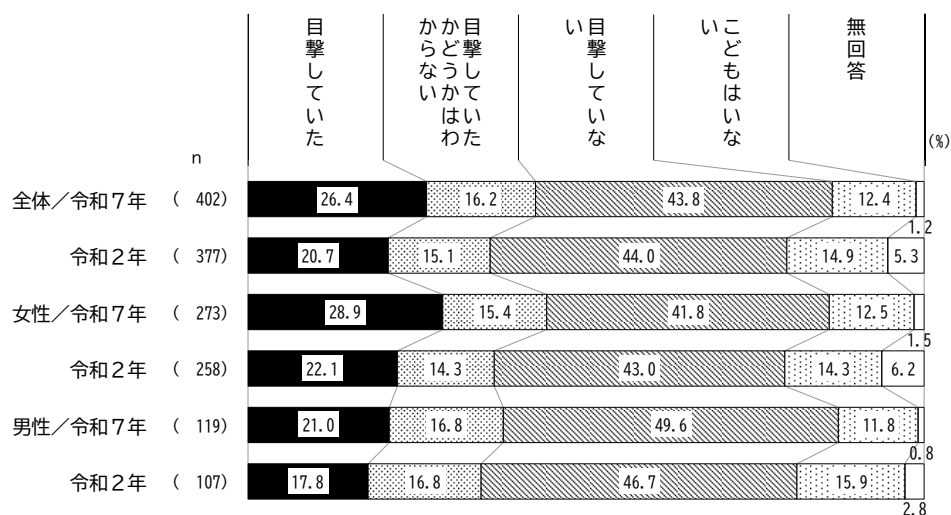
図表5-24 こどもの目撃



相手の行為を受けた時に、こどもがその様子を目撃したかどうかを聞いたところ、全体で見ると「目撃していた」が26.4%、「目撃していない」が43.8%となっている。

性別で見ると、「目撃していた」は女性が28.9%、男性が21.0%と、女性が男性を7.9ポイント上回っている。(図表5-24)

図表5-25 こどもの目撃 (令和2年度調査との比較)



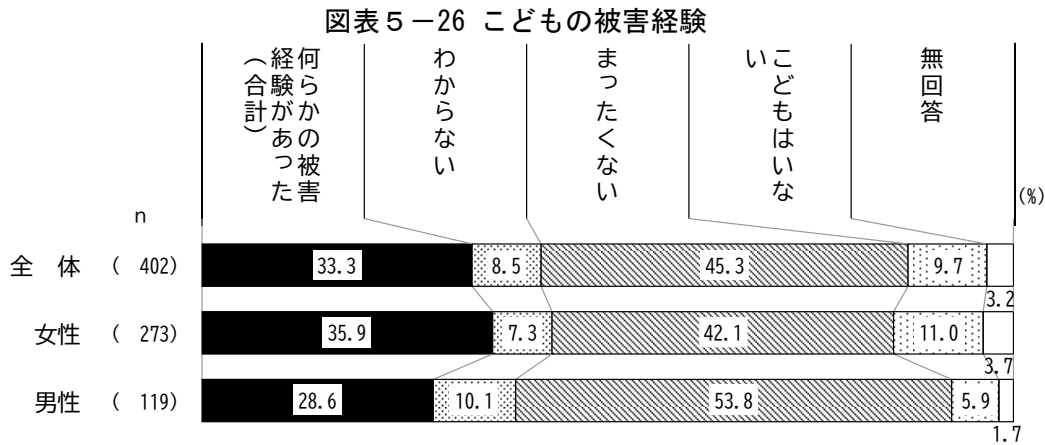
令和2年度調査との比較では全体で見ると「目撃していた」は前回より5.7ポイントの増加となっている。性別で見ると、女性では「目撃していた」は前回より6.8ポイントの増加となっている。

(図表5-25)

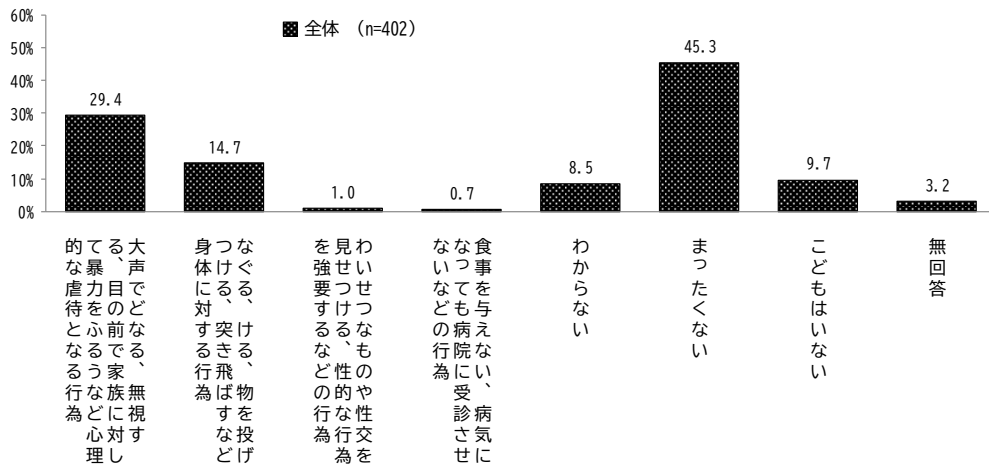
(10) こどもの被害経験

◎「心理的な虐待となる行為」が約3割で最も高くなっている

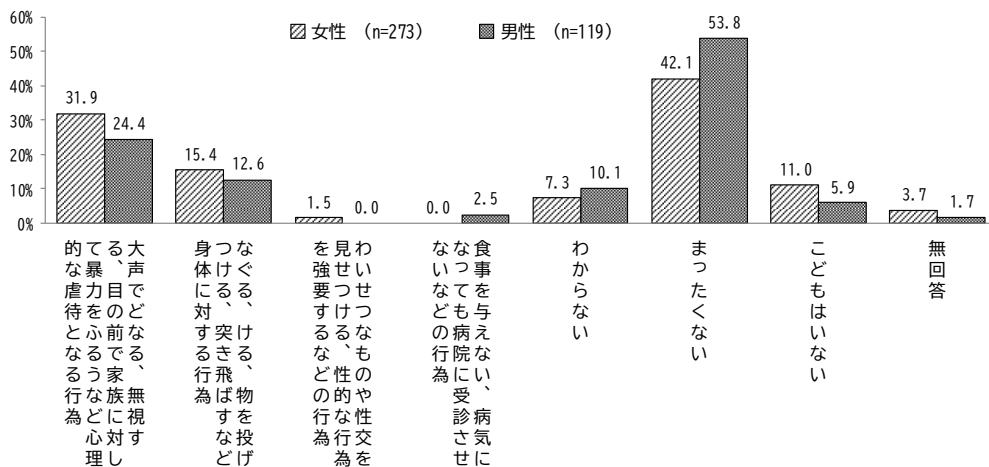
【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】
問21-6 あなたのお子さんは、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)



【被害内容(全体)】



【被害内容(性別)】



※「大声でどなる～」から「食事をあたえない～」までの4つの選択肢が複数回答。

配偶者がこどもに対してした行為によって、こどもに「何らかの被害経験があった（合計）」は全体で3割強となっており、性別で見ると、女性（35.9%）、男性（28.6%）と、女性が男性より7.3ポイント上回っている。

配偶者がこどもに対してした行為について、全体で見ると「まったくない」を除いて、「大声でどなる、無視する、目の前で家族に対して暴力をふるうなど心理的な虐待となる行為」が29.4%で最も高く、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど身体に対する行為」（14.7%）となっている。

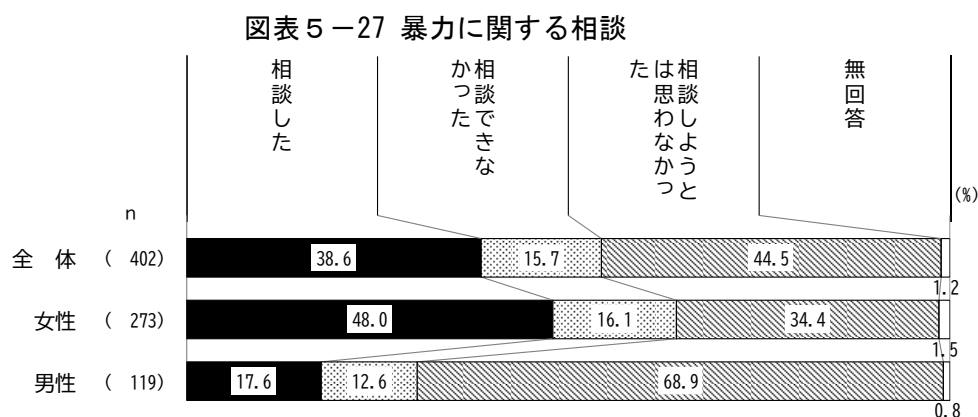
また、性別で見ると、「大声でどなる、無視する、目の前で家族に対して暴力をふるうなど心理的な虐待となる行為」は女性（31.9%）、男性（24.4%）と、女性が男性より7.5ポイント上回っている。

（図表5-26）

(11) 配偶者等からの暴力に関する相談

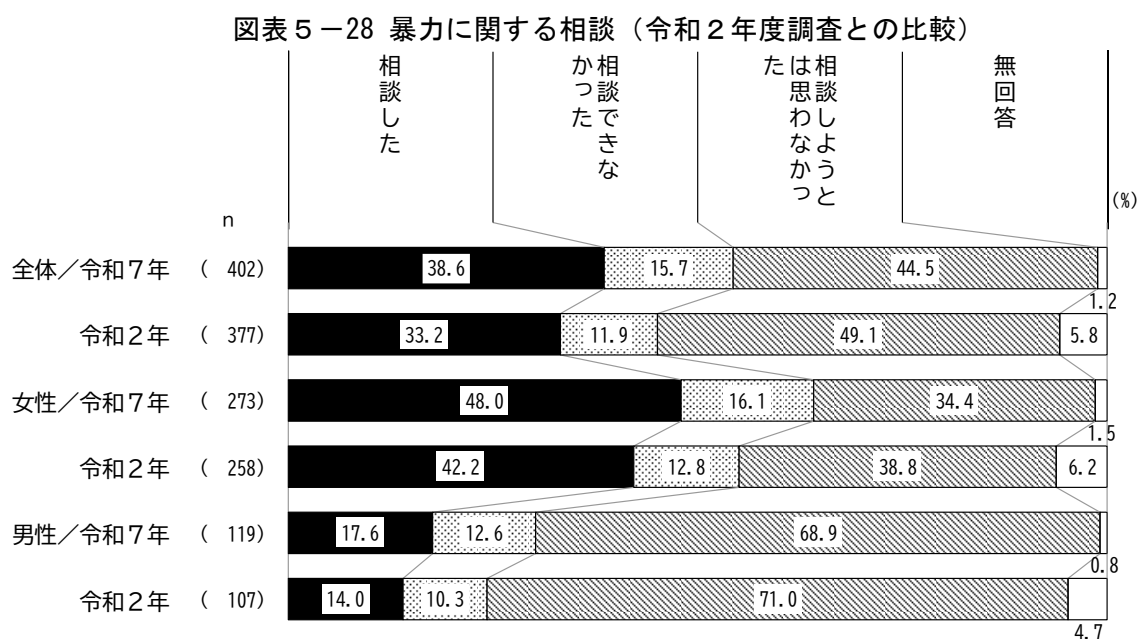
◎「相談した」は4割弱となっている

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】
問21-7 あなたは、相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 (1つだけに○)



相手から受けた行為について、性別で見ると「相談した」は女性（48.0%）、男性（17.6%）と、女性が男性を30.4ポイント上回っている。

一方、「相談しようとは思わなかった」は女性（34.4%）、男性（68.9%）と、男性が女性を34.5ポイント上回っている。（図表5-27）



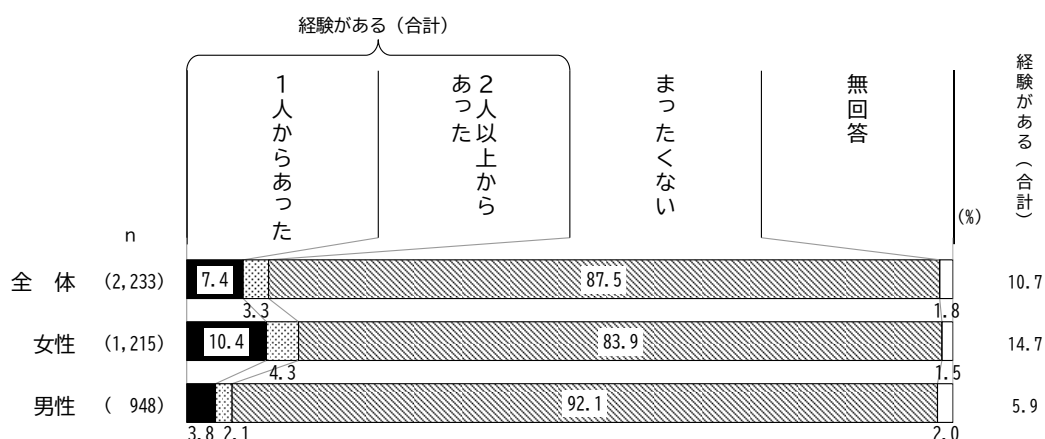
令和2年度調査と比較すると、全体で見ると「相談した」が前回より5.4ポイント増加している。性別で見ると、前回より女性は5.8ポイント、男性は3.6ポイント増加している。（図表5-28）

(12) 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験

◎被害経験がある人は1割を超えている

問22 あなたはこれまでに、ある特定の異性から、執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・メールなどの被害にあったことがありますか。
(1つだけに○)

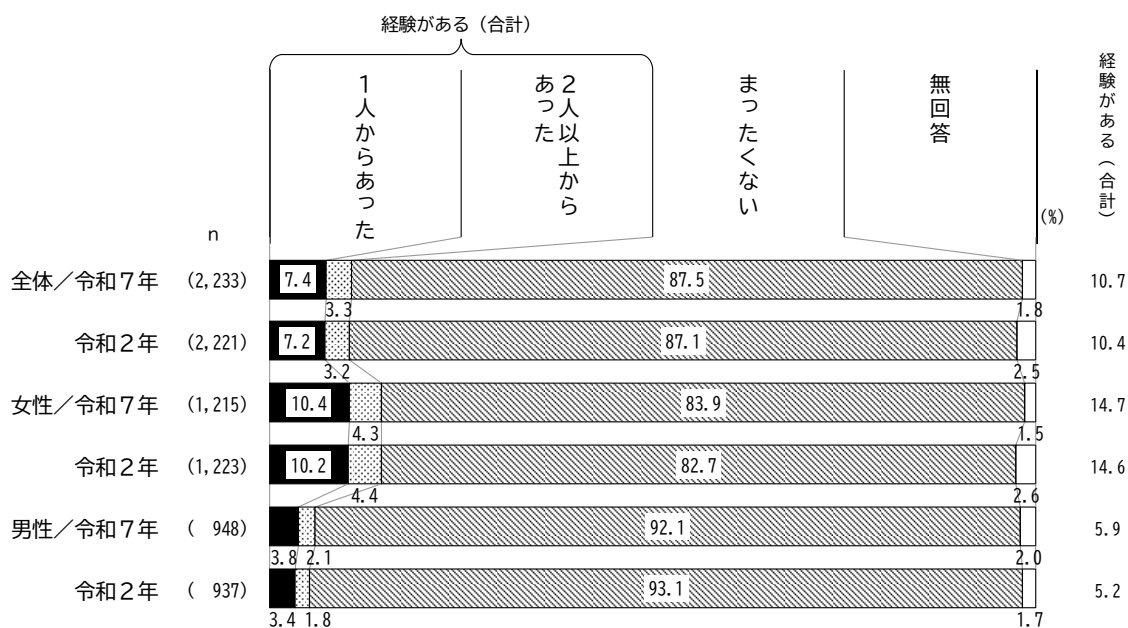
図表5-29 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験



これまでに特定の異性から受けた被害経験の有無について、全体でみると《経験がある(合計)》(「1人からあった」と「2人以上からあった」の合計)は10.7%となっている。

性別でみると、《経験がある(合計)》は女性(14.7%)、男性(5.9%)と、女性が男性を8.8ポイント上回っている。(図表5-29)

図表5-30 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験(令和2年度調査との比較)

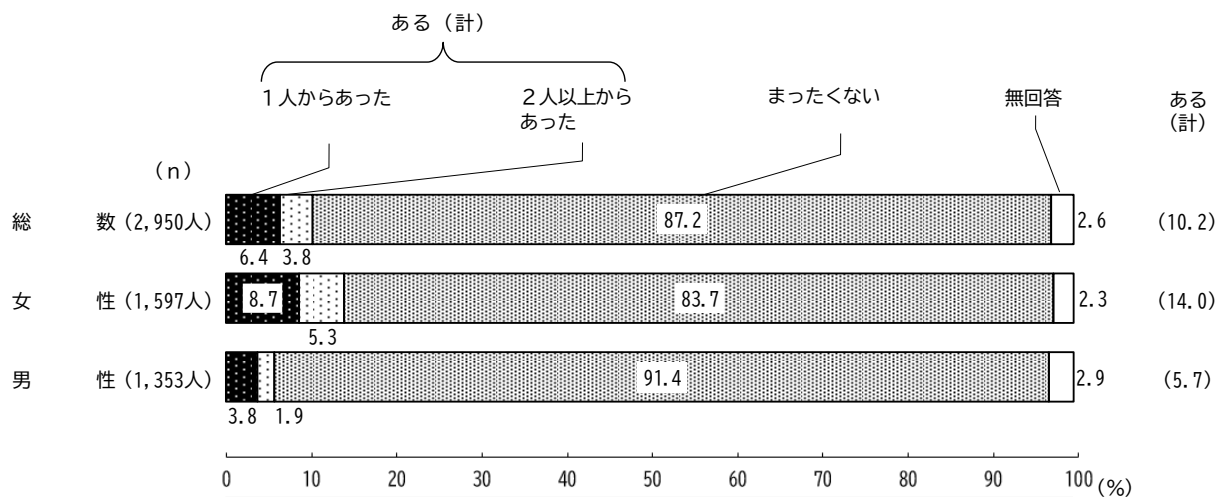


令和2年度調査と比較すると、《経験がある(合計)》は前回と大きな差異は見られない。

(図表5-30)

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)

特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無



(13) 交際相手の有無

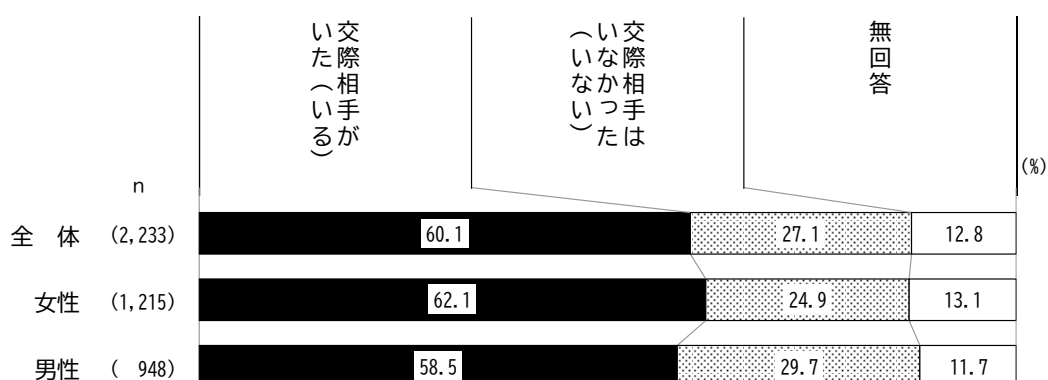
◎「交際相手があった（いる）」は6割を超えている

【問23は、あなたの交際相手からの暴力の被害経験について伺います。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。】

問23 あなたには、これまでに交際相手がありましたか。結婚している方、結婚したことのある方については、後に配偶者となった相手以外についてお答えください。

(1つだけに○)

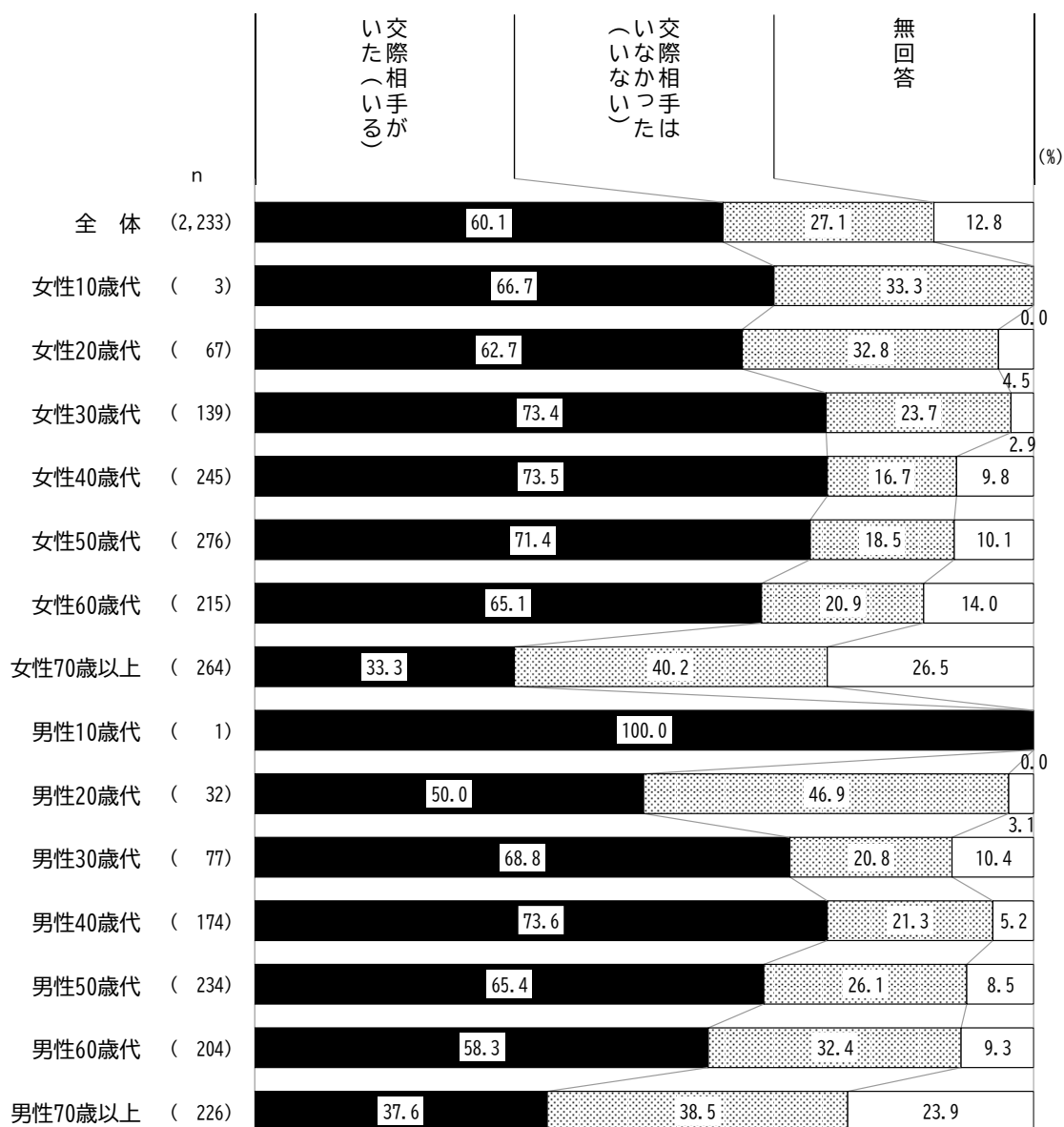
図表5-31 交際相手の有無



交際相手があったかどうかについて、全体で見ると「交際相手があった（いる）」は60.1%となっている。

性別で見ると、「交際相手があった（いる）」では女性（62.1%）、男性（58.5%）と、女性が男性を3.6ポイント上回っている。（図表5-31）

図表5-32 交際相手の有無（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別で見ると、「交際相手がいる（いる）」は女性では30～50歳代が7割強と高く、男性では40歳代が73.6%と最も高く、男女ともに50歳代以上では年代が上がるにつれて低くなっている。

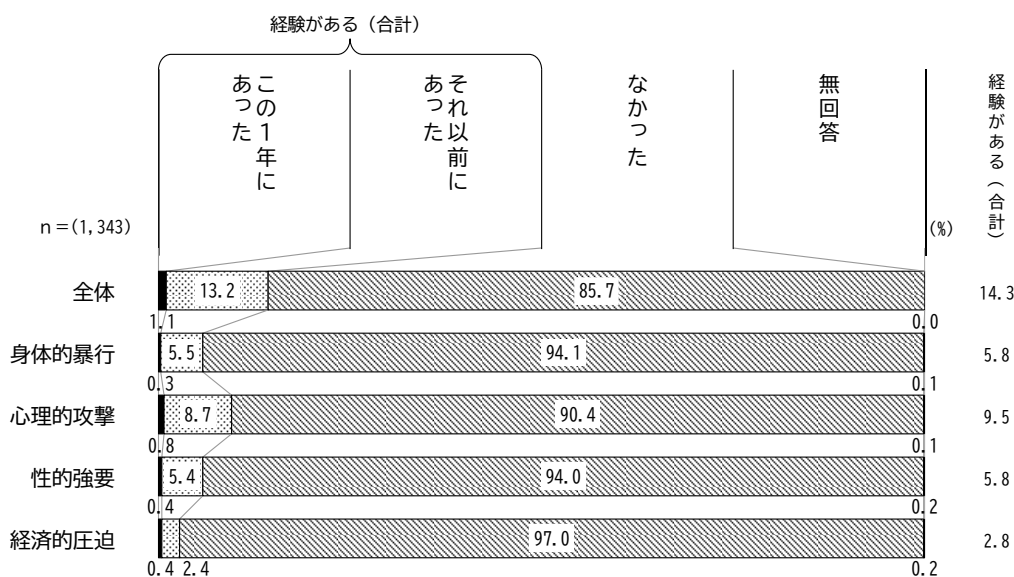
(図表5-32)

(14) 交際相手からの暴力の被害経験

◎被害を受けた「経験がある」人は1割台半ばとなっている

【問23で、「1 交際相手がいた(いる)」と回答した方に】
問23-1 あなたは、これまでに交際相手から(1)～(4)のような行為をされたことがありますか。(それぞれ1つずつに○)

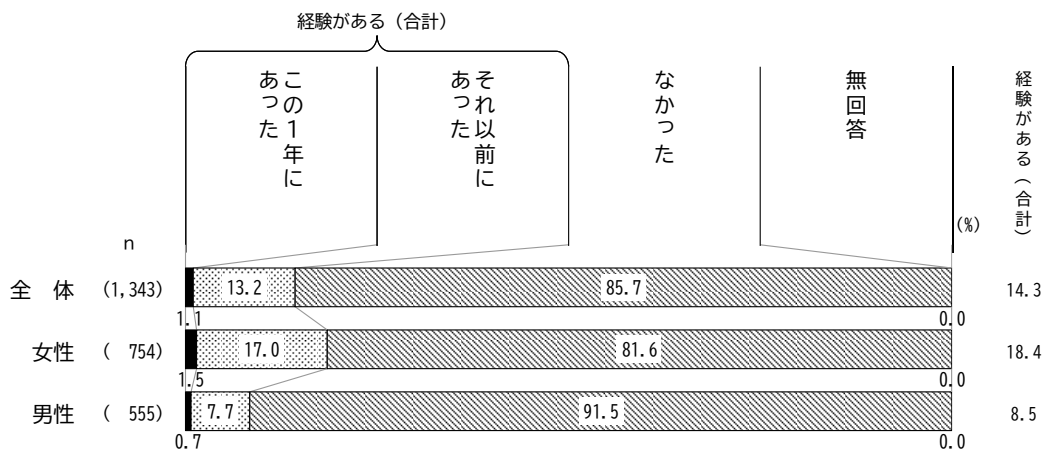
図表5-33 交際相手からの暴力の被害経験



選択肢	行為の内容
身体的暴行	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行
心理的攻撃	人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じさせるような脅迫
性的強要	いやがっているのに、性的な行為を強要する、見たくないのに性的な映像等を見せる、避妊に協力しないなど
経済的圧迫	生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害するなど

交際相手から被害を受けたかどうかについて、全体でみると《経験がある(合計)》(「この1年にあった」と「それ以前にあった」の合計)は【身体的暴行】(5.8%)、【心理的攻撃】(9.5%)、【性的強要】(5.8%)、【経済的圧迫】(2.8%)となっている。(図表5-33)

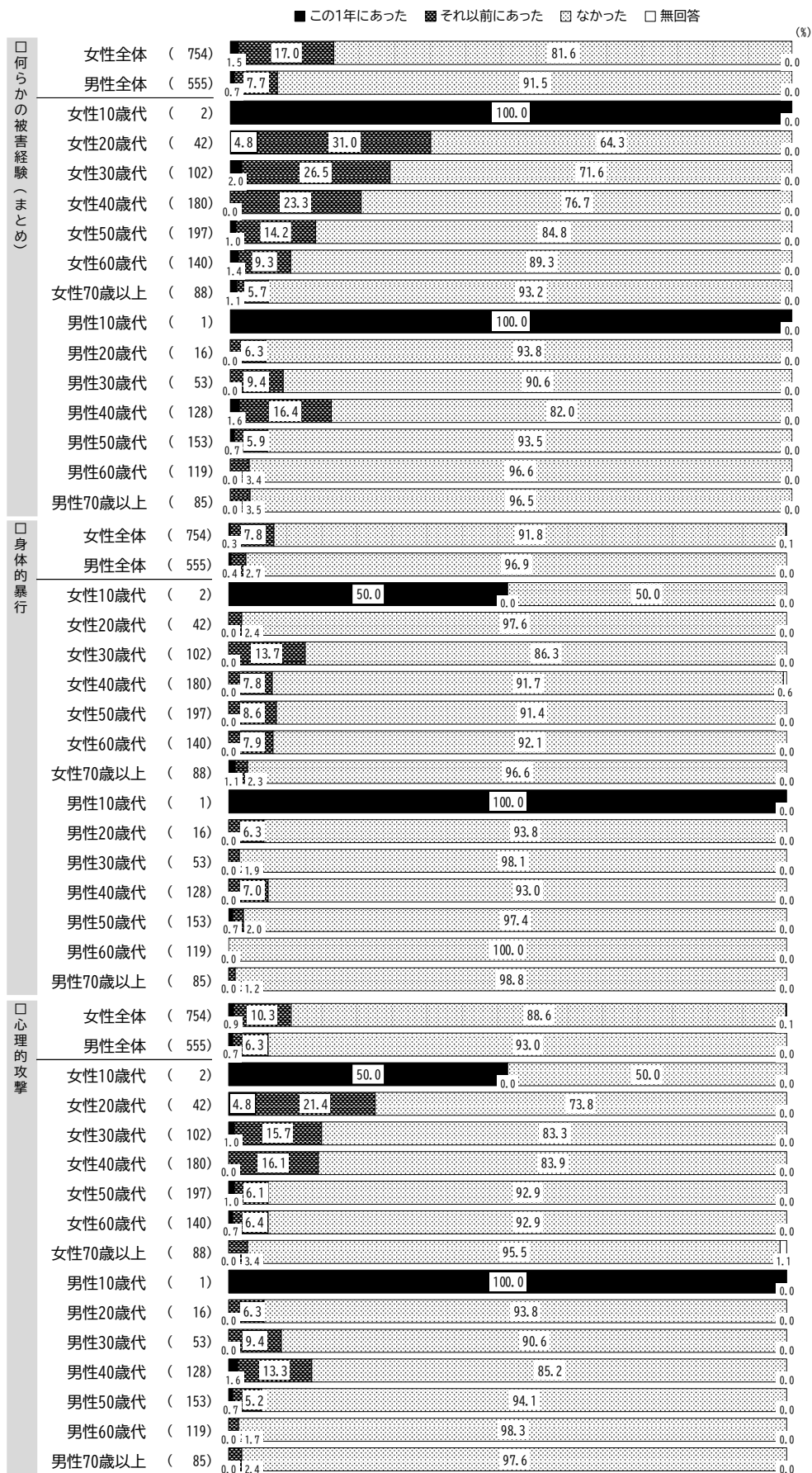
図表 5-34 交際相手からの暴力の被害経験(性別)



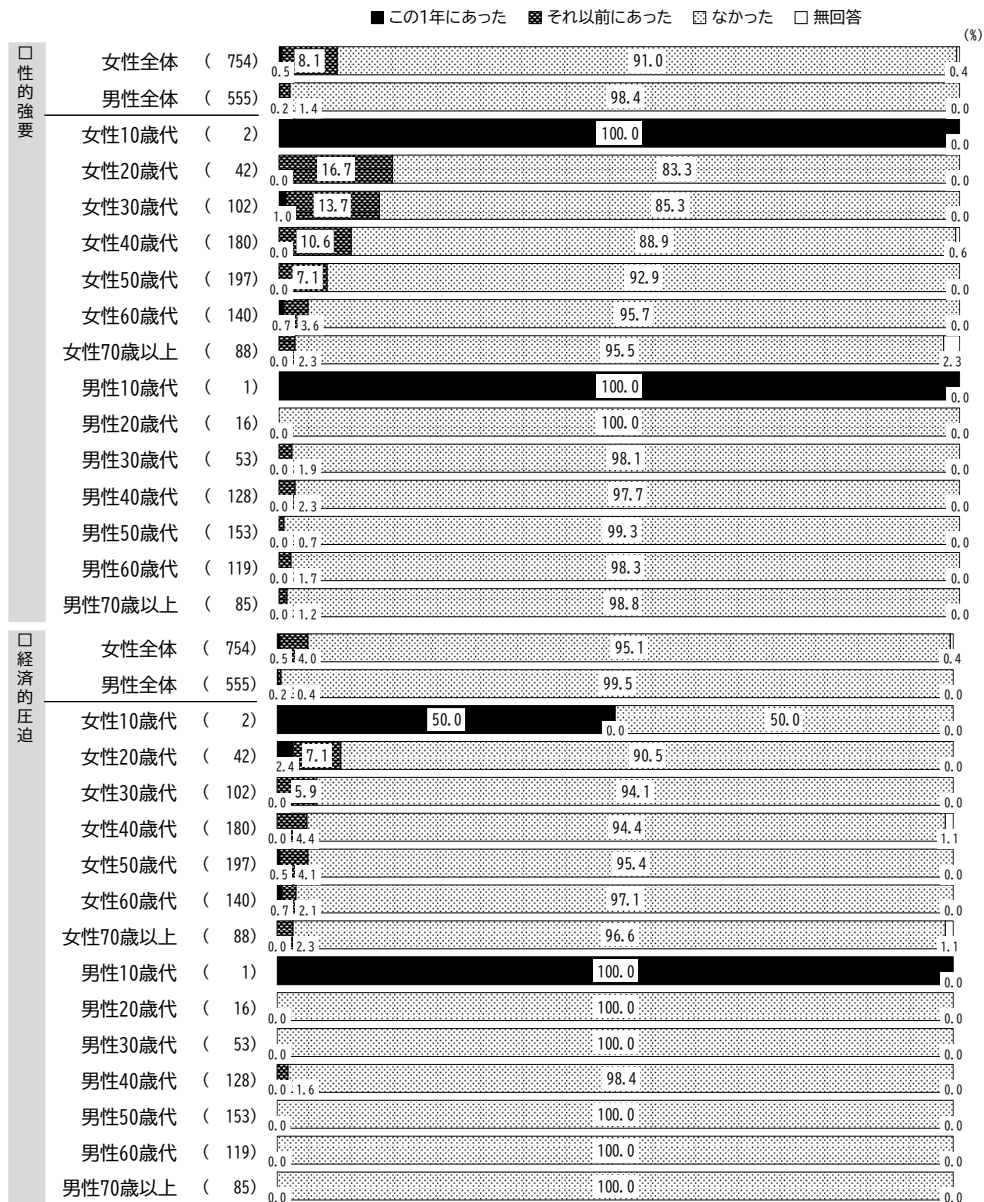
交際相手から、何らかの被害経験を受けたかを聞いたところ、《経験がある(合計)》は14.3%となっている。

性別で見ると、《経験がある(合計)》は女性(18.4%)、男性(8.5%)と、女性が男性を9.9ポイント上回っている。(図表5-34)

図表5-35 交際相手からの暴力の被害経験（性別・性／年齢別）



第IV章 調査の結果



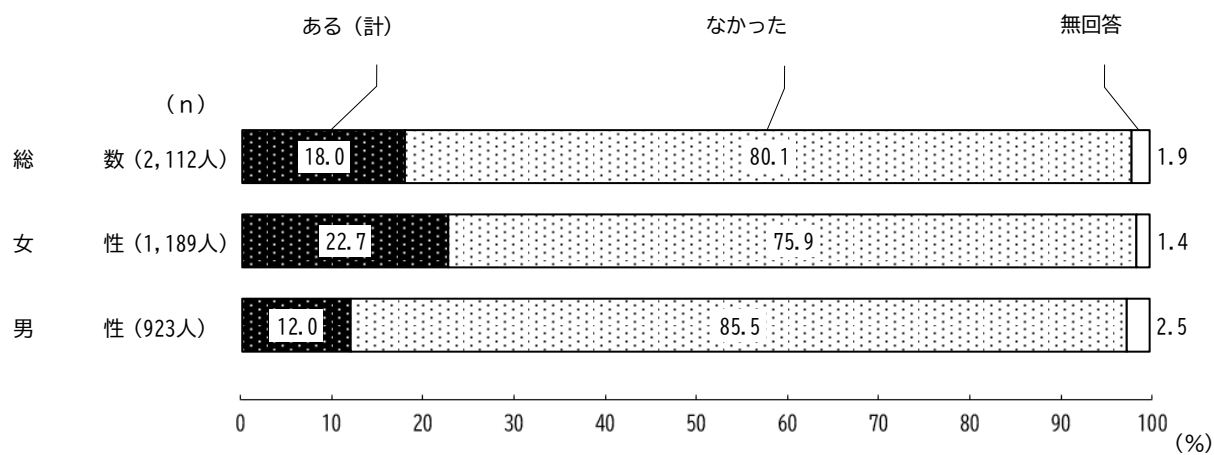
※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10～20歳代については参考扱いとする。

交際相手からの暴力被害について、《経験がある（合計）》は【身体的暴行】では女性（8.1%）、男性（3.1%）と、女性が男性を5.0ポイント上回っている。【心理的攻撃】では女性（11.2%）、男性（7.0%）と、女性が男性を4.2ポイント上回っている。【性的強要】では女性（8.6%）、男性（1.6%）と、女性が男性を7.0ポイント上回っている。【経済的圧迫】では女性（4.5%）、男性（0.6%）と、女性が男性を3.9ポイント上回っている。すべての暴力に関して、女性が男性を上回っている。

性／年齢別でみると、【何らかの被害経験（まとめ）】では《経験がある（合計）》は女性の20歳代が35.8%と最も高く、年齢が上がるにつれて減少している。【身体的暴行】では《経験がある（合計）》は女性の30歳代が13.7%と最も高くなっている。【心理的攻撃】では《経験がある（合計）》は女性の20歳代が26.2%と最も高くなっている。【性的強要】では《経験がある（合計）》は女性の20歳代が16.7%と最も高くなっている。【経済的圧迫】では《経験がある（合計）》が女性の20歳代で9.5%と最も高くなっている。（図表5-35）

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)

交際相手からの被害経験の有無



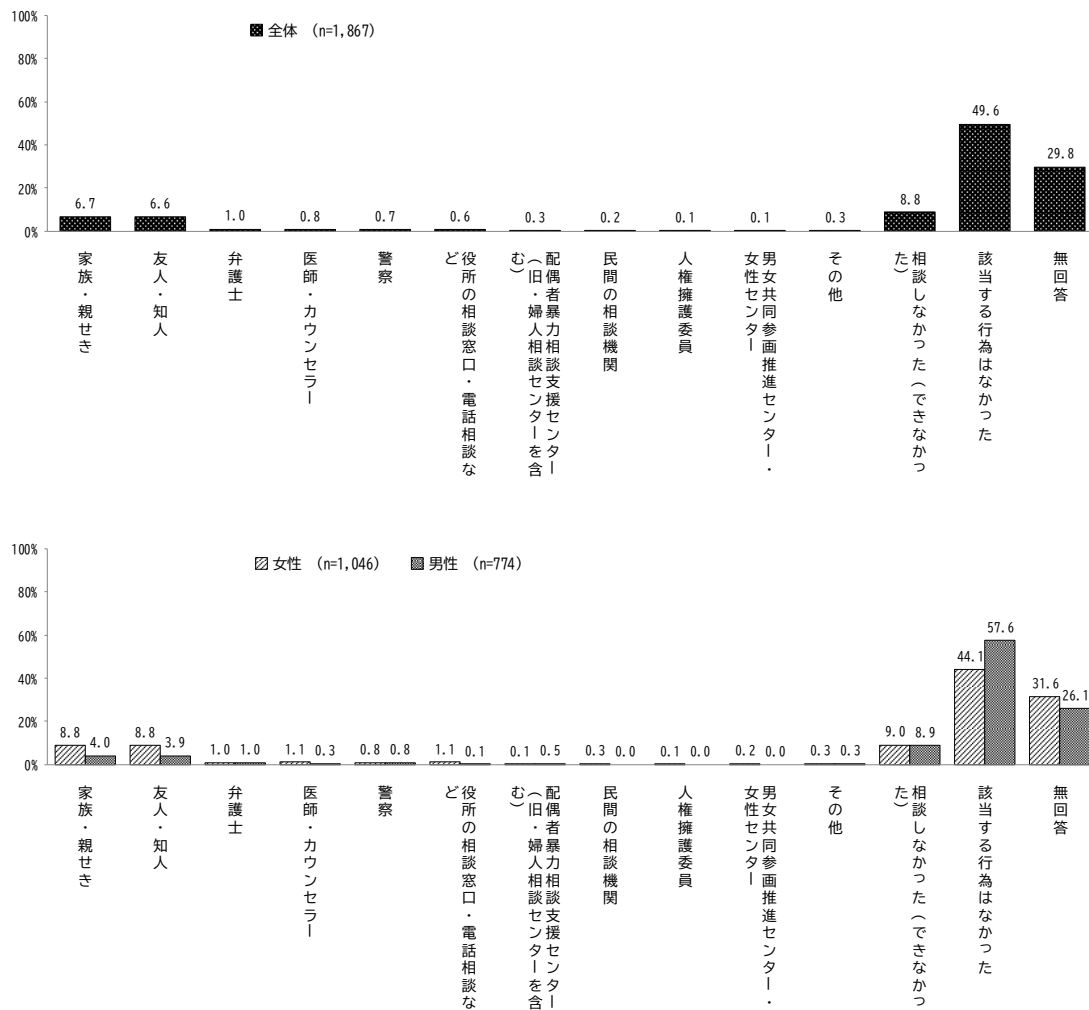
(15) 配偶者からの暴力について相談した相手

◎相談先は「家族・親せき」が最も高くなっている

【結婚をしている（いた）方（事実婚を含む）、交際相手がいる（いた）方に（該当しない方は問26へ）】

問24-1 あなたが、問21の配偶者からの行為について、相談した人（場所）を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

図表5-36 配偶者からの暴力について相談した相手



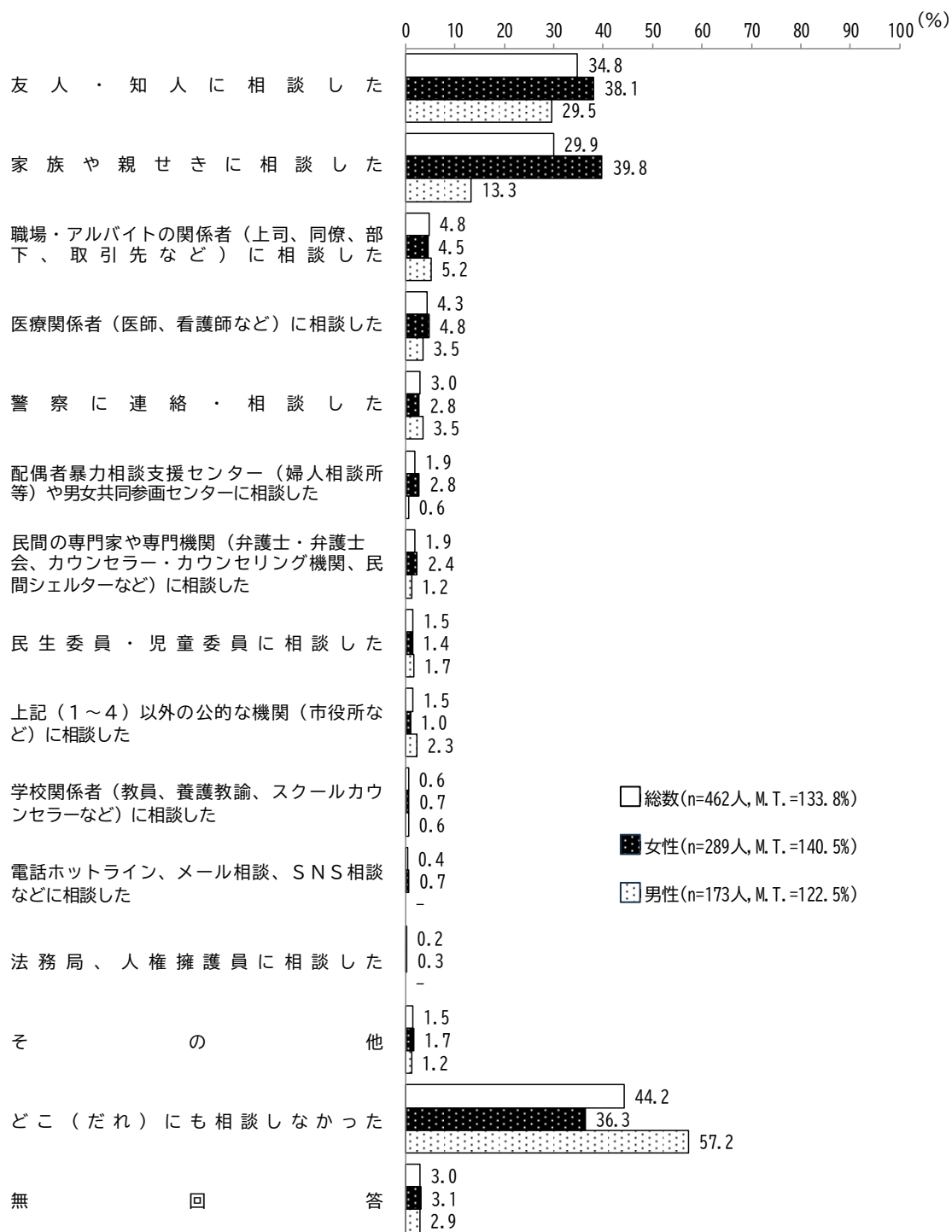
相談先としては、全体でみると「家族・親せき」が6.7%と最も高く、次いで「友人・知人」（6.6%）、「弁護士」（1.0%）となっている。一方、「相談しなかった（できなかった）」は8.8%となっている。

性別でみると、「友人・知人」では女性（8.8%）、男性（3.9%）と、女性が男性を4.9ポイント、「家族・親せき」では女性（8.8%）、男性（4.0%）と、女性が男性を4.8ポイントそれぞれ上回っている。

（図表5-36）

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)

配偶者からの暴力の相談先（複数回答）



* 「上記（1～4）以外の公的な機関」とは、下記以外の公的な機関を指す。
 1. 配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所等）や男女共同参画センター
 2. 警察
 3. 民生委員・児童委員
 4. 法務局、人権擁護委員

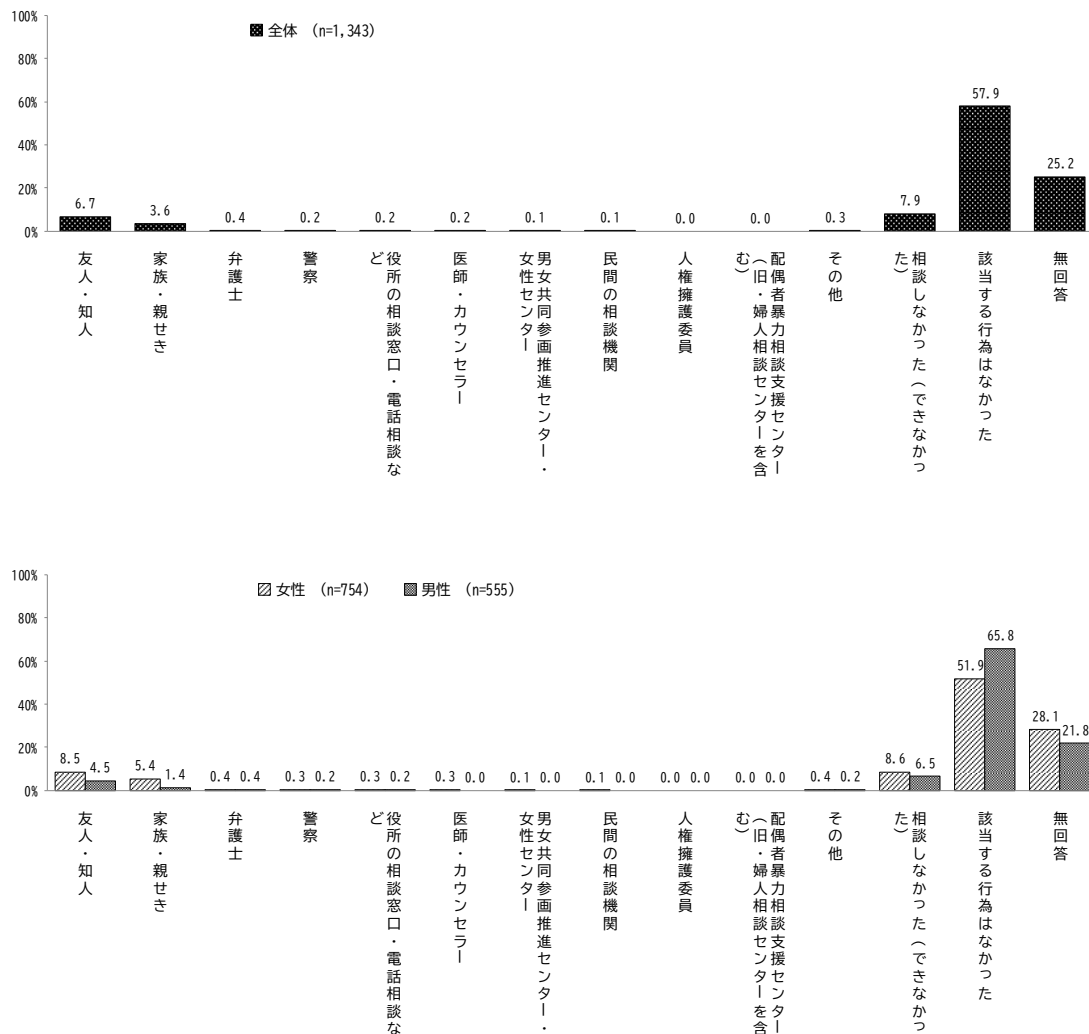
(16) 交際相手からの暴力について相談した相手

◎相談先は「友人・知人」が最も高くなっている

【結婚をしている（いた）方（事実婚を含む）、交際相手がいる（いた）方に（該当しない方は問26へ）】

問24-2 あなたが、問23-1の交際相手からの行為について、相談した人（場所）を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

図表5-37 交際相手からの暴力について相談した相手



相談先としては、全体で見ると「友人・知人」が6.7%と最も高く、次いで「家族・親せき」（3.6%）、「弁護士」（0.4%）となっている。一方、「相談しなかった（できなかった）」は7.9%となっている。

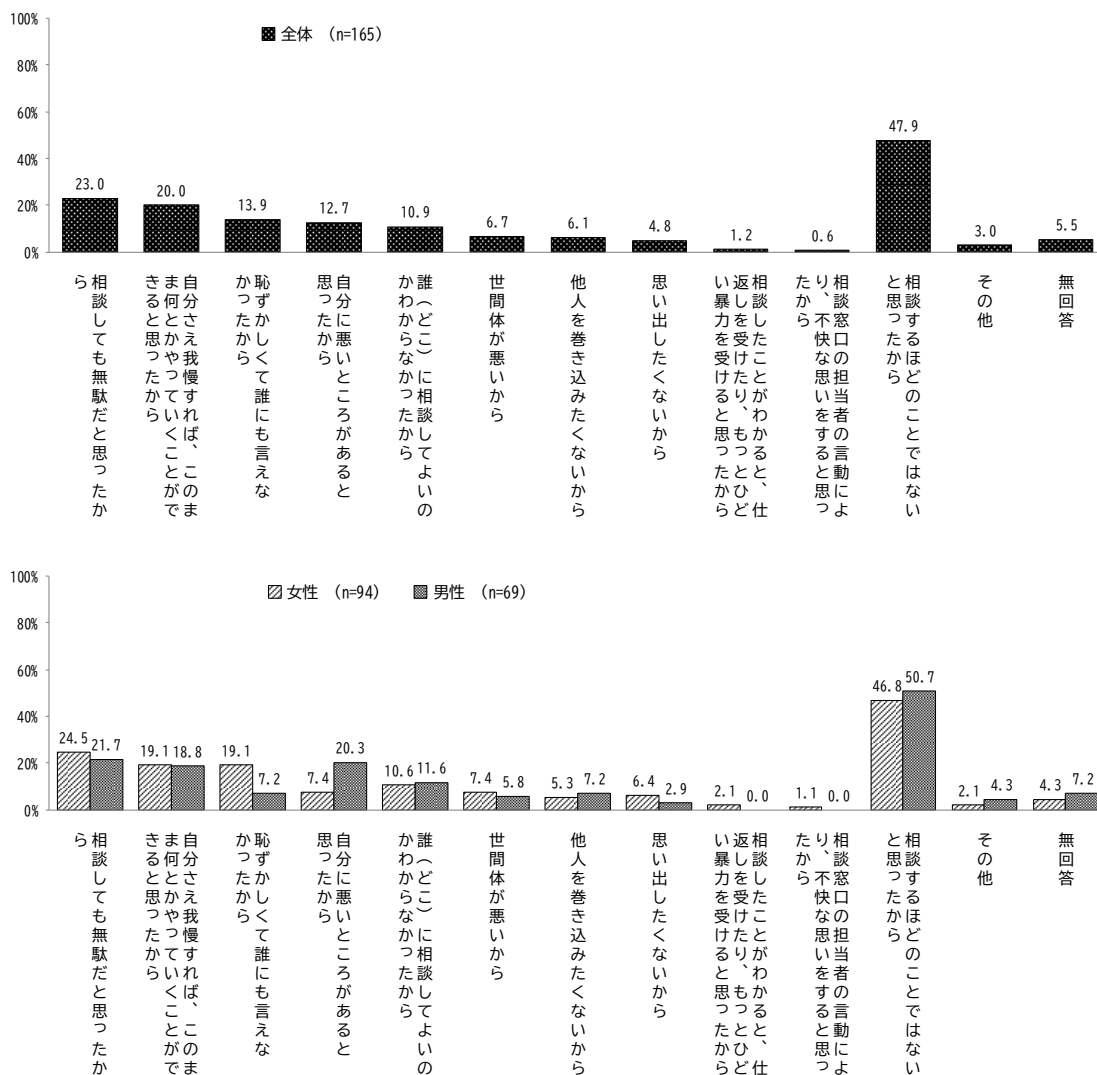
性別で見ると、「友人・知人」では女性（8.5%）、男性（4.5%）と、「家族・親せき」では女性（5.4%）、男性（1.4%）と、ともに女性が男性を4.0ポイント上回っている。（図表5-37）

(17) 配偶者からの暴力について相談できなかった理由

◎「相談するほどのことではないと思った」が4割台半ばを超えている

【問24で、「12 相談しなかった（できなかった）」と回答した方に】
 問25-1 あなたが、誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。
 （あてはまるものすべてに○）

図表5-38 配偶者からの暴力について相談できなかった理由

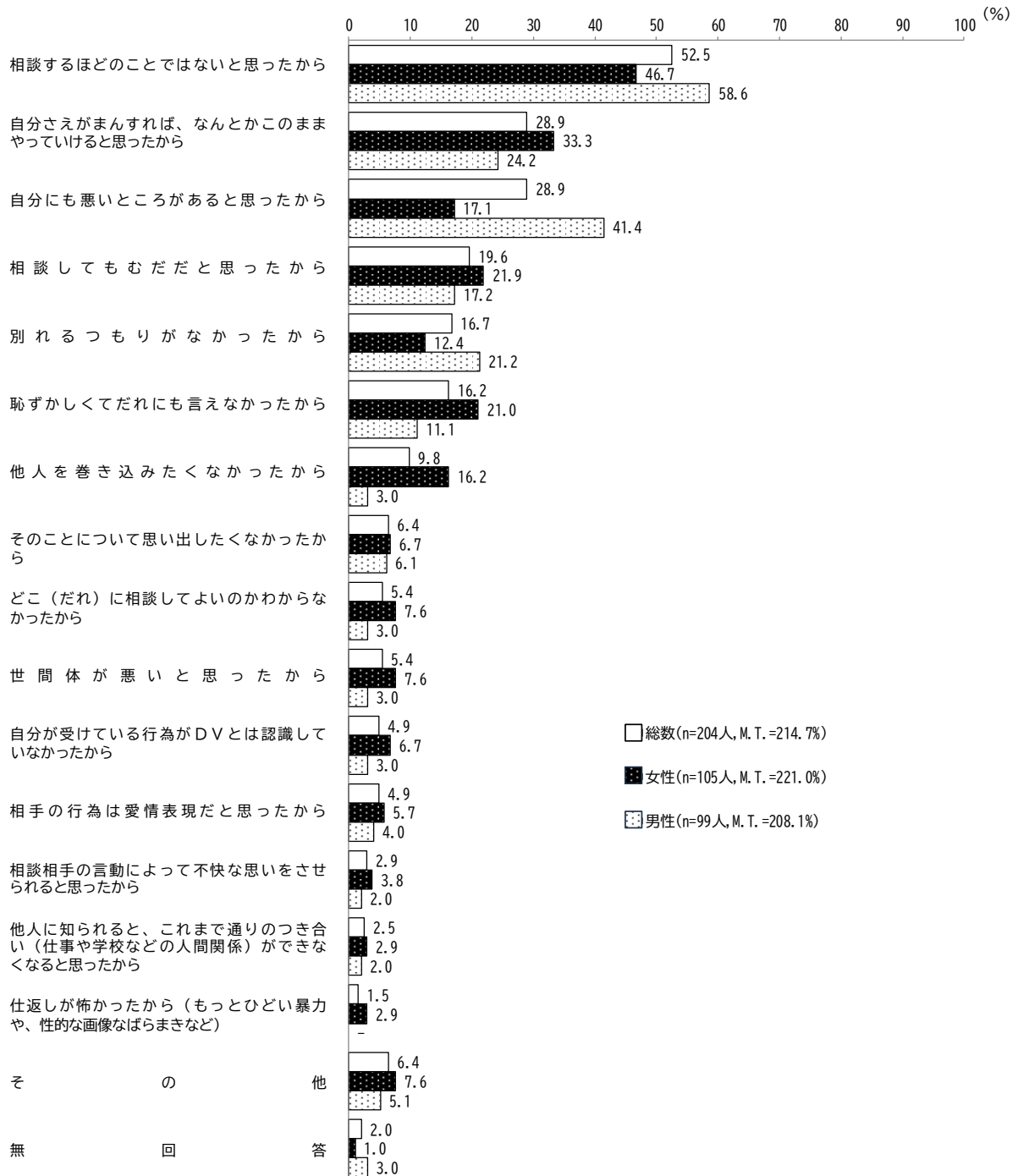


相談できなかった理由として、全体で見ると「相談するほどのことではないと思ったから」が47.9%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」(23.0%)、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」(20.0%)、となっている。

性別で見ると、「恥ずかしくて誰にも言えなかつたから」では女性(19.1%)、男性(7.2%)と女性が男性を11.9ポイント上回っている。「自分に悪いところがあると」では女性(7.4%)、男性(20.3%)と男性が女性を12.9ポイント上回っている。(図表5-38)

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)

相談しなかった理由（複数回答）

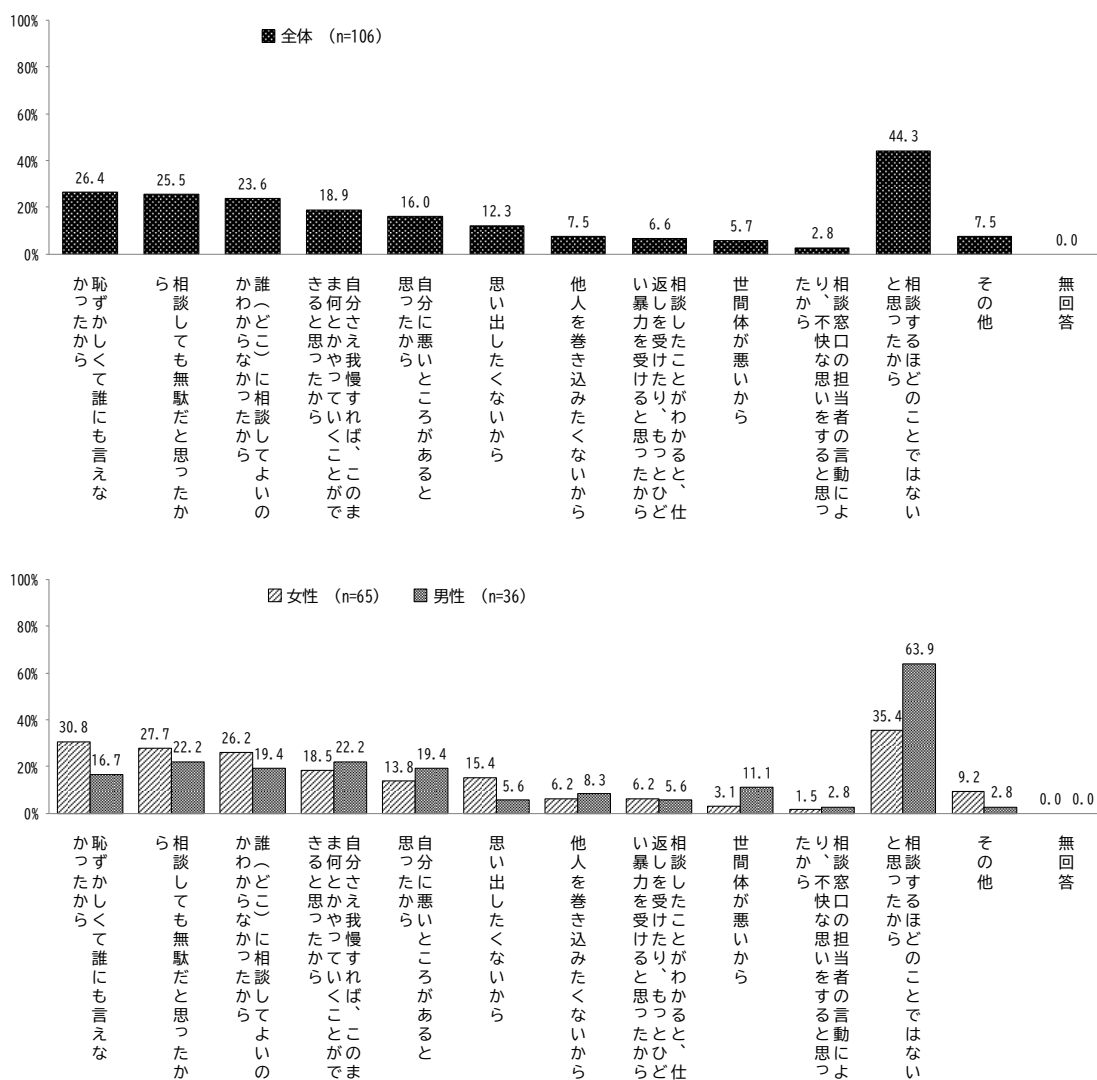


(18) 交際相手からの暴力について相談できなかった理由

◎「相談するほどのことではないと思った」が4割台半ばとなっている

【問24で、「12 相談しなかった（できなかった）」と回答した方に】
 問25-2 あなたが、誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。
 （あてはまるものすべてに○）

図表5-39 交際相手からの暴力について相談できなかった理由



相談できなかった理由として、全体で見ると「相談するほどのことではないと思ったから」が44.3%で最も高く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(26.4%)、「相談しても無駄だと思ったから」(25.5%)、となっている。

性別で見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」では女性(35.4%)、男性(63.9%)と男性が女性を28.5ポイント上回っている。「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」では女性(30.8%)、男性(16.7%)と男性が女性を14.1ポイント上回っている。(図表5-39)

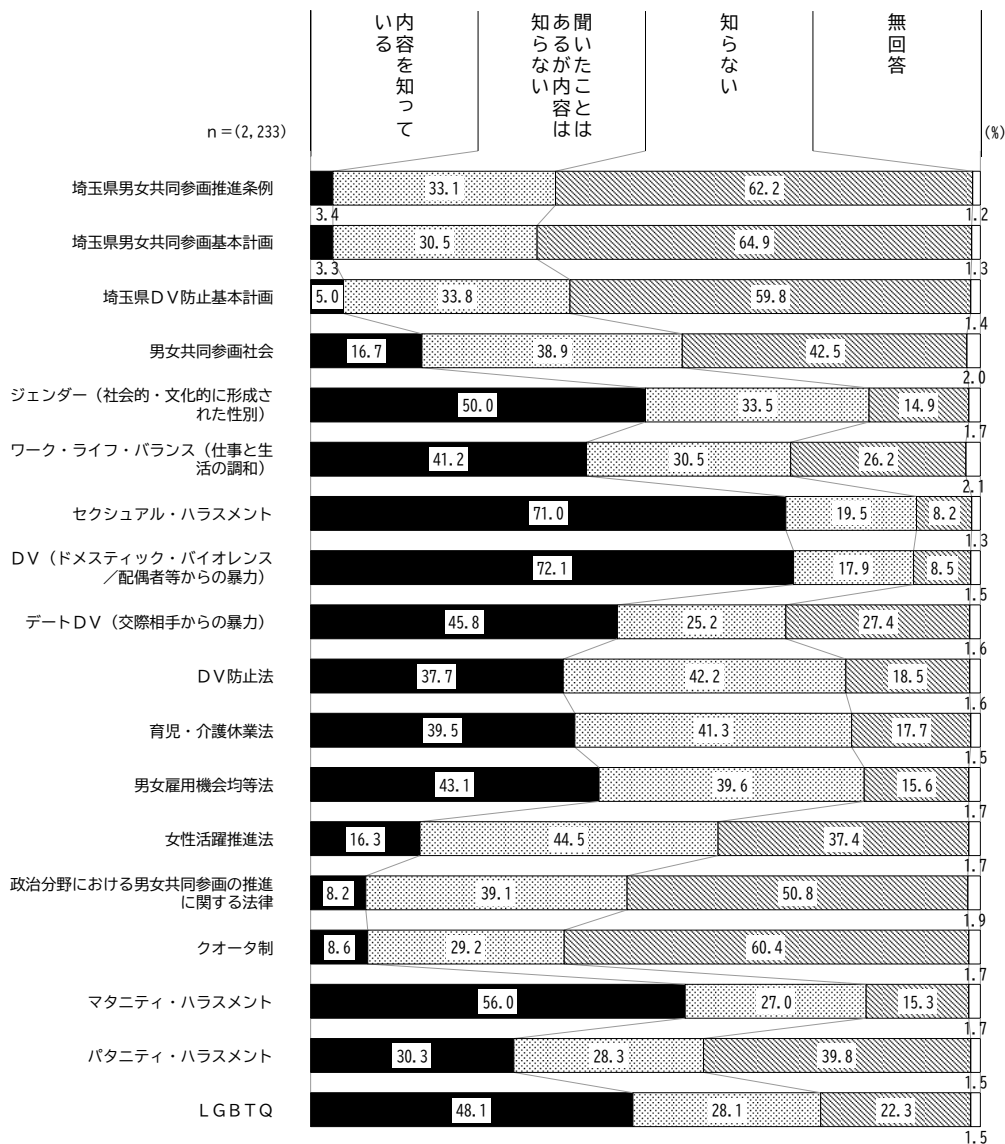
6. 男女共同参画を推進するための取組について

(1) 男女共同参画に関する言葉の認知度

◎【DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）】、【セクシュアル・ハラスメント】の認知度は7割強となっている

問26 あなたは(1)～(18)の男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、見た
り聞いたりしたことがありますか。(それぞれ1つずつに○)

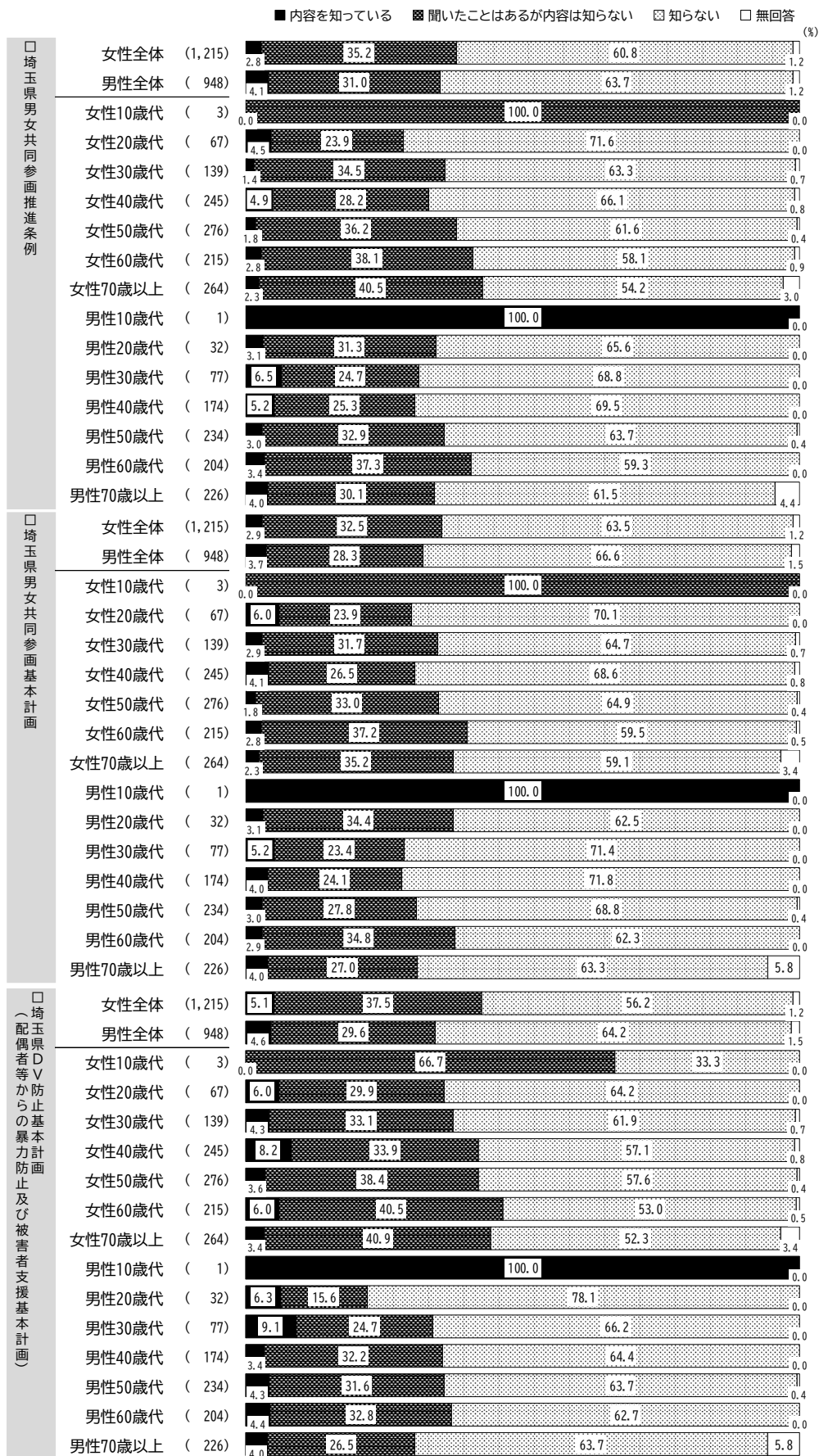
図表6-1 男女共同参画に関する言葉の認知度



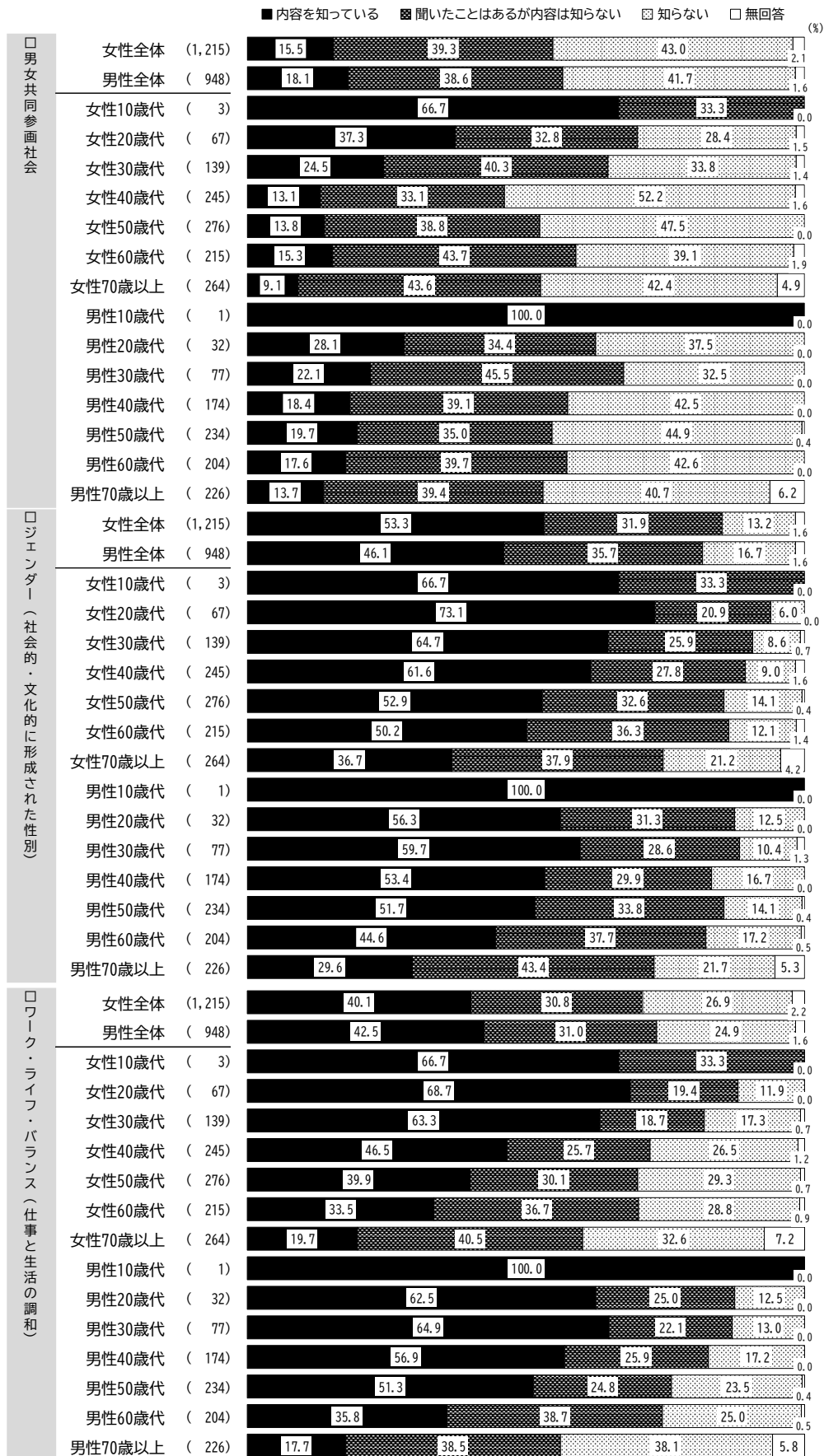
男女共同参画に関する社会の動きや言葉18項目についての認知度は、全体でみると「内容を知っている」では【DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）】（72.1%）が最も高く、次いで【セクシュアル・ハラスメント】（71.0%）、【マタニティ・ハラスメント】（56.0%）となっている。

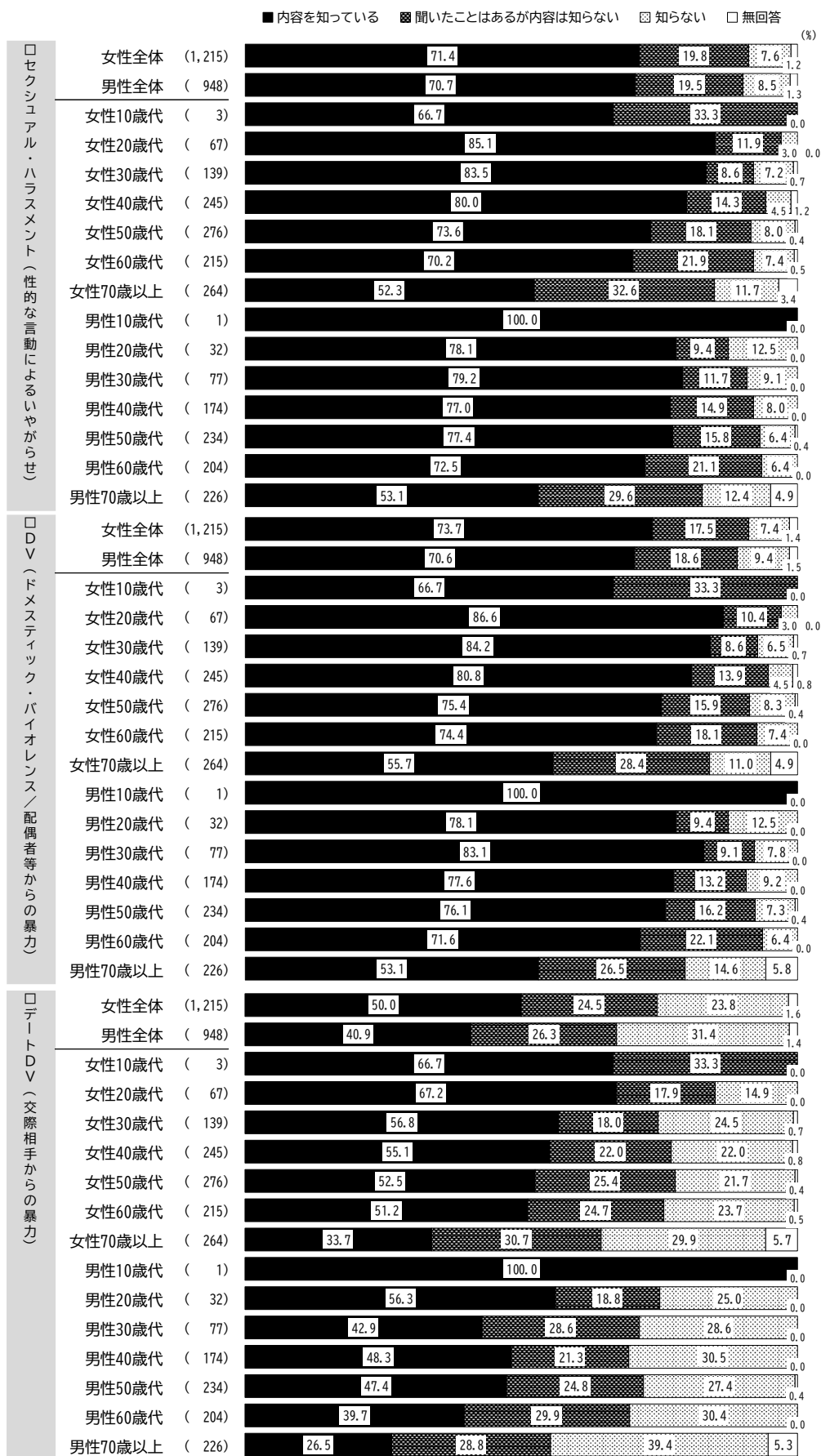
一方、「聞いたことはあるが、内容は知らない」では【女性活躍推進法】（44.5%）が最も高く、次いで【DV防止法】（42.2%）、【育児・介護休業法】（41.3%）となっている。（図表6-1）

図表 6-2 男女共同参画に関する言葉の認知度（性別・性／年齢別）

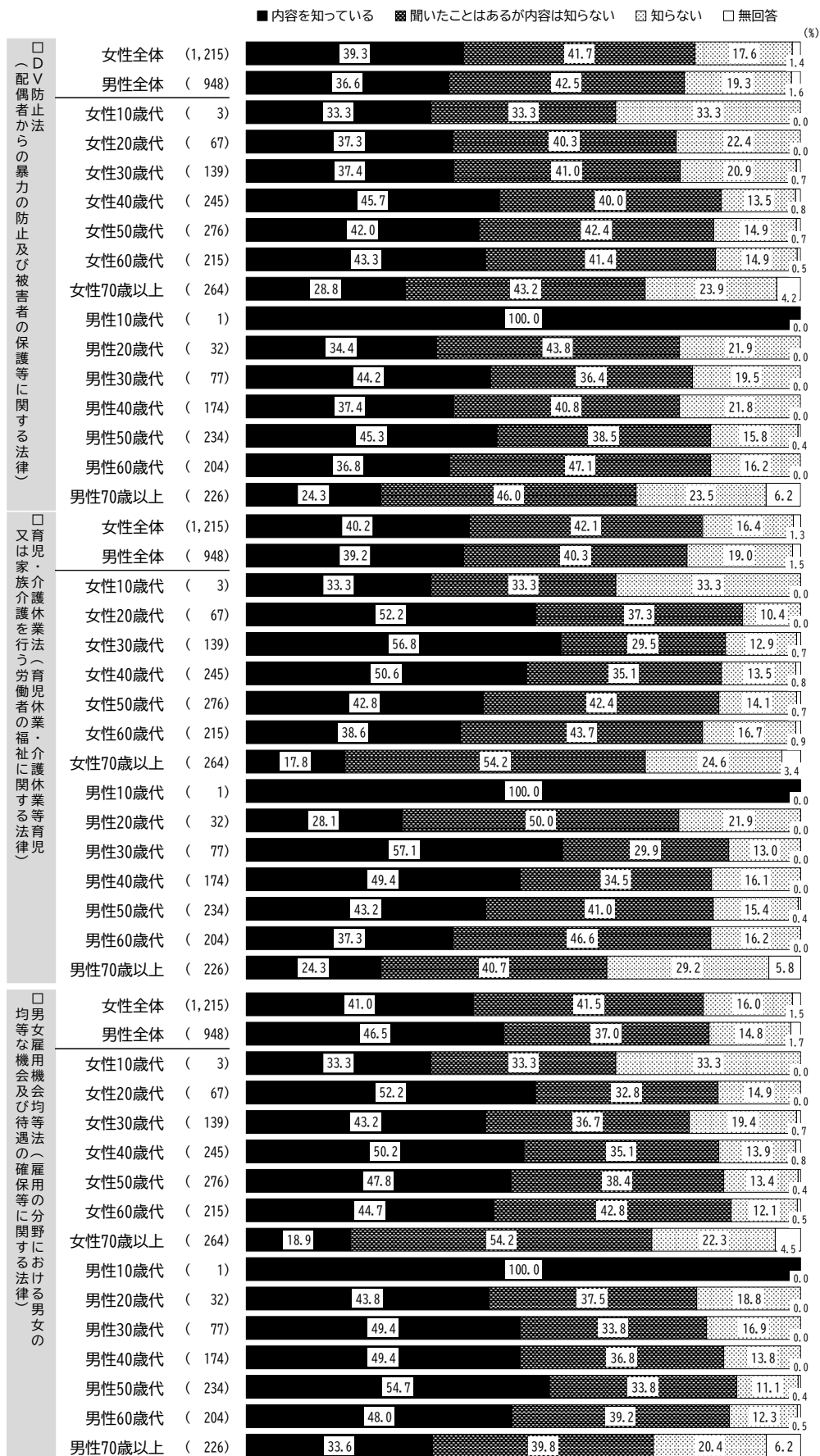


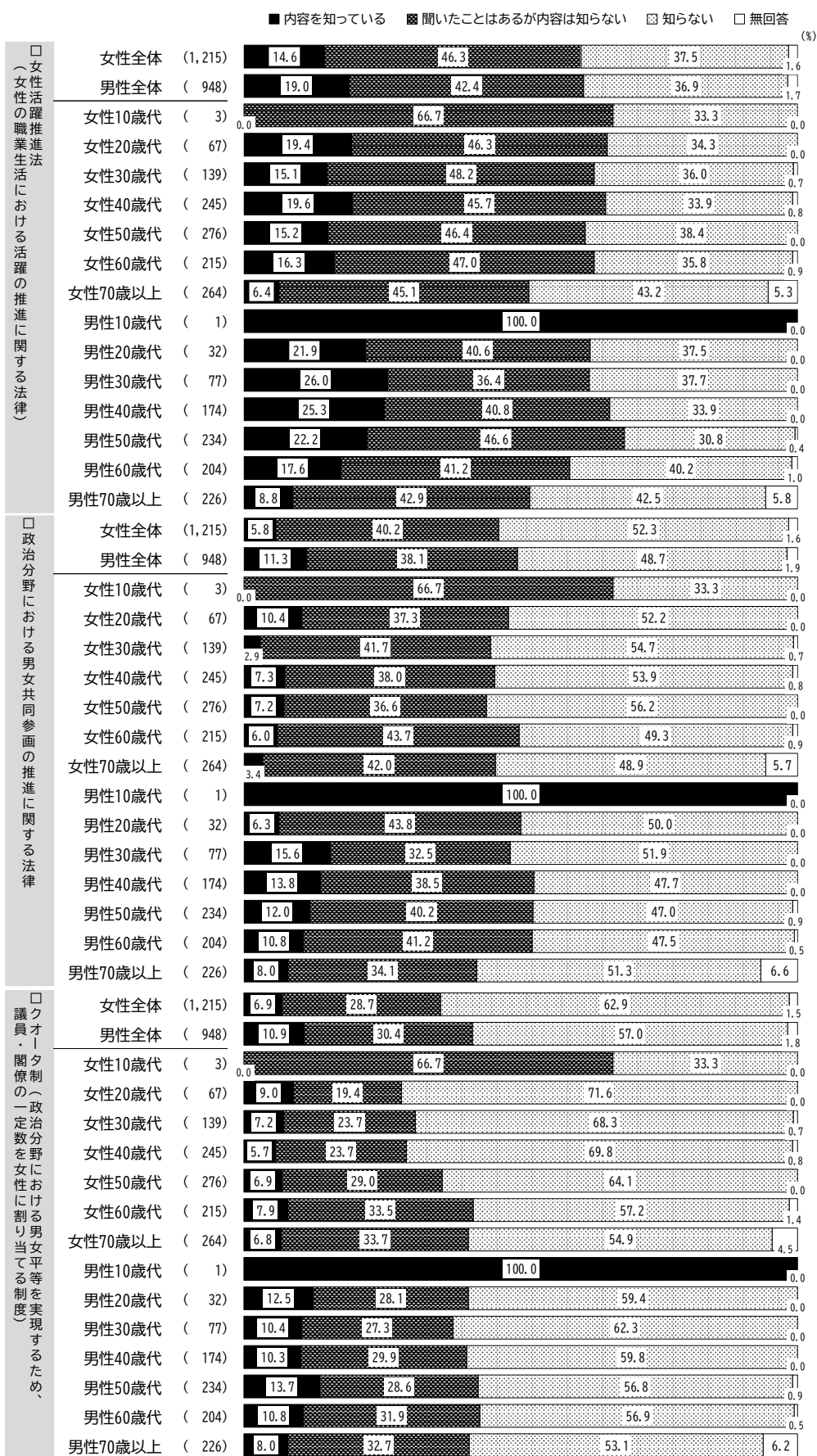
第IV章 調査の結果



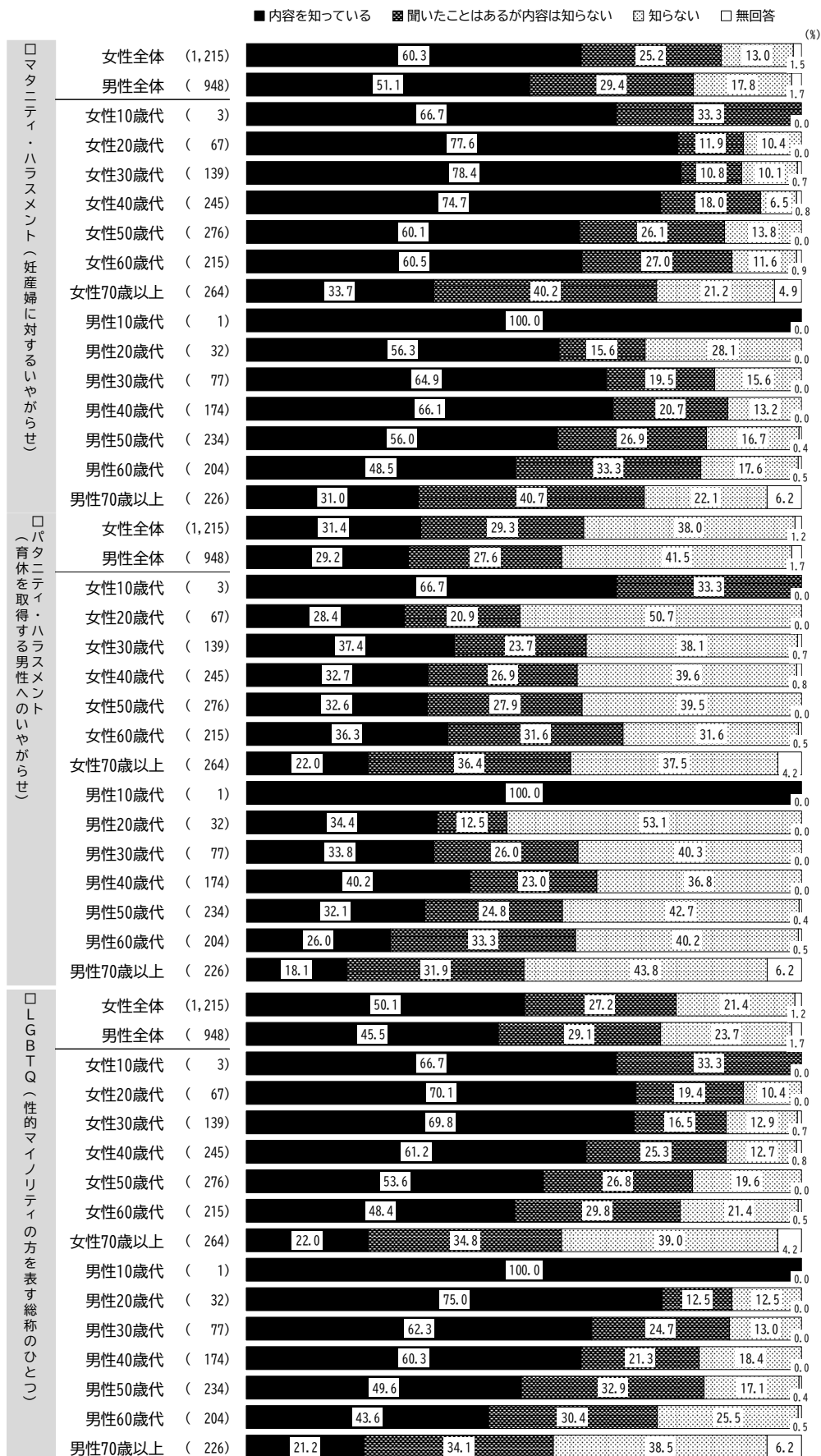


第IV章 調査の結果





第IV章 調査の結果



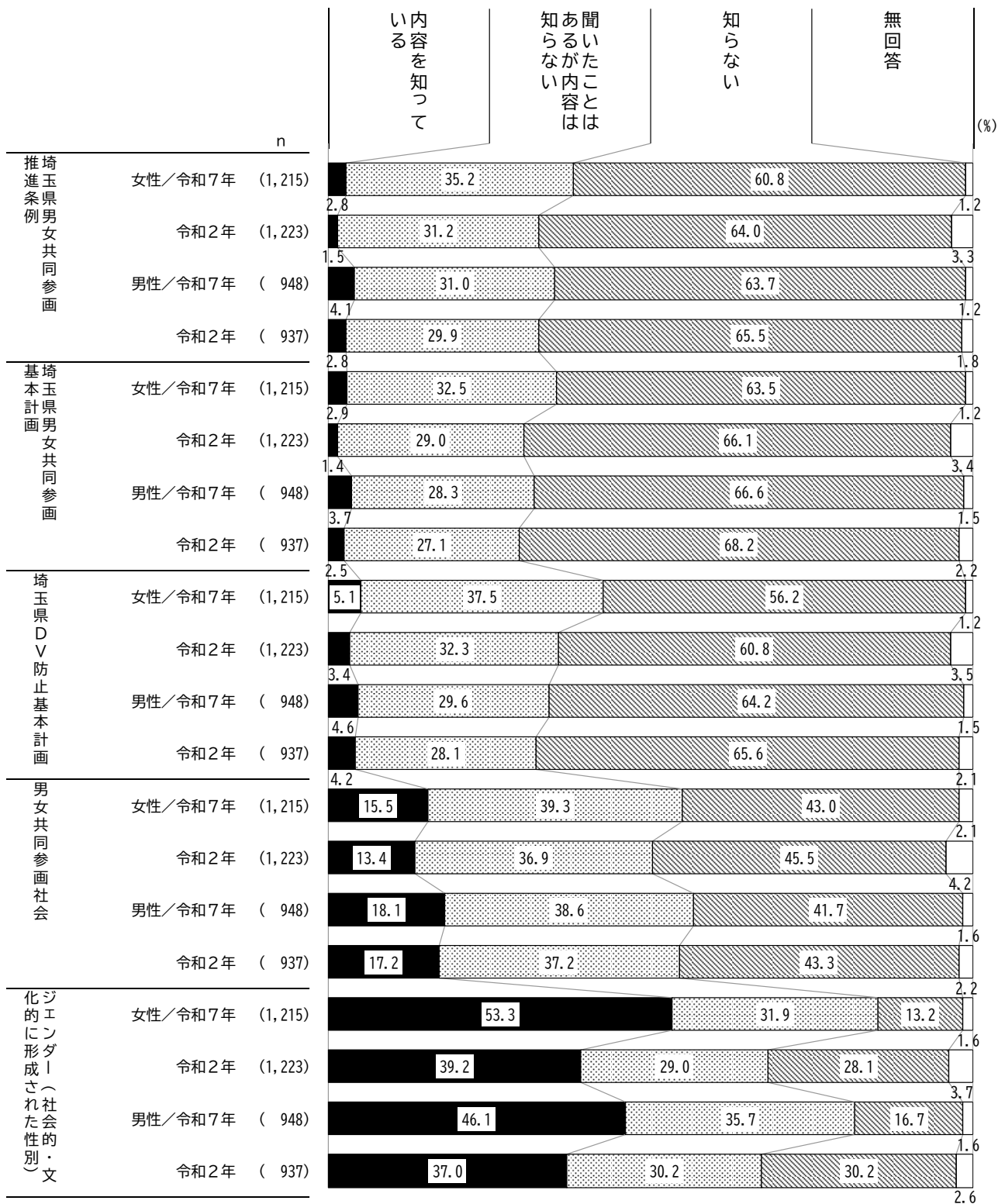
※基数が不足しているため、性/年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする

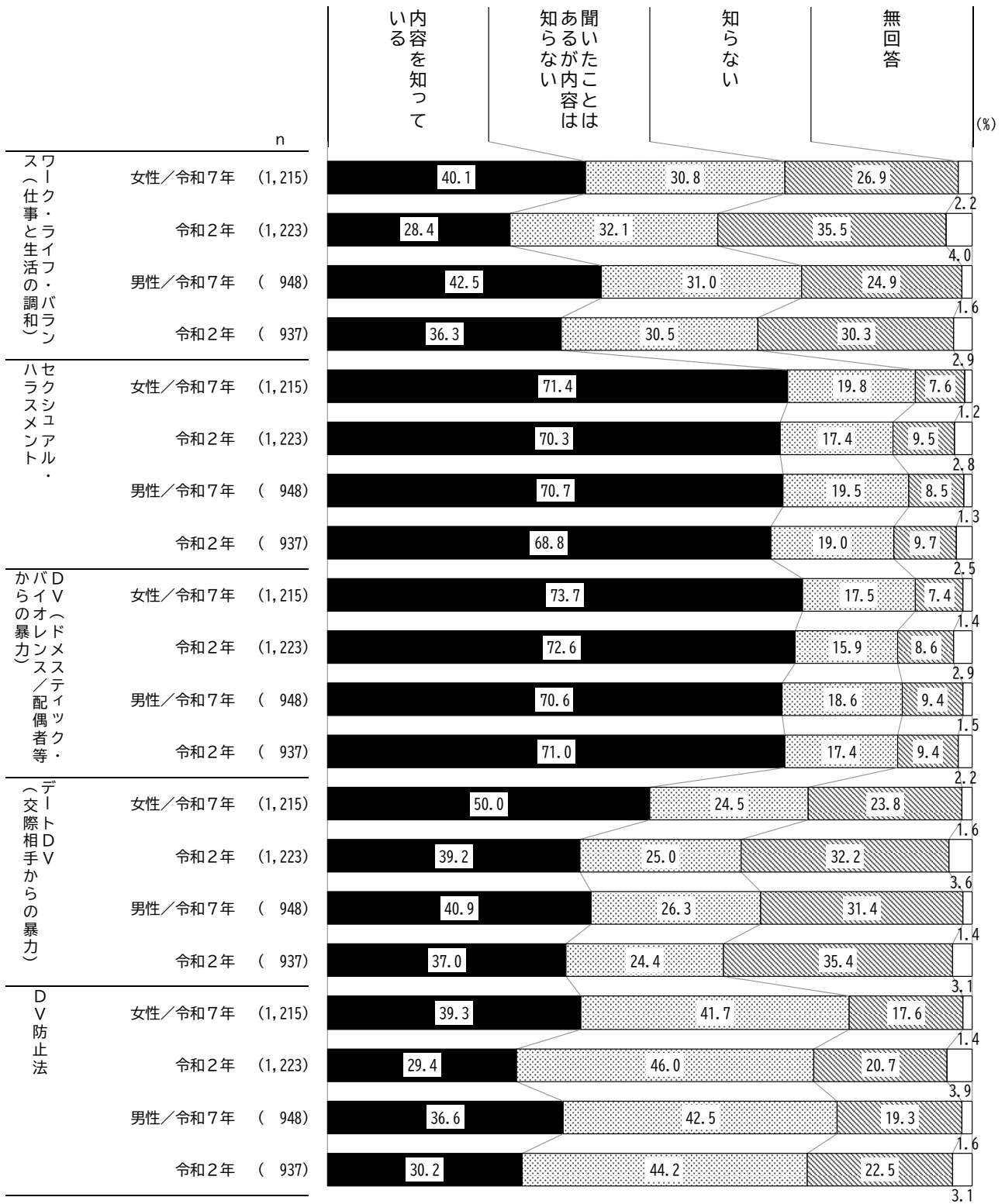
性別で見ると、男女間で認知度の差が大きいものでは、【デートDV（交際相手からの暴力）】は、女性（50.0%）、男性（40.9%）と、女性が男性を9.1ポイント上回っている。【ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】は、女性（53.3%）、男性（46.1%）と、女性が男性を7.2ポイント上回っている。

性／年齢別で見ると、「内容を知っている」は【ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】、【ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】、【セクシュアル・ハラスメント】、【DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）】、【デートDV（交際相手からの暴力）】といった項目では男女ともに年代が上がるにつれ、概ね認知度が下がる傾向が見られる。【男女共同参画社会】、【デートDV（交際相手からの暴力）】、【LGBTQ】は、男女ともに20歳代が最も高くなっている。

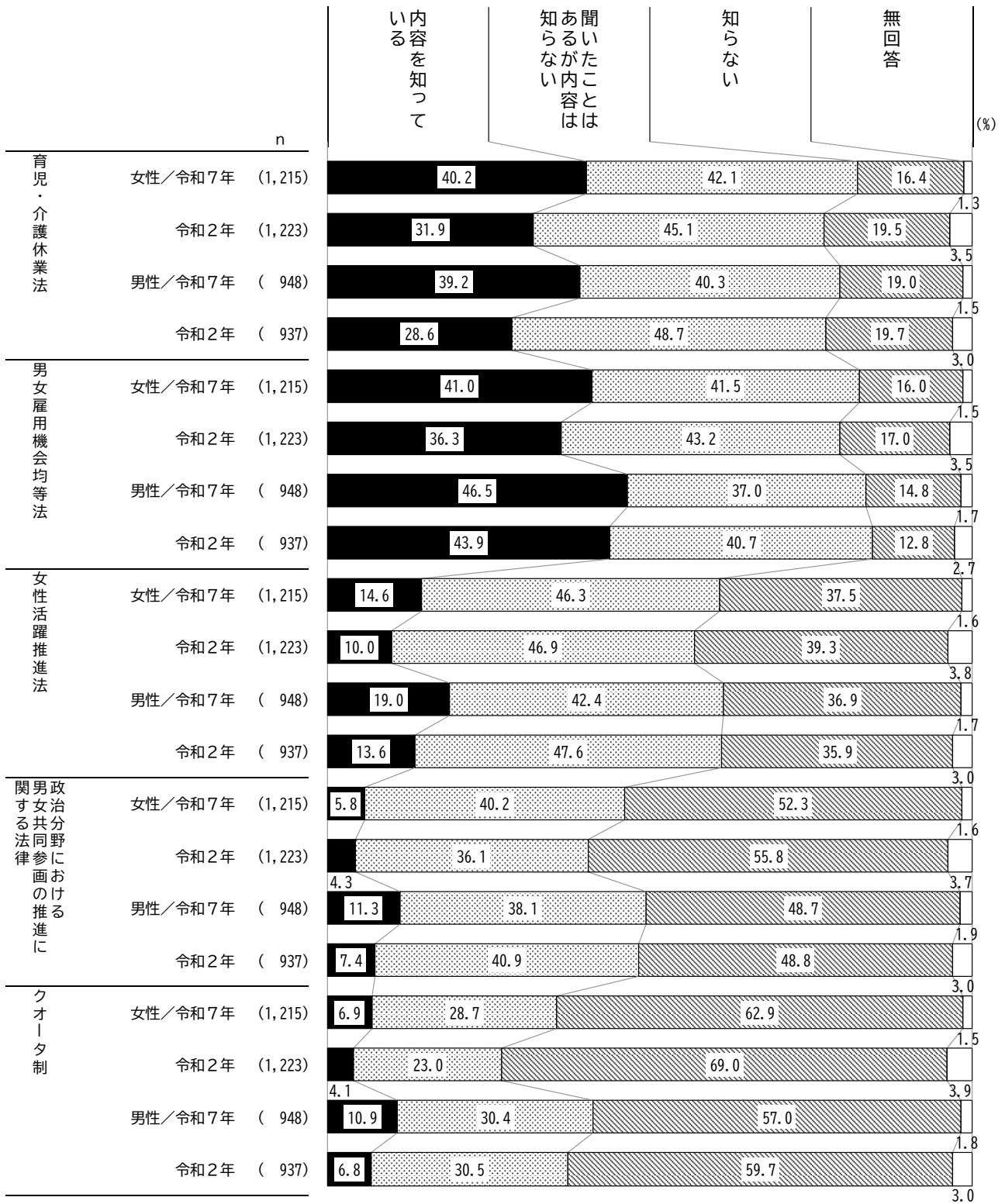
法律・条令関係は、男女ともに「内容を知っている」は【男女雇用機会均等法】が概ね4割強～5割台半ば、【DV防止法】、【育児・介護休業法】が概ね約4割となっている。（図表6-2）

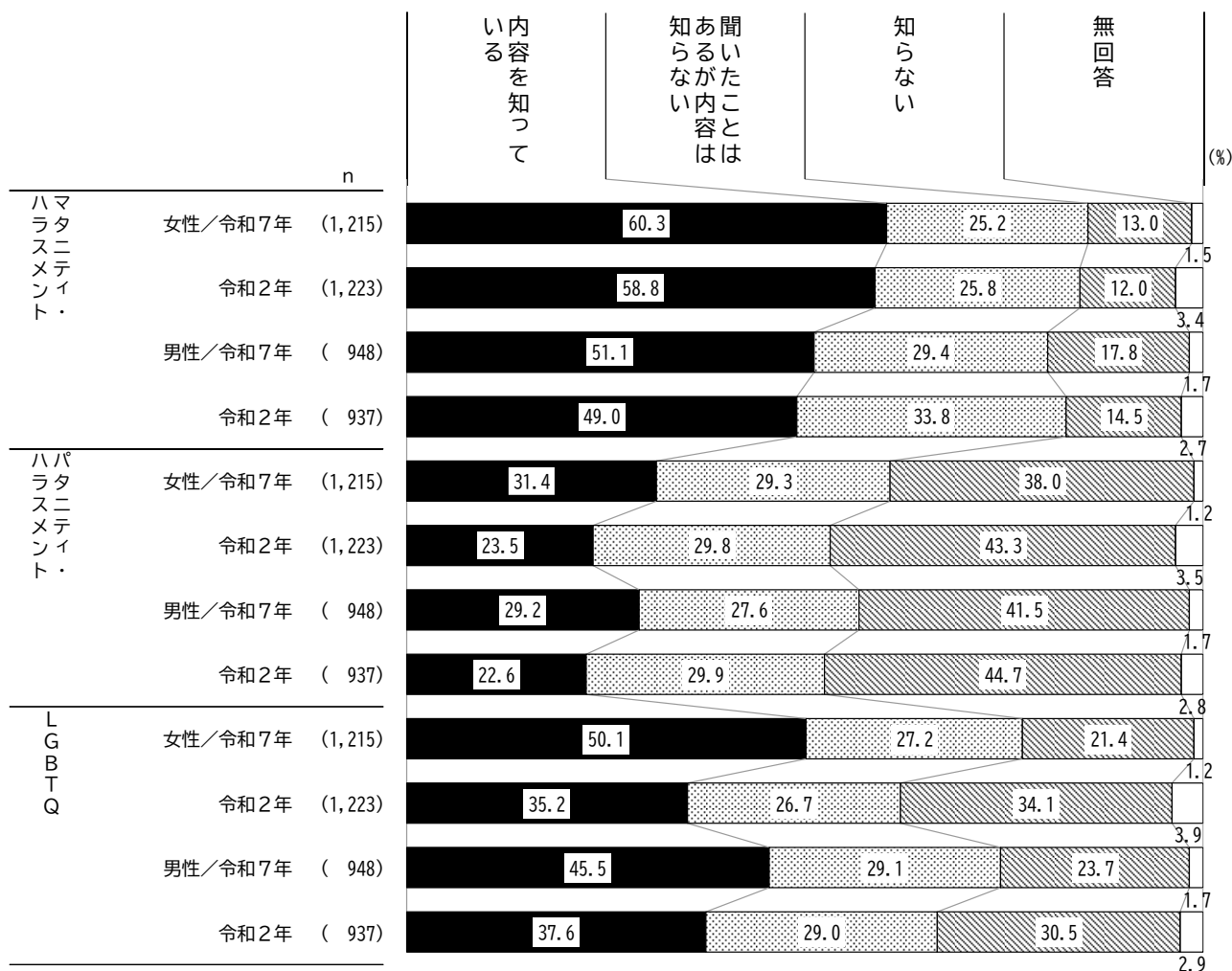
図表6-3 男女共同参画に関する言葉の認知度（令和2年度調査との比較）





第IV章 調査の結果





令和2年度調査と比較すると、「内容を知っている」では【LGBTQ】は前回に比べ女性で14.9ポイント、男性で7.9ポイント増加している。

【ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】は、前回に比べ女性で14.1ポイント、男性で9.1ポイント増加している。

【育児・介護休業法】は、前回に比べ女性で8.3ポイント、男性で10.6ポイント増加している。

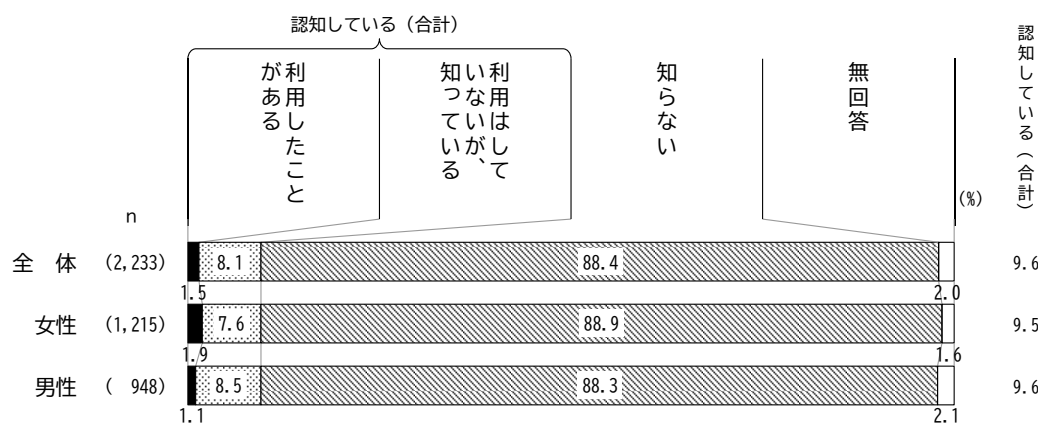
(図表6-3)

(2) 「With You さいたま」の利用経験

◎ 「With You さいたま」を認知しているのは約1割

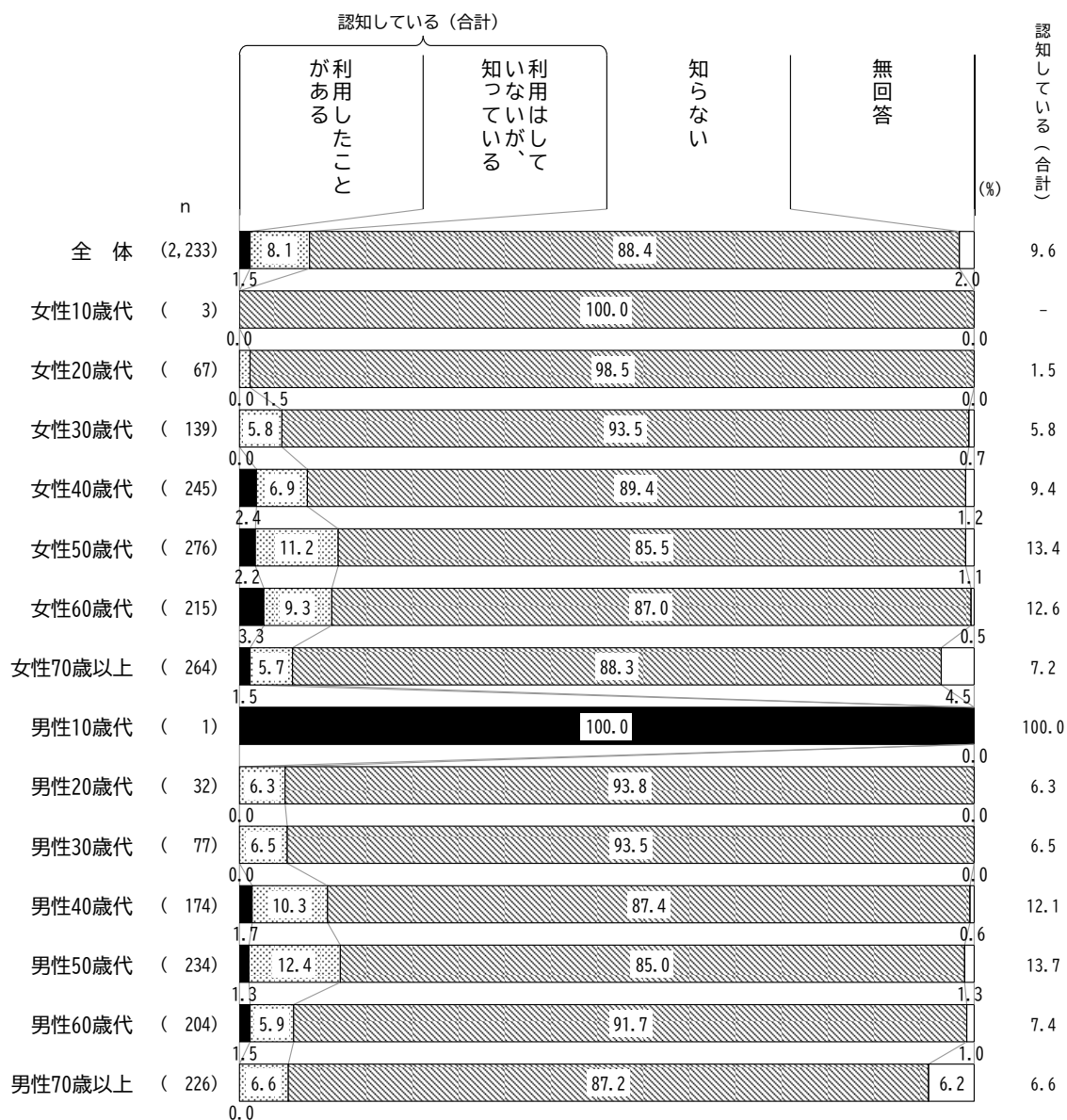
問27 埼玉県には男女共同参画を推進するための拠点として、さいたま新都心に「埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）」があります。あなたは、この施設を利用したことがありますか。 (1つだけに○)

図表6-4 「With You さいたま」の利用経験



埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）の利用経験を聞いたところ、全体で見ると「利用したことがある」（1.5%）と「利用はしていないが知っている」（8.1%）を合わせた《認知している（合計）》は、9.6%となっている。（図表6-4）

図表6-5 「With You さいたま」の利用経験（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする

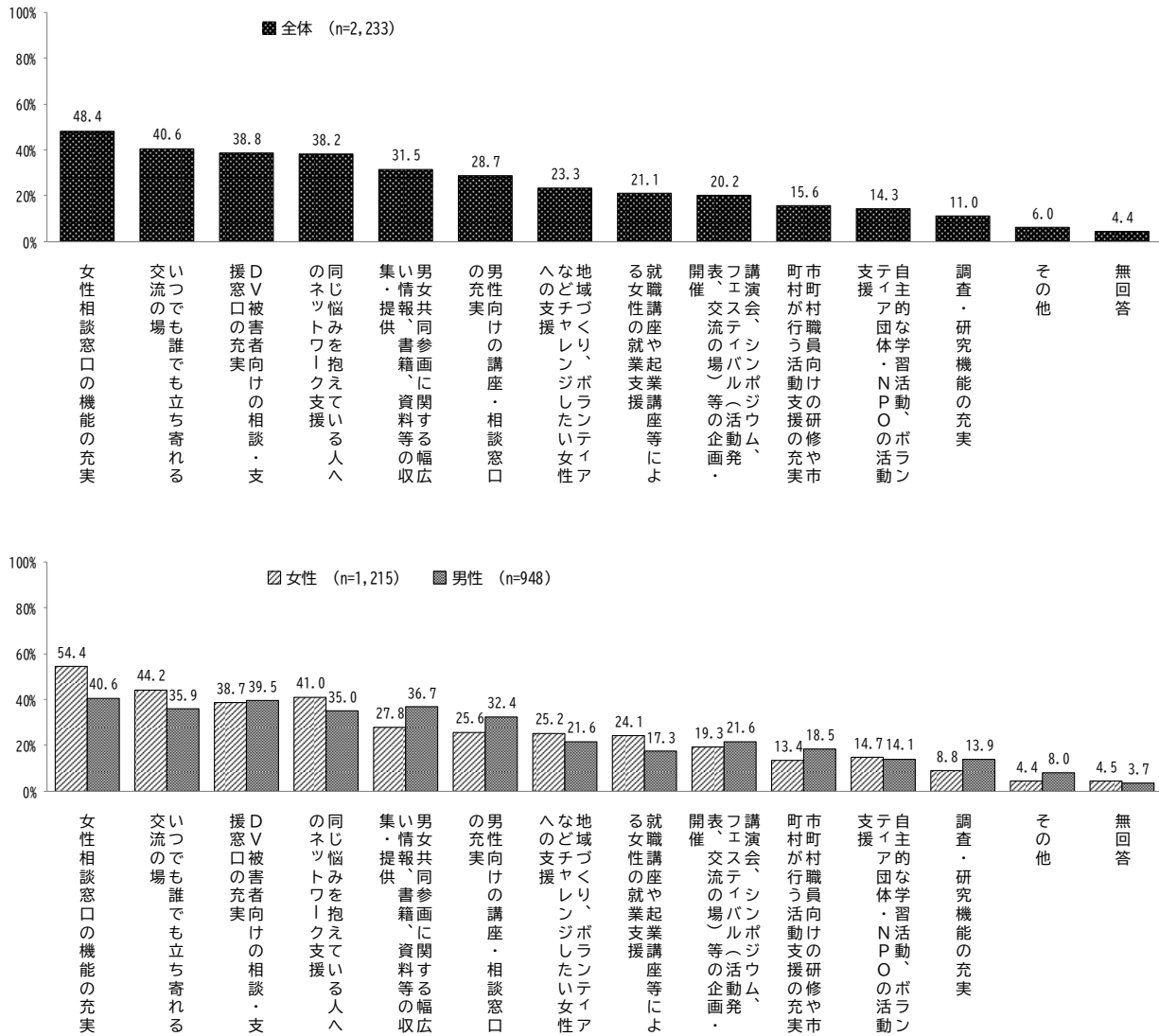
性／年齢別でみると、《認知している（合計）》（「利用したことがある」と「利用はしていないが知っている」の合計）が最も高いのは、男性の50歳代で13.7%となっている。（図表6-5）

(3) 「With You さいたま」に期待すること

◎ 「女性相談窓口の機能の充実」が最も高く、5割弱となっている

問28 あなたは、この「With You さいたま」にどのような役割を期待しますか。
(あてはまるものすべてに○)

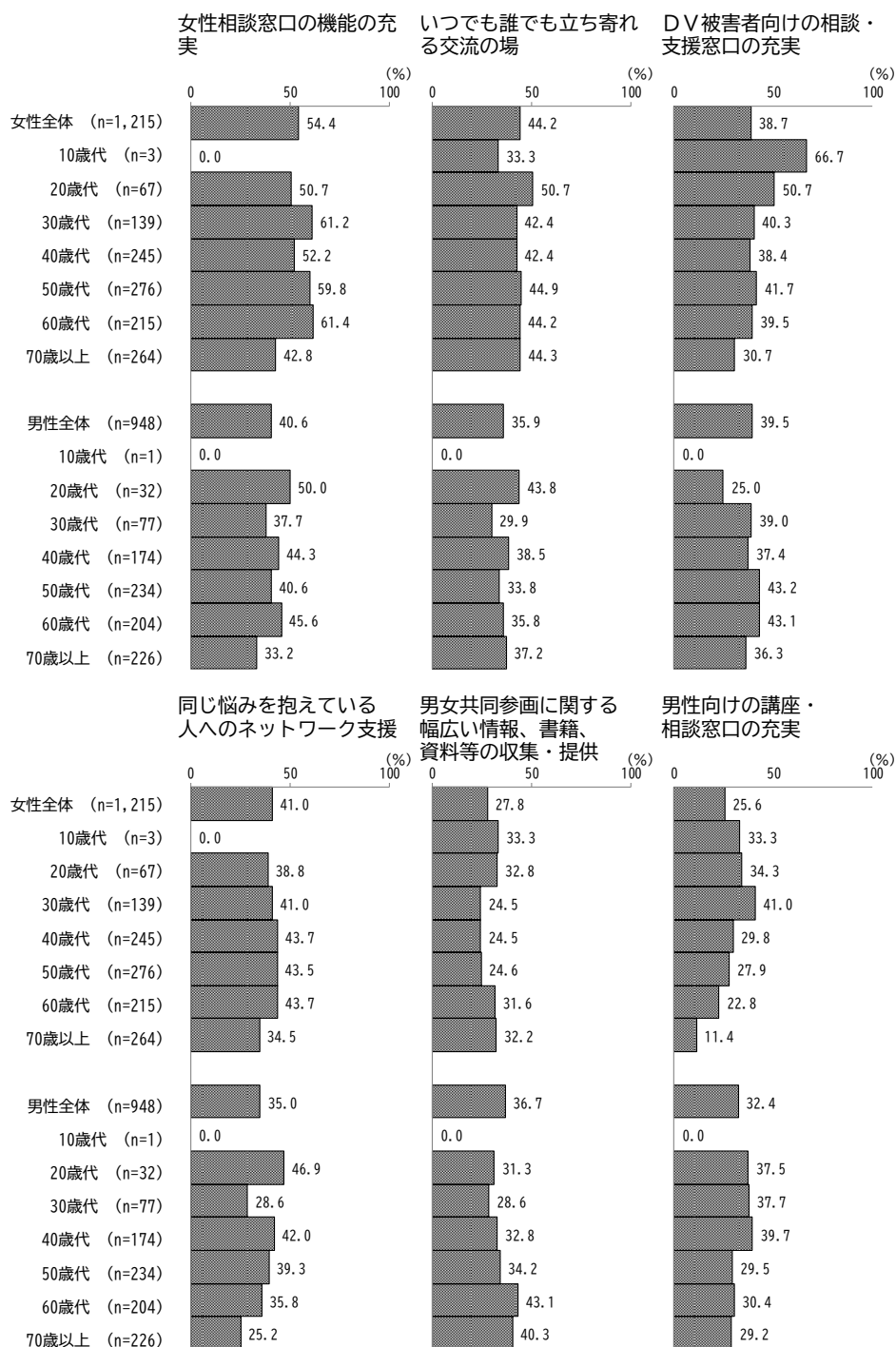
図表6-6 「With You さいたま」に期待すること



「With You さいたま」に期待することを、全体でみると「女性相談窓口の機能の充実」が48.4%で最も高く、次いで「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」(40.6%)、「DV被害者向けの相談・支援窓口の充実」(38.8%)、「同じ悩みを抱えている人へのネットワーク支援」(38.2%)となっている。

性別でみると、「女性相談窓口の機能の充実」は女性(54.4%)、男性(40.6%)と、女性が男性を13.8ポイント上回っている。一方、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」では女性(27.8%)、男性(36.7%)と8.9ポイント、「男性向けの講座・相談窓口の充実」では女性(25.6%)、男性(32.4%)と6.8ポイント、男性が女性を上回っている。(図表6-6)

図表6-7 「With You さいたま」に期待すること（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

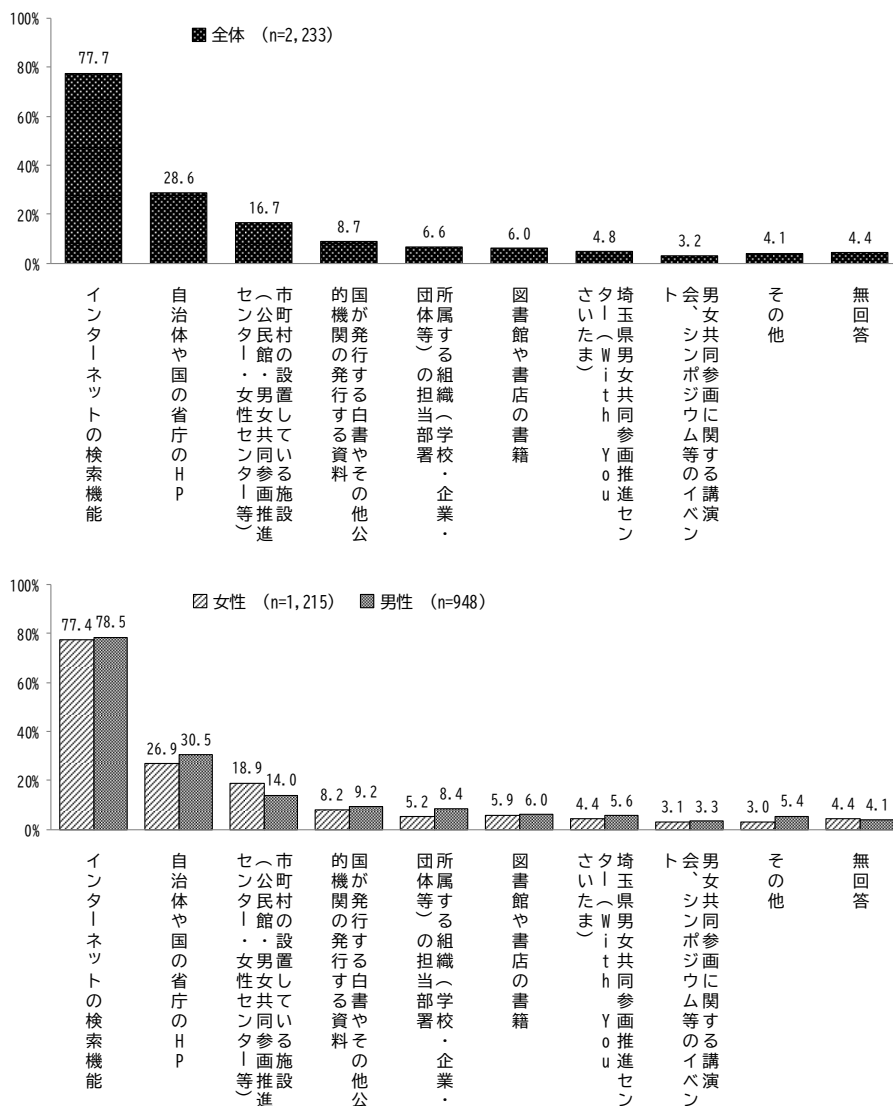
性／年齢別でみると、「女性相談窓口の機能の充実」が女性の30歳代と60歳代で6割強と高く、次いで50歳代が約6割となっている。「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」は、女性の20歳代で5割を超え、男性20歳代で4割強となっている。「DV被害者向けの相談・支援窓口の充実」では、女性20歳代で5割を超え、男性では50歳代～60歳代で4割強となっている。(図表6-7)

(4) 男女共同参画に関する情報の入手方法

◎「インターネットの検索機能」が最も高く7割台半ばを超え、次いで「自治体や国の省庁のHP」が3割弱となっている

問29 あなたは、男女共同参画に関する情報を探るとき、どのような方法で手に入れますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表6-8 男女共同参画に関する情報の入手方法

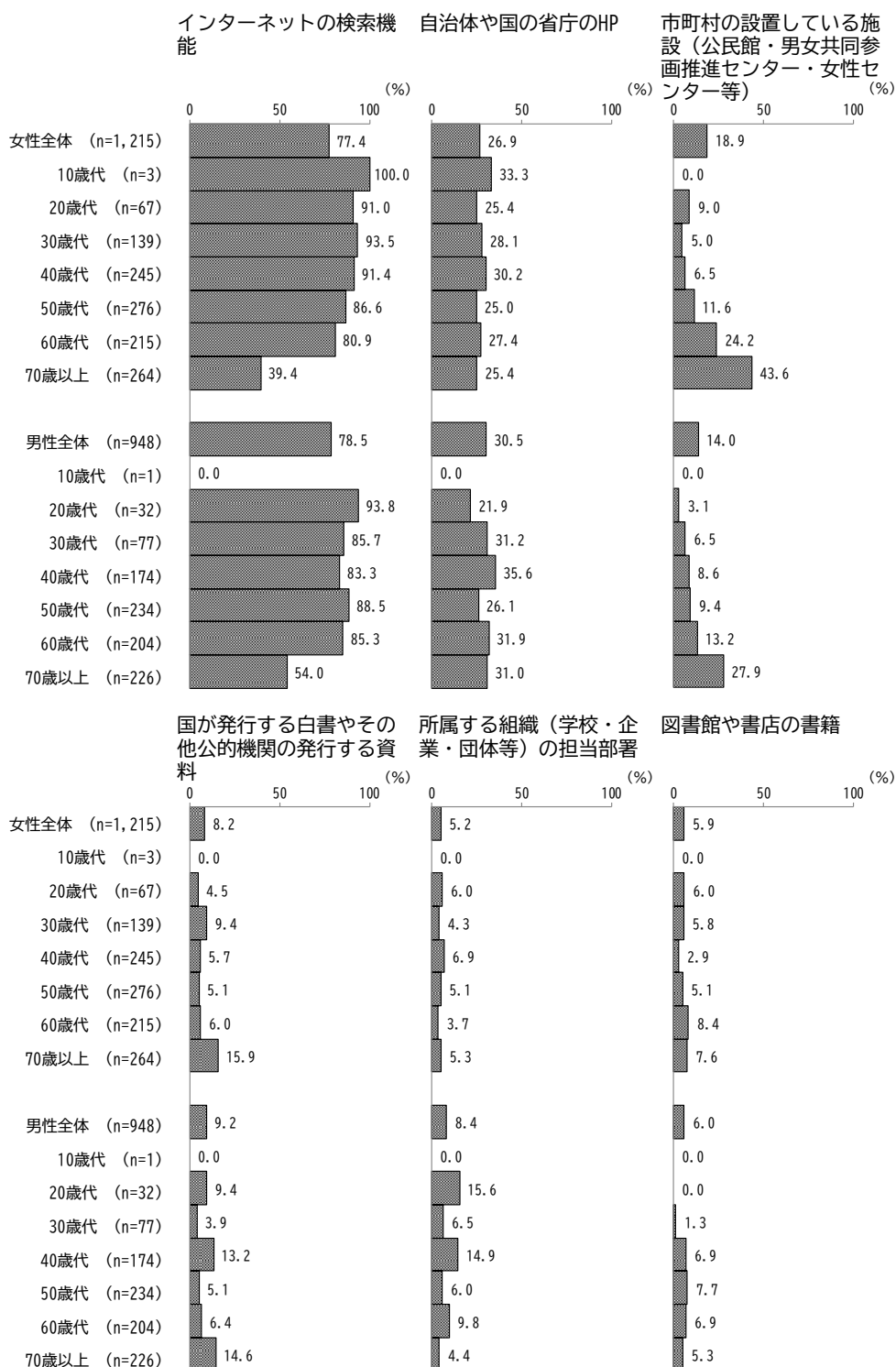


男女共同参画に関する情報の入手方法を、全体でみると「インターネットの検索機能」が77.7%で最も高く、次いで「自治体や国の省庁のHP」(28.6%)、「市町村の設置している施設（公民館・男女共同参画推進センター・女性センター等）」(16.7%)となっている。

性別でみると、「市町村の設置している施設（公民館・男女共同参画推進センター・女性センター等）」は女性(18.9%)、男性(14.0%)と、女性が男性を4.9ポイント上回っている。また「自治体や国の省庁のHP」は女性(26.9%)、男性(30.5%)と、男性が女性を3.6ポイント上回っている。

(図表6-8)

図表6-9 男女共同参画に関する情報の入手方法（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

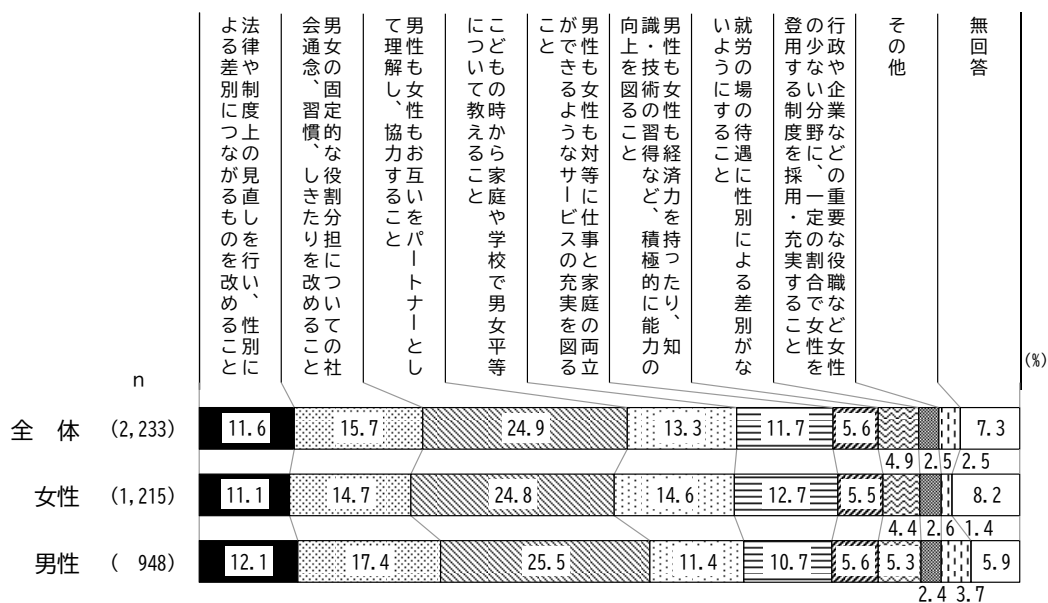
性／年齢別で見ると、男女とも20歳代～60歳代では「インターネットの検索機能」がいずれも過半数で8割以上と高くなっている。また、女性の60歳代以上、男性の70歳代以上では「市町村の設置している施設（公民館・男女共同参画推進センター・女性センター等）」が他の年代と比べて高くなっている。（図表6-9）

(5) 男女共同参画社会実現のために必要なこと

◎「男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること」が最も高く、2割台半ばとなっている

問30 今後、男性も女性も、ともに社会のあらゆる分野にバランス良く積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(1つだけに○)

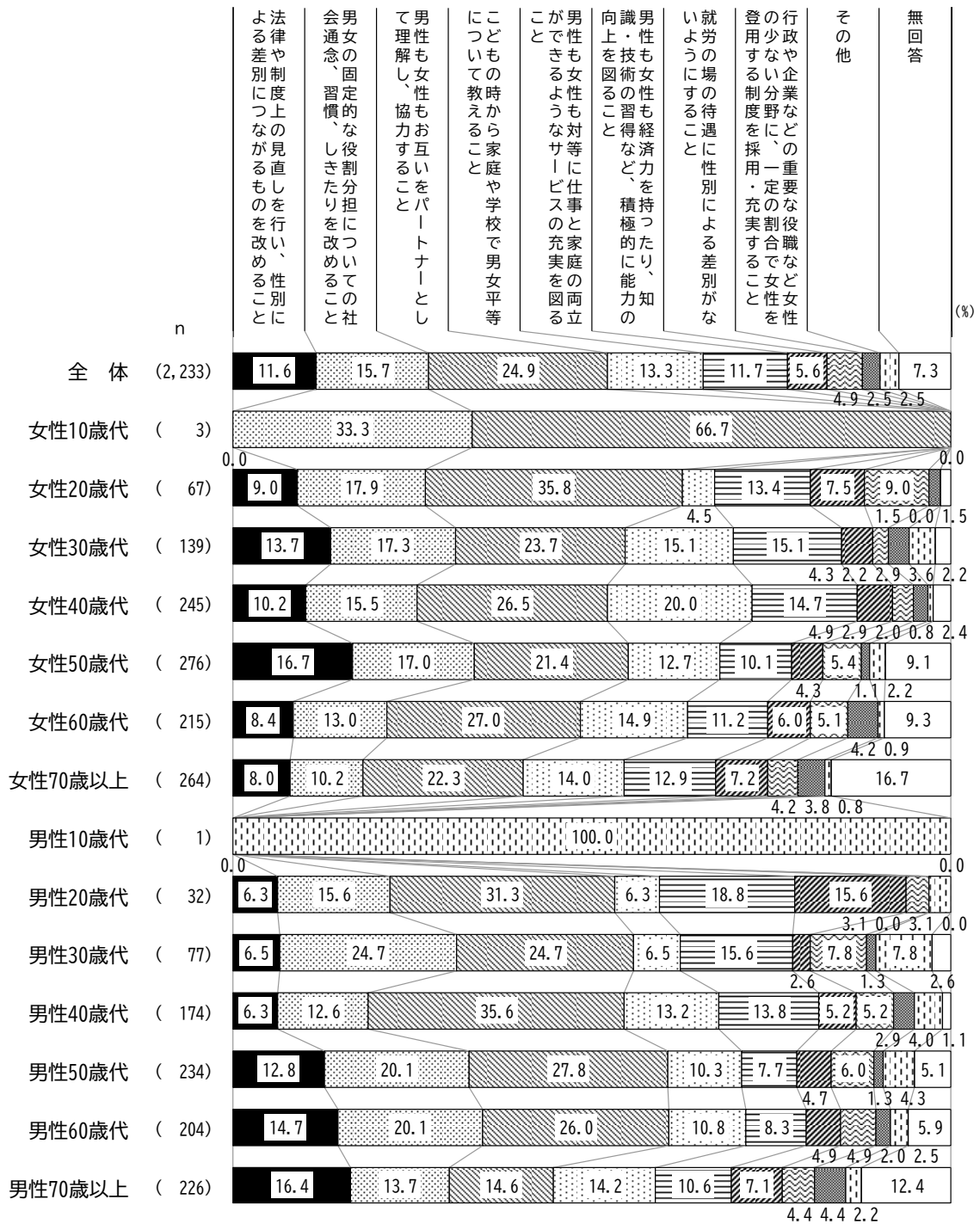
図表6-10 男女共同参画社会実現のために必要なこと



社会のあらゆる分野で、男女がバランスよく積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思うかを聞いたところ、全体でみると「男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること」が24.9%で最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」(15.7%)、「こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」(13.3%)となっている。

性別でみると、「こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」が女性(14.6%)、男性(11.4%)と、女性が男性を3.2ポイント上回っている。(図表6-10)

図表6-11 男女共同参画社会実現のために必要なこと（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること」が女性のすべての年代と、70歳以上を除く男性のすべての年代で最も高くなっている（男性30歳代は「男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」と同率）。男性70歳以上では「法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること」が最も高くなっている。

(図表6-11)

図表6-12 男女共同参画社会実現のために必要なこと（令和2年度調査との比較、上位6項目）

【全体】		令和7年 (n=2,233)	令和2年 (n=2,034)
第1位	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること	↑ (24.9)	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること (24.6)
第2位	男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること	↓ (15.7)	男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること (17.6)
第3位	こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること	↑ (13.3)	こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること (12.9)
第4位	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること	↑ (11.7)	法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること (12.6)
第5位	法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること	↓ (11.6)	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること (11.2)
第6位	男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること	↓ (5.6)	男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること (7.0)
【女性】		令和7年 (n=1,215)	令和2年 (n=1,114)
第1位	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること	↓ (24.8)	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること (28.3)
第2位	男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること	↓ (14.7)	男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること (17.4)
第3位	こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること	↑ (14.6)	こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること (13.5)
第4位	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること	↑ (12.7)	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること (11.8)
第5位	法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること	↑ (11.1)	法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること (10.5)
第6位	男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること	↓ (5.5)	男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること (7.6)
【男性】		令和7年 (n=948)	令和2年 (n=859)
第1位	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること	↑ (25.5)	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること (21.5)
第2位	男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること	↓ (17.4)	男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること (19.2)
第3位	法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること	↓ (12.1)	法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること (15.8)
第4位	こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること	↓ (11.4)	こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること (13.0)
第5位	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること	↓ (10.7)	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること (11.3)
第6位	男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること	↓ (5.6)	男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること (6.6)

令和2年度調査との比較を順位表（上位6項目）としてみると、全体で見ると上位6項目の内容に変動はみられないが、「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること」が第5位から第4位へ順位を上げている。一方、前回第4位の「法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること」は第5位に順位を下げている。

性別で見ると、男女ともに前回と上位6項目の順位に変動はみられない。（図表6-12）

7. 困難な問題を抱える女性への支援について

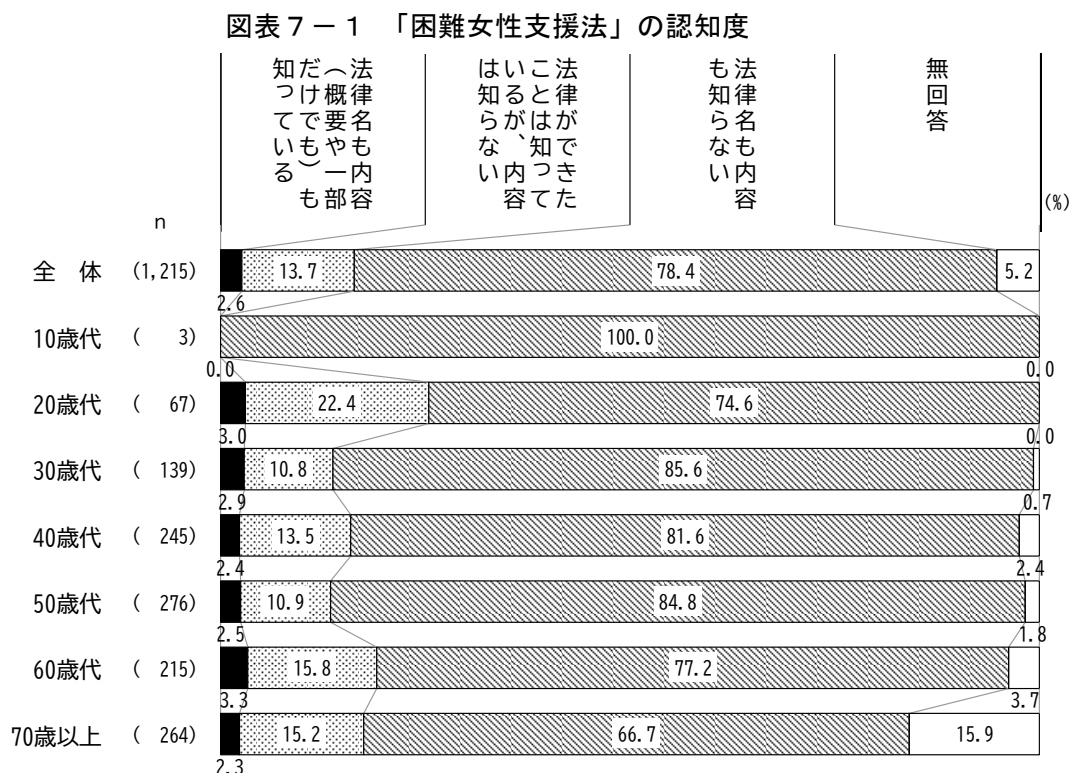
(1) 「困難女性支援法」の認知度

◎ 「法律名も内容も知らない」が8割弱

新規調査

【女性の方に伺います】（F1で「2 男性」「3 回答しない」と答えた方は問34へ）

問31 あなたは、「女性の福祉」「人権の尊重や擁護」「男女平等」といった視点を明確に規定した、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」（困難女性支援法）を知っていますか。
（1つだけに○）



※基数が不足しているため、10歳代は参考扱いとする。

女性の方に「困難女性支援法」の認知度について聞いたところ、全体でみると「法律名も内容（概要や一部だけでも）も知っている」は2.6%、「法律ができたことは知っているが、内容は知らない」は13.7%、「法律名も内容も知らない」は78.4%となっている。

年齢別でみると、「法律名も内容も知らない」は30歳台（85.6%）、40歳台（81.6%）、50歳台（84.8%）で8割台と高くなっている。（図表7-1）

(2) これまでに抱えたことのある悩み

◎「家族の障害や疾病」が最も高く、1割強となっている

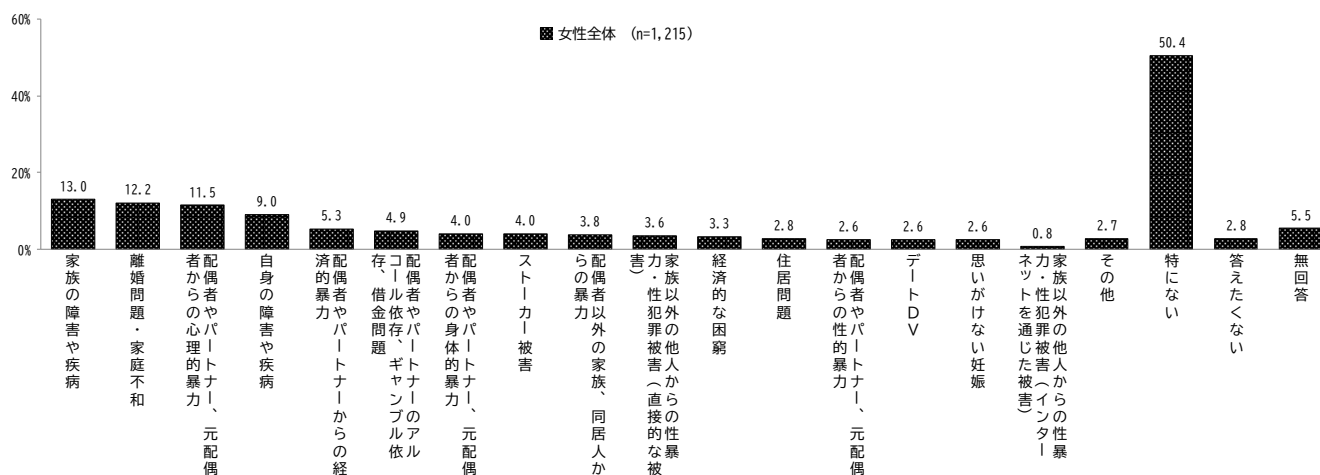
新規調査

【女性の方に伺います】(F1で「2 男性」「3 回答しない」と答えた方は問3 4へ)

問3 1-1 あなたがこれまでに抱えたことのある悩みはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

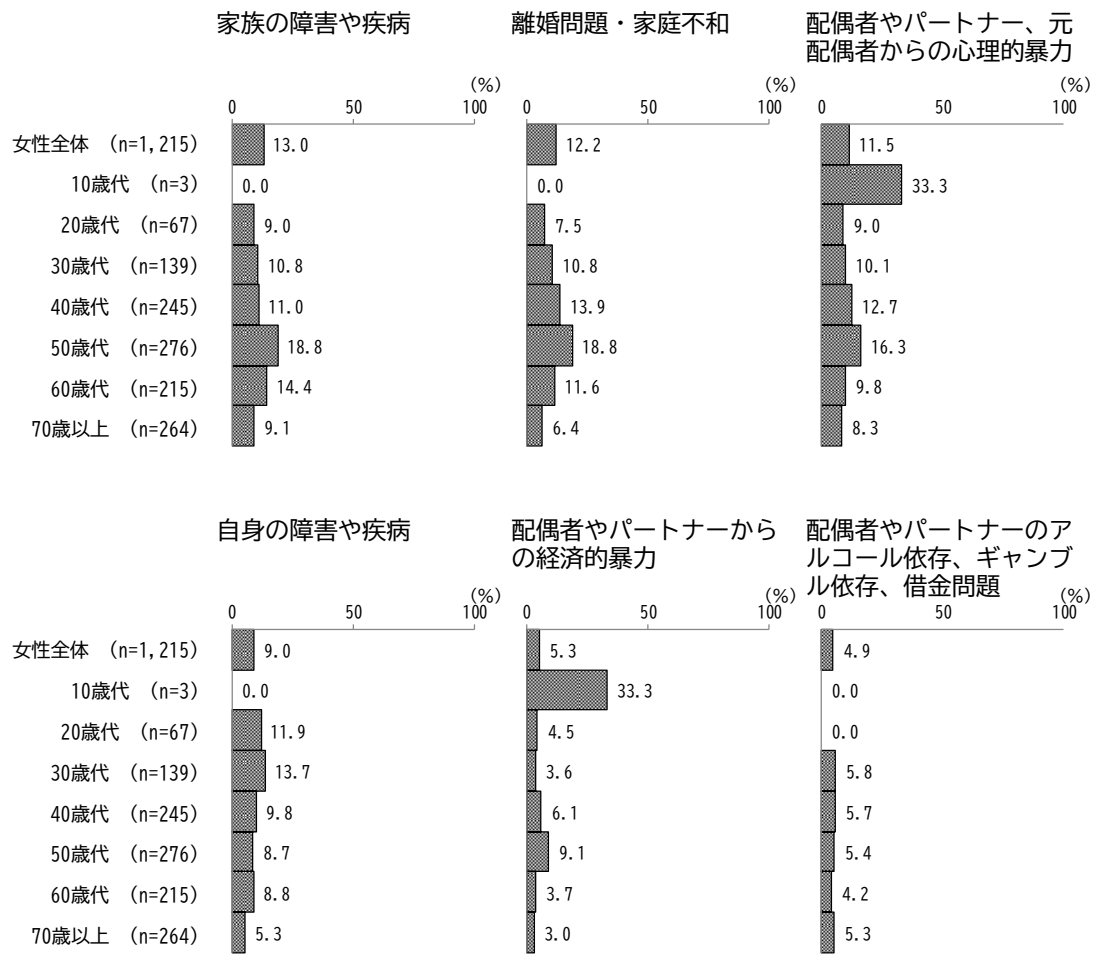
図表7-2 これまでに抱えたことのある悩み



女性の方にこれまでに抱えたことのある悩みについて聞いたところ、全体で見ると「特にない」を除くと「家族の障害や疾病」が13.0%で最も高く、次いで「離婚問題・家庭不和」(12.2%)、「配偶者やパートナー、元配偶者からの心理的暴力」(11.5%)となっている。(図表7-2)

第IV章 調査の結果

図表 7-3 これまでに抱えたことのある悩み（年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、10歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、50歳代で「家族の障害や疾病」（18.8%）、「離婚問題・家庭不和」（18.8%）、「配偶者やパートナー、元配偶者からの心理的暴力」（16.3%）がそれぞれ最も高くなっている。

（図表 7-3）

(3) 悩みの相談相手

◎「家族」が最も高く、4割台半ばとなっている

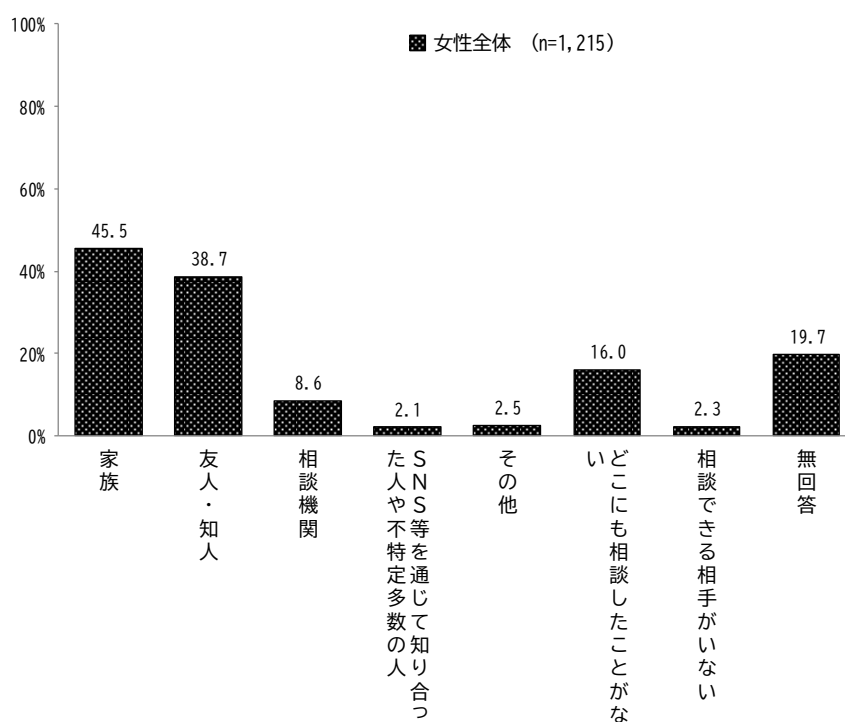
新規調査

【女性の方に伺います】(F1で「2 男性」「3 回答しない」と答えた方は問34へ)

問31-2 悩みがある場合、相談したことがあれば相手を教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

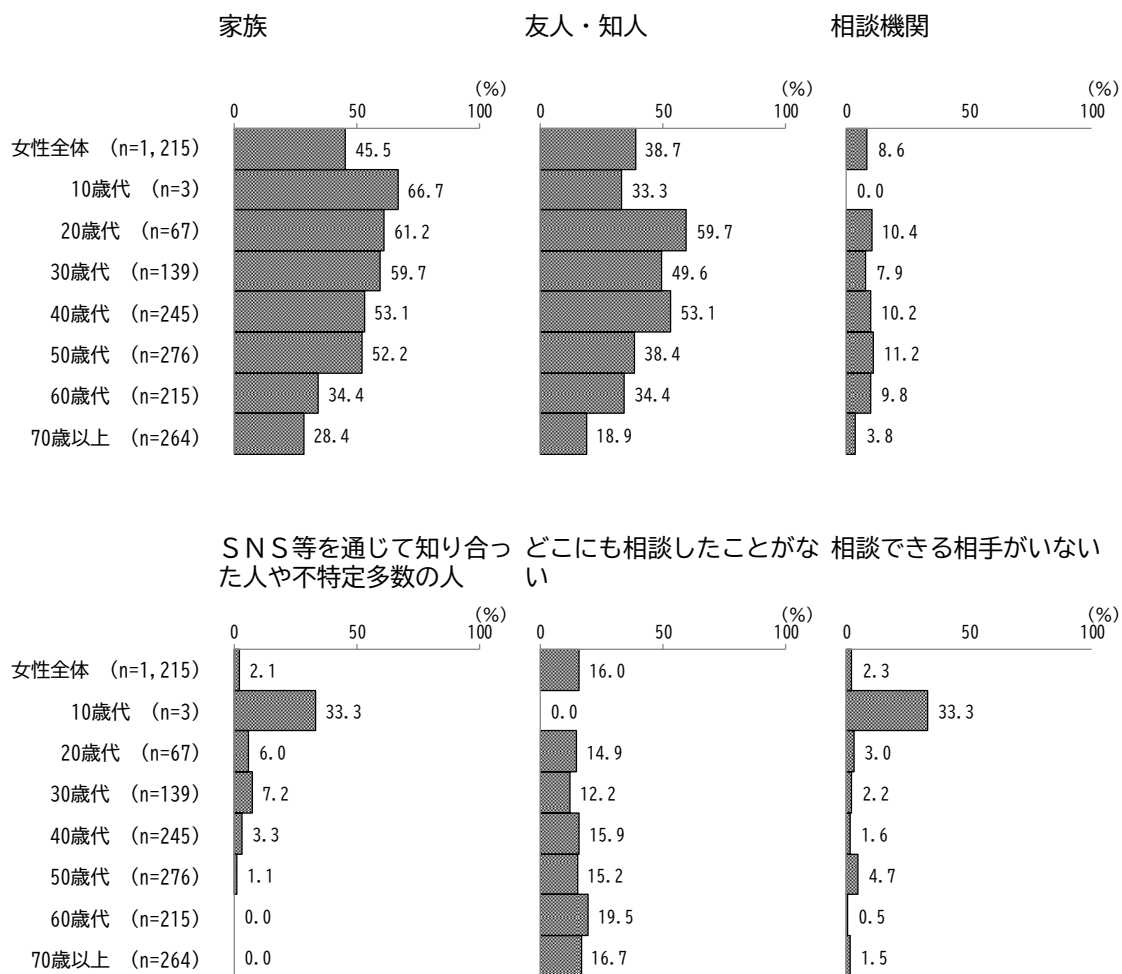
図表7-4 悩みの相談相手



女性の方に悩みの相談相手について聞いたところ、全体で見ると「家族」が45.5%で最も高く、次いで「友人・知人」が38.7%となっている。

一方、「どこにも相談したことがない」は16.0%、「相談できる相手がいない」は2.3%となっている。(図表7-4)

図表7-5 悩みの相談相手（年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、10歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、「家族」は20歳代の61.2%で最も高く、年代が上がるにつれて低くなっている。「友人・知人」も概ね年代が上がるにつれて低くなっており、70歳以上では18.9%となっている。

(図表7-5)

(4) 悩みを相談した結果

◎「話を聞いてもらい、気持ちが落ち着いた」が最も高く8割強となっている

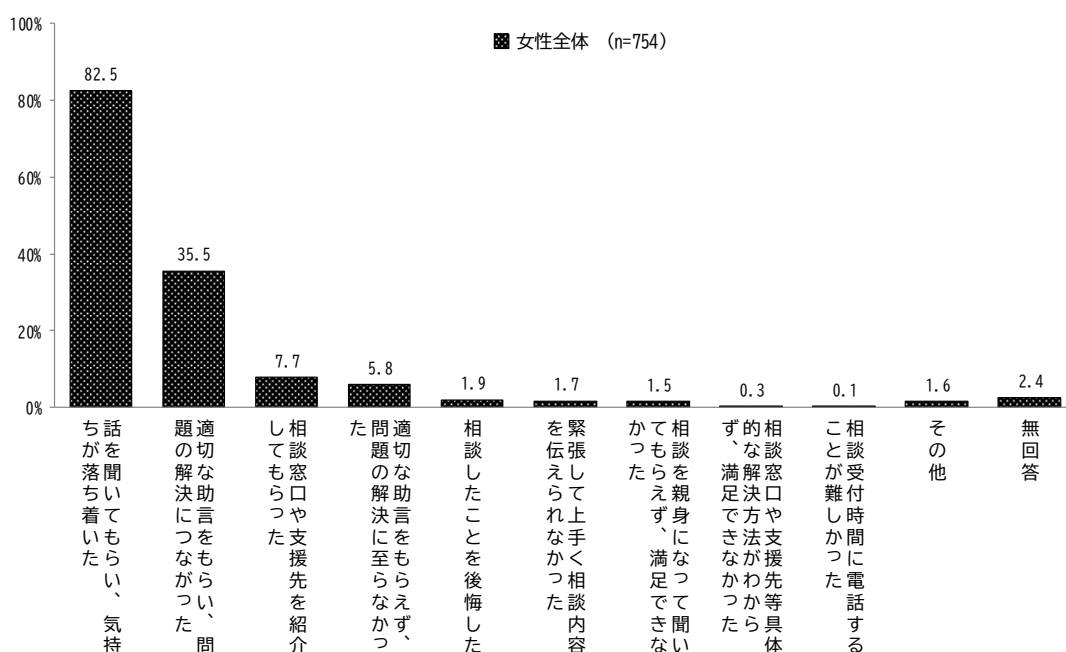
新規調査

【問3 1-2で、「1」～「5」のいずれかを回答した（相談したことがある）方に】

問3 1-3 相談したことがある場合、その結果はどうでしたか。

(あてはまるものすべてに○)

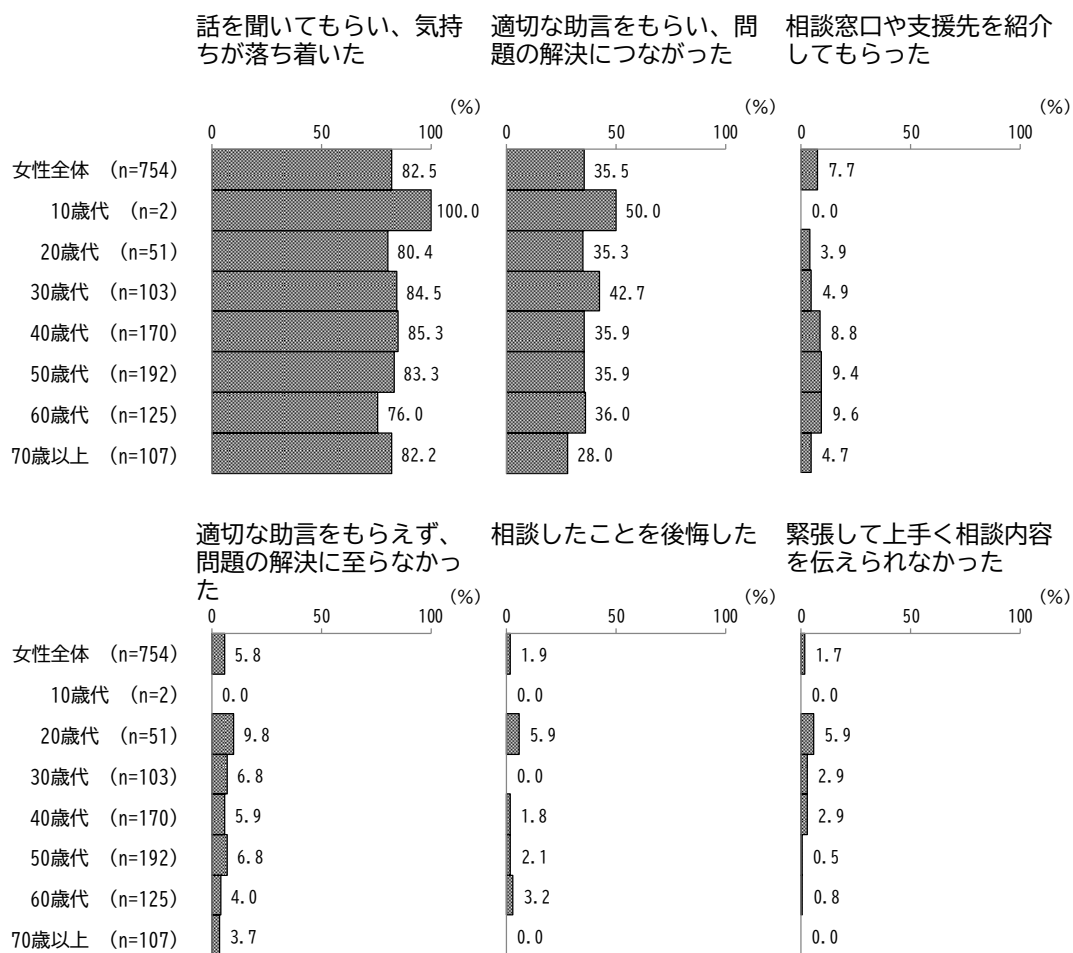
図表7-6 悩みを相談した結果



悩みを相談したことがある女性に相談した結果について聞いたところ、全体でみると「話を聞いてもらい、気持ちが落ち着いた」が82.5%で最も高く、次いで「適切な助言をもらい、問題の解決につながった」が35.5%となっている。(図表7-6)

第IV章 調査の結果

図表7-7 悩みを相談した結果（年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、10歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、「話を聞いてもらい、気持ちが落ち着いた」は60歳代を除くすべての年代で8割以上となっている。「適切な助言をもらい、問題の解決につながった」は30歳代で42.7%と最も高くなっている。(図表7-7)

(5) 悩みを相談したことがない理由

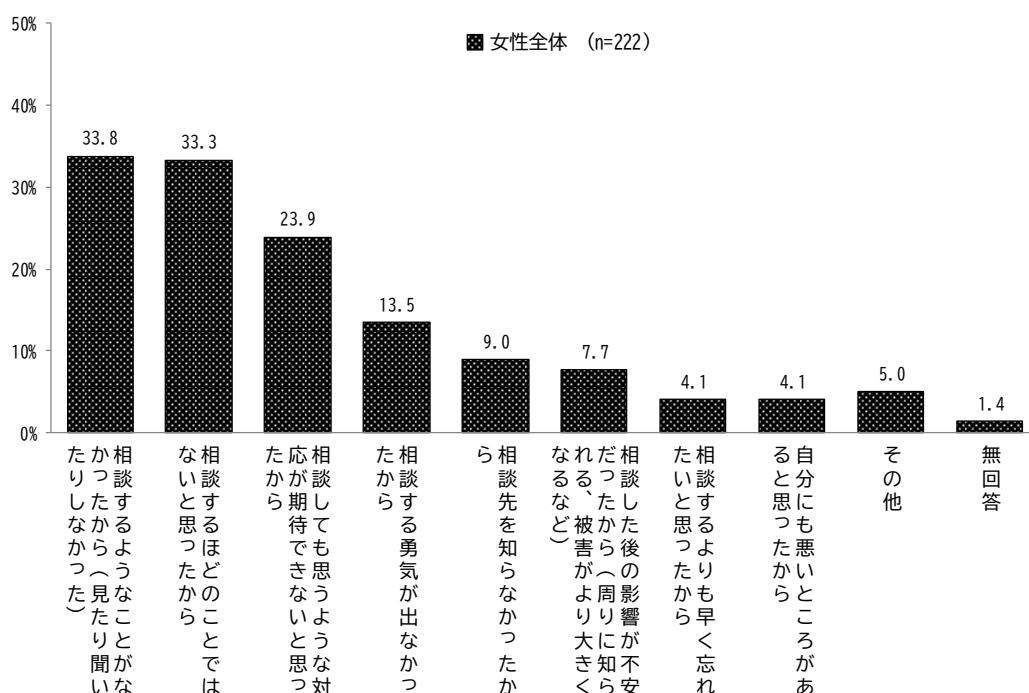
◎「相談するようなことがなかったから（見たり聞いたりしなかった）」が最も高く、3割強となっている

新規調査

【問3 1-2で、「6」「7」を回答した（相談したことがない）方に】

問3 2 相談したことがない場合、その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

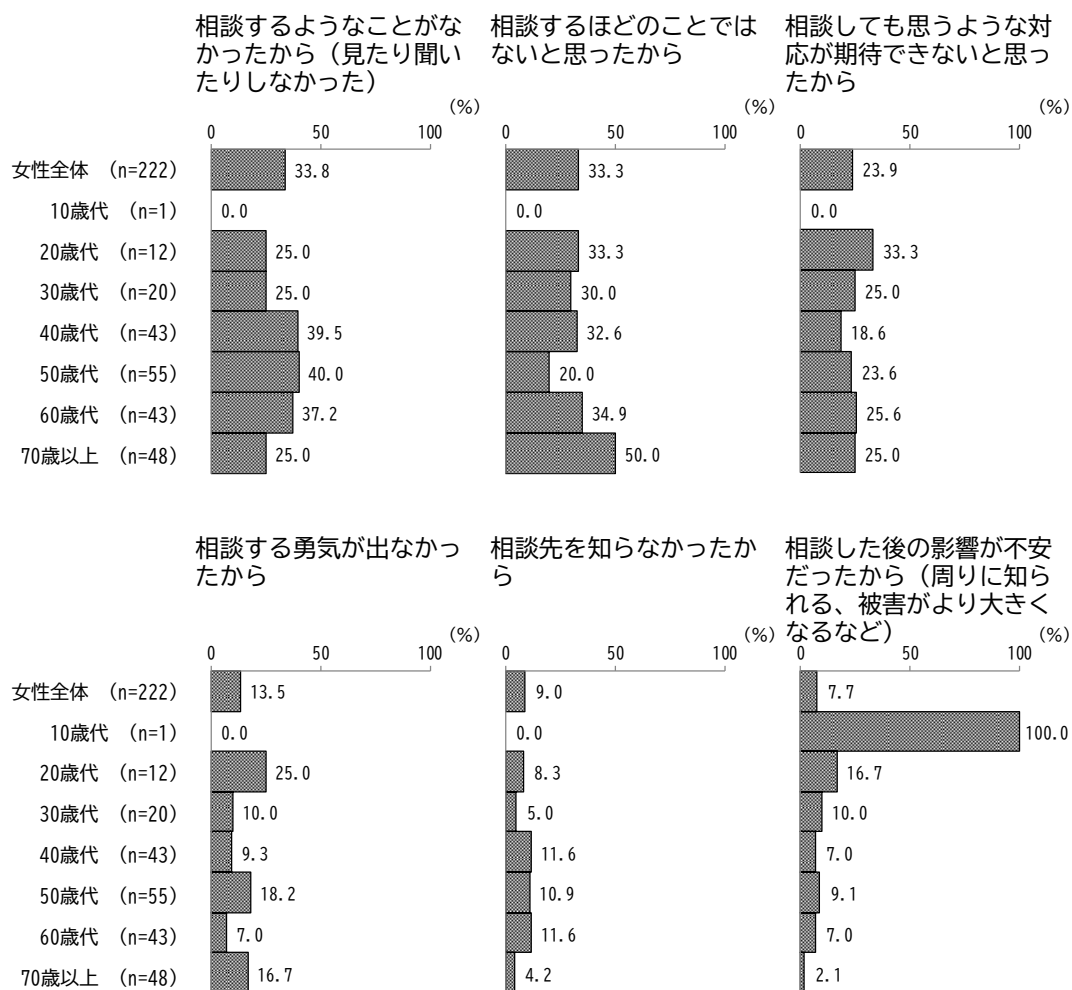
図表7-8 悩みを相談したことがない理由



悩みを相談したことがない女性にその理由について聞いたところ、全体で見ると「相談するようにならなかつたから（見たり聞いたりしなかった）」が33.8%で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思つたから」（33.3%）、「相談しても思ふような対応が期待できないと思つたから」（23.9%）となっている。（図表7-8）

第IV章 調査の結果

図表 7-9 悩みを相談したことがない理由（年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、年齢別の10～30歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は70歳以上が50.0%で最も高くなっている。（図表7-9）

(6) 悩みを相談したい方法・場所

◎「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」が最も高く4割弱となっている

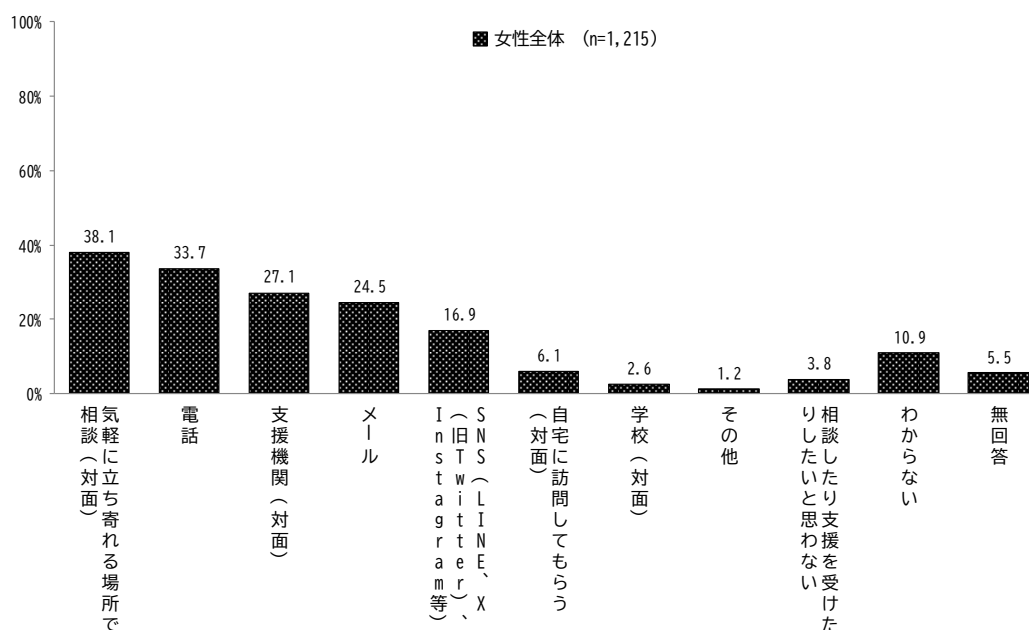
新規調査

【女性の方に伺います】

問33 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいですか。

(あてはまるものすべてに○)

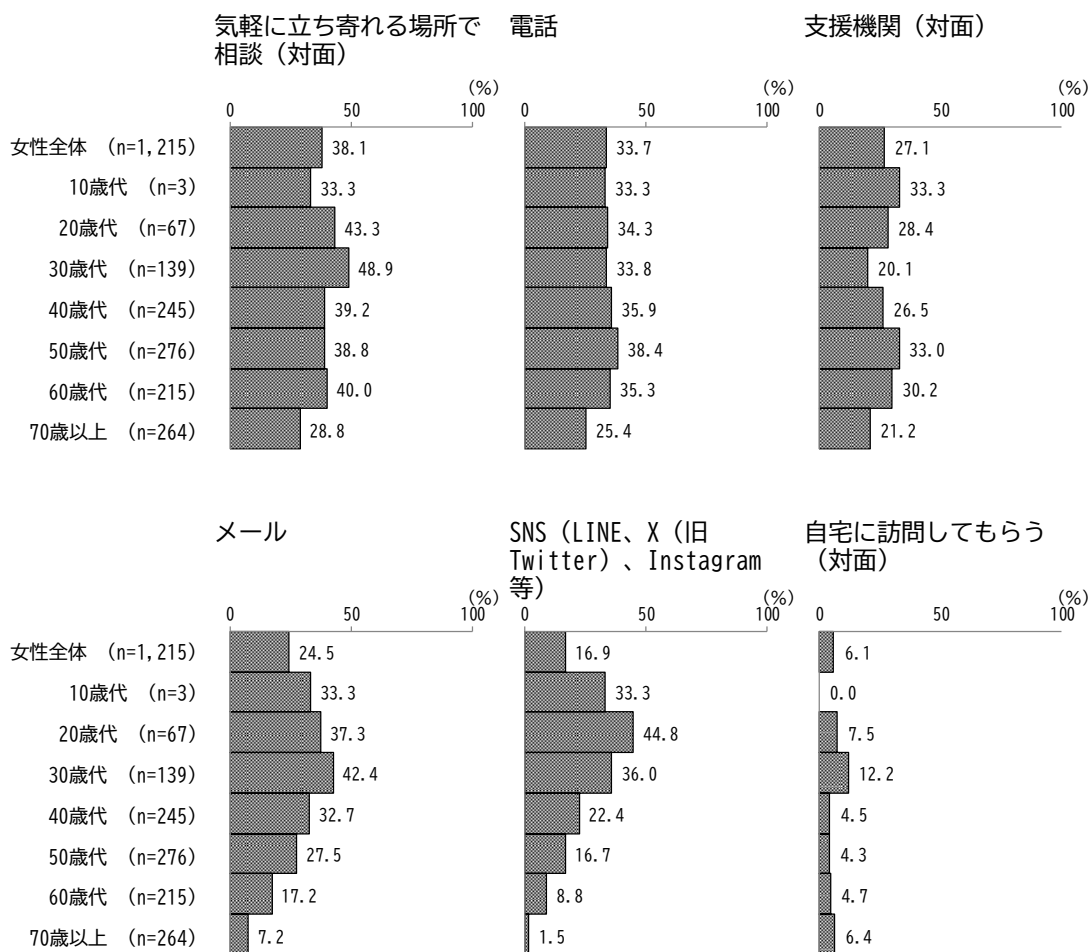
図表7-10 悩みを相談したい方法・場所



女性の方に悩みを相談したい方法や場所について聞いたところ、全体でみると「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」が38.1%で最も高く、次いで「電話」（33.7%）、「支援機関（対面）」（27.1%）となっている。（図表7-10）

第IV章 調査の結果

図表7-11 悩みを相談したい方法・場所（年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、年齢別の女性10歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」は30歳代が48.9%で最も高くなっている。「電話」では50歳代が4割弱、「メール」では30歳代が4割強、「SNS」では20歳代が4割台半ばでそれぞれ最も高くなっている。（図表7-11）

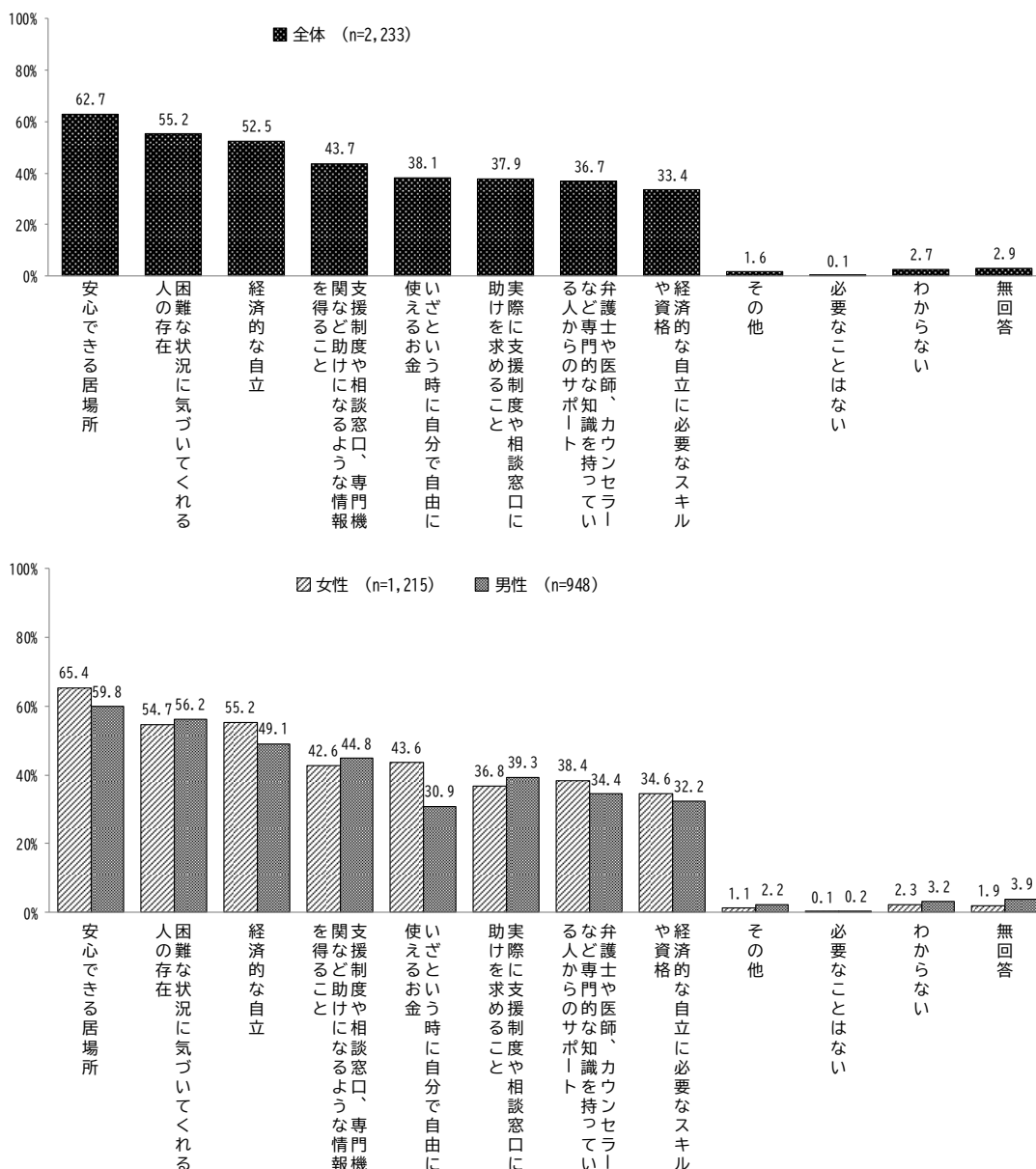
(7) 女性が困難な状況から回復するために必要なこと

◎「安心できる居場所」が最も高く、6割強となっている

新規調査

問34 女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

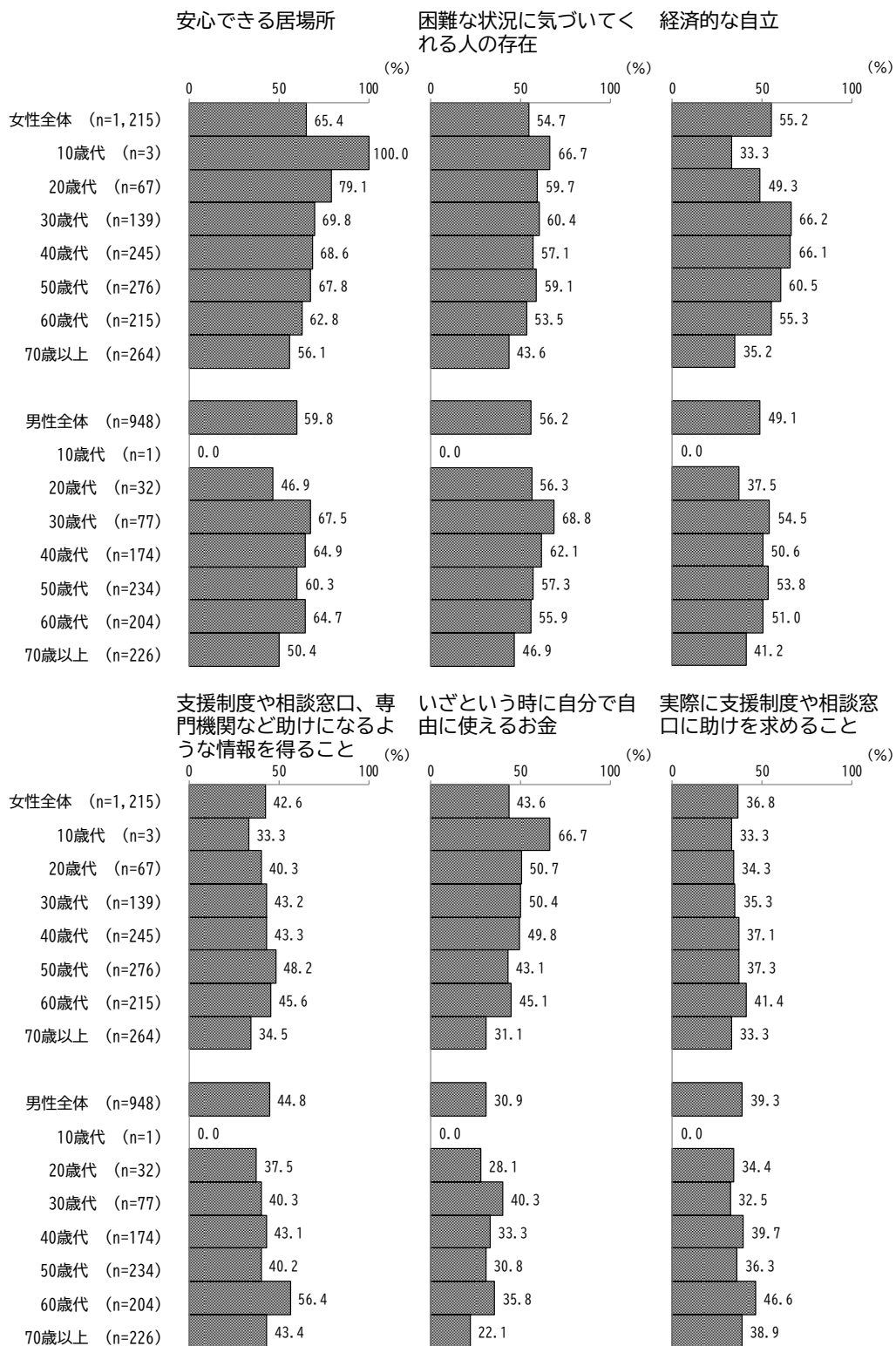
図表7-12 女性が困難な状況から回復するために必要なこと



女性が困難な状況から回復するために必要なことについて、全体で見ると「安心できる居場所」が62.7%で最も高く、次いで「困難な状況に気づいてくれる人の存在」(55.2%)、「経済的な自立」(52.5%)となっている。

性別で見ると、「いざという時に自分で自由に使えるお金」が女性(43.6%)、男性(30.9%)と女性が男性を12.7ポイント上回っている。(図表7-12)

図表 7-13 女性が困難な状況から回復するために必要なこと（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「安心できる居場所」は女性では20歳代で約8割であるが、年代が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。男性では30歳代が67.5%で最も高く、60歳代が64.7%で続いている。

(図表 7-13)

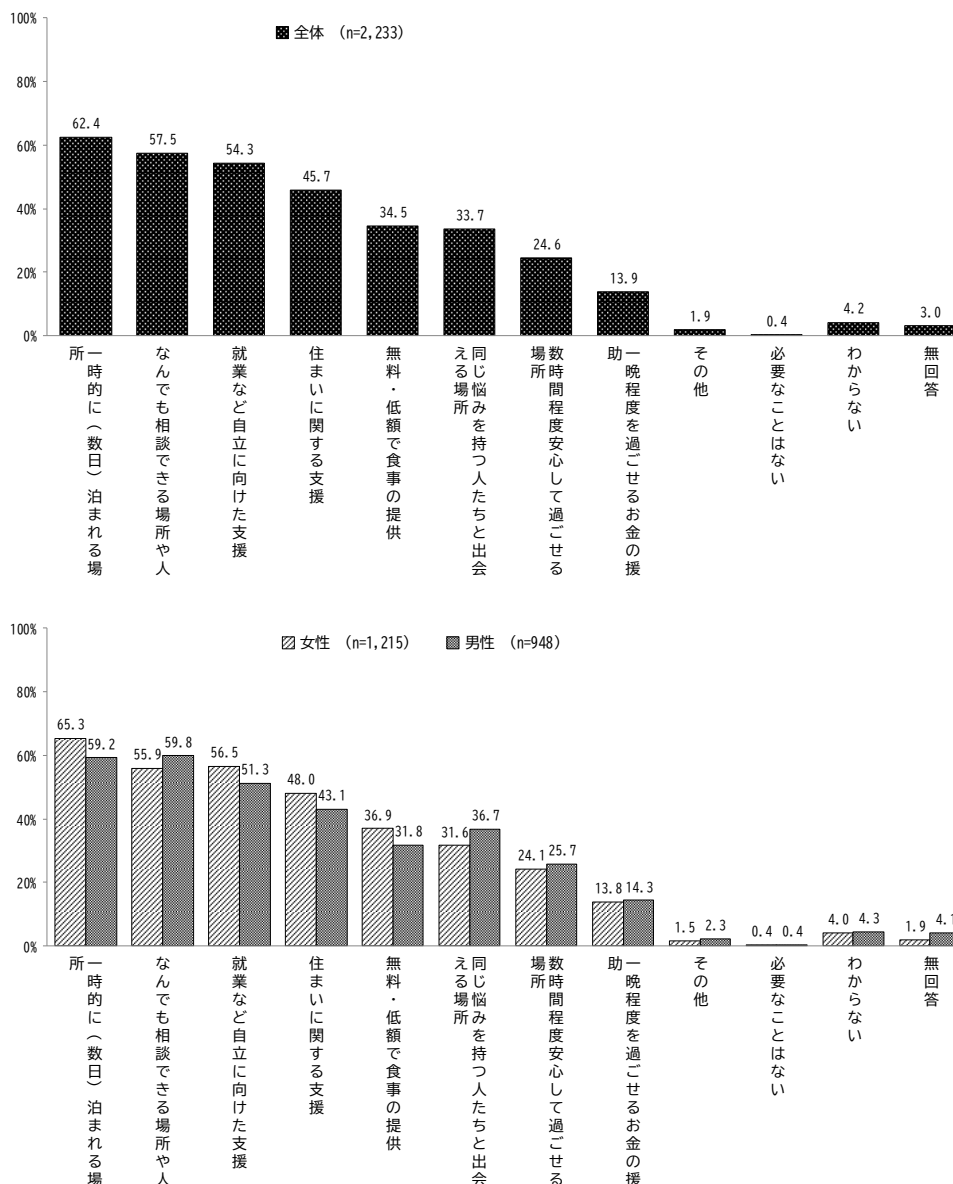
(8) 家に居場所がない女性に対してあるといいと思うサポート

◎「一時的に（数日）泊まれる場所」が最も高く、6割強となっている

新規調査

問35 DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちに、どんなサポートがあるといいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図表7-14 家に居場所がない女性に対してあるといいと思うサポート

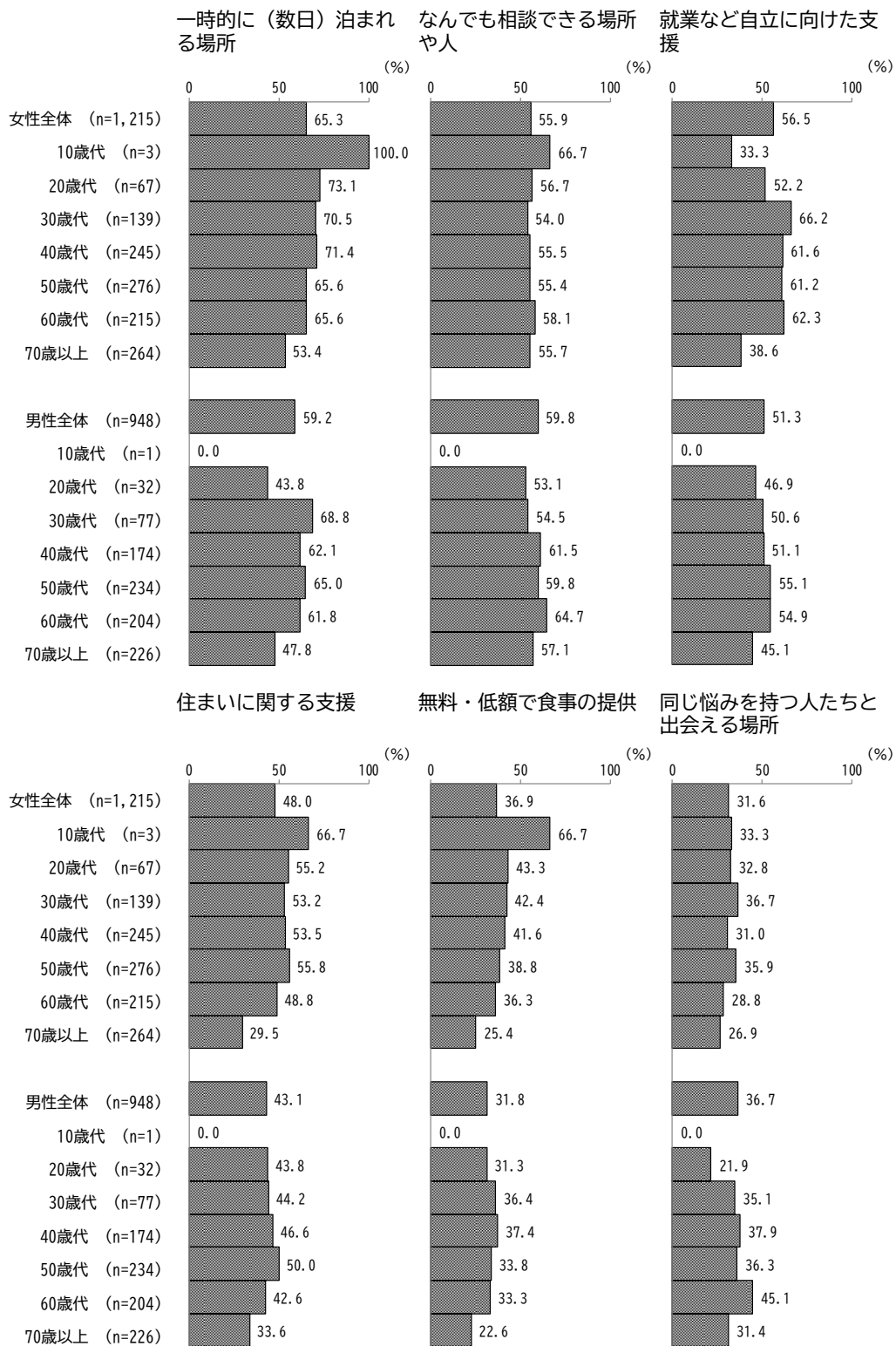


家に居場所がない女性に対してあるといいと思うサポートについて、全体で見ると「一時的に（数日）泊まれる場所」が62.4%で最も高く、次いで「なんでも相談できる場所や人」（57.5%）、「就業など自立に向けた支援」（54.3%）となっている。

性別で見ると、「一時的に（数日）泊まれる場所」は女性（65.3%）、男性（59.2%）と女性が男性を6.1ポイント上回っている。「同じ悩みを持つ人たちと出会う場所」は男性（36.7%）、女性（31.6%）と男性が女性を5.1ポイント上回っている。（図表7-14）

第IV章 調査の結果

図表7-15 家に居場所がない女性に対してあると思うサポート（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「一時的に（数日）泊まれる場所」は女性では20～40歳代で7割以上となっている。「なんでも相談できる場所や人」は男性の60歳代で64.7%と最も高くなっている。（図表7-15）

(9) 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できているか

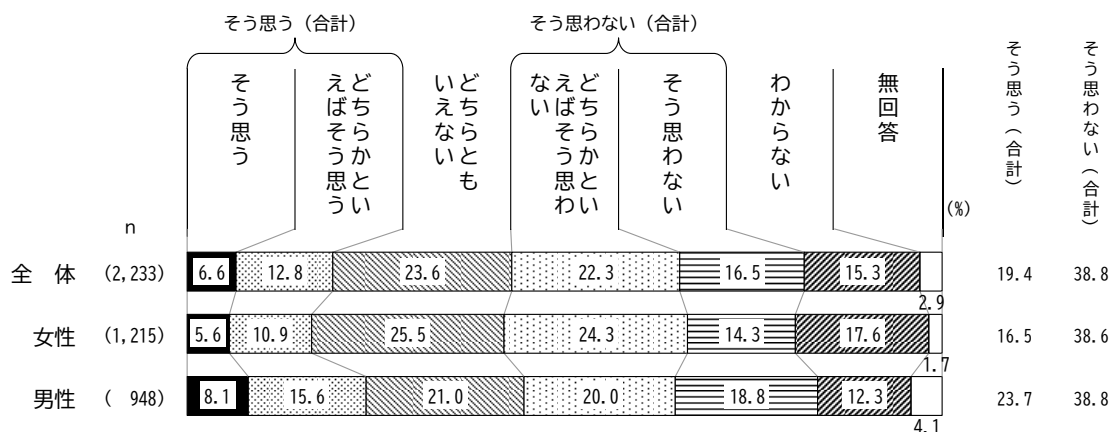
◎ 《そう思う (合計)》が約2割、《そう思わない (合計)》は4割弱となっている

新規調査

問36 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できていると思いますか。

(1つだけに○)

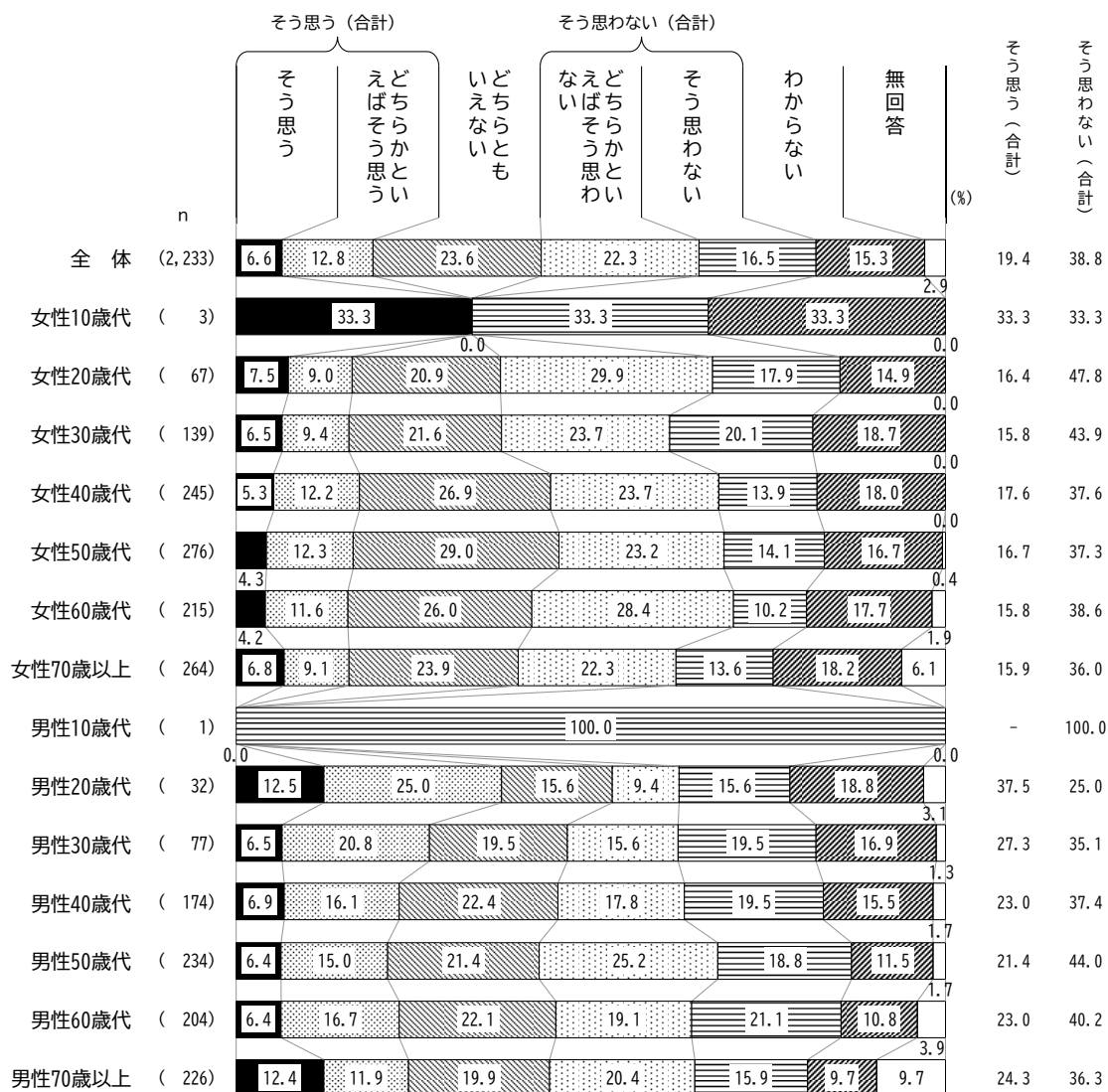
図表7-16 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できているか



悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できているかについて、全体でみると「そう思う」(6.6%)と「どちらかといえばそう思う」(12.8%)を合わせた《そう思う (合計)》は19.4%、「そう思わない」(16.5%)と「どちらかといえばそう思わない」(22.3%)を合わせた《そう思わない (合計)》は38.8%、「どちらともいえない」は23.6%となっている。

性別でみると、《そう思う (合計)》は女性(16.5%)、男性(23.7%)と、男性が女性を7.2ポイント上回っている。《そう思わない (合計)》は男女間で大きな差異はみられない。(図表7-16)

図表7-17 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できているか（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別で見ると、《そう思う (合計)》は男性では20歳代で3割台半ばを超えているが、他の年代では3割未満となっている。

《そう思わない (合計)》は女性では20歳代で47.8%と最も高くなっているが、男性では50歳代で44.0%と最も高くなっている。(図表7-17)